

第5章 発掘調査の成果

第1節 遺構と遺物の概要

各山城の調査位置 発掘調査の位置は、測量調査で想定された城郭遺構の性格を考慮して決定した。古川城跡・小島城跡では虎口の通路及び切岸・主郭と想定された平坦地を、野口城跡では主郭と想定された平坦地と畝状堅堀群を、小鷹利城跡・向小島城跡では主郭と想定された平坦地を調査対象とした。調査面積は古川城跡 131.3 m²、小島城跡 70.2 m²、野口城跡 90.1 m²、小鷹利城跡 128.7 m²、向小島城跡 59.3 m²である。調査は遺構面を把握し、その構築土層の出土遺物から変遷を検討することを共通の目的とした。

遺構の概要 各山城で複数の遺構面と、各遺構面で礎石建物・掘立柱建物などの遺構を確認した（第42表）。各山城での遺構と遺物は、歴史的な流れに沿うため、下層の古い時代の調査成果から報告する。

古川城跡では虎口通路・切岸で2面、平坦地で4面の遺構面を確認し、それぞれの遺構面で礎石建物・土坑・柱穴等を確認した。小島城跡では虎口通路で1面・平坦地で2面の遺構面を確認し、それぞれの遺構面で礎石・盛土遺構・石垣・土坑を確認した。野口城跡では平坦地で2面・畝状堅堀群で1面の遺構面を確認し、それぞれの遺構面で掘立柱建物・柵列・柱穴・土坑・土塁、連続する土塁と堀を確認した。小鷹利城跡では平坦地で2面の遺構面を確認し、それぞれの遺構面で礎石建物・柱穴を確認した。向小島城跡では平坦地で1面の遺構面を確認し、掘立柱建物・柱穴・土留め石垣を確認した。遺構番号は原則検出順である。

礎石建物・掘立柱建物・柵列等の計測は、構成する礎石や柱穴の中心同士の長さとした。掘立柱建物と柵列は、3つ以上の柱穴列が直線的に並ぶものか、曲輪上端に沿ったものを認定した。柱穴・土坑・不明遺構・礎石抜き取り穴の計測は、最大幅を長軸とし、それに直交する軸を短軸とした。深さは、最も深い位置で計測した。また、堆積状況・断面形態・平面形態・底面形態を統一事項として観察した。堆積状況は、単層・水平堆積・中央が凹む堆積・窪みの位置が片方の壁に偏る堆積・柱痕跡を持つ堆積

第42表 遺構一覧表

山城名	調査地点	遺構面	遺構
古川城跡	虎口通路・切岸	第2遺構面	石垣（裏込め土あり）・土留め石垣（裏込め無し）
		第1遺構面	石垣（石材幅1m前後、裏込め土あり）・スロープ・柱穴
	最高所の平坦地	第4遺構面	土坑
		第3遺構面 第2遺構面 第1遺構面	柱穴 礎石建物 礎石建物・礎石・石列
小島城跡	虎口通路	第1遺構面	石垣（裏込め土あり）・通路
	最高所の平坦地	第2遺構面	土坑
		第1遺構面	石垣（裏込め土・間詰石あり）・盛土遺構
野口城跡	最も広い平坦地	第2遺構面	土塁・柱穴・土坑
		第1遺構面	柵列を伴う土塁・掘立柱建物・柱穴・土坑
	畝状堅堀群	第1遺構面	連続する土塁と堀
小鷹利城跡	最も広い平坦地	第2遺構面	柱穴
		第1遺構面	L字を呈する礎石建物
向小島城跡	最も広い平坦地	第1遺構面	掘立柱建物・柱穴・土坑・土留め石垣

に分類した。断面形態は、土坑・不明遺構については半円形・方形・逆三角形に、柱穴については平坦か楕円形状かに分類した。平面形態・底面形態は、円形・方形・不定形に分類とした。また、古川城跡・小島城跡の礎石は最大幅を長軸とし、それに直交する軸を短軸として計測した。

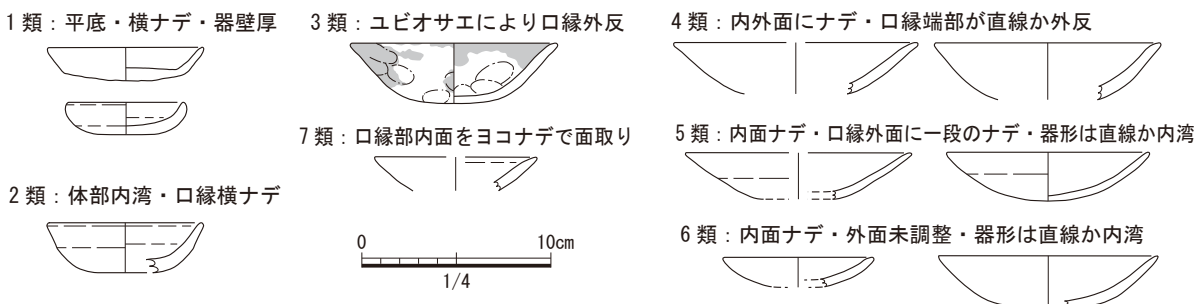
遺物の概要 遺物は、古川城跡で95点、小島城跡で37点、野口城跡で190点、小鷹利城跡で67点、向小島城跡で14点、合計403点を確認した。陶器や磁器、産地等の種別分類では、土師器皿265点、瀬戸美濃焼38点、珠洲焼44点、青磁9点、白磁9点、中国製染付磁器7点、金属製品17点、その他8点となった(第43表)。次に以下の分類で、碗や皿等の器種分類、器形等の細分類を行った。

最も多い土師器皿は、全て手づくねである。器形やナデを基準に、古川町内の遺跡で見つかるものを7分類している(第86図)(三好清超 2021)。1類は平底を呈し、ヨコナデにより体部が短く立ち上がり、口縁端部を丸く仕上げる。器壁は厚めで、径は小さい。2類は体部が緩く内湾し、口縁部がヨコナデにより外傾する。3類はナデかユビオサエにより、口縁を外反させる。4類は内外面にナデを施し、口縁端部が直線か外反する。5類は内面にナデを施し、口縁端部が直線か外反する。6類は内面にナデを施し、外面は未調整である。7類は口縁部内面をヨコナデにより面取りし、直線的に開く器形である。

次に多いのは、珠洲焼44点、全て甕の破片である。生産地の分類に従った(吉岡康暢 1994)。次いで、瀬戸美濃焼38点が出土している。丸皿・端反皿・天目茶碗・すり鉢が複数個体出土した。これも生産地の分類に従った(藤澤良祐 2008)。中国製陶磁器では、青磁・白磁・中国製染付磁器が出土した。これらは国立歴史民俗博物館の分類に従った(国立歴史民俗博物館 1993)。金属製品では、金槌・釘の他、小刀の柄が古川城跡・向小島城跡で出土した。この中から、遺構や造成土に伴うこと、口縁部が残存して分類可能なこと、遺跡や遺構の時期決定資料となることを基準に187点を抽出し、図化した。

第43表 遺物一覧表

	古川城跡			小島城跡				野口城跡	小鷹利城跡	向小島城跡	総計
	虎口通路 (点数)	最高所の 平坦地 (点数)	合計 (点数)	虎口通路 (点数)	最も広い 平坦地 (点数)	最高所の 平坦地 (点数)	合計 (点数)	最も広い 平坦地 (点数)	最も広い 平坦地 (点数)	最も広い 平坦地 (点数)	
須恵器	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4
灰釉陶器	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
土師器	12	51	63	0	9	10	19	178	4	2	266
瀬戸美濃焼	3	9	12	4	3	2	9	2	10	4	37
珠洲焼甕	0	0	0	0	0	3	3	1	39	1	44
青磁	0	0	0	0	0	0	0	2	6	1	9
白磁	1	4	5	1	0	0	1	0	2	1	9
中国製染付磁器	0	1	1	0	0	0	0	0	4	2	7
金属製品	0	6	6	1	2	1	4	5	2	1	18
その他	2	1	3	1	0	0	1	2	0	2	8
合計	18	77	95	7	14	16	37	190	67	14	403



第86図 土師器皿分類図

第2節 古川城跡

1 調査の目的

測量調査で想定した城郭遺構の性格をもとに、石の散乱が認められる切岸において石垣の有無、虎口の可能性がある地点の石垣構造、主郭の櫓台と考えられた最高所の平坦地において建物の有無や変遷の確認を目的に、トレンチを設定した。

2 石垣と平坦地の調査

(1) 調査の概要

2018年度、2020年度と2次にわたり、古川城跡で石の散布が認められる斜面から下段の通路状の平坦地と、石垣が地表面に露出する斜面とその上段の平坦地の一部を対象に調査を実施した。ここでは、上段の平坦地を平坦地3、下段の通路状の平坦地を平坦地4、地表面に露出する石垣で規定される平坦地3から平坦地4への通路を通路5として記述する（第87図）。

2018年度には石の散布が認められる斜面から下段の平坦地4にかけて1号トレンチを設定した。目的は、散乱する石が石垣であったかを確認するためである。上層より腐葉土・崩落土・地山を確認した。腐葉土と崩落土に混じる石材を撤去しつつ作業を進めたところ、斜面地の下半のみ石垣4を有することを確認した。石垣が残存するのを確認したものの、その前面に1m大の礫が厚く堆積して掘削に制約があり、構造を確認することはできなかった。

次に、地表面に石垣1が露出し、平坦地3と4の高低差が最も少なくなる通路5において、石垣1の構造と構築年代を明らかにすることを目的に、2～7号トレンチを設定した。埋もれていた石垣1を検出し、L字を呈するという状況は明らかとなったものの、その構造や出土遺物による年代観についての知見を得ることができなかった。このため、石垣背面に掘削深度を地山までとするサブトレンチを延長させる追加調査を、2020年度に実施した。

調査では、上層より腐葉土・崩落土・路面造成土・スロープ造成土・石垣1裏込め土・石垣1据付埋土・通路造成土・石垣2裏込め土・曲輪造成土・地山の順で堆積することを確認した。

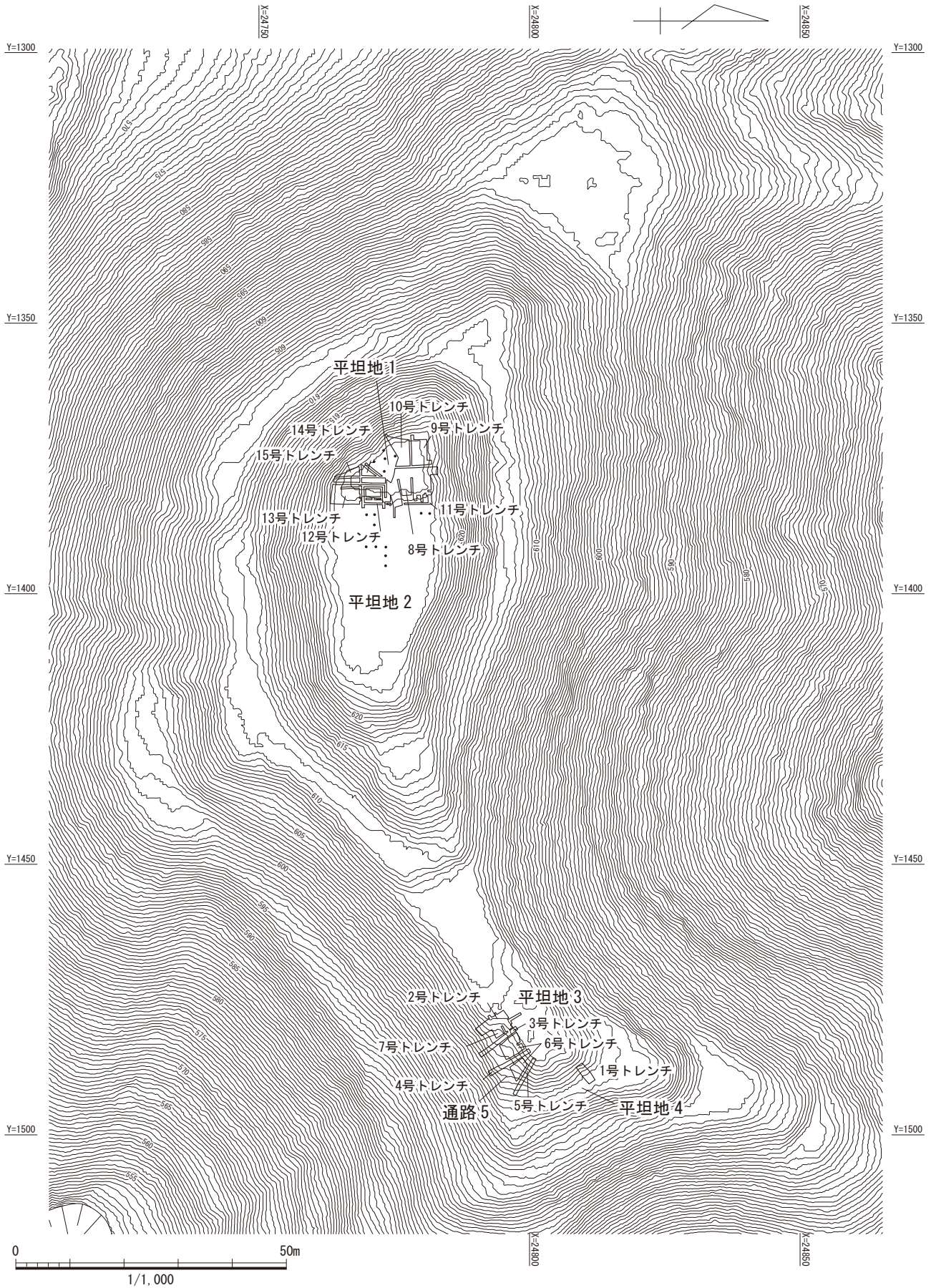
石垣1の積み方は2種類が認められた。石垣西半部は拳大の礫を敷いた上に石を据えていた。石垣東半部は、地山直上に石を据えている状況を確認した。また、石垣が無い部分では、裏込め土が残り元々石垣があったと想定された場所と、裏込め土がなく石垣を据えていなかった可能性のある場所が認められた。さらに、石垣の裏込め側にも礫が積まれている状況を確認し、平坦地3の曲輪造成土を土留めするための石垣2とした。

(2) 基本層序（第88図）

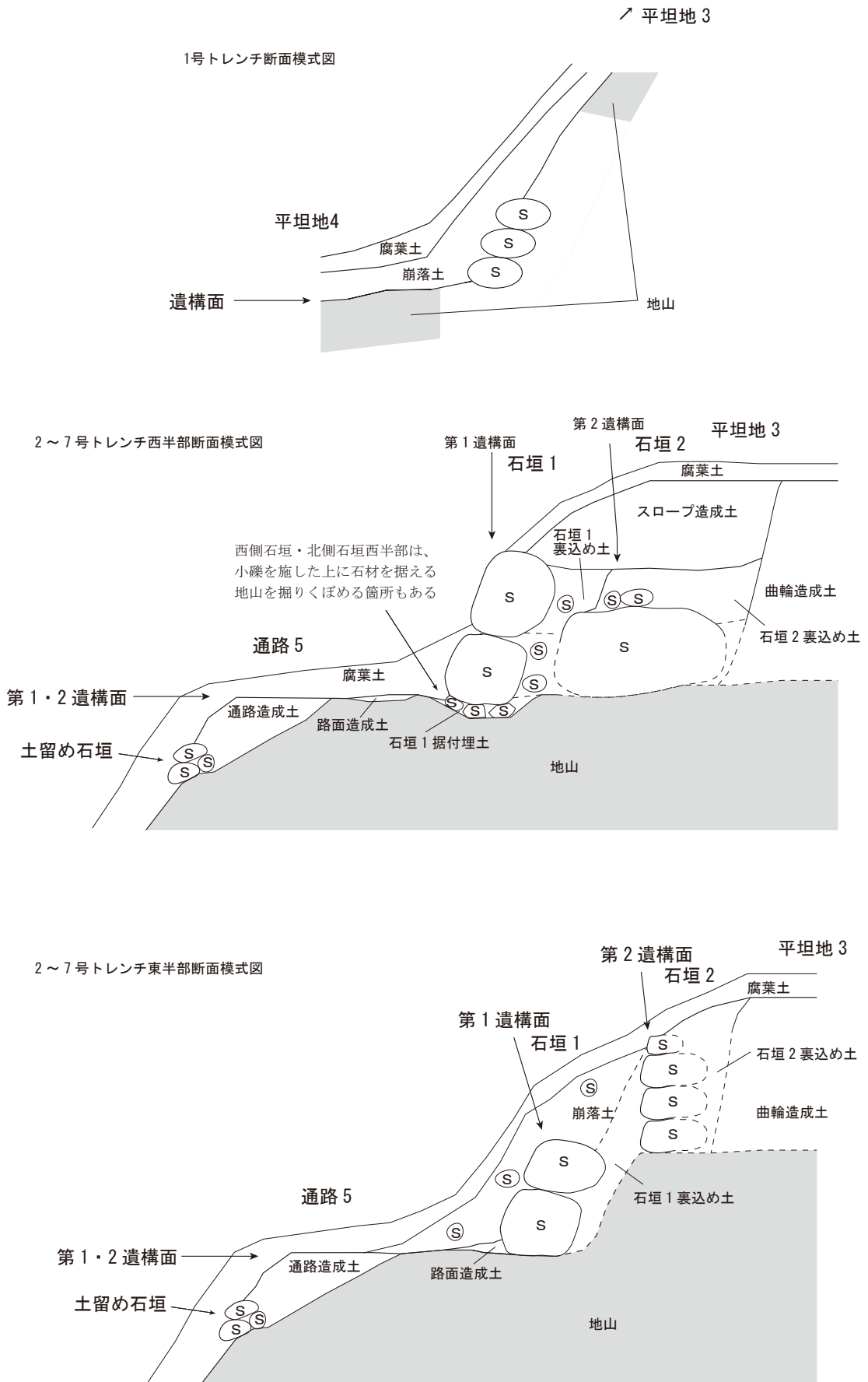
腐葉土 平坦地3、平坦地4、通路5、それらの間の斜面を覆う腐葉土である。現代までの自然堆積土層である。

崩落土 平坦地4及び通路5の斜面下に堆積する崩落土である。拳大から人頭大の礫が混じる。また、1mを越える礫も混入し、石垣とその裏込め土が崩落したものと考えられる。

路面造成土 通路5は虎口内の通路と想定され、その上面を舗装したと考えられる土層である。通路造成土及び地山上面に薄く堆積する。地表面に露出する石垣1を埋め、また地山の低い部分を埋める。



第87図 古川城跡 トレンチ位置図



第88図 古川城跡 1～7号トレンチ断面模式図

このため、スロープ造成土とともに、当層の上面も第1遺構面として調査を行った。

スロープ造成土 石垣1北側の西隅部石垣の上部を覆う造成土である。この上面を第1遺構面として調査を行った。

石垣1裏込め土 1m前後の、地表面に露出する石垣1を据えるための裏込め土である。拳大の礫が混じる。1m前後の石材を据えるための土層である。

石垣1据付埋土 石垣1のうち西側石垣及び北側石垣の西半部で確認した、地山を掘り込んだ後に小礫を置いて石材を据えた土層である。

通路造成土 通路と考えられる平坦地4全面を覆う黄褐色系の土層である。自然傾斜地に平坦地4を造るために施した盛土層である。南側斜面の地山と接するところには、礫群が認められ、土留め石垣として機能していたと考えられる。当層は石垣1及び石垣2と直接的な土層の繋がりが認められない。ここでは、土留め石垣の在り方が石垣2と近似するため、第2遺構面と認識した。

石垣2裏込め土 サブトレンチにて、地表面に露出する石垣1の裏込め土を掘削したところ、その下層から石垣2を検出した。平坦地3の曲輪造成土の土留めも兼ねるものと考えられた。当層の上面を第2遺構面とした。

曲輪造成土 平坦地3を造るために盛り土した土層である。

地山 この山の一带の基盤層で、黄橙色の砂礫である。上面から掘り込む土坑を断面A-A'で確認した。

(3) 1号トレンチの遺構(第89図、第44表)

上層より、腐葉土、崩落土、地山を確認した。崩落土には、50cm大の礫が厚く堆積し、また1mを越える礫も混在する状況であった。このため、崩落土を全て除去することができなかった。

腐葉土と可能な限りの崩落土を除去したところ、その下層より、整然と積まれた石垣4を検出した。検出幅は0.7m、高さ0.3mで2段分である。これ以上の掘削をすることができず、裏込め土の有無・石材の大きさを確認することができなかった。平坦地3を囲む斜面に位置するため、後述する石垣1と接続するものと想定される。

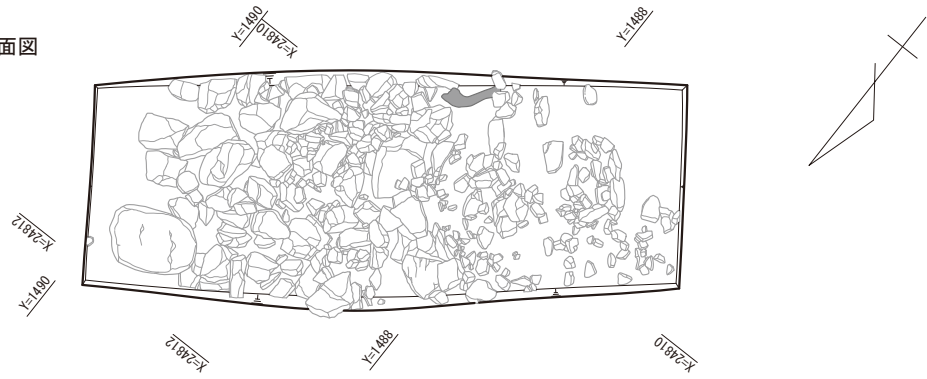
(4) 2～7号トレンチの遺構(第90～95図、第44表)

①第2遺構面の遺構

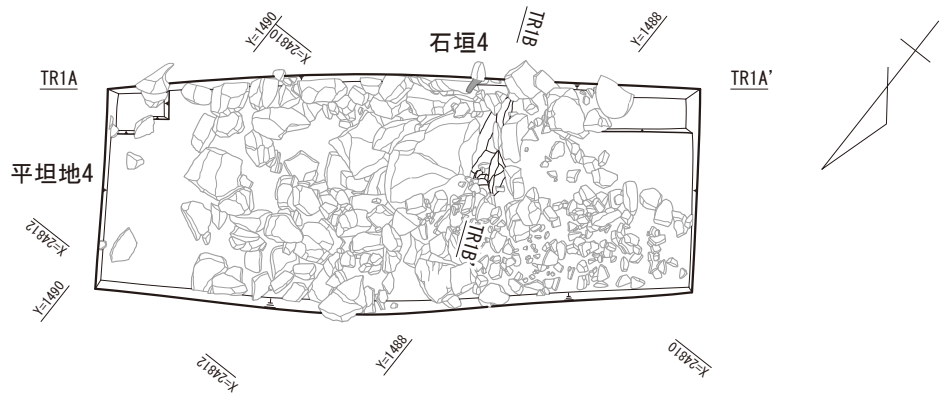
D-D'断面では、地表面に露出する石垣の下層に、1mを超える礫とそれを埋める土層24・25層を確認した。この24・25層は、平坦地3の曲輪造成土を切った後に礫を据えた層と観察できるため、地表面に露出する石垣1とは時間差があると想定した。E-E'断面でも8層が同様の土層と確認した。F-F'断面では、上方で崩落土の下層にほぼ垂直に立ち上がる7層に、人頭大の礫が混入する状況を確認した。この7層は、平坦地3の曲輪造成土8～10層を切った後に盛り土されている。G-G'断面では、ほぼ垂直に立ち上がる土層9層に礫が混入する状況を確認した。この9層も平坦地3の曲輪造成土11・12層を切った後に盛り土されている。これらを石垣2として報告する。

石垣2 地表面に露出する石垣1の下層で、平坦地3の曲輪造成土より上層に位置する。傾斜角75°～80°で立ち上がる土層に、礫が積まれ、また混入する。調査で確認した範囲で、全長8.0m、高さ1.4mを測る。石材の大きさは、D-D'断面のものが突出して大きく、幅50cm以上、奥行き80cm、高さ15cm以上を測る。F-F'断面及びG-G'断面で確認したものでは、幅44cm、高さ18cmのものが

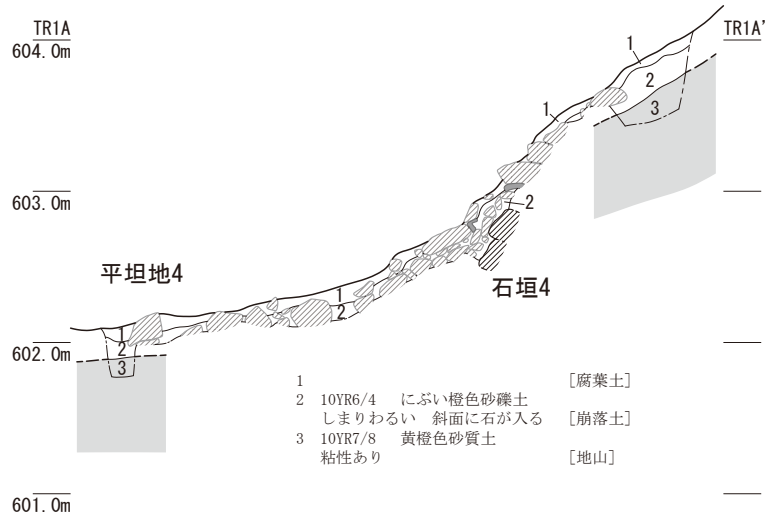
1号トレンチ 検出時平面図



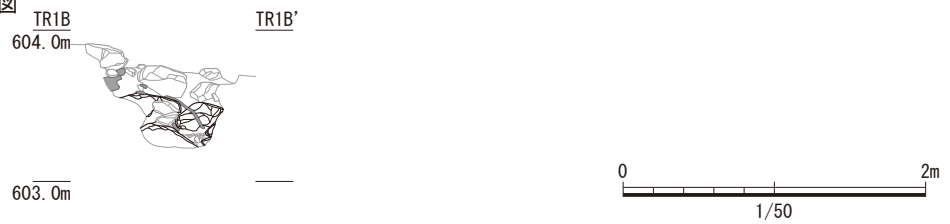
1号トレンチ 平面図



1号トレンチ 断面図



1号トレンチ 石垣4立面図



第89図 古川城跡 1号トレンチ遺構図

第44表 古川城跡1～7号トレンチ石垣計測表

遺構名	位置	遺構面	全長	高さ	傾斜角	裏込め	間詰石	備考
石垣1_北面	虎口	第1	14.4	(1.0)	65～70°	裏込め土	有	裏込め土に礫含む
石垣1_西面			2.4	(0.9)				
石垣2	虎口カ	第2	(8.0)	(1.4)	75～80°	裏込め土	無	-
石垣4	平坦地3の切岸	-	(0.7)	(0.3)	60°	無	無	-
土留め石垣	虎口通路切岸	第2	(4.8)	(1.0)	60°	無	無	-

※ () 数値は検出長を示す

最大である。小さいものは10 cm程度である。石材は濃飛流紋岩である。平坦地3の曲輪造成土を土留めする役割を持つと考えられる。G-G' 断面では、地山が水平に削って基礎とし、その上に当該土層の9層が位置する。裏込め土に礫は確認できない。

土留め石垣 3号トレンチと4号トレンチで確認した。D-D' 断面では、通路5の上端から1.2 m下に位置し、上端まで積まれない。通路造成土中に、礫が積まれて混入している状況であり、裏込めはない。傾斜角は60°である。調査で確認した範囲では、全長4.8 m以上、高さ1.0 mを測る。石材の大きさは、10～40 cmと不揃いである。通路造成土の土留めの機能を持っているものと考えられる。

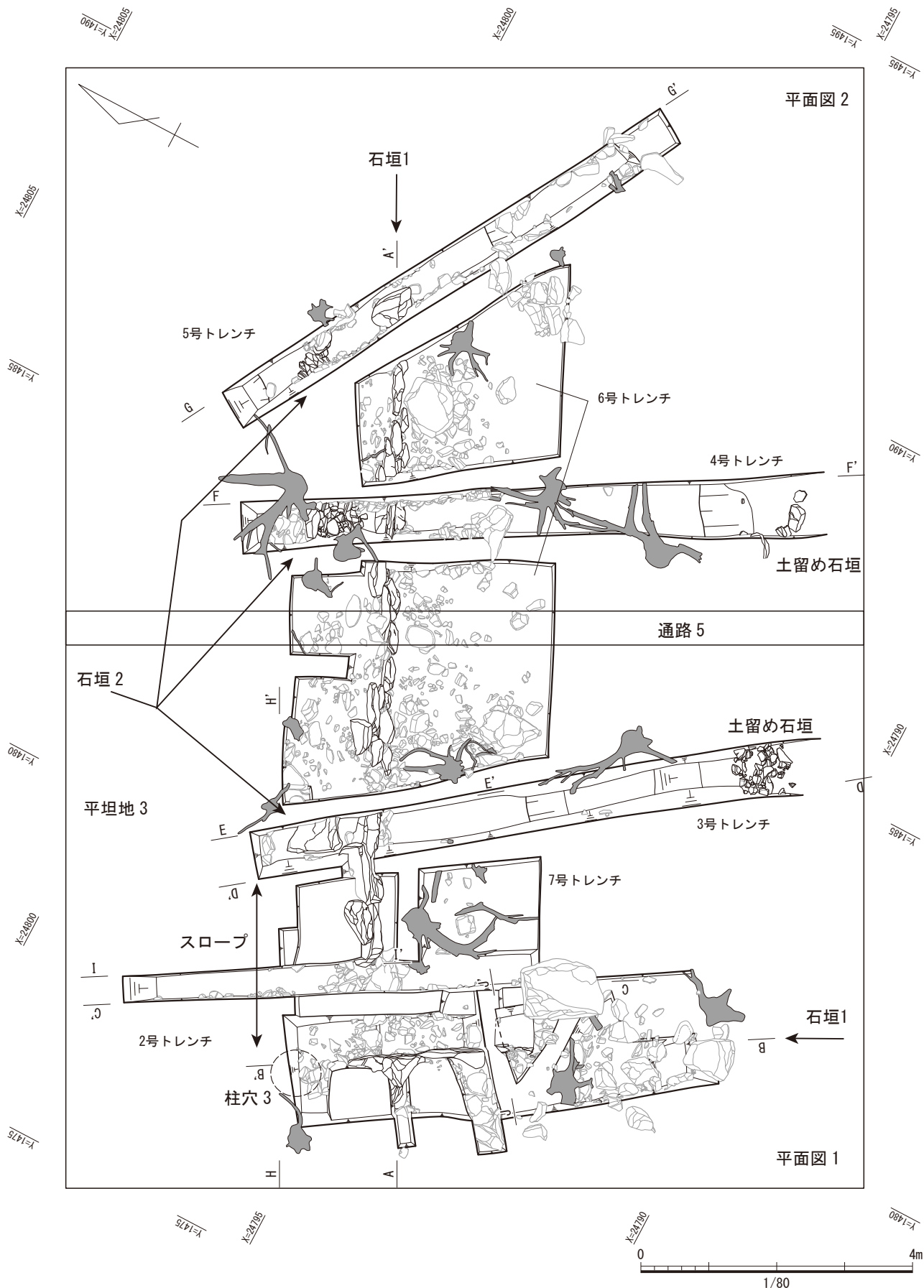
②第1遺構面の遺構

D-D' 断面では、地表面に石垣が露出していた。これを追いかけて、検出した石垣の上面及びそれと接続するスロープ造成土・平坦地3を構築する曲輪造成土・通路5を構築する通路造成土上面が第1遺構面である。石垣は調査範囲全面で確認した。これを石垣1とする。また、H-H' 断面では、この上面から掘り込む柱穴3を確認した。

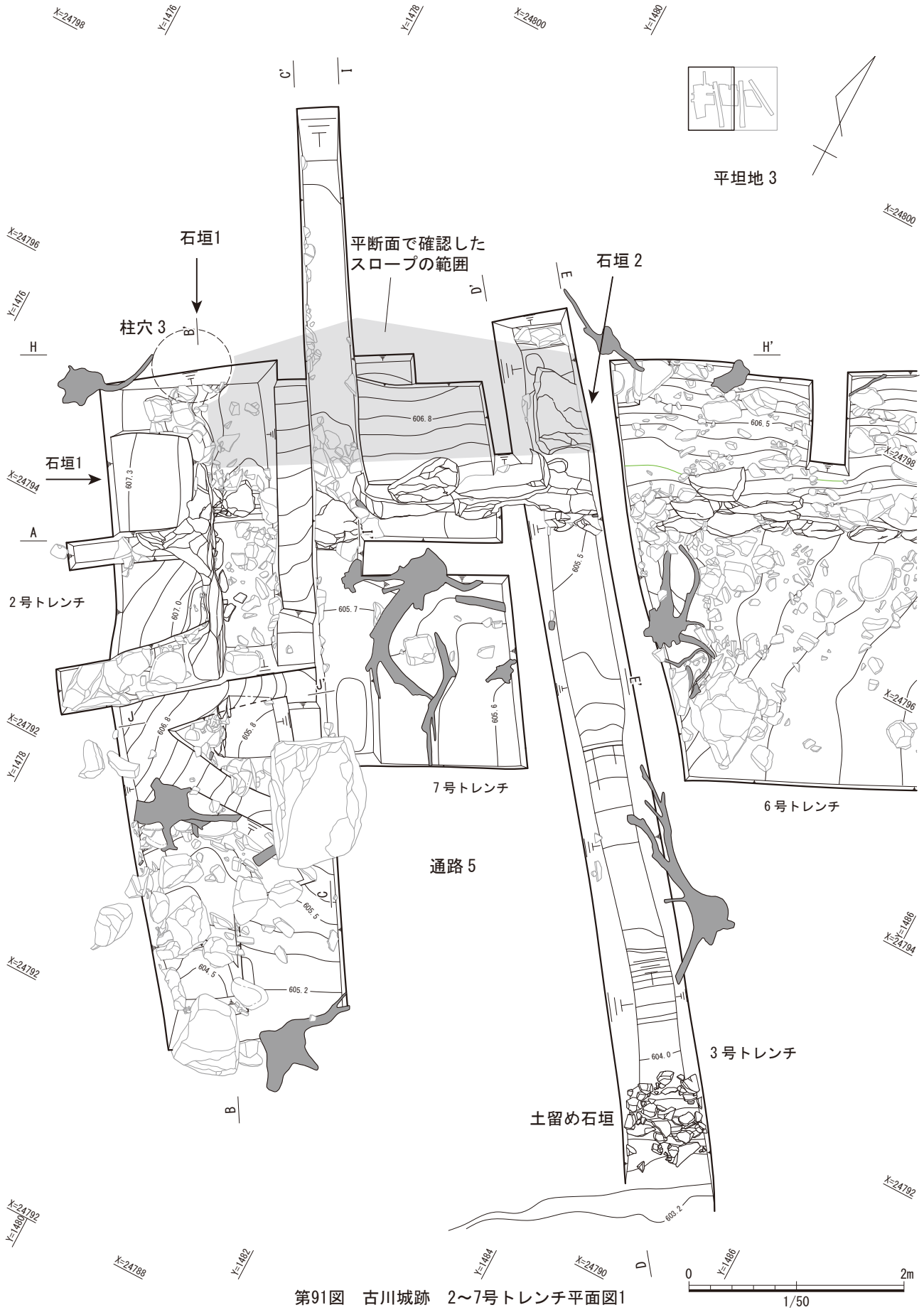
石垣1(第96図) 地表面に露出する石垣である。傾斜は65～70°を測る。調査では、L字状に屈曲し、枡形を呈することを確認した。調査した範囲で、北面石垣は全長14.4 m、高さ1.0 m以上を測り、最大4段分が残存する。西面石垣は全長2.4 m、高さ0.9 m以上を測り、1段分が残存する。石材の大きさは、西面石垣で北面石垣と接する地点のものが最大であり、幅1.1 m、高さ0.9 cmを測る。石材は濃飛流紋岩である。平面及びA-A' 立面で、北面石垣の基底の石が西面石垣の下層に入り込んでいる状況を確認したため、北面石垣を構築後に西面石垣を構築したものと考えられる。

石垣の積み方は2種類がある。西面石垣及び北面石垣のE-E' 断面より西側は、20 cm大の小さい礫で根固めを施し、その上に1 m大の礫を据える。根固めの礫はD-D' 断面・立面A-A'・B-B' において、第1遺構面より高い位置にある。また、D-D' 断面では、根固めの前に地山を掘り込む。対して、北面石垣のE-E' 断面より東側では、地山に直接石材を置く。

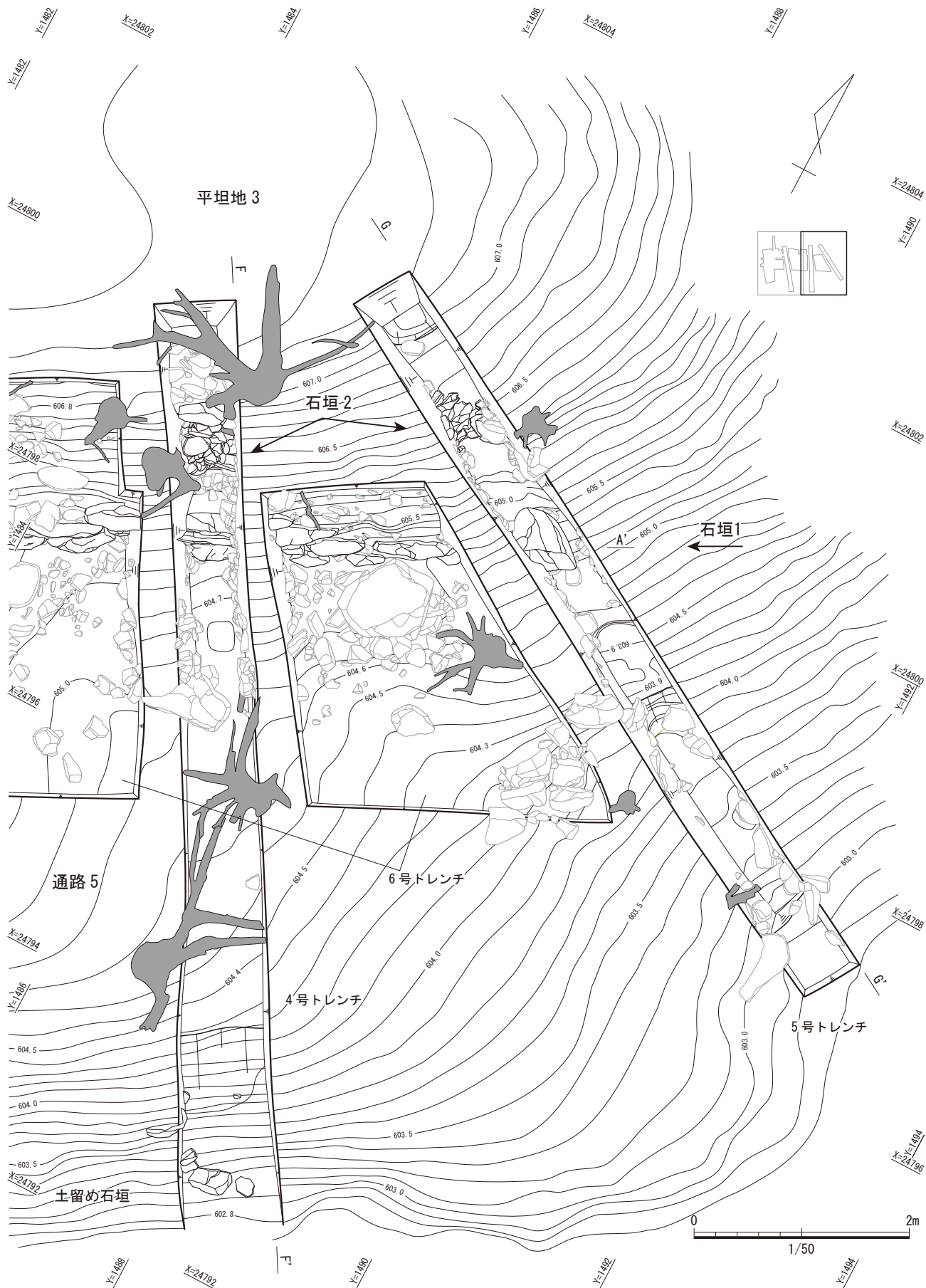
スロープ(第45表) 枡形を呈する石垣1の北面石垣では、E-E' 断面より東側では、石垣上層で、石垣が裏込め土と共に崩落したと考えた崩落土を確認した。対して、D-D' 断面より西側では、小礫が混入しない状況であった。このため、平坦地3まで石垣が達していなかったと想定し、この部分は通路5から平坦地3へ登るスロープとして造成されたものと考えられた。幅は3.8 mである。通路5の幅はD-D' 断面で3.8 mであり、一致する。なお、スロープ造成土から掘り込む柱穴3は西面石垣の延長線上に位置し、スロープで登った位置にある遺構の可能性を想定した。しかし、対となる柱穴を確認することはできなかった。



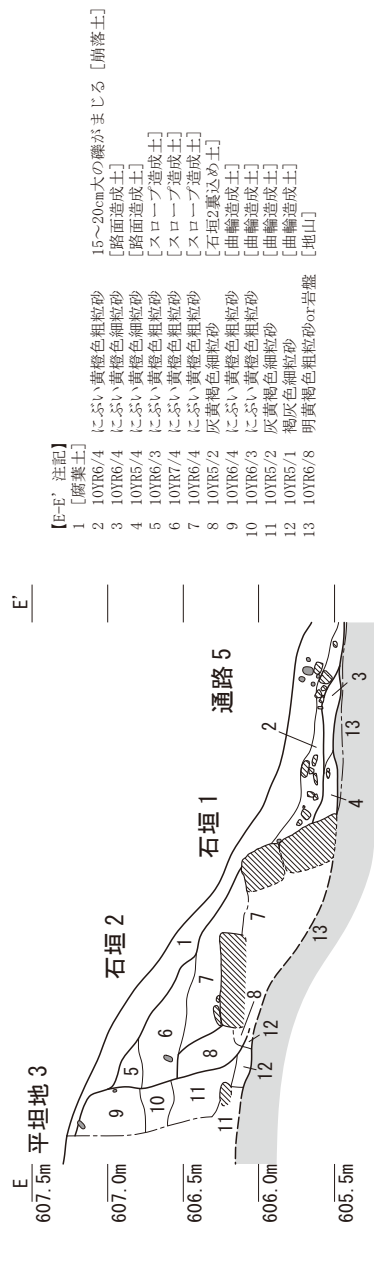
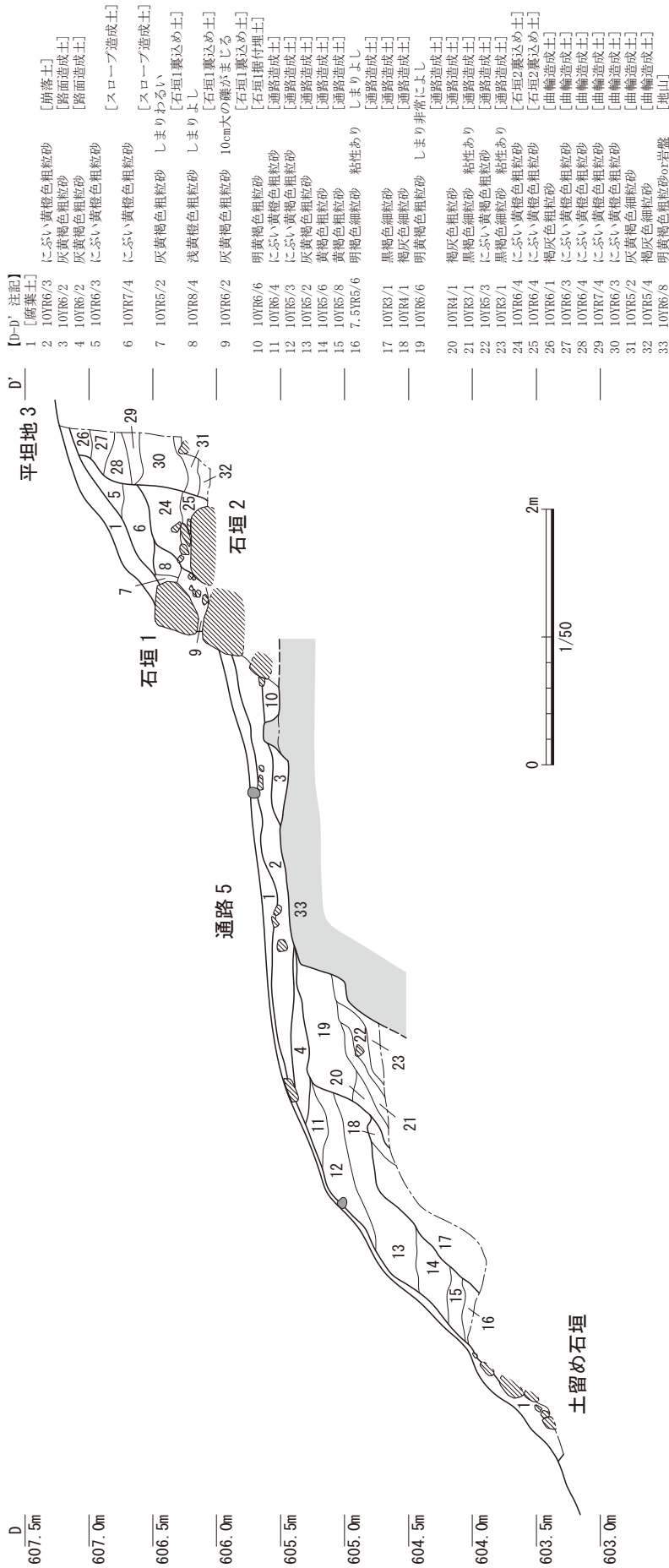
第90図 古川城跡 2~7号トレンチ平面割付図



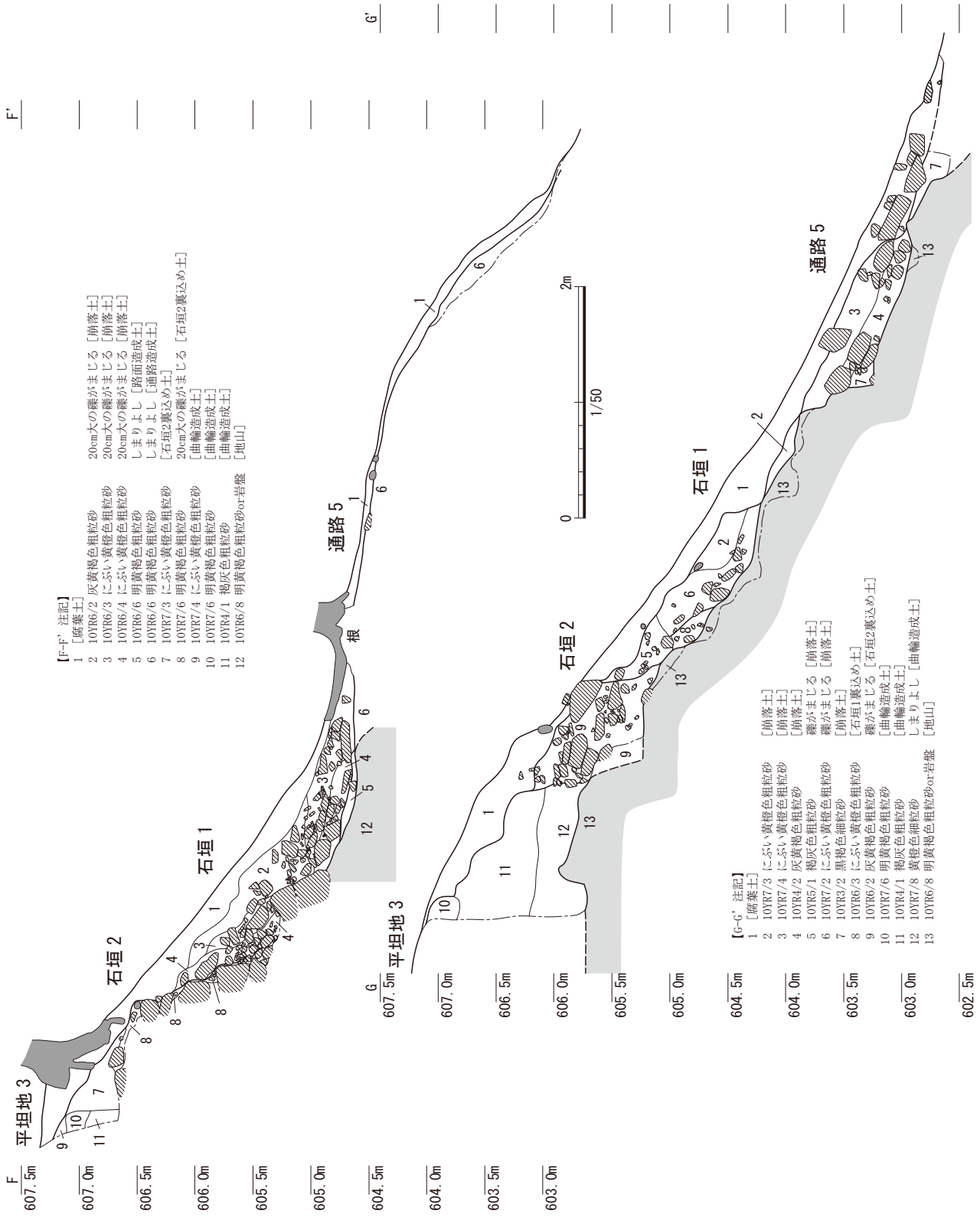
第91図 古川城跡 2~7号トレンチ平面図1



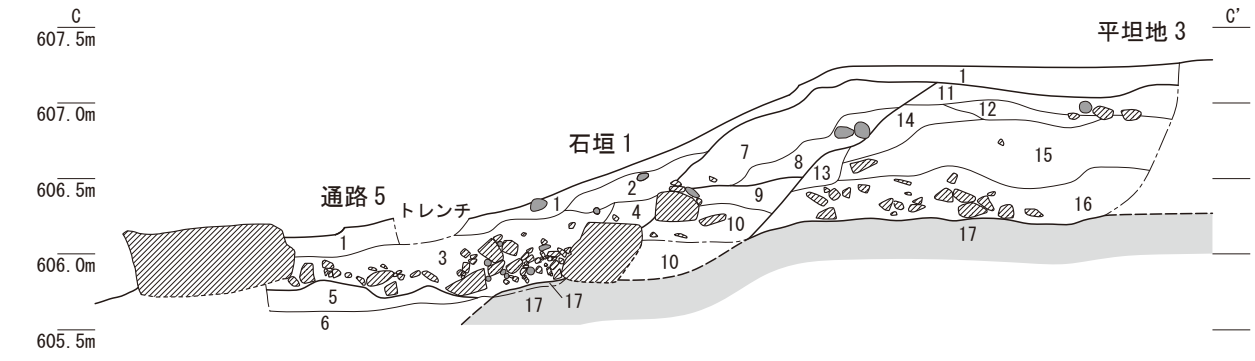
第92図 古川城跡 2~7号トレンチ平面図2



第93図 古川城跡 3号トレンチ断面図

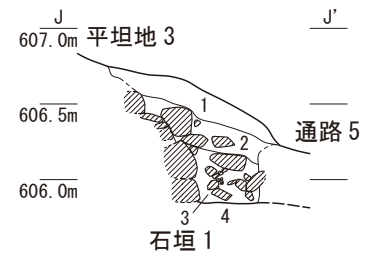


第94図 古川城跡 4・5号トレンチ断面図



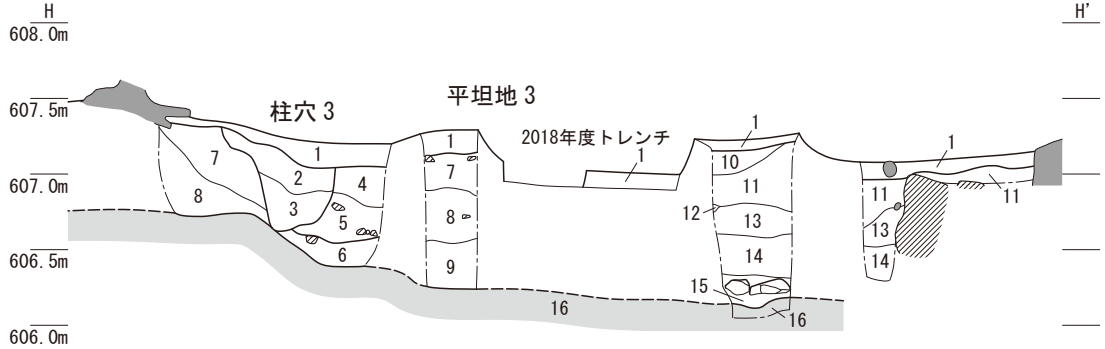
【C-C' 注記】

- | | | | | | |
|---|-----------------|----------------------|----|-------------------|---------------------------|
| 1 | [腐葉土] | | | | |
| 2 | 10YR6/6 明黄褐色粗粒砂 | [崩落土] | 9 | 7.5YR6/1 褐灰色粗粒砂 | [石垣1裏込め土] |
| 3 | 10YR6/2 灰黄褐色粗粒砂 | 15~20cm大の礫がまじる [崩落土] | 10 | 10YR6/2 灰黄褐色粗粒砂 | 10~20cm大の礫がまじる [石垣1裏込め土] |
| 4 | 10YR5/6 黄褐色粗粒砂 | [崩落土] | 11 | 10YR8/6 黄橙色粗粒砂 | しまりよし [曲輪造成土] |
| 5 | 10YR5/6 黄褐色粗粒砂 | [路面造成土] | 12 | 10YR7/2 にぶい黄橙色粗粒砂 | [曲輪造成土] |
| 6 | 10YR6/6 明黄褐色粗粒砂 | しまり非常によし [路面造成土] | 13 | 10YR6/2 灰黄褐色粗粒砂 | しまりなし [曲輪造成土] |
| 7 | 7.5YR6/2 灰褐色粗粒砂 | [スロープ造成土] | 14 | 10YR6/3 にぶい黄橙色粗粒砂 | しまりよし [曲輪造成土] |
| 8 | 7.5YR5/2 灰褐色粗粒砂 | [スロープ造成土] | 15 | 10YR7/2 にぶい黄橙色粗粒砂 | [曲輪造成土] |
| | | | 16 | 10YR6/3 にぶい黄橙色粗粒砂 | しまりよし 20cm大の礫がまじる [曲輪造成土] |
| | | | 17 | 10YR8/8 明黄褐色粗粒砂 | しまり非常によし [地山] |



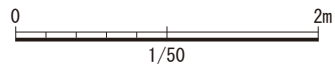
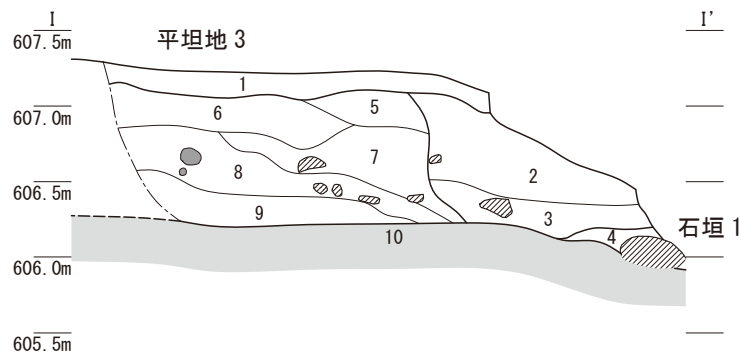
【J-J' 注記】

- | | | |
|---|-------------------|-----------------------------|
| 1 | 10YR7/6 黄褐色砂礫土 | [崩落土] |
| 2 | 10YR7/6 黄褐色礫土 | しまりわるい [崩落土] |
| 3 | 10YR7/4 にぶい橙褐色砂礫土 | しまりわるい 10cm大の小礫が多くまじる [崩落土] |
| 4 | 10YR6/6 明黄褐色粗粒砂 | しまり非常によし [通路造成土] |

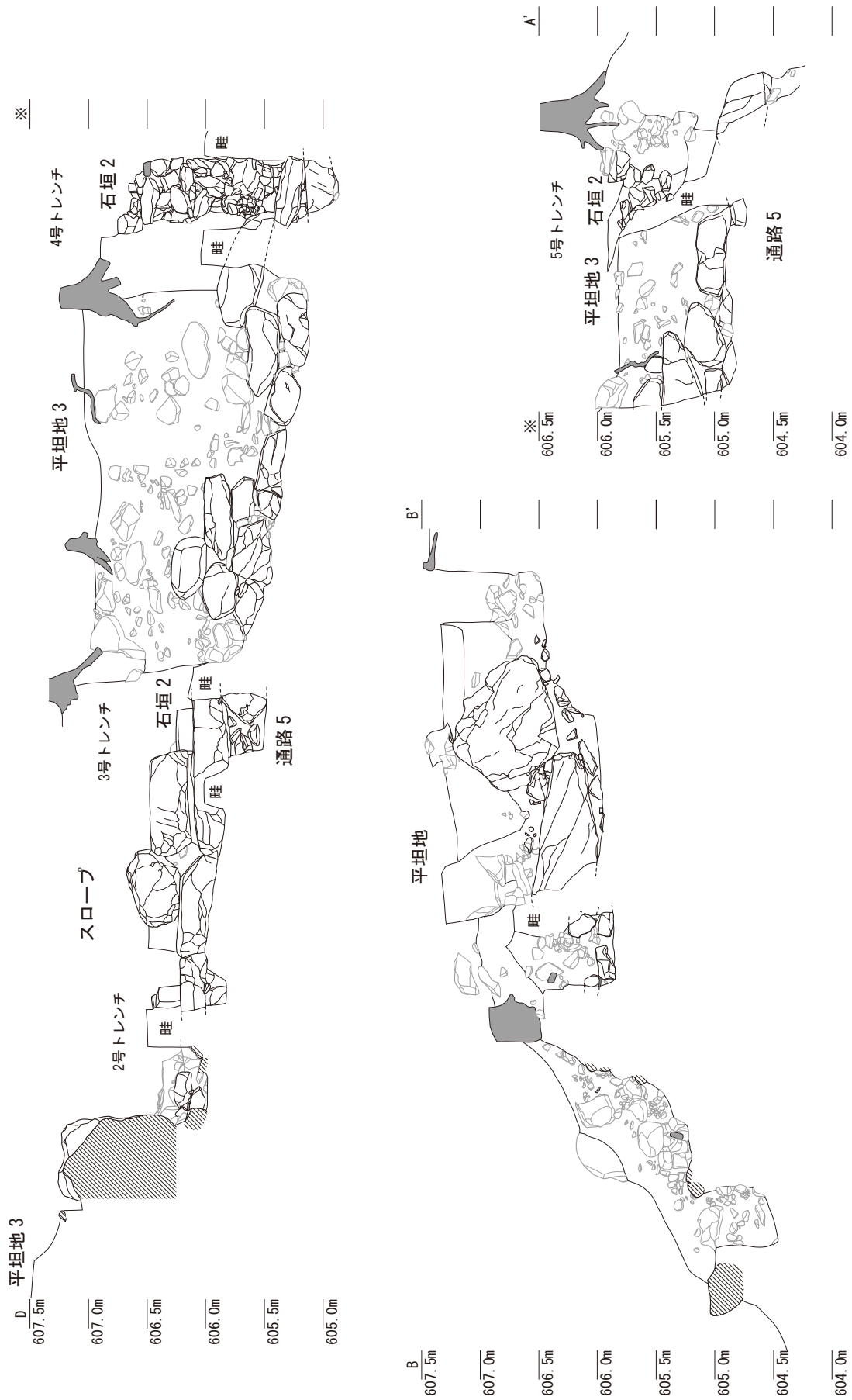


【H-H' 注記】

- | | | |
|----|---------------------|--------------------------|
| 1 | [腐葉土] | |
| 2 | 10YR5/2 灰黄褐色粗粒砂 | [柱穴3埋土] |
| 3 | 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂 | [柱穴3埋土] |
| 4 | 7.5YR6/2 灰褐色粗粒砂 | [スロープ造成土] |
| 5 | 7.5YR5/2 灰褐色粗粒砂 | [スロープ造成土] |
| 6 | 10YR6/2 灰黄褐色粗粒砂 | 10~20cm大の礫がまじる [石垣1裏込め土] |
| 7 | 10YR8/6 黄橙色粗粒砂 | しまりよし [曲輪造成土] |
| 8 | 10YR7/2 にぶい黄橙色粗粒砂 | [曲輪造成土] |
| 9 | 10YR6/3 にぶい黄橙色粗粒砂 | しまりよし |
| 10 | 10YR6/1 褐灰色粗粒砂 | [曲輪造成土] |
| 11 | 10YR6/3 にぶい黄橙色粗粒砂 | [曲輪造成土] |
| 12 | 10YR6/4 にぶい黄橙色粗粒砂 | [曲輪造成土] |
| 13 | 10YR7/4 にぶい黄橙色粗粒砂 | [曲輪造成土] |
| 14 | 10YR6/3 にぶい黄橙色粗粒砂 | [曲輪造成土] |
| 15 | 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 | [曲輪造成土] |
| 16 | 10YR6/8 明黄褐色粗粒砂or岩盤 | [地山] |



第95図 古川城跡 2・7号トレンチ断面図



第96図 古川城跡 石垣1A-A'・B-B' 立面図

第45表 古川城跡1～7号トレンチ柱穴一覧表

遺跡記号	地区名	遺構種別	遺構番号	検出面	堆積状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量 (m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)
									上端		深さ		
									長径	短径			
AFR20	虎口	柱穴	3	曲輪造成土 (平坦地3)	水平	台	-	-	0.73	-	0.62	灰黄褐色粗粒砂 10YR5/2 10YR4/2	断面 H-H' 2・3層

(5) 1～7号トレンチの遺物 (第97図、第46・47表)

①1号トレンチ

崩落土

珠洲焼1点が出土した。1は甕の体部破片である。外面にタタキ、内面にオサエの痕跡がある。

②2～7号トレンチ

曲輪造成土 土師器皿が6点、白磁が1点出土し、土師器皿3点、白磁1点を図示した。

2～4は土師器皿である。2は内外面にナデを施し、4類に属する。3・4は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。

5は白磁皿の口縁部破片である。体部が丸みを持って立ち上がり、端部は立つ。器形から白磁D類と考えられる。

石垣1裏込め土 土師器皿が1点、瀬戸美濃焼が1点出土し、図示した。

6は土師器皿である。内外面にナデを施し、4類に属する。7は瀬戸美濃焼の丸皿である。内外面に灰黄色の灰釉を施す。付高台が低く、体部は丸みを持たずに立ち上がる。器形から大窯第2段階のものと考えられる。

通路造成土 土師器皿が1点、金属製品が1点出土し、土師器皿1点を図示した。

8は土師器皿である。内面にナデを施し、外面未調整である。6類に属する。

崩落土 土師器皿が1点、瀬戸美濃焼が2点、鉄釘が1点出土し、瀬戸美濃焼2点、鉄釘1点を図示した。

9・10は瀬戸美濃焼の丸皿である。9は石垣1の直上で出土した。体部が丸みを持たずに立ち上がり、口縁部は直線的に開く。全体的に偏平な器形であり、器壁は厚めである。大窯第3～4段階のものと考えられる。10は体部が丸みを持たずに立ち上がり、口縁部は直線的に開く。灰白色の灰釉が施され、焼成不良のものと考えられる。器形から大窯第3段階のものと考えられる。

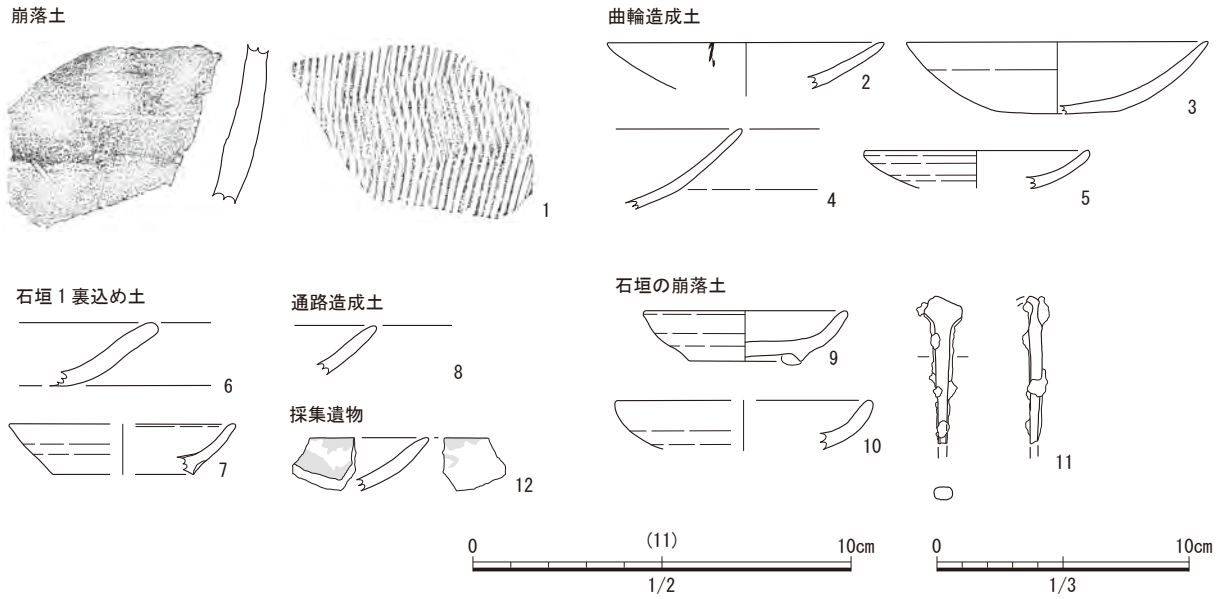
11は鉄釘である。先端部が欠損する。

採集遺物 土師器皿3点を採集し、1点を図示した。

12は土師器皿である。内外面にナデを施し、4類に属する。内外面に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。

(6) 特記事項

今回の調査では、2面の遺構面を確認した。下層にあたる第2面遺構面を構築する土層から、土師器皿4類、5類が出土する。第1遺構面を構築する土層からも大窯第2段階の丸皿7が出土するが、土師器皿6類が出土し、また石垣1直上より大窯第3～4段階の丸皿9が出土する。このため、第1面と第2面には時期差があると考えられる。



第97図 古川城跡 1～7号トレンチ出土遺物図

第46表 古川城跡1～7号トレンチ出土遺物一覧表

遺構面	土層	土師器皿						瀬戸美濃					珠洲	青磁	白磁	染付	金属	その他	合計	
		3類	4類	5類	6類	7類	その他	丸皿	端反皿	天目茶碗	すり鉢	不明	壺	碗	碗	皿	碗			
第2	曲輪造成土	-	1	2	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	7
	石垣1裏込め土	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
第1	通路造成土	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2
近世以降	崩落土	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4
	採集遺物	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
合計		4	2	2	1	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	18

第47表 古川城跡1～7号トレンチ出土遺物観察表

遺物番号	層位	トレンチ	種別	器種	法量 (cm, 括弧内は推定)			色調			成形・文様等	挿図番号	図版番号
					口径	底径	器高	内面	外面	断面			
1	崩落土	1	珠洲焼	甕	-	-	-	10Y5/1 灰色	5Y4/1 灰色	7.5YR4/2 灰褐色	外面平行タタキ 内面ナデ 指オサエ	97	36
2	曲輪造成土	7	土師器	皿	(10.0)	-	1.8	2.5YR8/3 淡黄色	2.5YR8/3 淡黄色	2.5YR8/3 淡黄色	内外面横ナデ 外面墨痕 4類	97	-
3	曲輪造成土	4	土師器	皿	(12.0)	(5.0)	2.9	10YR7/3 にぶい黄 橙色	10YR7/3 にぶい黄 橙色	10YR7/3 にぶい黄 橙色	外面口縁部ナデ 下部未調整 内面ナデ ところどころに煤付着 5類	97	36
4	曲輪造成土	5	土師器	皿	-	-	3.2	10YR7/3 にぶい黄 橙	10YR7/4 にぶい黄 橙	10YR4/1 褐灰色	外面横縦方向ナデ 体部下未調整 内面横ナデ 5類	97	36
5	曲輪造成土	5	白磁	皿	(9.0)	-	1.5	10Y8/1 灰白色	10Y8/1 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	内外面回転ナデ 施釉 D類	97	36
6	石垣1裏込め土	2	土師器	皿	-	-	3.5	7.5YR7/4 にぶい橙 色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/3 にぶい橙 色	内外面ナデ 内面斜め方向ナデ 4類	97	-
7	石垣1裏込め土	7	瀬戸美濃	丸皿	(8.0)	4.5	2.0	2.5YR6/2 灰黄	2.5YR7/2 灰黄	7.5YR7/4 にぶい橙	内外面回転ナデ 灰釉 大窯2	97	36
8	通路造成土	3	土師器	皿	-	-	1.7	7.5YR8/4 浅黄色	7.5YR8/4 浅黄色	7.5YR8/4 浅黄色	外面未調整 内面ナデ 6類	97	-
9	崩落土	6	瀬戸美濃	丸皿	8.1	4.5	2.0	5Y7/3 浅黄色	5Y7/3 浅黄色	10YR6/2 灰黄褐色	内外面回転ナデ 施釉 底部粘土付着 大窯3～4	97	36
10	崩落土	2	瀬戸美濃	丸皿	(10.2)	-	2.0	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	10YR8/3 浅黄褐色	内外面回転ナデ 灰釉 二次被熱 大窯3	97	36
11	崩落土	6	金属	釘	(3.9)	1.2	0.3	-	-	-	-	97	36
12	採集遺物	-	土師器	皿	-	-	2.1	10YR8/3 浅黄褐色	10YR7/3 にぶい黄 橙色	10YR7/3 にぶい黄 橙色	内外面煤付着 外面ナデ 内面口縁部横ナデ 体部斜め方向ナデ 4類	97	-

3 最高所の平坦地及び最も広い平坦地の調査

(1) 調査の概要 (第50表)

2018年度、2020年度と2次にわたり、古川城跡で最高所となる平坦地と、その東側の1mほど下がる斜面、最も広い平坦地の一部を対象に調査を実施した。ここでは、最高所の平坦地を平坦地1、最も広い平坦地を平坦地2として記述する。

2018年度には平坦地1の北半分及び平坦地2との間の斜面を調査対象とし、8～10号トレンチを設定した。礎石建物の存在を確認したが、その規模、造成土層の堆積と出土遺物による年代観についての知見を得ることができなかった。このため、2020年度は平坦地1全面及び平坦地2の西辺、その間の斜面を調査対象にして11～15号トレンチを追加設定し、補足調査を実施した。

平坦地1の調査では、上層より腐葉土・崩落土・造成土A・造成土B・造成土C・斜面の造成土・地山の順で堆積することを確認した。2018年に確認した最も残りの良い礎石建物1は、5間×3間の規模であり、造成土Bを基礎とすることを確認した。また、その礎石建物1は造成土Aで覆われて新たな礎石建物が築かれたことを確認した。2020年度の調査で新たに掘削した平坦地の南半分では、平面的な掘削を造成土A上面までとした。礎石を確認したものの、全体形状は知りえなかった。調査区南東部では、造成土Aでコの字状に据えられた石列を確認した。

平坦地2の調査では、上層より腐葉土・崩落土・曲輪造成土・地山の順で堆積することを確認した。平坦地1と2の間の斜面は、造成土A・造成土B・地山を同時に削って作出されているため、平坦地1の造成土Aと平坦地2の曲輪造成土が同時期と考えられた。平坦地2では、曲輪造成土を基礎とする礎石建物2を確認した。

(2) 基本層序 (第98図)

腐葉土 平坦地1、平坦地2、その間の斜面を覆う腐葉土である。現代までの自然堆積土層である。

崩落土 平坦地1及び平坦地2周囲の斜面側に堆積する崩落土である。

曲輪造成土 平坦地2の調査区で全面に確認される明黄褐色粗粒砂である。平坦地1と平坦地2の間の斜面直下から堆積する。この斜面は造成土A・造成土B・地山を削って作出されているため、曲輪造成土は造成土Aと同時期のものと考えられる。このため、当層の上面も第1遺構面として調査を行った。

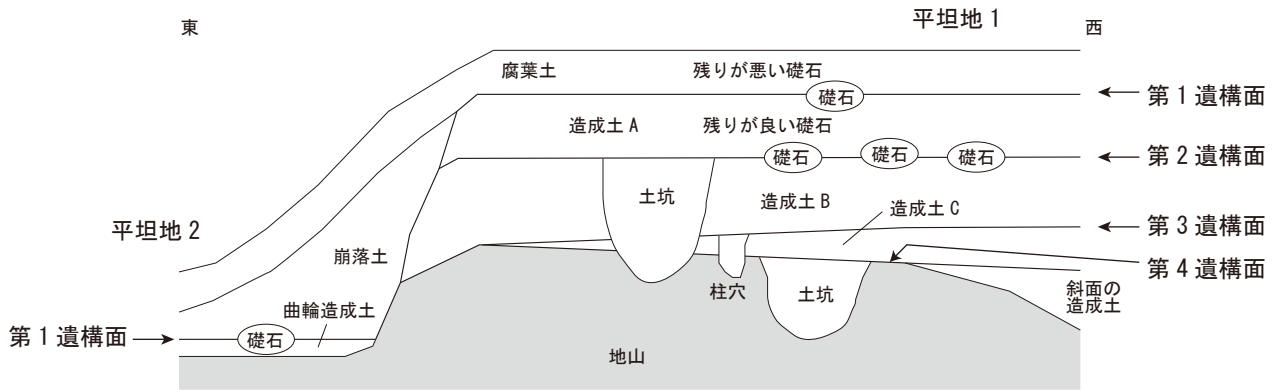
石列3裏込め土 調査範囲の南東側、平坦地2の南西に位置する石列3を据える土層である。平坦地1の造成土Aとは切り合いが認められない。石列3の前面には曲輪造成土が施されるため、当面の上層も第1遺構面として調査を行った。

造成土A 平坦地1全面を覆う褐色の細粒砂である。据えられた礎石が分布する。残りが悪いものの、礎石建物の基礎となった土層と考えられる。当層の上面を第1遺構面として調査を行った。

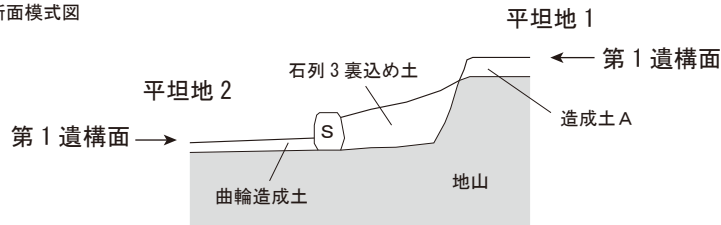
造成土B 平坦地全面のトレンチ断面で確認できる、にぶい黄褐色の細粒砂である。残りが良い礎石建物を確認でき、その基礎となった土層と考えられる。また、土坑1基が掘り込まれるのを断面B-B'で確認できる。当層の上面を第2遺構面として調査を行った。

造成土C 平坦地西側を中心に厚く堆積する、暗褐色を基本とするしまりがよい砂粒砂である。断面A-A'では、橙色と黒褐色の土層が互層となるところがある。また、この上面から柱穴が掘り込まれるのを断面A-A'で確認できる。当層の上面を第3遺構面として調査を行った。

8～15号トレンチ断面模式図



石列3の断面模式図



第98図 古川城跡 8～15号トレンチ断面模式図

斜面の造成土 山の斜面に対して、平坦地を造るために盛土を施した土層である。しまりはふつうである。当層の上面から掘り込む遺構は無い。造成土Cで平坦地を造成する前に自然傾斜地に盛土した土層と想定され、造成土Cと同時期と考えられる。

地山 この山の一带の基盤層である。黄橙色の砂礫である。上面から掘り込む土坑を断面A-A'で確認した。当層の上面を第4遺構面として調査を行った。

以下、確認した遺構と遺物について、歴史的な流れに沿って、下層から順に古い時代の調査成果から報告する。

(3) 遺構

①第4遺構面の遺構 (第99・100図)

第4遺構面は地山上面である。土坑4を断面A-A' (14層)において確認した。伴う遺物は確認しなかったが、当調査において須恵器No.26や灰釉陶器(未掲載)が出土しているため、中世以前に属する可能性がある。

②第3遺構面の遺構 (第99・100図)

第3遺構面は、造成土C上面である。遺構は、柱穴7を断面A-A' (9層)において確認した。

③第2遺構面の遺構 (第99～101図、第48表)

第2遺構面は、造成土B上面である。遺構は、河原円礫の礎石11～37、礎石抜き取り穴10で構成

される礎石建物1を平面的に検出し、土坑5を断面A-A' (6層)、土坑9を断面B-B' (9層)、柱穴6を断面A-A' (7層)で確認した。また、礎石13に南接する礎石56、礎石19に南接する礎石57は山石である。並びは不明であるが、造成土Bを基礎としており、礎石になる可能性が想定される。

礎石建物1 (第102～104図) 平坦地1の北半分に位置する。桁行5間 (9.30 m)、梁行3間 (5.58 m)の東西棟の建物である。造成土Bを基礎とする。桁行柱間は1.86 m等間であるが、北辺・南辺・西辺及び南西側の2間×1間の範囲は、その半分の間隔で礎石が並ぶ。東辺は礎石38・39が遺存するが、下層に造成土Aが認められ、現位置を留めていないと判断された。また、南西隅の礎石32も斜面側に動いていると判断された。主軸はN-0° -Wを測る。礎石に根石は伴わない。

④第1遺構面の遺構 (第99～101図、第48表)

第1遺構面は、平坦地1の造成土A上面及び平坦地2の曲輪造成土上面である。河原円礫の40・46・47・48は造成土Aを基礎として上面を水平に据えられるため礎石と考えられたが、建物としての全体形状は知りえない。平坦地1の南東部で確認された石列3は造成土Aにて据えられる。造成土A上面から掘り込む遺構は確認しなかった。平坦地北辺中央より外側の切岸に、偏平な河原円礫の集石が認められる。断面B-B'では造成土Aより上層の崩落土に含まれる。このため、造成土Aを基礎とした礎石建物の礎石であった可能性が想定される。

平坦地2においても、曲輪造成土を基礎として河原円礫の41～45・49～54が据えられるため礎石と考えられた。礎石41・42・49～51は、平坦地2の西端に据えられているため、平坦地1と密接に関係する建物の礎石と想定される。

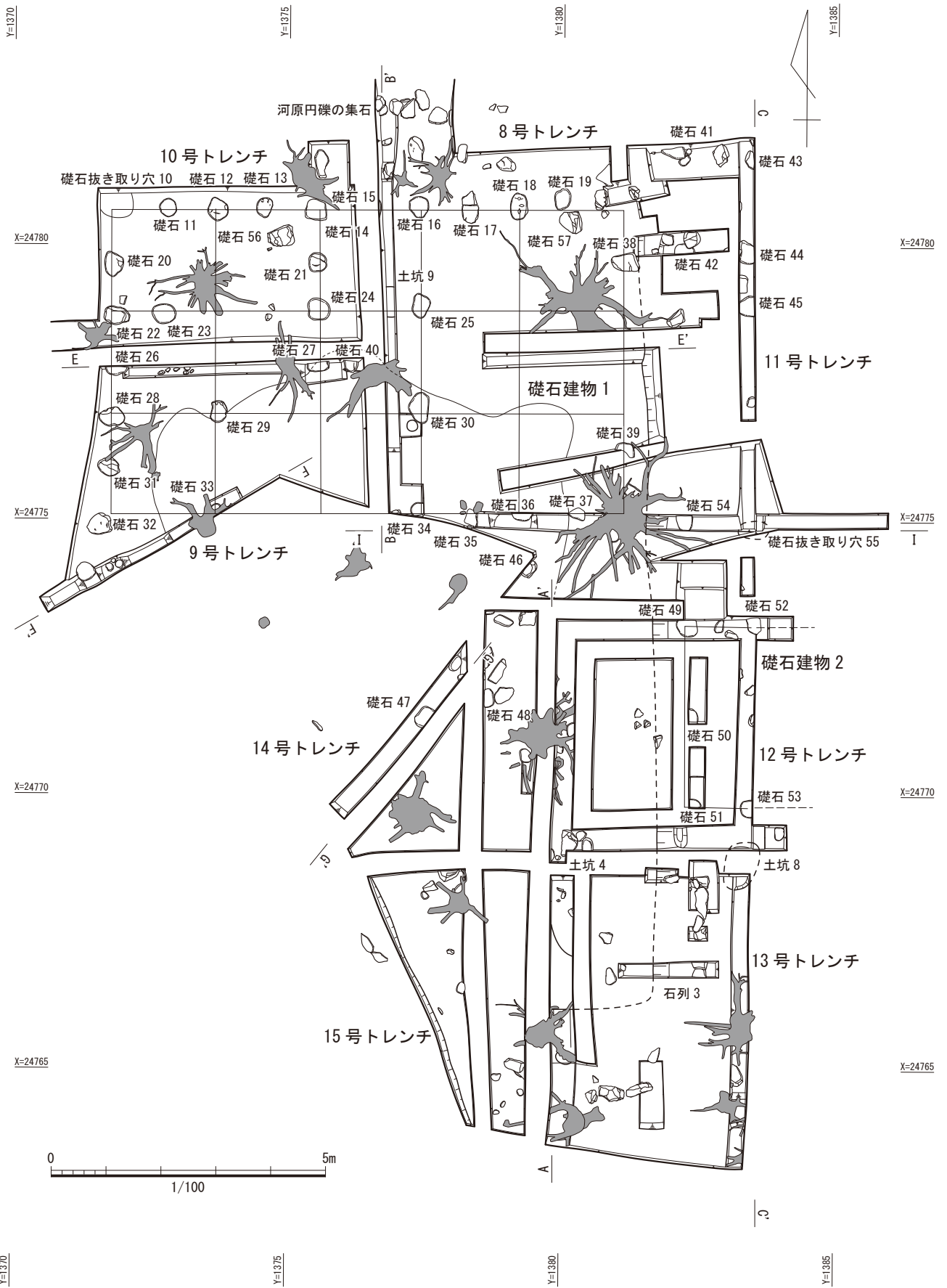
断面C-C'では、礎石44・45は掘り込まれて2層・3層で埋められ、礎石52・53は曲輪造成土5層で据えられ、礎石43は曲輪造成土7層で据えられている。時期差か建物の性格による違いなのかは判断できなかった。ここでは、曲輪造成土を基礎とし、柱間隔が一定である礎石49～53を、礎石建物2として報告する。

礎石建物2 (第106図) 平坦地2に位置する。トレンチにて礎石49～53を確認したものの、全体形状を知りえない。造成土Aと同時期と考えられる曲輪造成土を基礎とする。柱間は1.65 m等間である。主軸はN-0° -Wを測る。礎石に根石は伴わない。

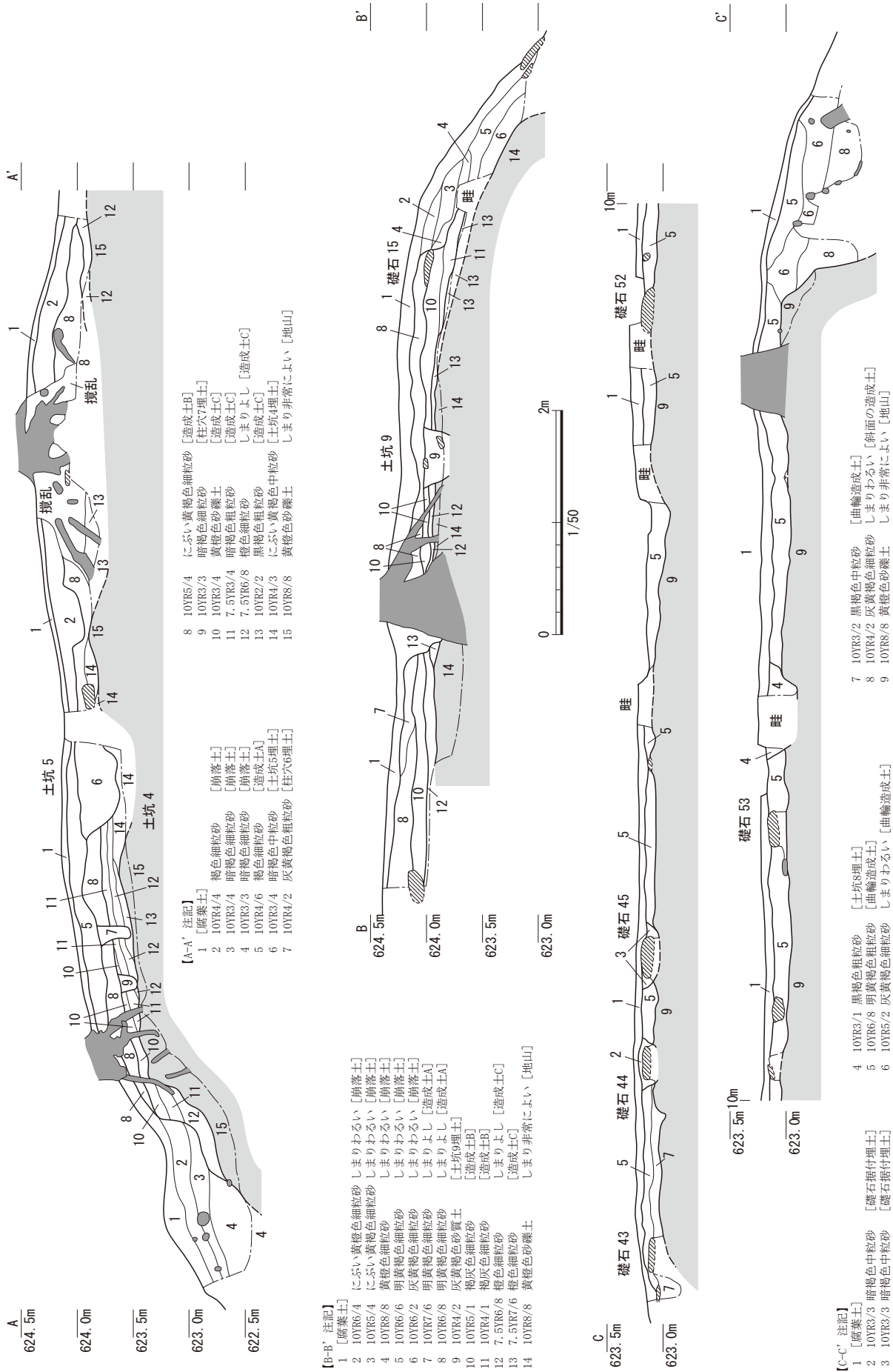
石列3 (第105図) 平坦地2の南西部に位置する。平坦地1と平坦地2の間の斜面直下から裏込め土を施し、50 cm大の横長の礫が据えられる。裏込め土は平坦地1へ向かって高くなるように盛土されている。N-N'断面・M-M'断面では、石材の前面に平坦地2の曲輪造成土が施される。S-S'立面では北側に、O-O'立面では東側に直線的に面を持つように据えられ、隅部も直角である。また、O-O'立面では高さを揃えて据えられる。素材は河原石である。対して、R-R'立面では凹凸が認められ、高さが揃っていない。また、平面では弧状となる。素材は山石である。このような相違点があるため別遺構の可能性を想定したが、Q-Q'断面の5・6層とN-N'断面の4・5層の違いを認識できなかったため、ここでは同一遺構として報告する。

第48表 古川城跡8～15号トレンチ建物計測表

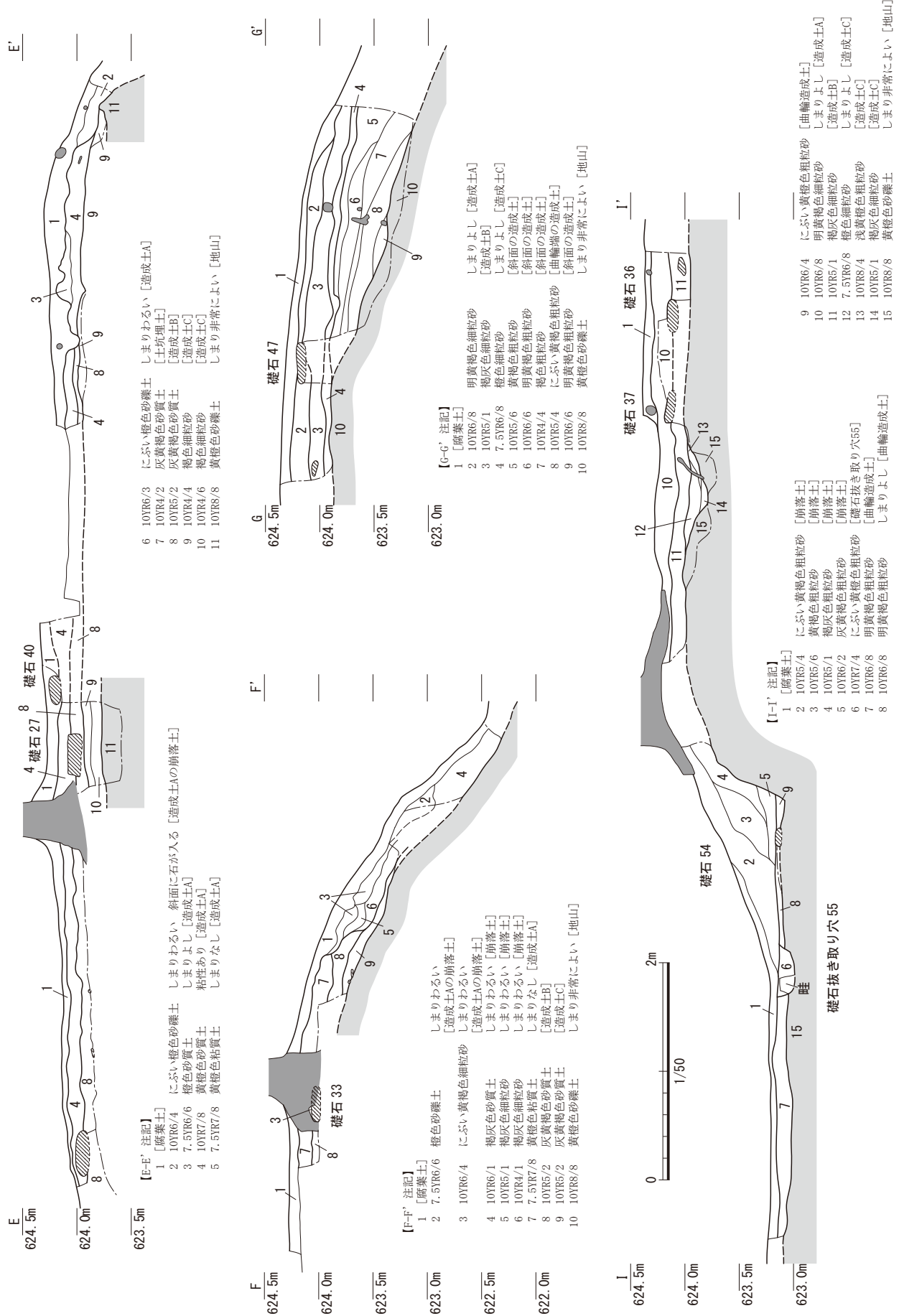
遺構名	遺構面	桁行柱間	桁行 (m)	梁行柱間	梁行 (m)	主軸	備考
礎石建物1	第2	5	9.30	3	5.58	N-0° -W	根石が伴わない
礎石建物2	第1	-	-	-	-	N-0° -W	根石が伴わない



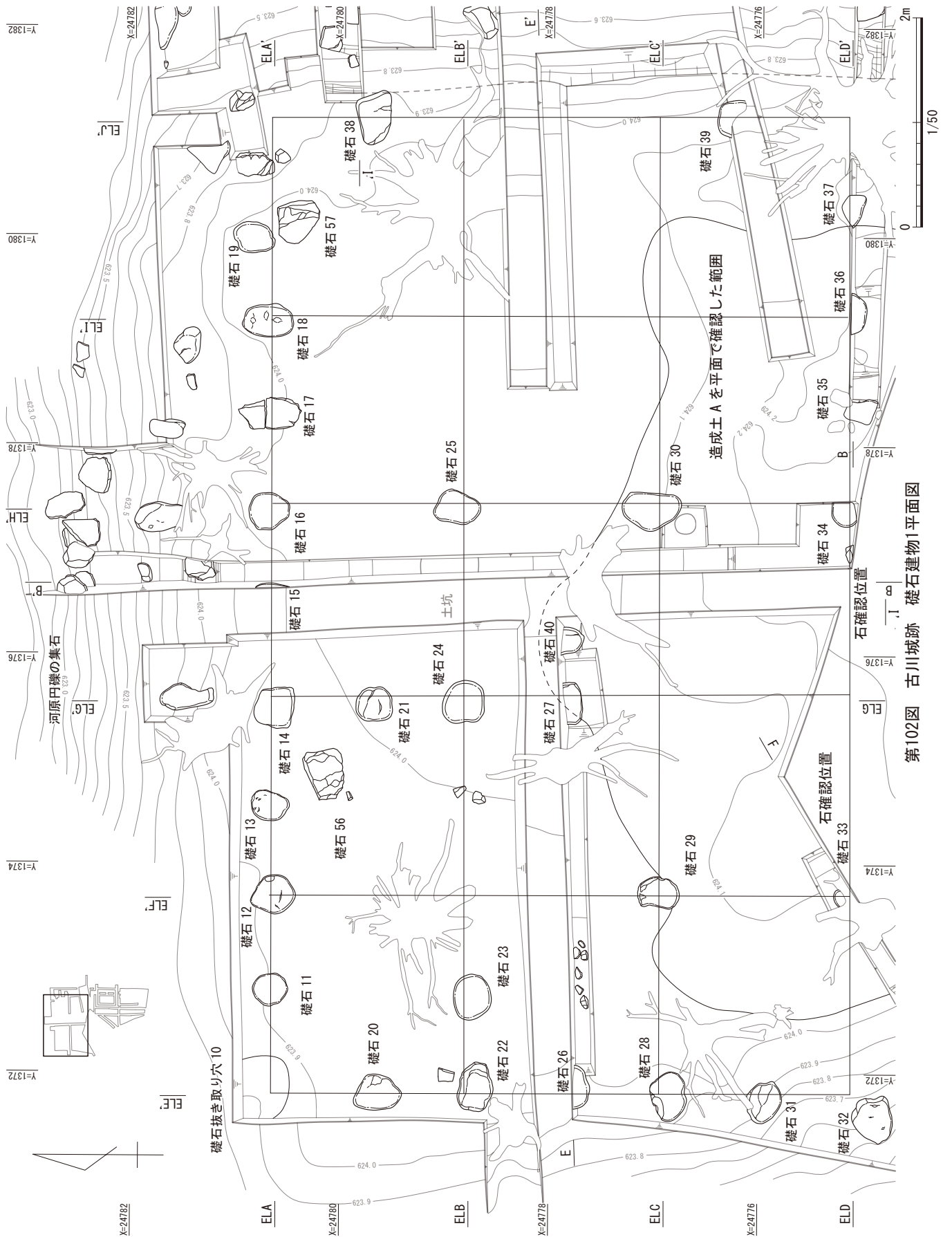
第99図 古川城跡 8～15号トレンチ平面図



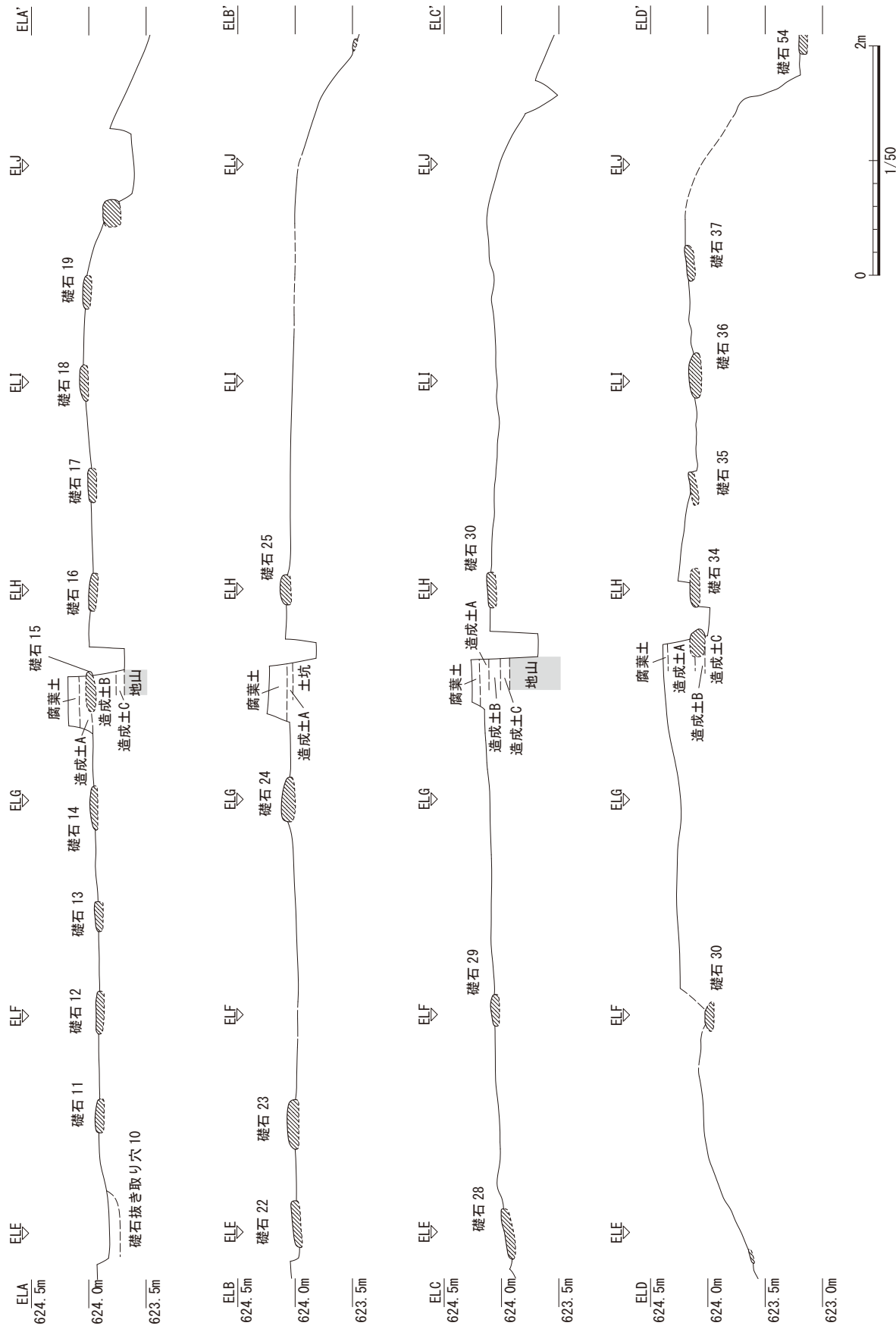
第100図 古川城跡 南北方向セクション断面図



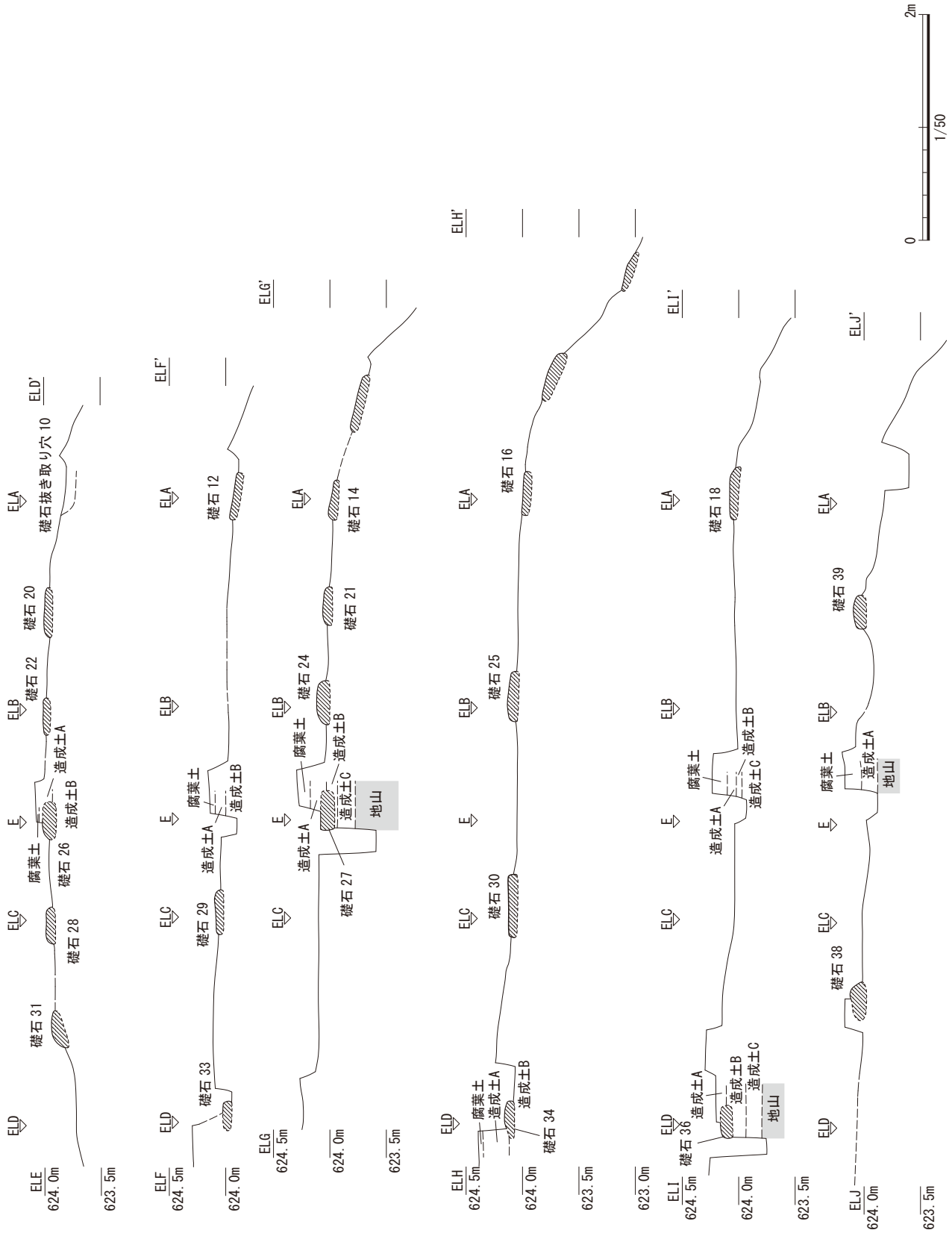
第101図 古川城跡 東西方向セクション断面図



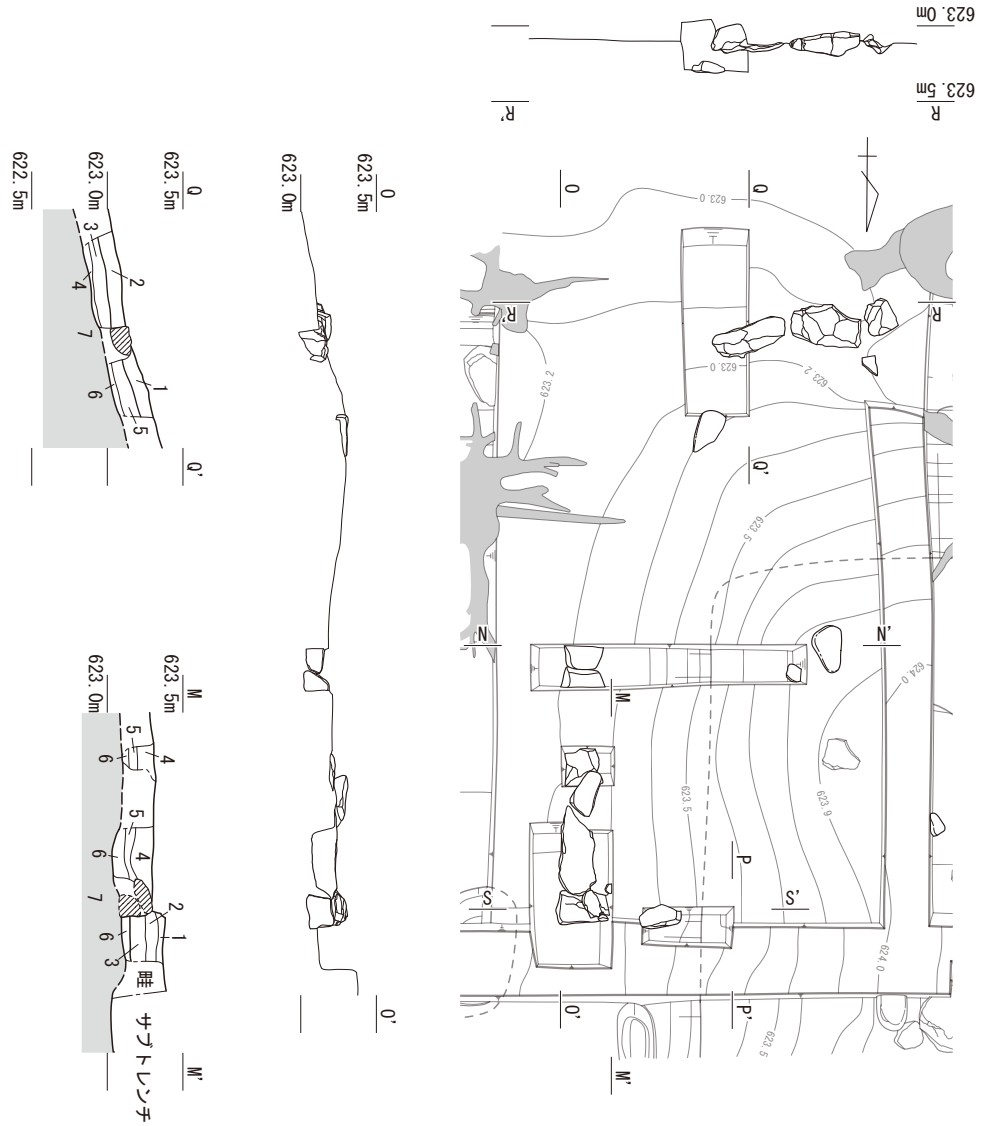
第102図 古川城跡 礎石建物1平面図



第103図 古川城跡 礎石建物1 東西方向セクションエレベーション図



第104図 古川城跡 礎石建物1 南北方向セクションエレベーション図



【Q-Q' 注記】

- 1 10YR7/8黄橙色粗粒砂 [崩落土]
- 2 10YR4/2灰黄褐色粗粒砂 [崩落土]
- 3 10YR5/2灰黄褐色粗粒砂 [曲輪造成土]
- 4 10YR6/3にぶい黄褐色粗粒砂 [曲輪造成土]
- 5 10YR4/2灰黄褐色粗粒砂 [石列3裏込め土]
- 6 10YR5/3にぶい黄褐色粗粒砂 [石列3裏込め土]
- 7 10YR8/8黄橙色砂礫土 しまり非常によい [地山]

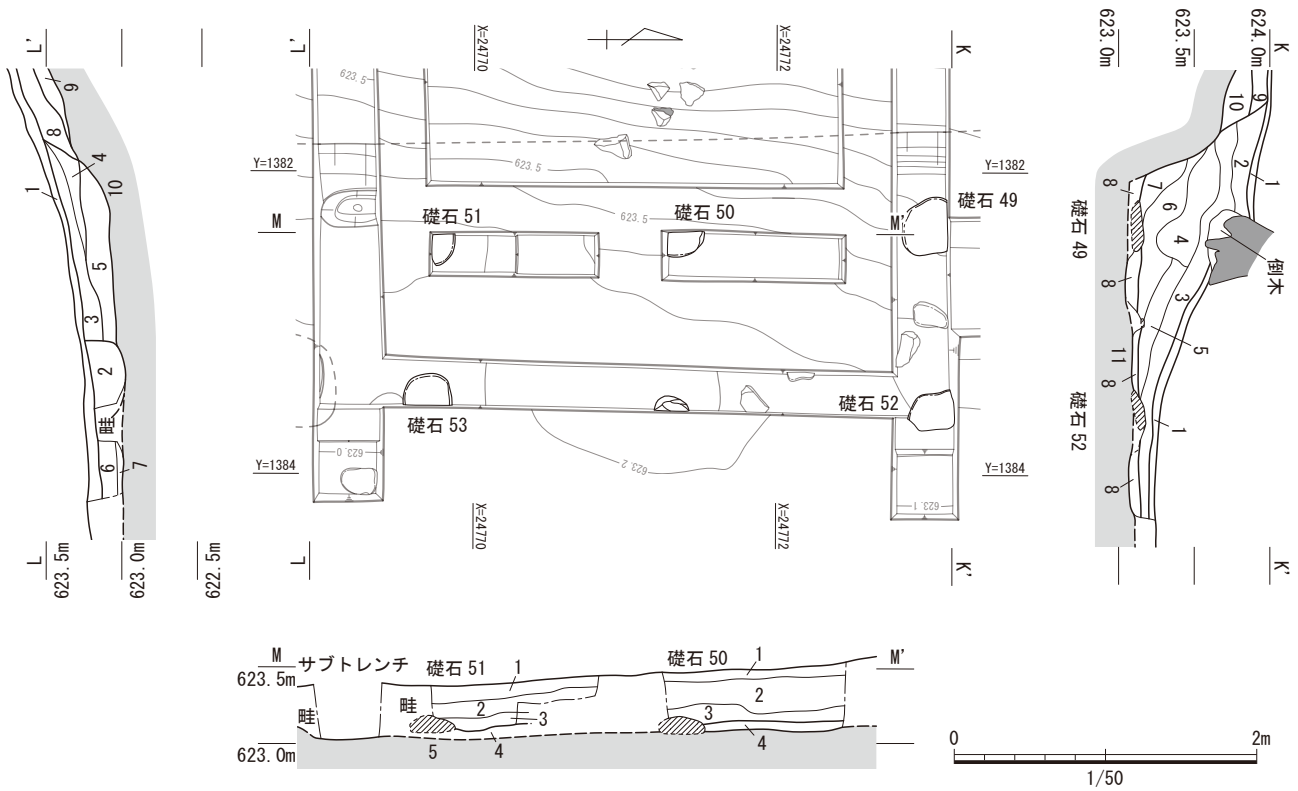
【M-M' 注記】

- 1 [腐葉土]
- 2 10YR6/6 明黄褐色粗粒砂 [崩落土]
- 3 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂 [崩落土]
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂 [石列3裏込め土]
- 5 10YR6/6 明黄褐色粗粒砂 [石列3裏込め土]
- 6 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂 [曲輪造成土]
- 7 10YR8/8 黄橙色砂礫土 しまり非常によい [地山]

【N-N' 注記】

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂 [崩落土]
- 2 10YR5/2灰黄褐色粗粒砂 [曲輪造成土]
- 3 10YR6/3にぶい黄褐色粗粒砂 [曲輪造成土]
- 4 10YR6/6 明黄褐色粗粒砂 [石列3裏込め土]
- 5 10YR4/2 灰褐色粗粒砂 [石列3裏込め土]
- 6 10YR6/8 明黄褐色粗粒砂 しまりよし [造成土A]
- 7 10YR8/8 黄橙色砂礫土 しまり非常によい [地山]

第105図 古川城跡 石列3遺構図



【L-L' 注記】

- 1 腐葉土
- 2 10YR3/1 黒褐色粗粒砂 [土坑8埋土]
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 [崩落土]
- 4 10YR6/6 明黄褐色細粒砂 [崩落土]
- 5 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 [曲輪造成土]
- 6 10YR6/8 明黄褐色粗粒砂 [曲輪造成土]
- 7 10YR4/1 褐灰色粗粒砂 [曲輪造成土]
- 8 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 [造成土A]
- 9 10YR5/6 黄褐色細粒砂 [造成土B]
- 10 10YR8/8 黄橙色砂礫土 しまり非常によい [地山]

【M-M' 注記】

- 1 腐葉土
- 2 10YR6/6 明黄褐色粗粒砂 [崩落土]
- 3 10YR5/6 黄褐色粗粒砂 [崩落土]
- 4 10YR6/8 明黄褐色粗粒砂 [曲輪造成土]
- 5 10YR8/8 黄橙色砂礫土 しまり非常によい [地山]

【K-K' 注記】

- 1 腐葉土
- 2 10YR7/3 にぶい黄橙色粗粒砂 [崩落土]
- 3 10YR7/4 にぶい黄褐色粗粒砂 しまりわるい [崩落土]
- 4 10YR6/6 明黄褐色粗粒砂 [崩落土]
- 5 10YR7/3 にぶい黄褐色粗粒砂 [崩落土]
- 6 10YR5/6 黄褐色粗粒砂 [崩落土]
- 7 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂 しまりよし [崩落土]
- 8 10YR6/8 明黄褐色粗粒砂 [曲輪造成土]
- 9 10YR6/8 明黄褐色細粒砂 しまりよし [造成土A]
- 10 10YR5/1 褐灰色細粒砂 [造成土B]
- 11 10YR8/8 黄橙色砂礫土 しまり非常によい [地山]

第106図 古川城跡 礎石建物2遺構図

(4) 遺物 (第107図、第49・51表)

斜面の造成土 土師器皿が2点出土し、1点図示した。13は土師器皿である。内外面にナデを施し、4類に属する。内面に煤・タールが付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。

造成土C 灰釉陶器1点、土師器皿17点、鉄釘1点が出土し、土師器11点、鉄釘1点を図示した。

14～24は土師器皿である。14は内面に一定方向ナデを施し、外面にナデを施すものの指頭圧痕が残る。3類に属する。15は内外面に一定方向ナデ、外面にナデを施す。16～24は内外面にナデを施す。

15～24は4類に属する。25は鉄釘である。先端部が欠損する。

造成土B 須恵器が1点、土師器皿が6点、瀬戸美濃焼が2点出土し、須恵器1点、土師器2点、瀬戸美濃焼1点を図示した。26は須恵器杯H蓋である。内外面に回転ナデを施す。27・28は土師器皿である。27は内面にヨコナデ、外面にナデを施し、内外面に指頭圧痕が残る。3類に属する。28は内外面にナデを施し、4類に属する。29は瀬戸美濃焼の丸皿である。内面見込みに花文を施す。内外面に浅黄色の灰釉を施す。付高台が低く小さいため、大窯第2段階のものと考えられる。

造成土 A 土師器皿が4点、白磁が2点、中国製染付磁器が1点、鉄釘が1点出土し、土師器3点、白磁2点、中国製染付磁器1点、鉄釘1点を図示した。

30は内外面にナデを施す。内面に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。4類に属する。31・32は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。内外面に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。

33・34は白磁碗である。33は口縁部が外反し、端部を丸く仕上げる。白磁E類と考えられる。34は口縁部内面が僅かに凹み、若干外反して端部は立ち上がる。陶胎であり、白磁D類に属する。

35は中国製染付碗である。口縁部内外面に界線を巡らせ、その間に施文する。染付碗E群に属する。

36は鉄釘である。全形状が確認できる。

曲輪造成土 土師器皿が3点、金属製品が2点出土し、金属製品2点を図示した。

37は金槌である。柄の部分は槌部周辺のみ木質部が残る。

38は鉄釘である。頭部と基部が欠損する。

崩落土 土師器皿が4点、瀬戸美濃焼が1点出土し、土師器皿3点を図示した。

39～41は土師器皿である。39・40は内外面にナデを施し、4類に属する。41は内面にナデを施し、外面未調整であり、6類に属する。

腐葉土直下 土師器皿が11点、瀬戸美濃焼3点、白磁1点、金属製品1点が出土し、土師器2点、瀬戸美濃焼1点を図示した。

42～43は土師器皿である。42は内面に一定方向ナデ、外面にヨコナデを施し、4類に属する。43は内外面にヨコナデを施し、4類に属する。

44は瀬戸美濃焼の天目茶碗である。体部が直線的に開き、口縁部が短く直立し、端部が若干くびれて外反する。器壁が厚い。器形から大窯第4段階のものと考えられる。

採集遺物 須恵器3点、土師器皿4点、瀬戸美濃焼1点、陶器1点、白磁1点、金属製品1点を確認し、土師器皿3点、瀬戸美濃焼1点、白磁1点、金属製品1点を図示した。

45～47は土師器皿である。45・46は内外面にナデを施し、4類に属する。47は内面と外面口縁部にナデを施し、外面体部下半部は未調整であり、5類に属する。

48は瀬戸美濃焼の端反皿である。体部がやや丸みを持って強く立ち上がり、口縁部が緩やかに外反する。大窯第3段階のものと考えられる。

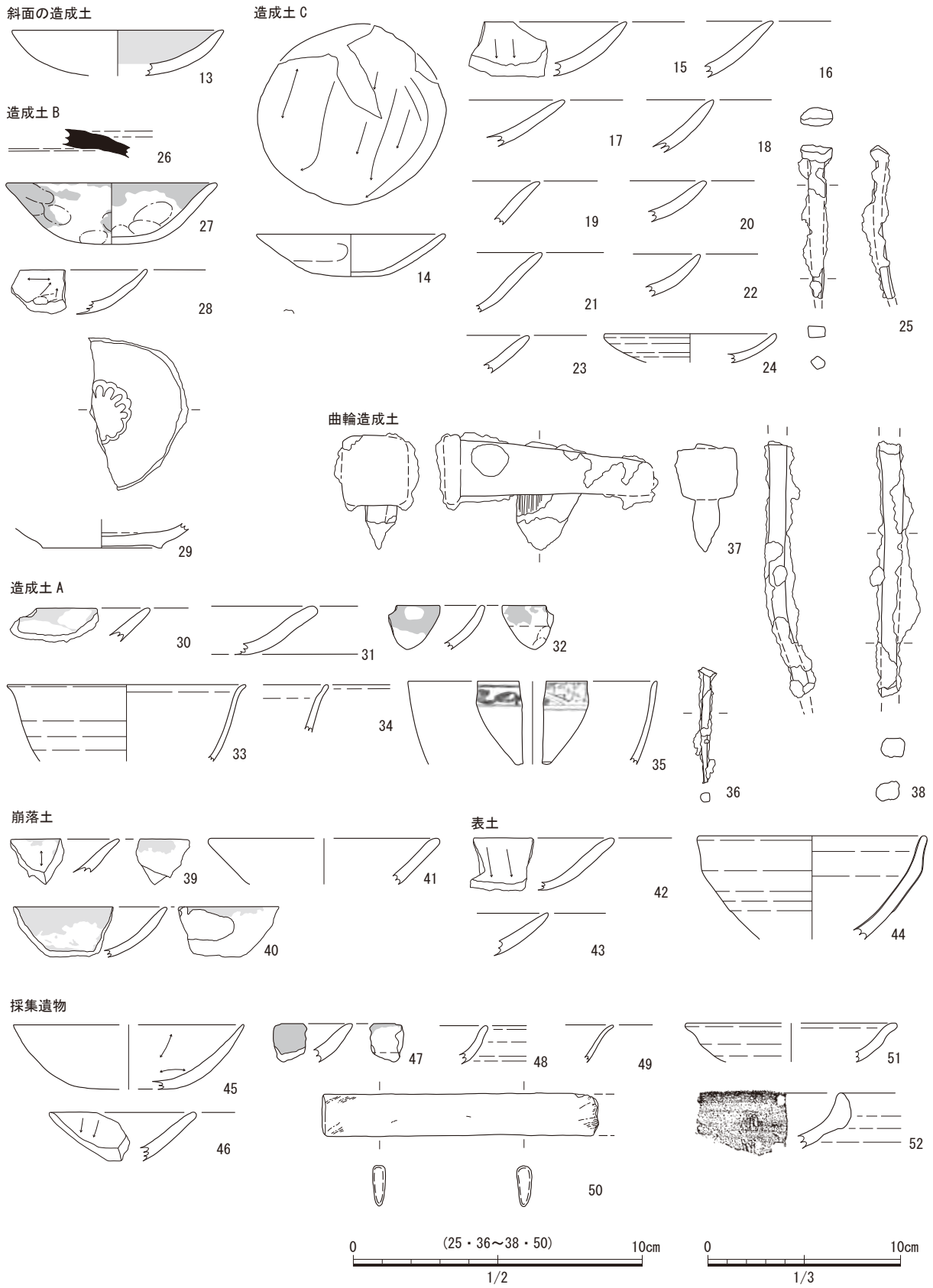
49は白磁碗である。口縁部が外反し、白磁E類のものと考えられる。

50は銅製品の小刀の柄である。緑青が全体を均一に覆うため、素銅もしくは赤銅製と考えられる。表裏面に金箔が若干残る。柄の中央付近に若干の凹みを観察でき、象嵌が施されていた痕跡の可能性はある。

調査区外での登山道で採集 瀬戸美濃焼を2点採集した。51は端反皿である。体部がやや丸みを持って立ち上がり、口縁部が緩やかに外反する。大窯第1段階のものと考えられる。52はすり鉢の口縁部破片である。断面が三角形を呈し、幅が広い。端部が上方に延びる。大窯第2段階のものと考えられる。

(5) 特記事項

山城として平坦地を造成するのは造成土Cより上層の土層である。それぞれの上面から掘り込む遺



第107図 古川城跡 8~15号トレンチ出土遺物図

第49表 古川城跡8～15号トレンチ出土遺物一覧表

遺構面	土層	須恵器 杯	灰釉陶器 椀	土師器皿						瀬戸美濃					珠洲 壺	青磁 碗	白磁		染付 碗	金属	その他	合計		
				3類	4類	5類	6類	7類	不明	丸皿	端反皿	天目茶碗	すり鉢	不明			碗	皿						
第3	斜面の造成土	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	造成土C	-	1	2	12	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	19
第2	造成土B	1	-	1	1	-	-	-	4	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	9
第1	造成土A	-	-	-	1	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	1	-	-	8	
	曲輪造成土	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	5	
近世以降	崩落土	-	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	5	
	腐葉土直下	-	-	-	2	-	-	-	9	-	-	1	-	2	-	-	1	-	-	1	-	-	16	
	採集遺物	3	-	-	2	1	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	1	-	-	1	1	-	13	
合計		4	1	3	21	3	1	0	23	1	2	1	1	4	0	0	4	0	1	6	1	-	77	
				51						9					4									

構がある。造成土Bでは5間×3間の礎石建物1を確認した。造成土Aでも礎石建物があつと想定でき、また平坦地2では礎石建物2・石列3を確認した。石列3の北東部では、隅部が直角であり、平坦地1に向かって裏込め土が高くなる。このため、平坦地2から平坦地1へ上がる階段のような施設の基底部であった可能性が想定される。

各造成土の出土遺物を見てみる。造成土C・斜面の造成土からは土師器皿3類2点と4類13点、造成土Bからは土師器皿3類1点・4類1点・大窯第2段階の丸皿1点、造成土A・曲輪造成土からは土師器皿4類1点・5類2点と白磁D・E類、染付碗E類が出土する。このように土師器皿の分類ごとの出土傾向に移り変わりが認められる。

各造成土の上層から遺構が掘り込まれ、その土層から出土する土師器皿に移り変わりが認められることから、各造成土には時期差があると考えられる。

4 古川城跡の遺構分布と時期変遷

ここでは、1～7号トレンチの調査遺構面である平坦地3・平坦地4・その間の斜面・通路5と、8～12号トレンチの調査遺構面である平坦地1・2の遺構分布と時期を出土遺物から考える。

古川城1期 平坦地1で地山上面から遺構を掘り込む第4遺構面の時期である。8～12号トレンチでは、地山面は平坦地1の端部で急激に落ち込むが、全トレンチで確認できる。遺構は、平坦地1で土坑4を確認した。遺構に伴う遺物の出土が無かったものの、調査では須恵器や灰釉陶器の出土が認められるため、古代に属する可能性がある。

古川城2期 平坦地1の造成土Cから遺構を掘り込む第3遺構面の時期である。8～12トレンチでは、トレンチ端で斜面となる地山の上面に斜面の造成土を盛土し、その上面に造成土Cを施す。平坦地1の全面で確認できる。上面から掘り込む柱穴7を確認した。造成土Cの出土遺物は、土師器皿4類が主体をなし、3類が混入する時期である。後の3期では、大窯第2段階の丸皿29が出土しているため、それより前の古瀬戸後Ⅳ期（新）～大窯第1段階が機能時期と考えられる。なお、採集遺物では大窯第1段階の端反皿51を確認している。

古川城3期 平坦地3・通路5に設定した2～7号トレンチの第2遺構面、平坦地1・2に設定した8～12トレンチの造成土Bで構築される第2遺構面の時期である。

2～7号トレンチでは、平坦地3の曲輪造成土、石垣2、通路5の通路造成土の上面となる。平坦地3を構築した曲輪造成土から4・5類の土師器皿2～4が出土した。平坦地3の土留め石垣として地山を水平に掘削し、裏込め土を施す石垣2を設ける。また、通路造成土にも土留めの機能を有する土留め石垣があるが、裏込めを持たない。この通路造成土の土留め石垣を据える通路造成土は、石垣1・石垣2と直接的に層序関係がない。土留め石垣を観察すると、地山と造成土が接するところに礫を集中させて切岸上部まで礫を積み上げない点、石材の大きさが不揃いな点など、土留めの在り方が石垣2と近似する。このため、ここでは土留め石垣も3期の遺構と考える。このことから、平坦地4から平坦地3に通じる虎口の通路5は、3期に築かれたものと想定される。

8～12トレンチでは、3・4類の土師器皿27・28と大窯第2段階の丸皿29が出土する造成土Bが同時期になるものと考えられた。造成土Bは、トレンチで平坦地1全面を覆うことを確認した。造成土Bを基礎として5間×3間の礎石建物1が造られる。

以上より、平坦地4から平坦地3へ通じる虎口の通路5が造られ、平坦地1に礎石建物が造られるなど、山城の全体的な遺構は3期に配置されたものと考えられる。なお、1号トレンチの石垣4については、地山近くに造られているため、その下層に石組みが存在するスペースはない。このため、3期の遺構となる可能性が想定される。しかし、その前面の礫を除去しきれなかったため、石材の大きさ、裏込めの有無、積み方を確認できていない。このため、4期に属する可能性もある。

時期は、造成土Bより大窯第2段階の丸皿29が出土するため、それ以降の大窯第2～3段階が機能時期と考えられる。

古川城4期 平坦地3・4に設定した2～7号トレンチの第1遺構面、8～12号トレンチでは平坦地1の造成土A及び平坦地2の曲輪造成土で構築される第1遺構面の時期である。

平坦地3・4の間の通路斜面では、2～7号トレンチで桁形となる石垣1が構築され、通路には路面造成土が施される。石垣1直上で大窯第3段階の丸皿9が出土する。

平坦地1では、礎石40・46～48が残存する。平坦地2においても礎石が据えられるため、平坦地1・2には礎石建物が建てられていたと考えられる。石列3は、平坦地2から平坦地1へ登る施設であった可能性がある。平坦地1では腐葉土直下の検出面で大窯第4段階の天目茶碗44が出土した。

時期は、出土遺物より大窯第3～4段階が機能時期と考えられる。これ以降は、使用の痕跡が認められない。

なお、先述したとおり1号トレンチの石垣4は、この4期に属する可能性がある。その場合、2～7号トレンチの石垣1に連続するものと想定される。



写真5 古川城跡 石垣1 検出作業の様子



写真6 古川城跡 礎石建物1 検出作業の様子

第50表 古川城跡8～15号トレンチ土坑・柱穴・礎石等一覧表

遺跡記号	地区名	遺構種別	遺構番号	検出面	堆積状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量 (m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)	
									上端		深さ			
									長径	短径				
AFR20	平坦地	土坑	4	地山	-	-	楕円	-	1.16	-	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR4/3	断面 A-A' 14層
AFR20	平坦地	土坑	5	造成土 B	単	逆台	-	-	(0.87)	-	0.36	暗褐色中粒砂	10YR3/4	断面 A-A' 6層
AFR20	平坦地	柱穴	6	造成土 B	単	楕鉢	-	-	0.18	-	0.16	灰黄褐色粗粒砂	10YR4/2	断面 A-A' 7層
AFR20	平坦地	柱穴	7	造成土 C	単	楕鉢	-	-	0.20	-	0.29	暗褐色細粒砂	10YR3/3	断面 A-A' 9層
AFR20	平坦地	土坑	8	曲輪造成土	単	半円	楕円	楕円	0.95	-	(0.28)	黒褐色粗粒砂	10YR3/1	断面 C-C' 4層
AFR20	平坦地	土坑	9	造成土 B	-	-	-	-	0.54	-	-	灰黄褐色砂質土	10YR4/2	断面 B-B' 9層
AFR20	平坦地	採取穴	10	造成土 B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	11	造成土 B	-	-	-	-	0.34	0.30	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	12	造成土 B	-	-	-	-	0.44	0.38	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	13	造成土 B	-	-	-	-	0.38	0.28	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	14	造成土 B	-	-	-	-	0.38	0.38	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	15	造成土 B	-	-	-	-	0.34	-	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	16	造成土 B	-	-	-	-	0.41	0.37	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	17	造成土 B	-	-	-	-	0.60	0.30	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	18	造成土 B	-	-	-	-	0.52	0.30	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	19	造成土 B	-	-	-	-	0.43	0.32	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	20	造成土 B	-	-	-	-	0.43	0.33	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	21	造成土 B	-	-	-	-	0.36	0.32	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	22	造成土 B	-	-	-	-	0.47	0.34	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	23	造成土 B	-	-	-	-	0.43	0.35	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	24	造成土 B	-	-	-	-	0.42	0.39	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	25	造成土 B	-	-	-	-	0.45	0.32	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	26	造成土 B	-	-	-	-	0.42	-	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	27	造成土 B	-	-	-	-	0.40	-	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	28	造成土 B	-	-	-	-	0.45	0.33	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	29	造成土 B	-	-	-	-	0.40	0.30	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	30	造成土 B	-	-	-	-	0.56	0.35	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	31	造成土 B	-	-	-	-	0.41	0.33	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	32	造成土 B	-	-	-	-	0.46	0.39	-	-	-	礎石建物1を構成 / 原位置を保たない
AFR20	平坦地	礎石	33	造成土 B	-	-	-	-	(0.18)	-	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	34	造成土 B	-	-	-	-	(0.24)	-	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	35	造成土 B	-	-	-	-	(0.28)	-	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	36	造成土 B	-	-	-	-	0.39	-	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	37	造成土 B	-	-	-	-	0.30	-	-	-	-	礎石建物1を構成
AFR20	平坦地	礎石	38	造成土 A	-	-	-	-	0.40	0.30	-	-	-	礎石建物1を構成 / 原位置を保たない
AFR20	平坦地	礎石	39	造成土 A	-	-	-	-	0.32	-	-	-	-	礎石建物2を構成 / 原位置を保たない
AFR20	平坦地	礎石	40	造成土 A	-	-	-	-	0.26	-	-	-	-	-
AFR20	平坦地	礎石	41	曲輪造成土	-	-	-	-	0.41	-	-	-	-	-
AFR20	平坦地	礎石	42	曲輪造成土	-	-	-	-	0.35	-	-	-	-	-
AFR20	平坦地	礎石	43	曲輪造成土	-	-	-	-	0.32	-	-	-	-	-
AFR20	平坦地	礎石	44	曲輪造成土	-	-	-	-	0.31	-	-	-	-	掘え付け穴が伴う
AFR20	平坦地	礎石	45	曲輪造成土	-	-	-	-	0.37	-	-	-	-	掘え付け穴が伴う
AFR20	平坦地	礎石	46	造成土 A	-	-	-	-	0.32	-	-	-	-	-
AFR20	平坦地	礎石	47	造成土 A	-	-	-	-	0.38	-	-	-	-	-
AFR20	平坦地	礎石	48	造成土 A	-	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-
AFR20	平坦地	礎石	49	曲輪造成土	-	-	-	-	0.37	-	-	-	-	礎石建物2を構成
AFR20	平坦地	礎石	50	曲輪造成土	-	-	-	-	(0.26)	-	-	-	-	礎石建物2を構成
AFR20	平坦地	礎石	51	曲輪造成土	-	-	-	-	(0.20)	-	-	-	-	礎石建物2を構成
AFR20	平坦地	礎石	52	曲輪造成土	-	-	-	-	(0.28)	-	-	-	-	礎石建物2を構成
AFR20	平坦地	礎石	53	曲輪造成土	-	-	-	-	(0.32)	-	-	-	-	礎石建物2を構成
AFR20	平坦地	礎石	54	曲輪造成土	-	-	-	-	(0.30)	-	-	-	-	-
AFR20	平坦地	採取穴	55	曲輪造成土	-	-	-	-	0.46	-	0.16	にぶい黄褐色粗粒砂	10YR7/4	-
AFR20	平坦地	礎石	56	造成土 B	-	-	-	-	0.46	0.36	-	-	-	-
AFR20	平坦地	礎石	57	造成土 B	-	-	-	-	0.42	0.38	-	-	-	-

第51表 古川城跡8～15号トレンチ出土遺物観察表

遺物番号	層位	出土遺構	種別	器種	法量 (cm, 括弧内は推定)			色調			成形・文様等	挿固番号	図版番号
					口径	底径	器高	内面	外面	断面			
13	斜面の造成土	主郭	土師器	皿	(11.0)	—	2.4	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/5 浅黄橙色	内外面ナデ 内面煤付着4類	107	36
14	造成土C	主郭	土師器	皿	(9.8)	—	2.2	5YR6/6 橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	外面ナデ オサエ 内面横ナデ 3類	107	36
15	造成土C	主郭	土師器	皿	—	—	2.7	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	外面ナデ 内面縦方向ナデ 4類	107	—
16	造成土C	主郭	土師器	皿	—	—	2.3	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	外面ナデ 内面横ナデ 4類	107	36
17	造成土C	主郭	土師器	皿	—	—	2.4	7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	内外面口唇部ユビオサエ 外面ナデ、墨付着 内面口縁部横ナデ、下部斜め方向ナデ 4類	107	—
18	造成土C	主郭	土師器	皿	—	—	2.7	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	外面斜め方向ナデ 内面縦方向ナデ、口唇部横ナデ 4類	107	—
19	造成土C	主郭	土師器	皿	—	—	2.3	5YR7/4 にぶい橙色	5YR7/6 褐色	5YR7/4 にぶい橙色	内外面横ナデ 4類	107	—
20	造成土C	主郭	土師器	皿	—	—	2.1	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	外面ナデ 内面口唇部横ナデ、下部斜め方向ナデ 4類	107	—
21	造成土C	主郭	土師器	皿	—	—	3.1	5YR7/6 褐色	5YR7/6 褐色	5YR7/6 褐色	内外面ナデ 4類	107	—
22	造成土C	主郭	土師器	皿	—	—	2.2	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	外面ナデ 内面斜め方向ナデ 4類	107	—
23	造成土C	主郭	土師器	皿	—	—	2.0	7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	外面ナデ 内面斜め方向ナデ 4類	107	—
24	造成土C	主郭	土師器	皿	—	—	1.0	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	内外面ナデ 内面ナデ 4類	107	—
25	造成土C	主郭	金属製品	釘	—	—	—	—	—	—	錆付着	107	—
26	造成土B	主郭	須恵器	杯H蓋	—	—	1.4	2.5YR7/1 灰白色	5YR6/1 灰色	5Y7/1 灰白色	内外面回転ナデ	107	—
27	造成土B	主郭	土師器	皿	(11.0)	(4.0)	3.2	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR5/2 灰褐色	内外面煤付着 外面ナデ 指オサエ 内面横ナデ 指オサエ 3類	107	36
28	造成土B	主郭	土師器	皿	—	—	2.3	7.5YR6/3 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	外面ナデ 内面上部横ナデ、下部斜め方向指ナデ 痕 4類	107	—
29	造成土B	主郭	瀬戸美濃	丸皿	—	6.2	1.3	5Y7/3 浅黄色	5Y7/3 浅黄色	2.5Y8/3 淡黄	内外面回転ナデ 灰釉大窯2	107	36
30	造成土A	主郭	土師器	皿	—	—	1.7	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR8/6 浅黄褐色	内外面横ナデ 内面煤付着 4類	107	—
31	造成土A	主郭	土師器	皿	—	—	2.0	10YR3/1 黒褐色	10YR5/2 灰黄褐色	10YR7/3 にぶい黄橙色	内外面煤付着 外面未調整 指オサエ 内面横ナデ 5類	107	—
32	造成土A	主郭	土師器	皿	—	—	2.3	10YR8/2 灰白色	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄褐色	内外面煤付着 外面口縁下ナデ 体部指オサエ未調整 内面ナデ 5類	107	—
33	造成土A	主郭	白磁	碗	(12.4)	—	4.0	10Y8/1 灰白色	10Y8/1 灰白色	10Y8/1 灰白色	内外面施釉	107	36
34	造成土A	主郭	白磁	碗	—	—	—	10Y8/1 灰白色	10Y8/1 灰白色	10Y8/1 灰白色	内外面施釉	107	—
35	造成土A	主郭	染付	碗	(13.0)	—	4.3	N8/0 灰白色	N8/0 灰白色	7.5YR8/1 灰白色	染付碗B類	107	36
36	造成土A	主郭	金属製品	釘	6.0	1.2	0.5	—	—	—	—	107	—
37	曲輪造成土	主郭	金属製品	金槌	40.5	7.7	2.2	—	—	—	木台が残る	107	36
38	曲輪造成土	主郭	金属製品	釘	8.8	0.7	0.7	—	—	—	—	107	36
39	崩落土	主郭	土師器	皿	—	—	1.7	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR8/4 浅黄褐色	内外面ナデ 煤付着 4類	107	—
40	崩落土	主郭	土師器	皿	—	—	2.6	10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	内外面煤付着 外面斜め方向ナデ 内面横ナデ 4類	107	36
41	崩落土	主郭	土師器	皿	(12.0)	—	2.4	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	外面未調整 内面ナデ 6類	107	36
42	表土	主郭	土師器	皿	—	—	2.7	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	内外面煤付着 外面ナデ 内面縦方向ナデ 4類	107	—
43	表土	主郭	土師器	皿	—	—	2.2	10YR2/4 浅黄褐色	10YR2/4 浅黄褐色	10YR2/4 浅黄褐色	内外面横ナデ 4類	107	—
44	表土	主郭	瀬戸美濃	天目茶碗	(12.0)	—	5.4	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	10YR8/3 浅黄褐色	内外面施釉 大窯4	107	36
45	採集遺物	主郭	土師器	皿	(12.0)	4.7	3.35	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR8/4 浅黄褐色	外面ナデ 内面口縁～体部一定方向縦ナデ 底部横ナデ 4類	107	—
46	採集遺物	主郭	土師器	皿	—	—	1.8	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR5/1 褐灰色	外面ナデ 内面斜め方向ナデ 4類	107	—
47	採集遺物	主郭	土師器	皿	—	—	2.0	10YR4/1 褐灰色	10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	外面ナデ 内面煤付着 5類	107	—
48	採集遺物	主郭	瀬戸美濃	丸皿	—	—	1.95	5Y8/3 淡黄色	5Y8/3 淡黄色	10YR8/4 浅黄褐色	内外面回転ナデ 灰釉大窯3	107	—
49	採集遺物	主郭	白磁	碗	—	—	1.95	7.5YR8/1 灰白色	7.5YR8/1 灰白色	7.5YR8/1 灰白色	内外面回転ナデ 白磁E	107	—
50	採集遺物	主郭	金属製品	小刀の柄	9.6	1.45～1.5	0.4～0.45	—	—	—	金箔あり	107	36
51	採集遺物	主郭	瀬戸美濃	端反皿	(11.0)	—	2.0	5Y7/2 灰白色	5Y7/2 灰白色	10YR6/3 にぶい黄褐色	内外面施釉 大窯1	107	36
52	採集遺物	主郭	瀬戸美濃	すり鉢	—	—	2.9	7.5YR4/1 褐灰色	7.5YR4/1 褐灰色	2.5YR8/2 灰白色	内外面回転ナデ 内面スリ目痕 大窯2	107	36

第3節 小島城跡

1 調査の目的

測量調査により、主郭と考えられた最も広い平坦地から南・北側斜面において、また虎口の通路と考えられた斜面地とそこに西接する平坦地において、試掘確認調査を実施した。以下、最も広い平坦地を平坦地1、通路と考えられた斜面地を通路3、通路3に接する平坦地を平坦地2とする。

調査の目的は、平坦地1では遺構の把握と遺物による山城の使用年代の把握することである。また、平坦地2と通路3の間の段差で地表面に露出する石垣の全体像を確認すること、通路3では階段の有無や幅を確認することである。

2 調査の概要（第108図）

2018年度、平坦地2と通路3の間の段差に位置する石垣の南北方向の広がりを確認するために1号トレンチを、通路と想定した斜面地において通路幅を確認するために東西方向の2号トレンチを、斜面地の中央で階段の有無等を確認するために南北方向の3号トレンチを設定した。

また、最も広い平坦地1を横断し、南北側の斜面地にかかるように4号トレンチ、5号トレンチを設定した。4号トレンチは地表面に10cm大の小礫が露出する遺構がかかるように設定した。5号トレンチは、地表面に露出する偏平な礫を礎石と想定し、その礫がかかるように設定した。

1～3号トレンチの調査では、上層より、腐葉土、崩落土、路面造成土、石垣1裏込め土、石垣1据付土、地山の順で堆積することを確認した。腐葉土と崩落土を除去して検出した石垣を石垣1とし、その上面か石材が失われているところは石垣1裏込め土か石垣1据付土を遺構面として調査を行った。現在確認できる斜面は地山を削って造られていること、斜面の西側側面には石垣が据えられていたことを確認した。

4・5号トレンチでは、上層より、腐葉土、テラス造成土か崩落土、石垣2・3裏込め土、曲輪造成土、地山の順で堆積することを確認した。地表面に露出する偏平な山石1石が礎石の可能性があると想定したが、腐葉土中に含まれることを確認した。調査区外にも礎石の可能性のある偏平な石が散在するが、原位置を保つ可能性が低いと考えられる。また、南側斜面では裏込め土を伴う石垣2・3とともに、その裏込め土が平坦地1まで達することを確認した。このため、石垣2・3から平坦地1の間にも石垣が存在した可能性を想定することができた。

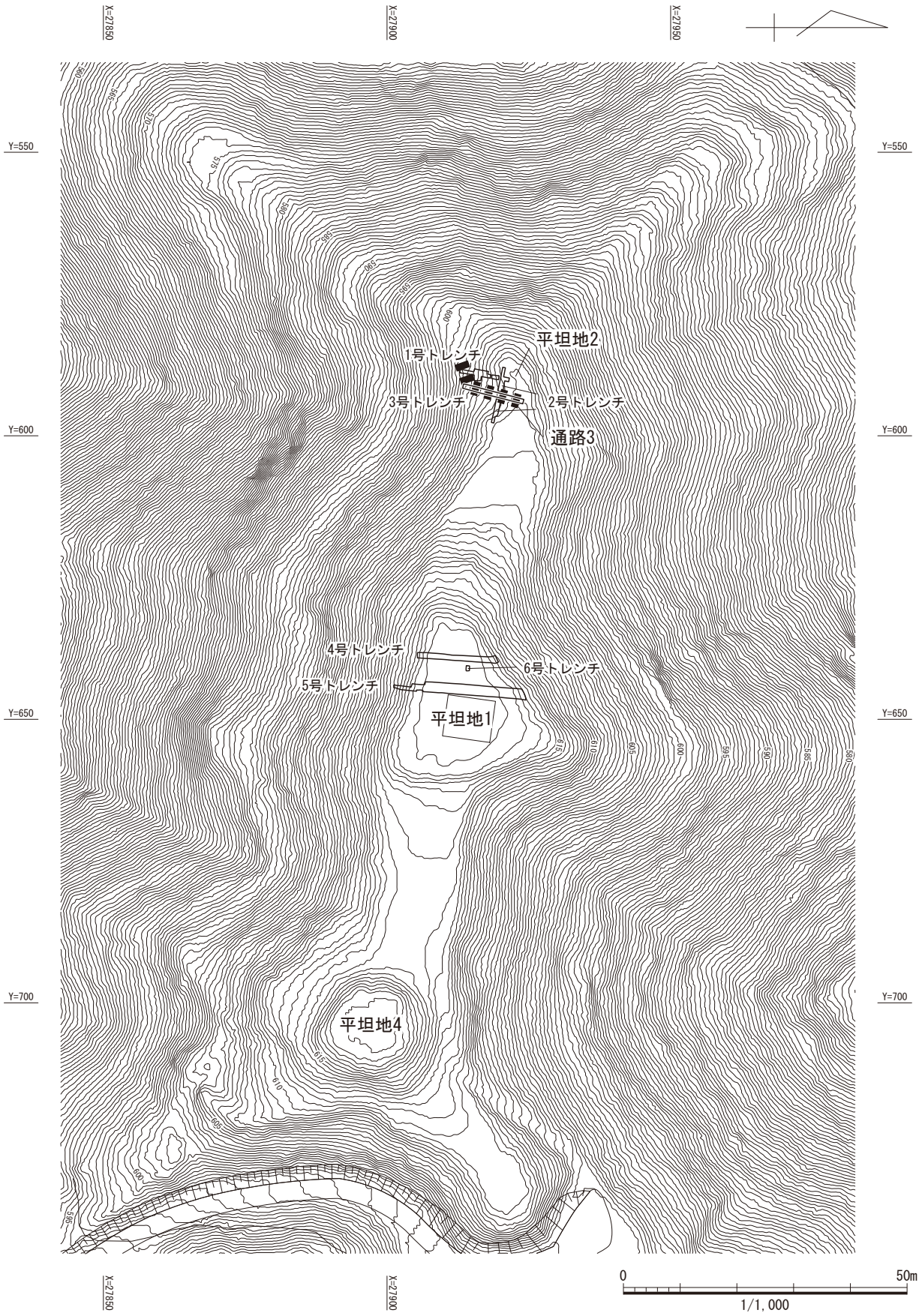
それぞれの層序と遺構面の対応は、1～3号トレンチの路面造成土・石垣1裏込め土・石垣1据付土上面の遺構面と、4・5号トレンチの裏込め土上面の第1遺構面とが対応すると考えられる。遺物は土師器皿、瀬戸美濃焼等が出土した。

3 基本層序

(1) 平坦地2と通路3の1～3号トレンチ（第109図）

腐葉土 斜面を覆う現代までの自然堆積土層である。

崩落土 石垣の上層に堆積する。元々は石垣であったと考えられる1m大の礫や、裏込め土であったと考えられる小礫を多量に含む。



第108図 小島城跡 トレンチ位置図

路面造成土 通路に面した石垣1の前面裾部に薄く堆積する。通路の上面を舗装したと考えられる土層である。

石垣1裏込め土 地表面に露出している石垣1の裏込め土である。石材が抜けているところは、当層の上面を遺構面として調査を行った。

石垣1据付土 石垣1の石材を据えるために傾斜地を埋めた土層である。

地山 この山一帯の基盤層である。黄橙色の砂礫層であり、非常にしまりがよい。当層の上面から掘り込む遺構は確認しなかった。

(2) 平坦地1の4・5号トレンチ (第110図)

腐葉土 平坦地1と斜面を覆う現代までの自然堆積土層である。

テラス造成土か崩落土 北側斜面では石垣2及び石垣3の上部に堆積する。石垣間のテラスを造成した土層か、テラスに堆積した崩落土である。小礫を多量に含む。南側斜面には崩落土が厚く堆積し、元々礎石であったと想定される河原円礫が含まれる。

石垣2・3裏込め土 小礫を多く含む、平坦地1の南側斜面に位置する石垣2・3の裏込め土であり、平坦地1の上端まで達している。当層の上面を第1遺構面として調査を行った。

曲輪造成土 山の斜面に対して、平坦地1を造るために盛土を施した土層である。平坦地1の平坦面においては、当層の上面が平坦地1の地山上面と揃えられる。このため、当層の上面も第1遺構面として調査を行った。

地山 この山一帯の基盤層である。黄橙色の砂礫層であり、非常にしまりがよい。平坦地1の5号トレンチにおいて、当層の上面から掘り込む土坑7があり、第2遺構面とした。

4 遺構 (第52・53表)

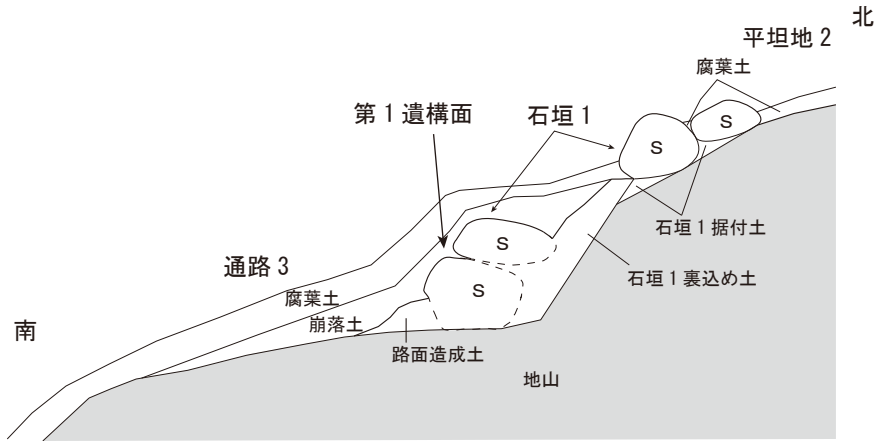
1～3号トレンチでは、腐葉土下及び崩落土下層の石垣1の広がり、通路の幅を確認した。また、通路には階段等の施設はなく、スロープであったことが分かった。

平坦地1に設定した4・5号トレンチでは、第1遺構面として、腐葉土下の曲輪造成土と地山で検出作業を行った。また、斜面では、石垣かその裏込め土で検出作業を行った。4号トレンチにおいて、曲輪造成土を基礎として礎石8が据えられる。この広がりを見るために6号トレンチを設定したが、礎石の検出はなかった。また、盛土遺構6が曲輪造成土の上層に位置する。5号トレンチでは、南側斜面地において、地表面に露出していた石垣2・3を検出し、その上段に裏込め礫4を確認した。5号トレンチ断面では、扁平な礎石5が据えられている可能性を想定したが、腐葉土中のものであった。第2遺構面は曲輪造成土より下層の地山上面である。今回は土坑7を確認した。

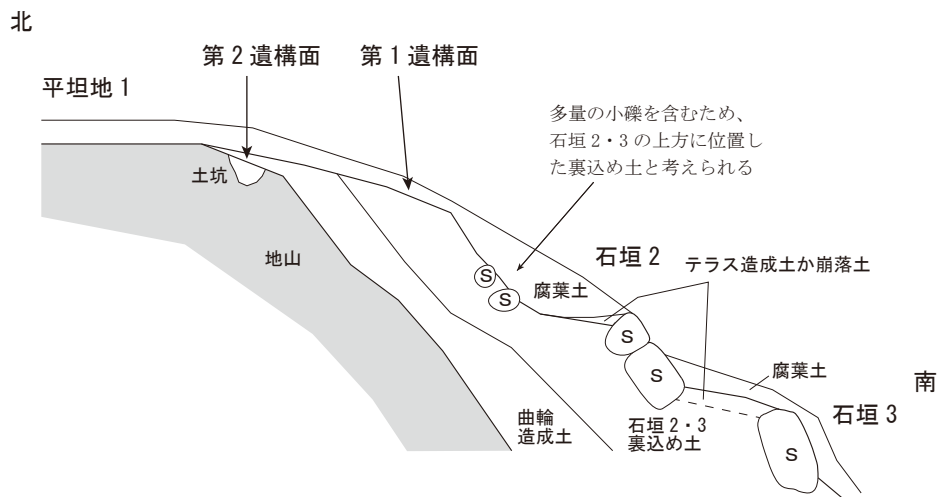
(1) 平坦地2と通路3の1～3号トレンチ (第111～115図、第52表)

石垣1 (第111・113・115図) 1号トレンチにおいて、地表面に露出していた石垣である。傾斜角は 60° ～ 65° を測る。調査範囲は傾斜地となっており、水平距離で全長10.3m、垂直距離で高さ3.0mを測る。最大4段分が残り、高さ1.4mを測る。石材の大きさは、最大のもので幅1.20m、高さ0.95mを測る。石材は砂岩である。

調査では、ほぼ直角に折れる石垣隅部を確認した。このため、平坦地2は方形を呈する可能性がある



第109図 小島城跡 1～3号トレンチ断面模式図



第110図 小島城跡 4・5号トレンチ断面模式図

第52表 小島城跡石垣計測表

遺構名	位置	遺構面	全長	高さ	傾斜角	裏込め	間詰石	備考
石垣1	虎口通路	第1	10.3	3.0	60～65°	裏込め土	有	裏込め土には多量の礫を含む
石垣2	平坦地切岸	第1	(4.0)	0.9	72°	裏込め土	有	裏込め土には多量の礫を含む
石垣3	平坦地切岸	第1	(2.1)	(0.3)	60°	裏込め土	-	裏込め土には多量の礫を含む

※ () 数値は検出長を示す

第53表 小島城跡トレンチ土坑・柱穴等一覧表

遺跡記号	遺構種別	遺構番号	位置 トレンチ 番号	検出面	堆積状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量 (m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)	
									上端		深さ			
									長径	短径				
AKG18	盛土遺構	6	TR 4	曲輪造成土	水平	-	-	-	(0.32)	-	0.21	浅黄橙色砂質土	10YR8/4	TR4 断面2層
AKJ18	土坑	7	TR 5	地山	-	-	-	-	0.76	-	0.24	にぶい黄褐色砂質土	10YR4/3	TR5 断面9層
AKG18	礎石	8	TR 4	曲輪造成土	-	-	-	-	0.52	0.37	-	-	-	-

と考えられた。また、石垣は傾斜がある通路3に面するため、平坦地2との段差が少ないところは1～2石の石垣で、傾斜により段差が大きくなる場所は石材を何段にも積んで高さを確保し、平坦地2を造成していることを確認した。隅部では間詰石が認められた。

通路3（第111・112・114図） 傾斜地の中央を縦断する2号トレンチにおいて、表土直下は地山であることを確認した。地山上面では階段等の登るための構築物を確認できなかった。このため、通路3はスロープ状の通路であったと想定される。3号トレンチの東半部では、石垣が認められないが、地山を削って段差を造り、礫1石を配置して通路3の東端を規定する。通路の幅は5.6mを測る。通路の上方は石垣1の東端にあたり、傾斜地を登り切ったところまでである。通路の下方は、今回確認した石垣1の南東隅部に沿って北側に折れるものと考えられた。

(2) 平坦地1の4・5号トレンチ（第116～118図）

①第2遺構面の遺構

土坑7（第117図） 5号トレンチの北端から4mの地点において地山上面で確認した。径0.80mを測る。底面に段を有する。

②第1遺構面の遺構（第52表）

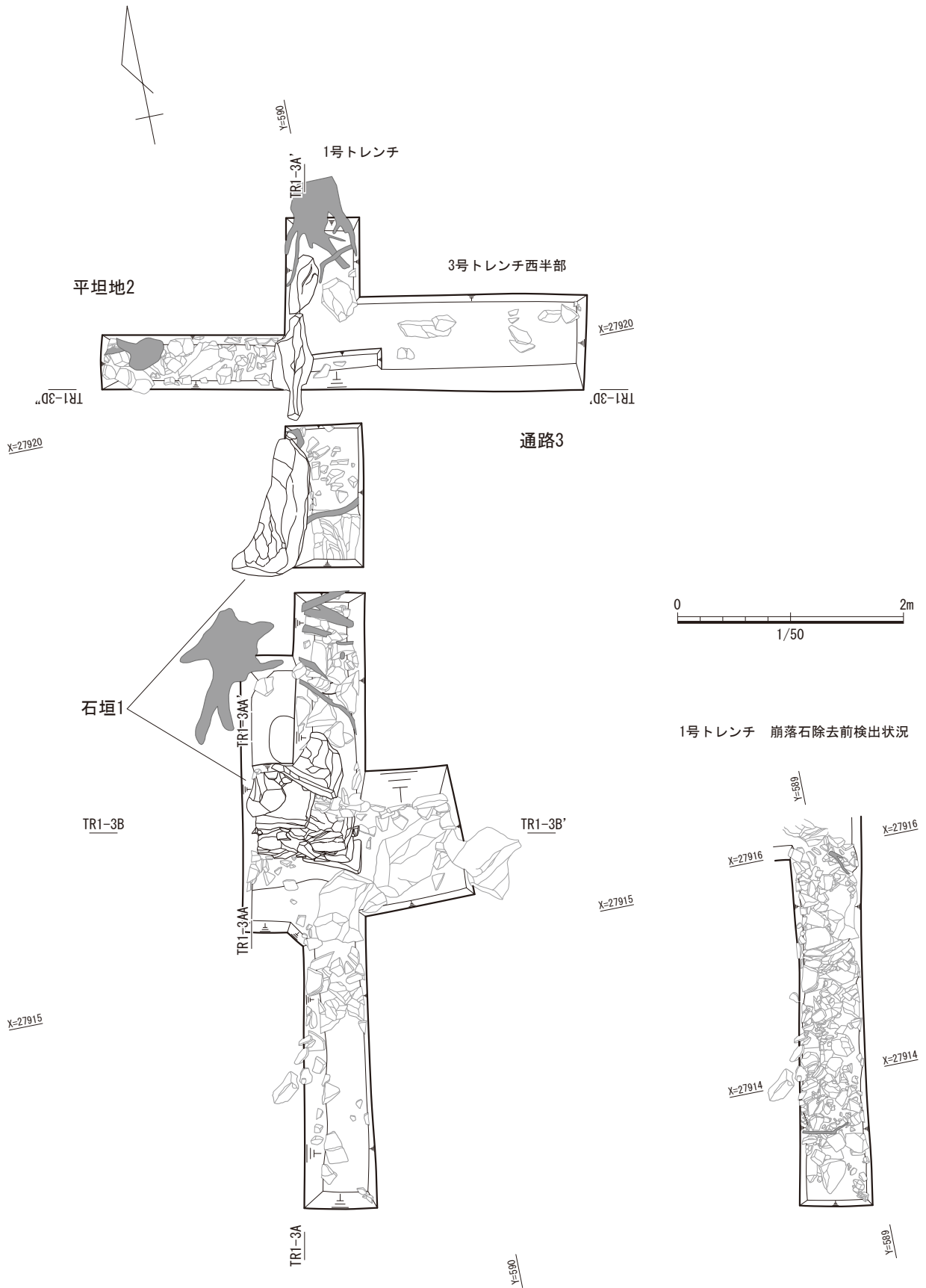
石垣2（第118図） 5号トレンチの南側斜面において、地表面に露出していた石垣である。傾斜角は72°を測る。調査範囲外でも地表面に露出している範囲から、全長4.0mと考えられる。調査トレンチでは、高さ0.9mを測る。最大3段分である。石材の大きさは、最大のもので幅0.60m以上、高さ0.20m以上を測る。石材は砂岩である。

石垣2の下段には石垣3が位置し、その間にテラス状の平坦面が存在したのと考えられる。上段には現状では石垣が残存しない。しかし、10～20cm大の礫が散在しており、石垣2・3裏込め土が垂直距離2mほど離れた平坦地1まで達している状況である。このため、石垣2の上方には平坦地1まで2m程度の石垣があったものと想定される。

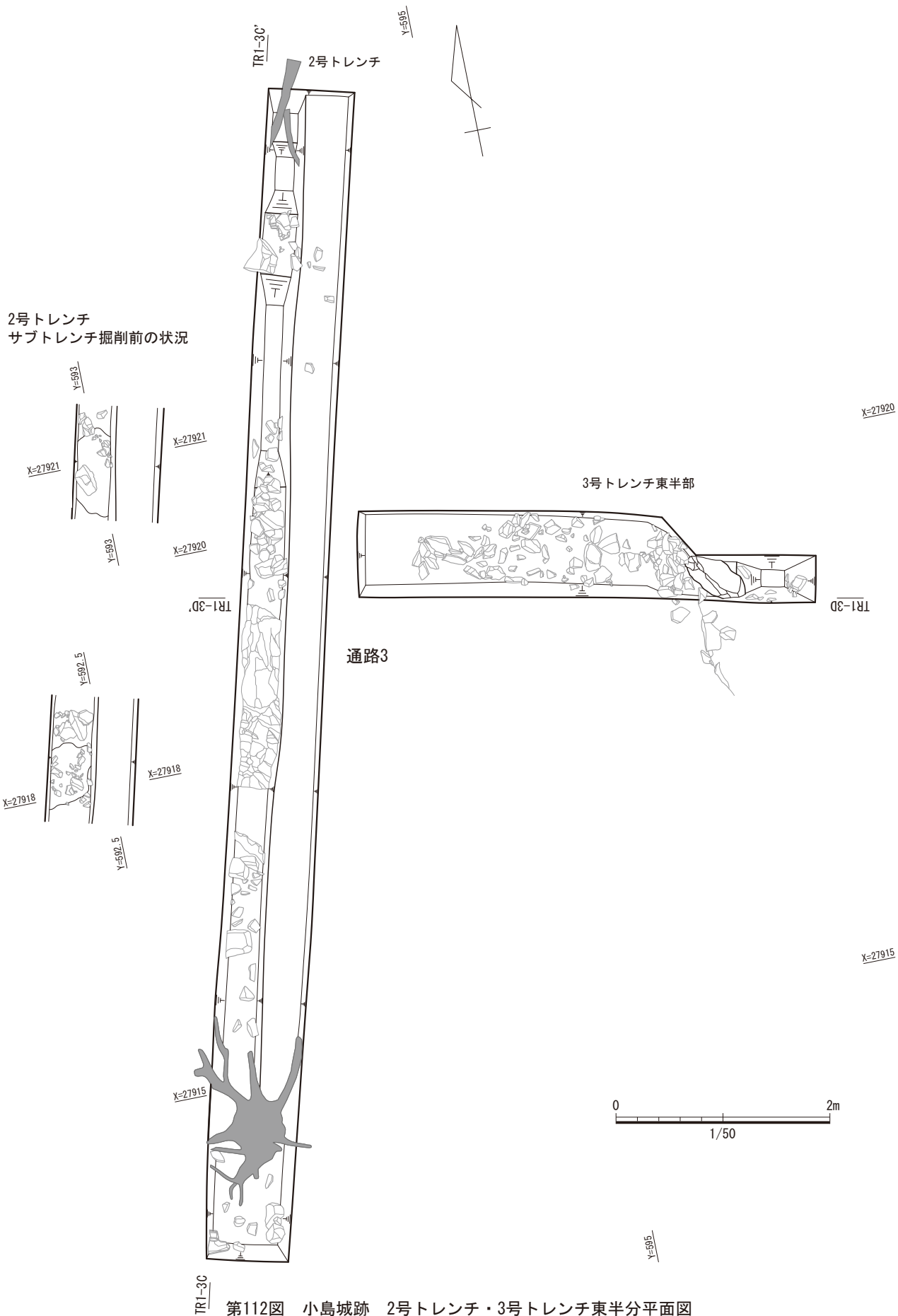
石垣3（第118図） 5号トレンチにおいて、石垣2の下段で検出した。検出範囲で傾斜角は60°を測る。調査範囲外に石材は続く。確認できる範囲で、全長2.1m以上、高さ0.3m以上を測る。1段分のみ確認したが、下層に続く想定される。石材の大きさは、最大のもので幅2.1m以上、高さ0.30m以上を測る。石材は砂岩である。

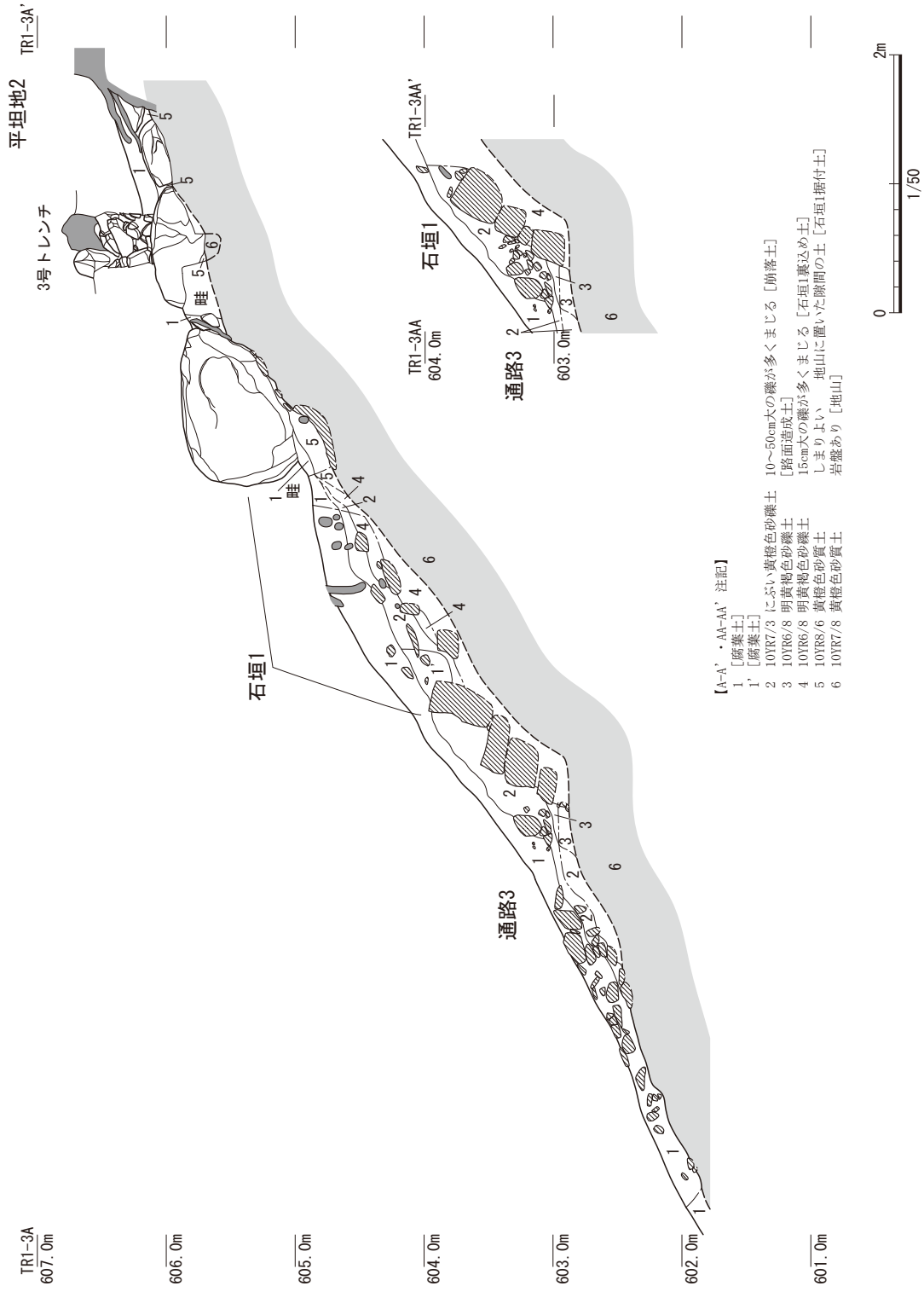
平坦地1の南側斜面には、下から石垣3・石垣2と続く。さらにその上方にも想定で2mの石垣があったものと想定されるため、3段の石垣があったものと考えられる。それぞれの石垣間には石垣2と石垣3の間のようにテラス状の平坦地があったものと考えられる。

盛土遺構6（第116図） 4号トレンチの中央に位置する。南北方向3.1mにわたり、5cm程度の河原石が集石し、20cm程度の盛土が施される。東西方向は調査区外に及ぶが、地表面観察では、2m程度の範囲が盛り上がったように観察できる。中央に礫を集中させ、南側に散在させる。曲輪全体では西端に位置し、礎石8が北接する。性格は不明であるが、礎石建物と共に装飾を意識した遺構の可能性が想定される。

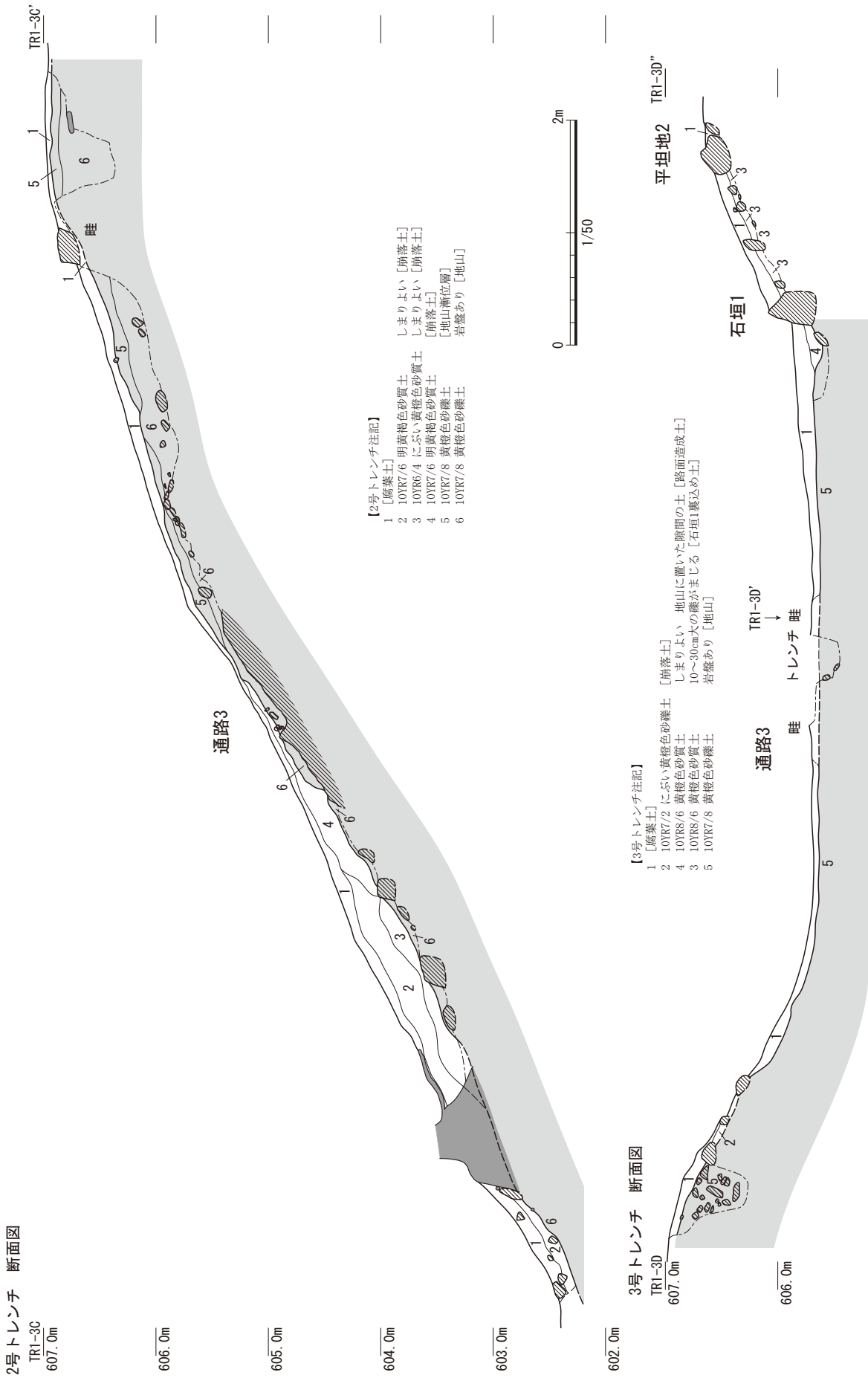


第111図 小島城跡 1号トレンチ・3号トレンチ西半分平面図



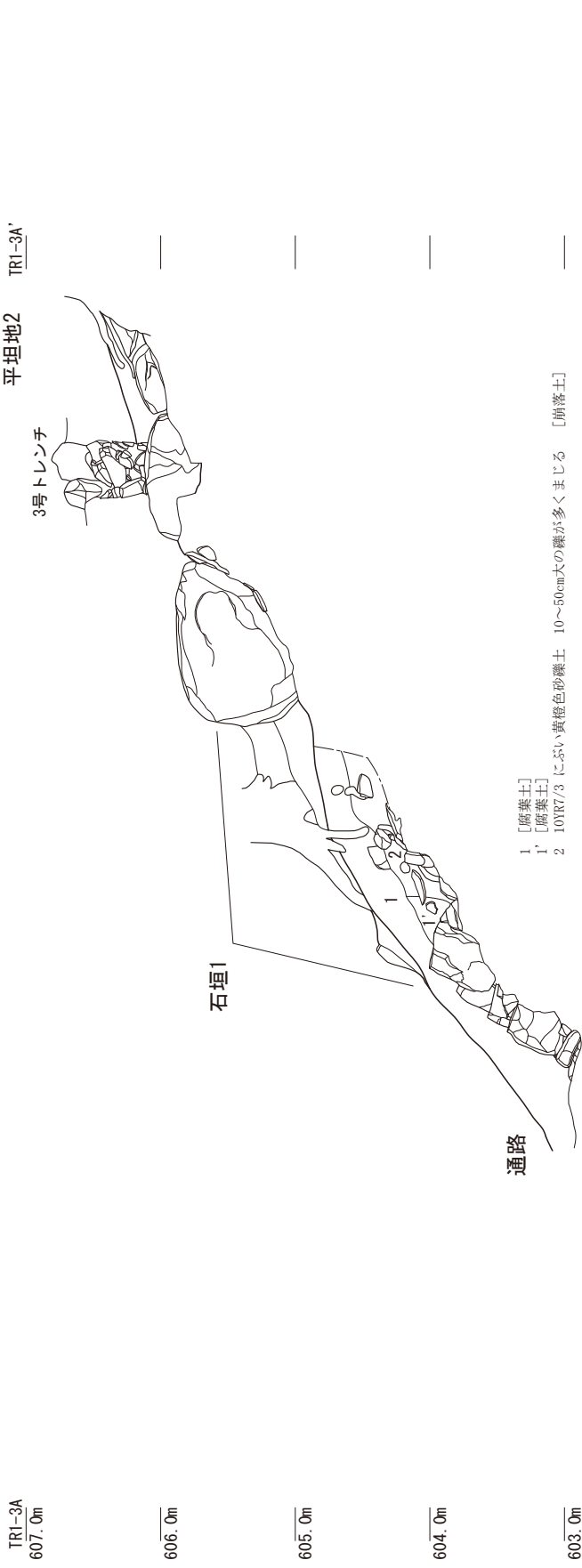


第113図 小島城跡 1号トレンチ断面図

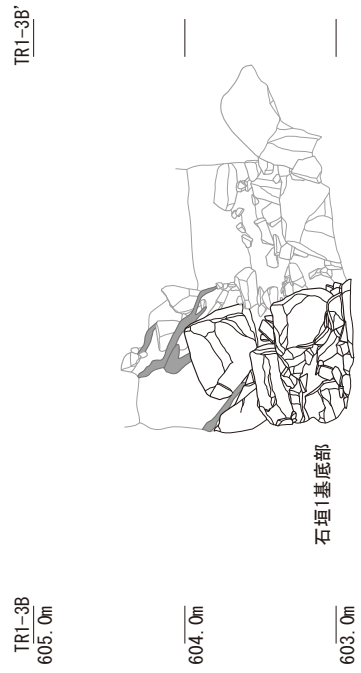


第114図 小島城跡 2・3号トレンチ断面図

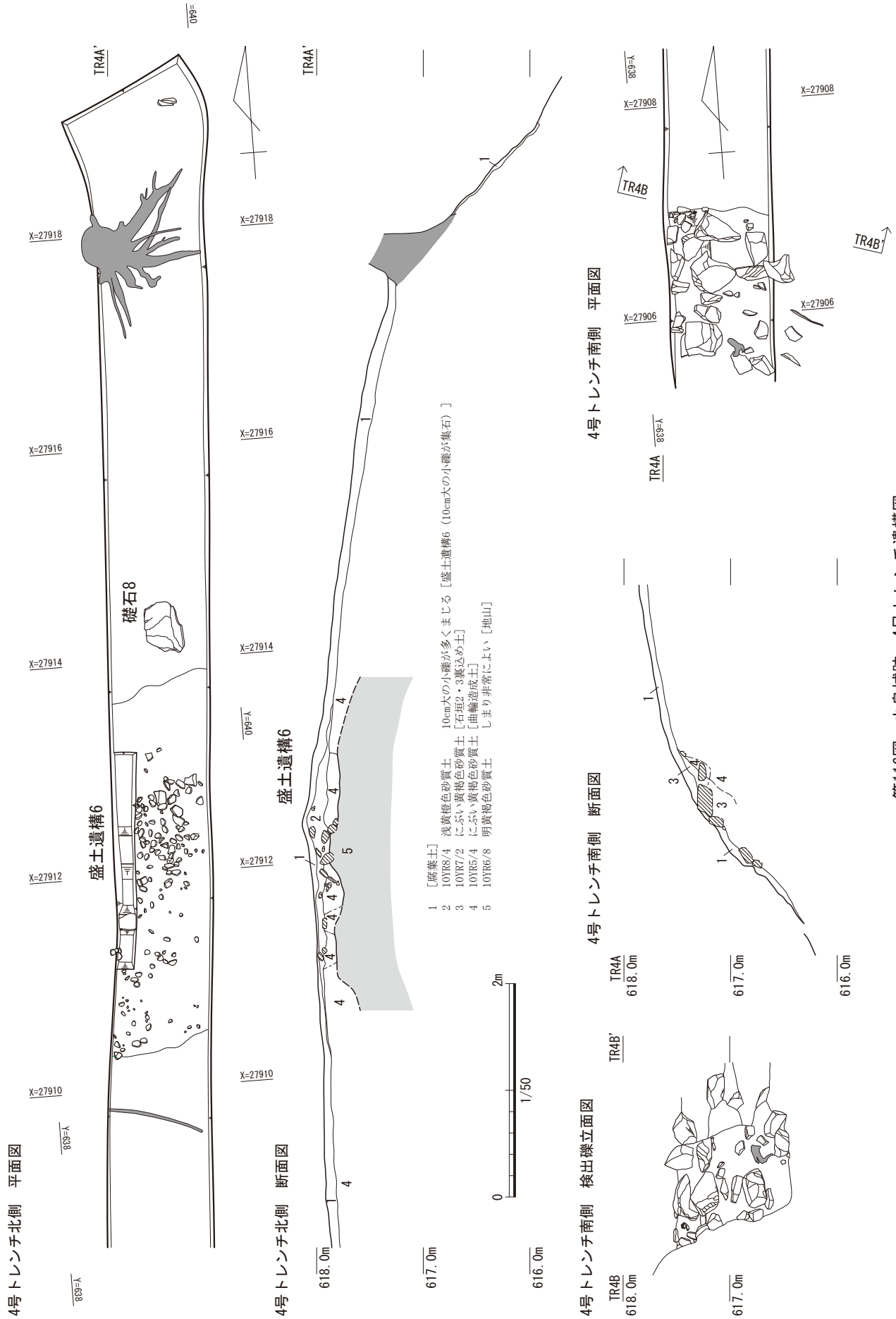
1号トレンチ 石垣1南北立面図



1号トレンチ 石垣1東西立面図

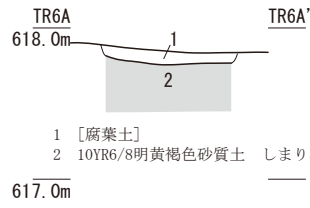
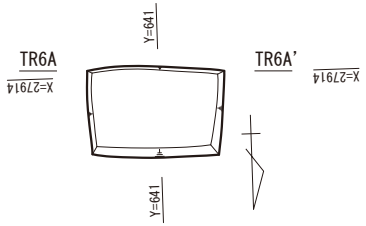


第115図 小島城跡 1号トレンチ石垣1立面図

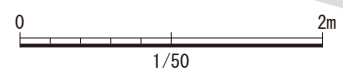
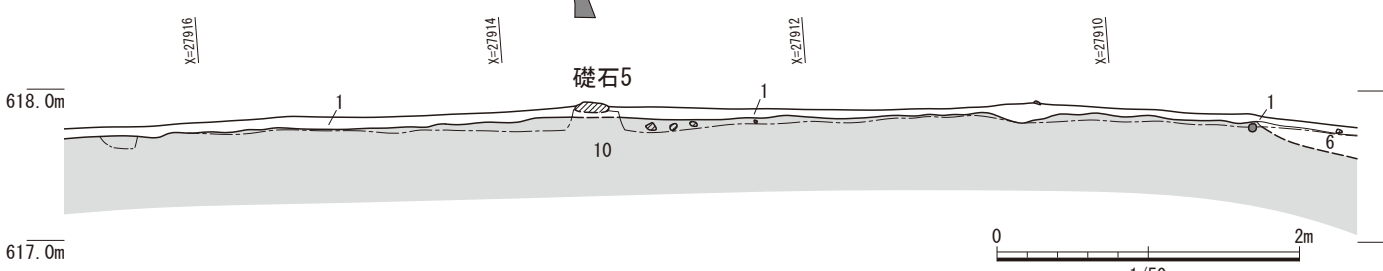
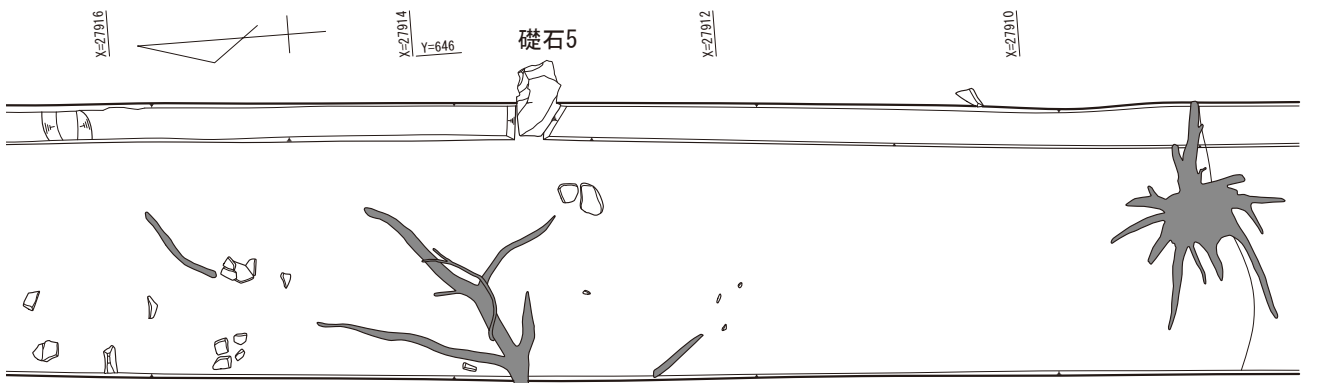
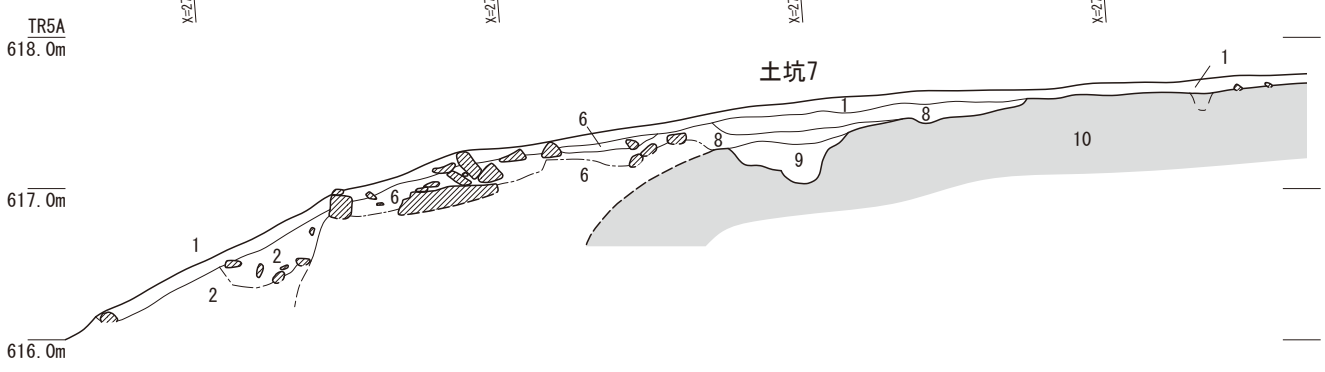
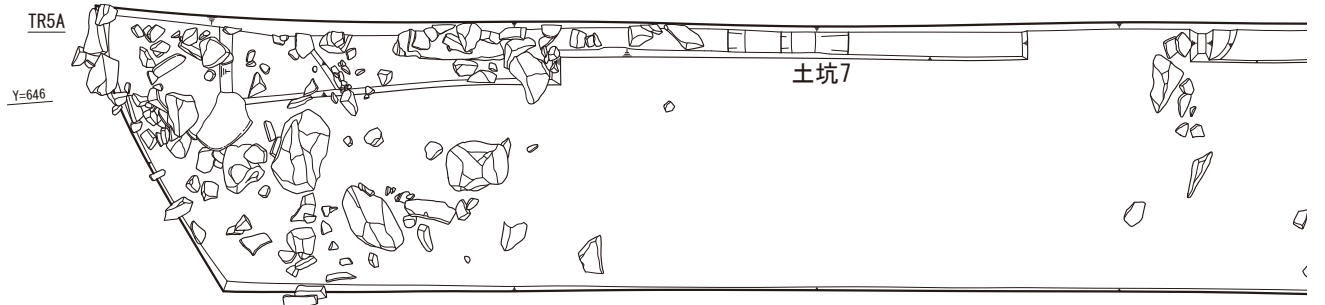
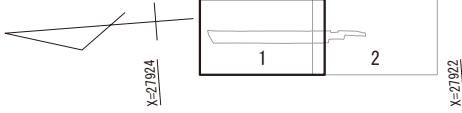


第116図 小島城跡 4号トレンチ遺構図

6号トレンチ 遺構図



5号トレンチ 遺構図1



第117図 小島城跡 6号トレンチ遺構図・5号トレンチ遺構図1

5 遺物 (第54・55表)

(1) 平坦地2と通路3の1～3号トレンチ (第119図)

崩落土 瀬戸美濃焼1点、円礫1点が出土し、瀬戸美濃焼1点を図示した。53は端反皿の底部破片である。内外面全面に灰釉を施す。付け高台が三角形状を呈する。古瀬戸後期段階のものと考えられる。

腐葉土直下 検出作業時に瀬戸美濃焼2点、白磁1点、古銭1点が出土し、瀬戸美濃焼1点・白磁1点・古銭1点を図示した。54は瀬戸美濃焼丸皿の口縁部破片である。内外面に灰釉を施す。釉の透明度が高く、貫入が入る。口縁部が直線的に開く器形から、大窯第2段階のものと考えられる。

55は白磁皿の底部破片である。高台周辺は釉を掻き取る。白磁E20類に属する。

56は古銭である。銭種は至和元宝であり、楷書である。北宋銭であり、初鑄年は1,054年である。

採集遺物 調査区付近で瀬戸美濃焼1点を採集した。57は瀬戸美濃焼すり鉢の体部破片である。内外面に赤灰色の錆釉を施す。大窯段階のものと考えられる。

(2) 平坦地1の4・5号トレンチ (第120図)

曲輪造成土 土師器皿が6点出土し、4点を図示した。58～61は土師器皿である。58は口縁部破片である。内面にナデを施し、端部には指頭圧痕が残る。外面には口縁部にヨコナデを施し、体部は未調整である。3類に属する。59・60は内外面にナデを施す。4類に属する。61は底部破片である。内外面にナデを施し、4類に属する。58は内面全面、60は外面口縁部、61は内面に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。

盛土遺構6 土師器皿が1点出土し、図示した。62は口縁部破片である。内外面にナデを施し、4類に属する。

腐葉土直下 検出作業時に土師器皿2点、瀬戸美濃焼2点、釘2点が出土した。63・64は土師器皿である。63は内面にナデを施し、口縁部をヨコナデにより平坦に仕上げる。外面は未調整である。7類に属する。64は体部破片である。内面にナデを施し、外面は未調整である。

65・66は瀬戸美濃焼である。65は端反皿である。内外面に灰釉を施し、貫入が入る。体部が丸みを持って開き、口縁部がくびれる器形から、大窯第1段階のものと考えられる。66は天目茶碗である。内外面に鉄釉を施し、体部外面下半は錆釉を施す。体部は立ち気味で、丸みを持つ器形から、古瀬戸後IV期(新)から大窯第1段階のものと考えられる。

67・68は鉄釘である。ともに頭部と先端部を欠損する。

腐葉土 瀬戸美濃焼が1点出土し、図示した。69は片口鉢の口縁部である。内外面に錆釉を施す。口縁外面が三角形状を呈する。大窯第2段階のものと考えられる。

(3) 調査区外の採集遺物 (第121図)

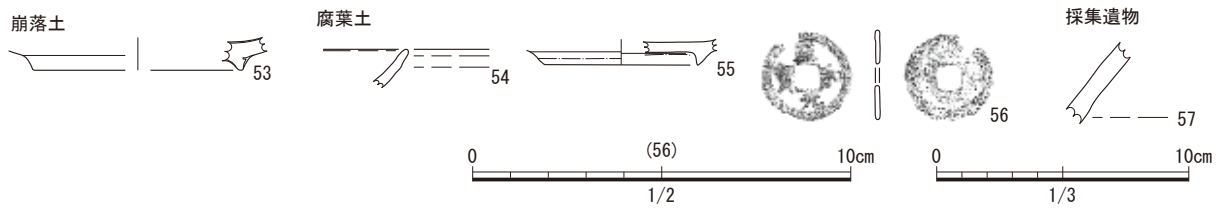
平坦地4(櫓台)周辺での採集遺物 今回は調査区外にあたるが、測量調査で櫓台と想定された平坦地4周辺で、土師器皿10点、瀬戸美濃焼2点、珠洲焼3点、古銭1点を採集した。関連する遺物として、土師器3点、瀬戸美濃焼2点、珠洲焼2点、古銭1点を図示し、報告する。

70～72は土師器皿である。70は口縁から底部にかけての破片である。内面は口縁部ヨコナデの後、体部に一定方向のナデを施す。外面にナデを施す。4類に属する。71は口縁から体部にかけての破片である。内面は口縁部ヨコナデの後、体部に縦方向のナデを施す。外面にもナデを施す。4類に属する。

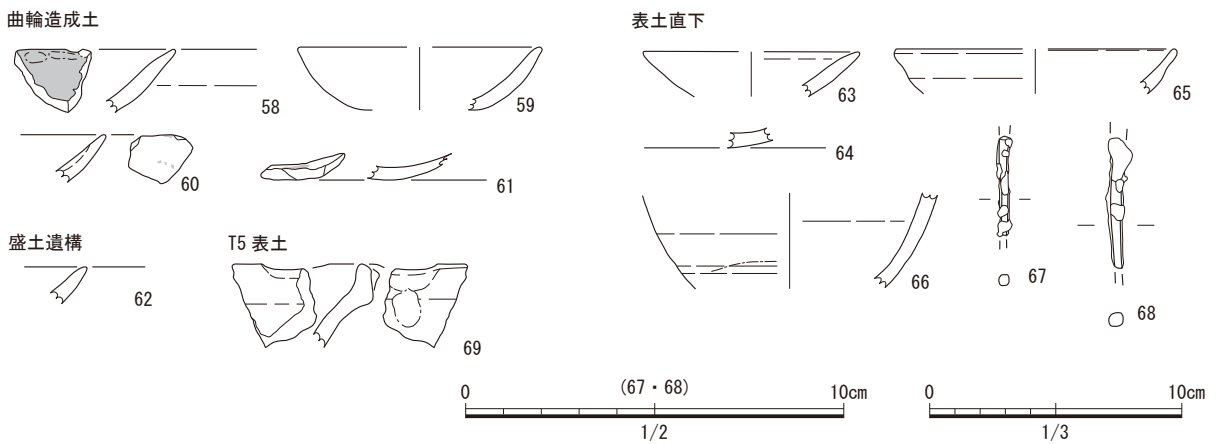
72 は口縁部の破片である。内面に一定方向のナデを施す。内面全面と外面の口縁部に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。

73・74 は瀬戸美濃焼の天目茶碗である。73 は口縁部破片である。口縁がくびれ、端部が短く外反し、口唇部がわずかに直立する。古瀬戸後Ⅳ期（新）～大窯第1段階のものと考えられる。74 は体部破片である。器壁がうすく、透明度が高い黒色の鉄釉を施すため、大窯段階のものと考えられる。

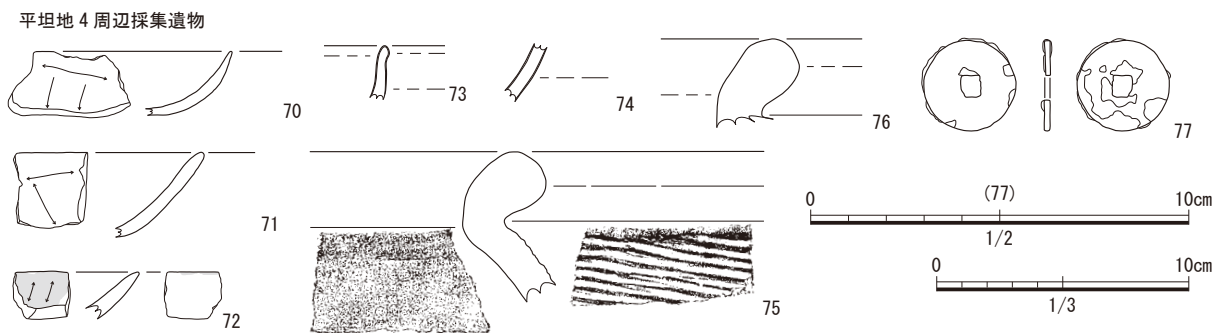
75・76 は珠洲焼の口縁部破片である。ともに口縁端部が方形を呈する。珠洲Ⅳ期のものと考えられる。77 は古銭である。銭種は不明である。



第119図 小島城跡 平坦地2・通路3の1～3号トレンチ出土遺物図



第120図 小島城跡 平坦地1の4・5号トレンチ出土遺物図



第121図 小島城跡 平坦地4の採集遺物図

第54表 小島城跡出土遺物一覧表

調査地	遺構面	土層	土師器皿					瀬戸美濃					珠洲	青磁	白磁		染付	金属	その他	合計
			3類	4類	5類	6類	7類	不明	丸皿	端反皿	天目茶碗	すり鉢			その他	甕				
虎口通路	近世以降	崩落土	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
		崩落土直下	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	4
		採集遺物	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	小計		0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	1	0	1	7
最も広い平坦地	第1	曲輪造成土	1	3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
		盛土遺構6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	近世以降	腐葉土直下	-	-	-	-	1	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2	6
		腐葉土	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
小計		1	4	0	0	1	3	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	2	14	
最高の平坦地	近世以降	採集遺物	-	2	-	-	-	8	-	-	2	-	-	3	-	-	-	-	1	16
		小計	0	2	0	0	0	8	0	0	2	0	0	3	0	0	0	0	1	16
合計		1	6	0	0	1	11	1	2	3	2	1	3	0	0	1	0	4	37	
			19					9					3	0	0	1	0	4	1	37

第55表 小島城跡出土遺物観察表

遺物番号	層位	トレンチ	種別	器種	法量 (cm、括弧内は推定)			色調			成形・文様等	挿図番号	図版番号
					口径	底径	器高	内面	外面	断面			
53	崩落土	1	瀬戸美濃	端反皿	-	8.4	1.3	10Y6/3 オリーブ黄色	10Y6/3 オリーブ黄色	2.5YR8/3 淡黄色	内外面灰釉	119	36
54	表土直下	3	瀬戸美濃	丸皿	(10.0)	-	1.5	5Y7/3 浅黄色	5Y7/3 浅黄色	10YR7/3 にぶい黄橙色	内外面灰釉 貫入あり	119	-
55	表土直下	3	白磁	皿	-	6.0	1.0	5Y8/1 灰白色	5Y8/1 灰白色	2.5Y8/1 灰白色	内外面高台周辺以外施釉 削り高台 白磁E20類	119	36
56	表土直下	3	金属製品	古銭	2.4	2.4	0.1	-	-	-	至和元宝 錆あり 孔径0.55cm 四方 上部下部欠損	119	36
57	採集遺物	-	瀬戸美濃	すり鉢	-	-	3.2	2.5YR4/1 赤灰色	2.5YR4/1 赤灰色	10YR7/3 にぶい黄橙色	内外面錆釉薬	119	-
58	曲輪の造成土	5	土師器	皿	-	-	2.1	10YR3/1 黒褐色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	外面ナデ 内面煤付着 指オサエ痕 ヘラナデ痕カ 3類	120	36
59	曲輪の造成土	4	土師器	皿	9.5	-	2.5	7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	内外面ナデ 4類	120	36
60	曲輪の造成土	5	土師器	皿	-	-	1.9	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	内外面ナデ 外面口唇部に煤あり 4類	120	-
61	曲輪の造成土	5	土師器	皿	-	-	1.05	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	内外面ナデ 内面ナデ うすく煤あり 4類	120	-
62	盛土遺構	4	土師器	皿	-	-	1.5	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	内外面ナデ 4類	120	-
63	表土直下	4	土師器	皿	8.6	-	1.8	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	内外面ナデ 外面未調整 内面口縁下横ナデ 7類	120	36
64	表土直下	5	土師器	皿	-	-	0.8	7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/1 褐灰色	外面未調整 内面ナデ 5～7類	120	36
65	表土直下	5	瀬戸美濃	端反皿	11.0	-	1.8	2.5YR7/2 灰黄色	5Y8/3 淡黄色	10YR7/2 にぶい黄橙色	内外面貫入あり 大窯1	120	-
66	表土直下	5	瀬戸美濃	天目茶碗	-	-	3.8	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	内外面回転ナデ 外面体部上部鉄釉 下部錆釉 内面鉄釉 古瀬戸後IV新～大窯1	120	36
67	表土直下	5	金属製品	釘	4.0	0.6	0.45	-	-	-	-	120	-
68	表土直下	5	金属製品	釘	3.4	0.8	0.35	-	-	-	-	120	36
69	表土	5	瀬戸美濃	片口鉢	-	-	3.3	7.5YR3/1 黒褐色	7.5YR4/1 黒褐色	7.5YR8/3 淡黄色	内外面錆釉 大窯1	120	36
70	採集遺物	櫓台周辺	土師器	皿	-	-	2.5	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	7.5YR7/3 にぶい橙色	外面ナデ 内面口縁横ナデ後縦ナデ 4類	121	36
71	採集遺物	櫓台周辺	土師器	皿	-	-	3.35	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	外面ナデ 内面口縁横ナデ後縦ナデ 4類	121	36
72	採集遺物	櫓台周辺	土師器	皿	-	-	1.85	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	外面ナデ 内面煤付着 灯明皿 4類	121	-
73	採集遺物	櫓台周辺	瀬戸美濃	天目茶碗	-	-	2.2	7.5YR3/1 黒褐色	7.5YR3/2 黒褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	内外面鉄釉 古瀬戸後IV期(新)～大窯第1段階	121	36
74	採集遺物	櫓台周辺	瀬戸美濃	天目茶碗	-	-	2.2	10YR2/1 黒色	10YR2/1 黒色	2.5Y8/2 灰白色	内外面鉄釉 大窯段階	121	36
75	採集遺物	櫓台周辺	珠洲焼	甕	-	-	6.0	5Y5/1 灰色	5Y5/1 灰色	5Y7/2 灰白色	外面平行タタキ痕 内面ナデ	121	-
76	採集遺物	櫓台周辺	珠洲焼	甕	-	-	3.5	2.5YR6/1 黄灰色	2.5YR6/1 黄灰色	2.5YR6/1 黄灰色	内外面ナデ	121	-
77	採集遺物	櫓台周辺	金属製品	古銭	2.4	2.4	0.15	-	-	-	孔径0.65cm 四方 錆あり 年代不明	121	36

6 特記事項

今回の調査では、遺構面を2面確認した。最後に、分布する遺構とその帰属時期、変遷について考えたい。

小島城1期 平坦地1の4・5号トレンチで確認した第2遺構面である。曲輪造成土下層で地山上面が該当する。4号トレンチでは、中央あたりで地山が高まり、南北に落ち込む。5号トレンチでは、平坦地1の中央あたりより南側で地山は傾斜していく。

平坦地1の5号トレンチにおいて土坑7を確認した。その上層の曲輪造成土から土師器皿3類・4類が出土する。また、腐葉土直下で古瀬戸後Ⅳ期（新）から大窯第1段階の端反皿65・天目茶碗66が出土する。これらの遺構・遺物が小島城跡で最も古い。このため、築城時期は古瀬戸後Ⅳ期（新）から大窯第1段階と考えられる。また、1～3号トレンチにおいて大窯第2段階の丸皿54、4・5号トレンチにおいて腐葉土から大窯第2段階の片口鉢69が出土する。これらの遺物とともに、後述するように2期は大窯3～4段階の時期と考えられるため、終期は大窯第2段階の時期に求められる。このため、機能時期は瀬戸後Ⅳ期（新）～大窯第2段階と考えられる。

なお、平坦地4の採集遺物は、土師器皿4類が主体であり、瀬戸美濃焼の天目茶碗が古瀬戸後Ⅳ期（新）～大窯第1段階のものである。平坦地4は築城にあたる1期に造成された可能性が高いと考えられる。

小島城2期 1～3号トレンチでは、石垣1が虎口通路に面して構築されていることを確認した。平坦地1の4・5号トレンチでは、第1遺構面の時期であり、腐葉土直下に位置する曲輪造成土及び地山上面が該当する。この上面では礎石8が残存するが、並びを確認することができなかった。後世の削平により遺構の残りが悪い可能性が高い。平坦地1の北側斜面では、曲輪造成土上面が第1遺構面となる。平坦地2の南側斜面には石垣2・3を確認した。また裏込め礫4も石垣の痕跡と想定されることから、少なくとも3段の石垣があったものと想定される。盛土遺構6も構築され、何らかの装飾を意識したものと想定したが、性格を明らかにすることができなかった。

石垣1～3が大きいもので1m程度の石材を用いること、小礫を伴う裏込め土を有することは、古川城跡の石垣1の在り方と近似しており、同時期に構築されたと考えられる。このため、大窯第3～4段階のものと考えられる。なお、遺物で最も新しい時期のものは、土師器皿7類58である。これが、4・5号トレンチにおいて、礎石検出作業中に出土した。土師器皿7類は大窯2～3段階と考えており、それ以降の遺物は認められない。

以上より、小島城2期は大窯第3～4段階が機能時期と考えられる。



写真7 小島城跡 主郭切岸の石垣調査の様子



写真8 小島城跡 虎口通路の石垣調査の様子

第4節 野口城跡

1 調査の目的

測量調査によって、主郭と考えられた最も広い平坦地1と畝状堅堀群において試掘確認調査を行った。目的は、平坦地1において、遺構・遺物の残存状況、平坦地1を囲む土塁の構造を確認すること、また、畝状堅堀群において、土塁の高さと堀の深さ、その形状と年代を把握することである。

2 調査の概要（第122図）

2019年度、細長く最も広い平坦地1において、縦断する南北方向の1号トレンチ、横断する東西方向の2号トレンチを十字に設定した。また、最高所の平坦地2の麓に3号トレンチを設定した。さらに、畝状堅堀群の土塁と堅堀とを断ち切る4号トレンチを設定した。

1～3号トレンチでは、上層より、腐葉土Ⅰ、根の侵入が多い腐葉土に近い土層Ⅱ、造成土Ⅲ、土塁造成土、造成土Ⅳ、斜面の造成土、地山Ⅴの順で堆積することを確認した。造成土Ⅲの上面で多くの柱穴・土坑を確認した。同層の上面では、柱穴の切り合いが認められる。また、サブトレンチでは、造成土Ⅳの上面から掘り込む遺構を確認した。

造成土Ⅳと斜面の造成土は、上面の標高値が揃うため同時期と考えられる。また、土塁は造成土Ⅳ・斜面の造成土・地山を基礎に構築されるため、造成土Ⅳ・斜面の造成土と同時期の可能性がある。一方、土塁の構築後に造成土Ⅲで平坦地1を造成しているため、造成土Ⅲと同時期の可能性もある。造成土Ⅲが土塁の裾部までしか及ばないことを考えると、造成土Ⅳの時期に構築され、造成土Ⅲの時期にも土塁が存在していた可能性が高いと考えられる。遺物は造成土Ⅲ上面での検出作業中・サブトレンチにて造成土Ⅲ・Ⅳを掘削中に、大量の土師器皿が出土した。

4号トレンチの調査では、上層より、腐葉土、堅堀埋土、土塁盛土、地山の順で堆積することを確認した。堅堀は地山を掘り込み、土塁は地山上層に構築されている。遺構面は1面である。

3 基本層序

(1) 平坦面1の1～3号トレンチ（第123図）

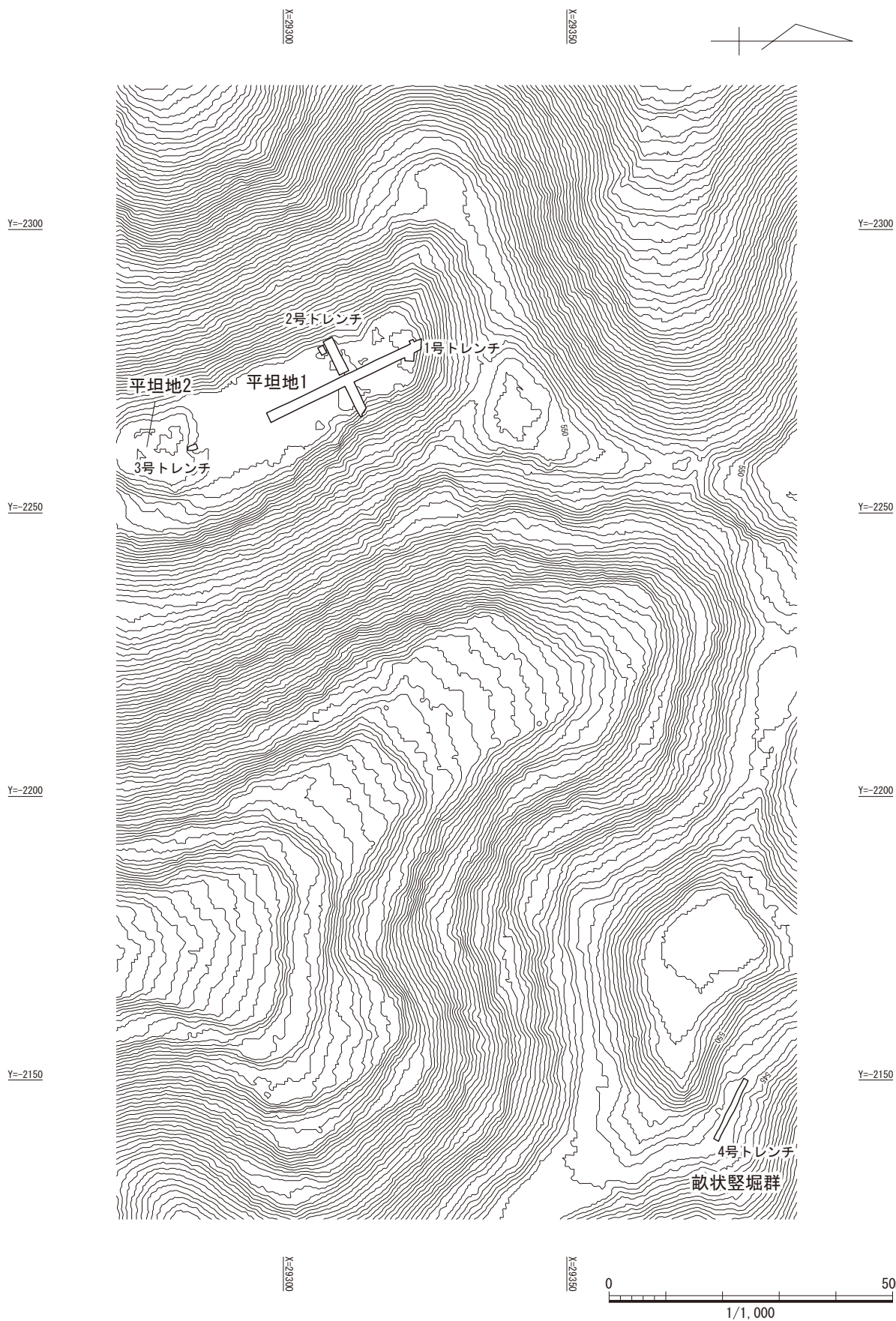
腐葉土Ⅰ 平坦地1と斜面を覆う現代までの自然堆積土層である。

根の侵入が多い腐葉土に近い土層Ⅱ 平坦地1の南側に堆積する。根の侵入が多く、腐葉土に近い土層である。平・断面で遺構の検出を行うことができなかった。

造成土Ⅲ 平坦地1の1号トレンチでは、南端から4mあたりまでは確認できず、それより北側で確認できる。平坦地1の当層の上面を第1遺構面として調査を行った。

土塁造成土 平坦地1を取り囲む土塁の造成土である。地表面に小礫を含む。土塁を造成した後、造成土Ⅲで平坦地1全面を造成しているため、造成土Ⅲの時期に存在したものと考えられる。このため、当層の上面も第1遺構面とした。なお、土塁は造成土Ⅳ、斜面の造成土、地山への漸移層、地山を基礎とするため、構築は造成土Ⅳの時期であったものと考えられる。

造成土Ⅳ 平坦地1の1・2号トレンチ断面全面で確認できる。土坑3基が掘り込まれるのを断面A-A'で確認できる。当層の上面を第2遺構面として調査を行った。1号トレンチの南側の造成土Ⅲを確認できない範囲では、当層の上面で第1遺構面と第2遺構面の遺構を検出する。



第122図 野口城跡 トレンチ位置図

斜面の造成土 山の斜面に対して、平坦地1を造るために盛土を施した土層である。断面B-B'では、当層の上面が平坦地1の造成土IV上面と揃えられる。当層の上面も第2遺構面として調査を行った。

地山への漸移層 1号トレンチのサブトレンチ北端、2号トレンチの西半部で地山直上に認められる。地山V層と混入物が無い点で土質が近似するが、しまりが無い点異なる。このため、自然堆積土層であり、地山への漸移層と考えた。しかし、堆積の認められる場所が平坦地の端部に近く、造成土IVと高さを揃える。このため、造成土IVで平坦地1を造成する際に斜面側に流れないよう事前に端部に地山を掘った土を盛土したものの可能性がある。この場合は、造成土IVと同時期の人為的堆積土層となる。

地山V この山一帯の基盤層である。黄橙色の砂礫層であり、非常にしまりがよい。今回の調査では、当層の上面から掘り込む遺構を確認しなかった。

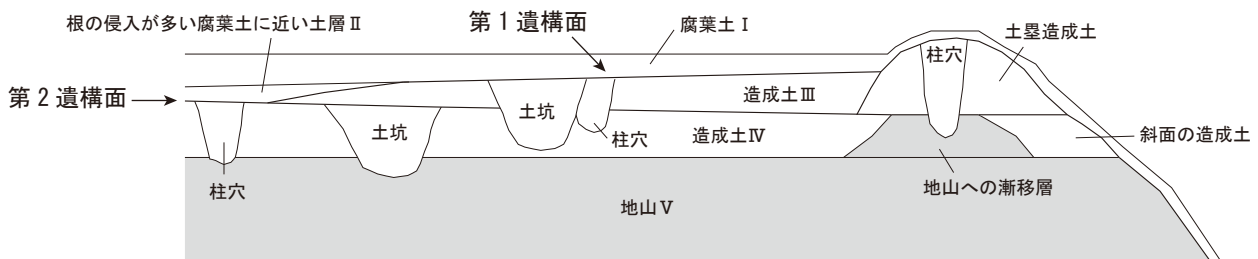
(2) 畝状竪堀群の4号トレンチ (第124図)

腐葉土 斜面を覆う現代までの自然堆積土層である。

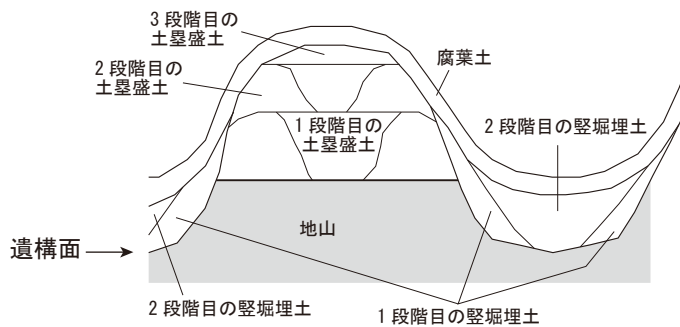
竪堀埋土 畝状竪堀群の竪堀に堆積した埋土である。大きく2層に分かれる。1段階目は早い段階に堀底の斜面下に堆積している土塁からの流れ込みと考えられる。2段階目はその後、堀の中央に堆積した土層である。褐色系の腐葉土に近い土質であるため、堀の上方や土塁など周囲の高い場所から窪んだ場所に長い年月のうちに自然堆積した土層と考えられる。

土塁盛土 地表面で観察できる土塁の盛土である。3段階の盛土が認められる。1段階目は地山上層の両脇に盛土し、その窪みに充填して天端を平坦に仕上げる。2段階目も両脇に盛土し、中央の窪みに充填して天端を平坦に仕上げる。その上に最終的に盛土を施す。当層の上面が遺構面である。

地山 この山一帯の基盤層である。黄橙色の砂礫層であり、非常にしまりがよい。土塁は当層の上層に造られ、竪堀は当層を掘り込む。堀底では地山上面が遺構面である。砂粒の大きさ、根の侵入と考えられる土質の異なり等により細分できるが、地山岩盤が風化した堆積と考えられた。



第123図 野口城跡 1～3号トレンチ断面模式図



第124図 野口城跡 4号トレンチ断面模式図

4 遺構（第58～60表）

平坦地1に設定した1・2号トレンチでは、平坦地1の造成土Ⅲ上面を第1遺構面とし、複雑に切り合う柱穴と土坑を確認した。平坦地1の周囲は土塁で囲まれ、その上端で柵列を確認した。その下層では造成土Ⅳ上面から掘り込む土坑があり、第2遺構面とした。地山上層から掘り込む遺構は確認しなかった。3号トレンチでは近現代陶磁器が出土する掘り込みが認められた。

畝状堅堀群に設定した4号トレンチでは、土塁の構築技法を確認した。

(1) 平坦地1の1～3号トレンチ（第125～130図）

①第2遺構面の遺構（第126・127図）

土坑 SK143・148・156 1号トレンチ断面において、造成土Ⅳから掘り込む3基の土坑SK143（43・44層）、SK148（45～47層）、SK156（41・42層）の3基を確認した。検出範囲でSK143は径0.79m、SK148は1.80m、SK156は0.71mを測る。

北側土塁 1号トレンチの北端において確認した、幅3.6m、高さ0.2mの緩やかな盛土を北側土塁とした。上端平坦面の幅は0.8mである。盛土の地表面に10cm大の小礫を含む。これらの小礫は、盛土の表面に施した一部が残存したものの可能性がある。

西側土塁 2号トレンチの西端において確認した、幅1.8m、高さ0.08mの緩やかな盛土を西側土塁とした。上端の平坦面の幅は0.5mである。盛土の地表面に10cm大の小礫を含む。北側土塁同様、これらの小礫は、盛土の表面に施した一部が残存したものの可能性がある。

東側土塁 2号トレンチの東端において、断面で幅1.5m、0.1mの緩やかな高まりを確認し、東側土塁とした。上端の平坦面は幅1.1mである。

②第1遺構面の遺構（第126・127・129・130図、第56・57表）

1・2号トレンチの造成土Ⅲ上面の第1遺構面において、多くの柱穴と土坑、不整形を呈する不明遺構を検出した。柱穴では、平面においてSP02・SP05、SP11・SP12、SP21・SP22、SP35・SP36・SP125、SP67・SP69、SP70・SP71・SP72、SP89・SP90・SP91、SP104・SP105・SP106、SP109・SP110、SP111・SP112、SP117・SP118、SP134・SP135・SP136・SP137、SP151・152の切り合い関係を確認した。断面では、柱穴SP81・SP82、SP134・135、SP155・157の切り合い関係を確認した。第1遺構面においても、複数時期の遺構を検出している可能性が想定される。柱穴が並ぶ遺構として、掘立柱建物SB160、SB161、柵列SA162、SA163を確認した。

また、1号トレンチの北端で北側土塁の盛土、2号トレンチの東西端で東側土塁と西側土塁の盛土を、断面で確認した。柵列SA162は北側土塁上に、柵列SA163は西側土塁上に位置する。

掘立柱建物 SB160 平坦地1の1号トレンチ南側において確認した。柱穴SP21・28・29・36の4基で構成される。南北方向の並びを確認できたが、東西方向は調査区外に及ぶ。柱間は北から2.20m、1.70m、1.70mである。主軸方位は、N-28°-Wを測る。

掘立柱建物 SB161 平坦地1の1号トレンチと2号トレンチの交差点付近において確認した。柱穴SP149・121・67・02の4基で構成される。南北方向の並びを確認できたが、東西方向は調査区外に及ぶ。柱間は北から2.65m、1.20m、1.55mである。主軸方位は、N-37°-Wを測る。SP67とSP121には柱痕跡が残る。また、SP149とSP121の間に柱穴があると想定したが、検出できなかった。

北側土塁と柵列 SA162 北側土塁上端の平坦面に柵列 SA162 が位置する。柱穴 SP75・76・77 の3基で構成される。東西方向は調査区外に及ぶ。柱間は1.10 m等間である。柱穴 SP76 で平坦地1の上端に合わせて屈曲している。主軸方位は SP75・SP76 間で N-2° -W を測り、SP76-SP77 間で N-13° -E を測る。

西側土塁と柵列 SA163 西側土塁上端の平坦面に柵列 SA163 が位置する。柱穴 SP78・79 の2基で構成される。南北方向は調査区外に及ぶ。柱間は2.00 mを測る。主軸方位は N-20° -W を測る。

東側土塁と柱穴 東側土塁は地表面に近い部分ではしまりがわるく、平面的に掘り分けることができなかったものの、上端平坦面にあたる位置で、SP117・SP118・SP119 を検出した。これらは柵列を構成する柱穴で、北側土塁・西側土塁と同様、東側土塁にも柵列があったものと考えられる。

(4) 4号トレンチ (第131図)

畝状堅堀群 4号トレンチでは、地表面に土塁と堀を連続させる畝状堅堀群において、1か所の堀と1か所の土塁を断ち割った。

土塁は地山の上層に盛土して造られている。土塁は基底部幅2.4 m、高さ1.1 mを測り、アーチ形となる。A-A' 断面では、3段階の盛土工程を確認した。1段階目は、22～24層で東側に盛土を施し、25～27層で西側に盛土を施し、その間の窪地となった部分に18～21層を充填し、天端を平坦にする。2段階目は、16層で東側に盛土を施し、17層で西側に盛土を施し、その間の窪地となった部分に14・15層を充填し、天端を平坦にする。3段階目は、13層を最上層に盛土する。このように、両側を盛土した後に窪地に充填する工程を繰り返し、土塁を構築していることを確認した。

これら土塁に挟まれる堀は地山を掘削して箱堀形状となる。上端1.9 m、下端1.1 mを測る。埋土から、早い段階で堀の両脇が埋まり、その後に中央部分が埋まっていることを確認した。

これらの埋土は土塁からの流れ込みと考えられるため、土塁と堀底の高さは現状より高かったものと推測される。

遺物の出土はなかった。

第56表 野口城跡建物計測表

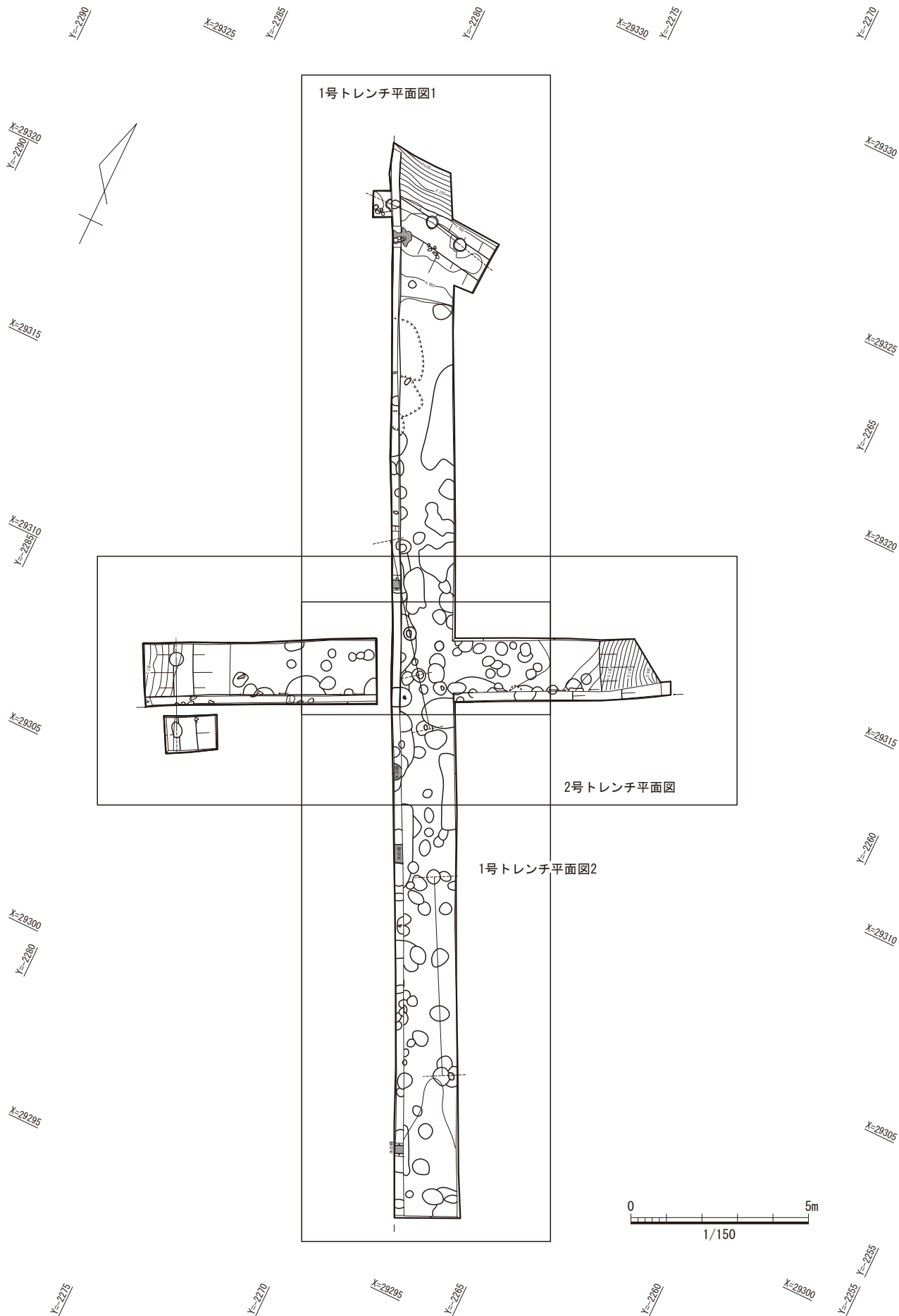
遺構名	遺構面	桁行柱間	桁行 (m)	梁行柱間	梁行 (m)	主軸	備考
掘立柱建物 SB160	第1	3	5.60	-	-	N-28° -W	調査区外に及ぶ
掘立柱建物 SB161	第1	3	5.40	-	-	N-37° -W	調査区外に及ぶ

※ () 数値は検出長を示す

第57表 野口城跡柵列計測表

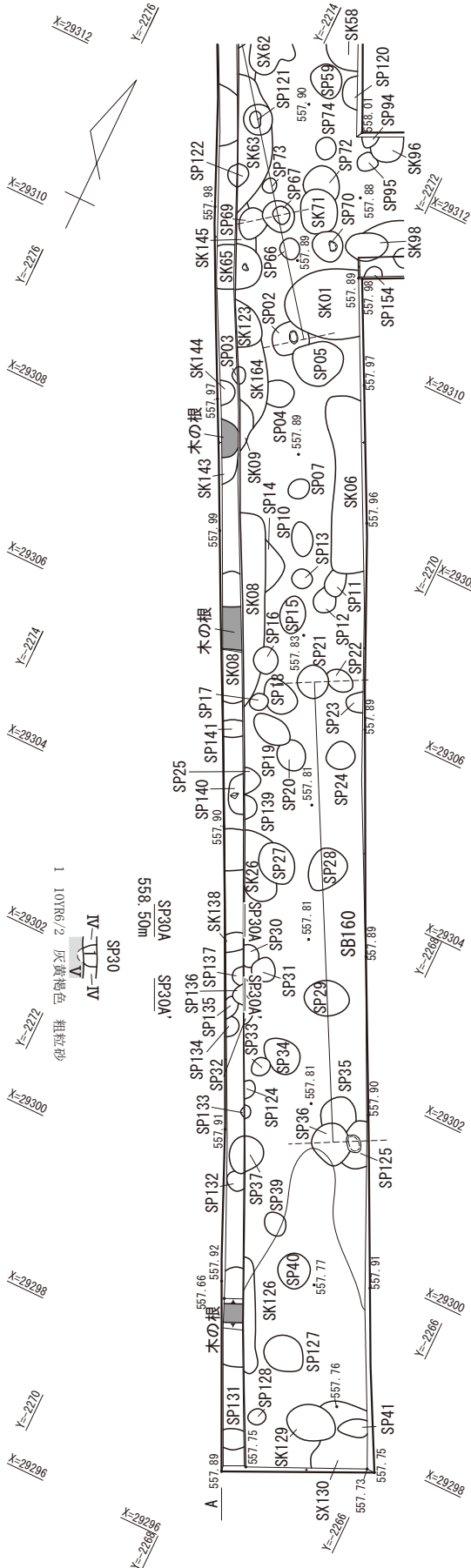
遺構名	遺構面	総長柱間	総長 (m)	主軸	備考
柵列 SA162	第1	(2)	2.20	N-2° -W/N-13° -W	北側土塁に伴う
柵列 SA163	第1	(1)	2.00	N-20° -W	西側土塁に伴う

※ () 数値は検出長を示す

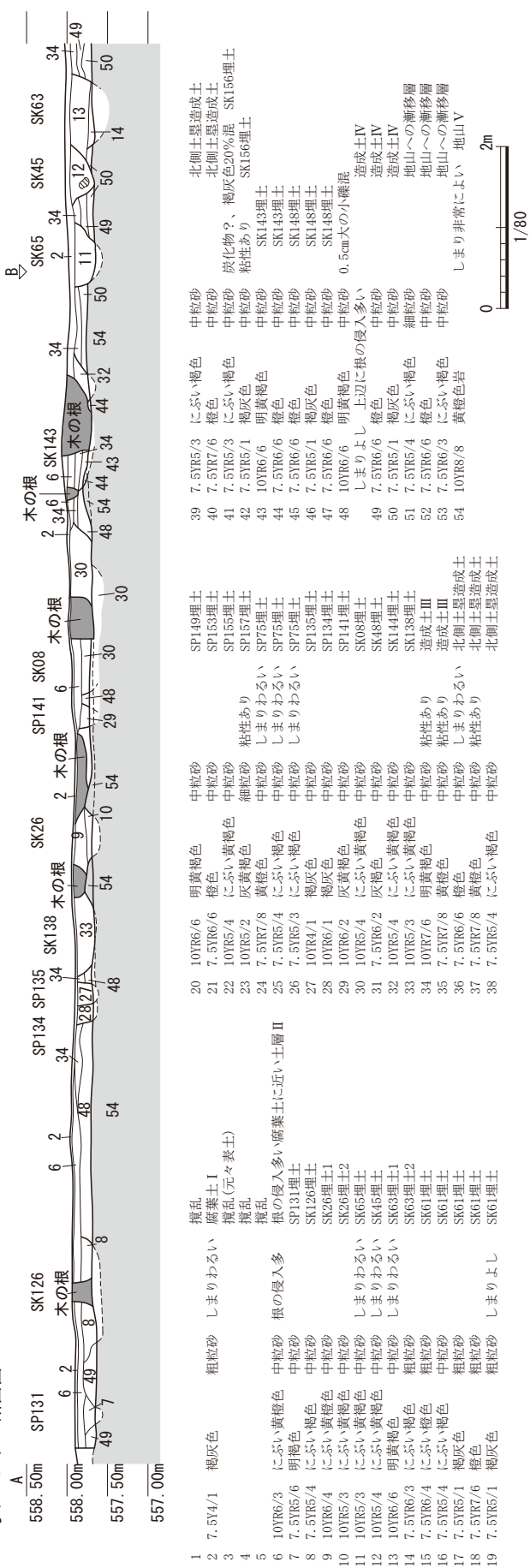


第125図 野口城跡 平面割付図

1号トレンチ 平面図1

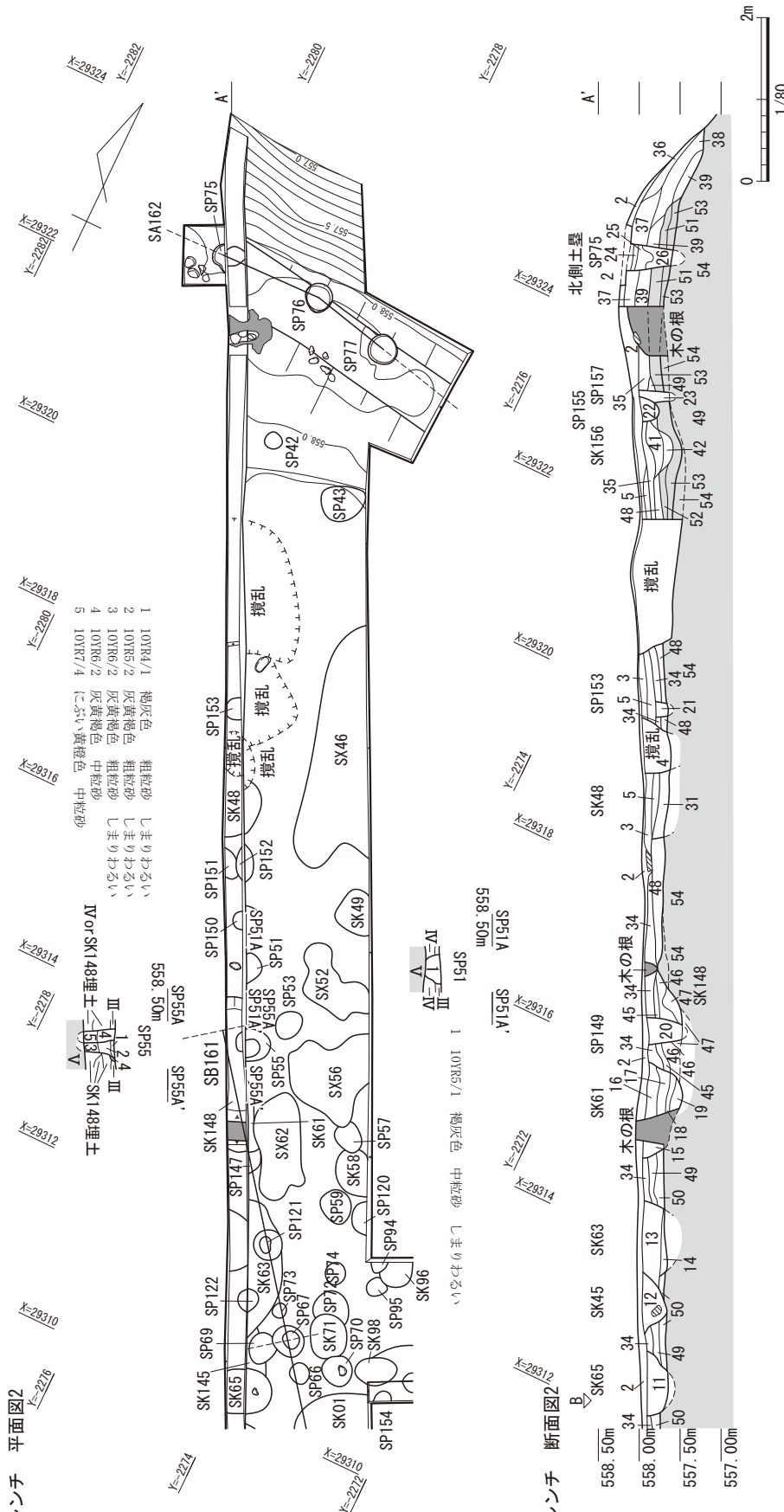


1号トレンチ 断面図1

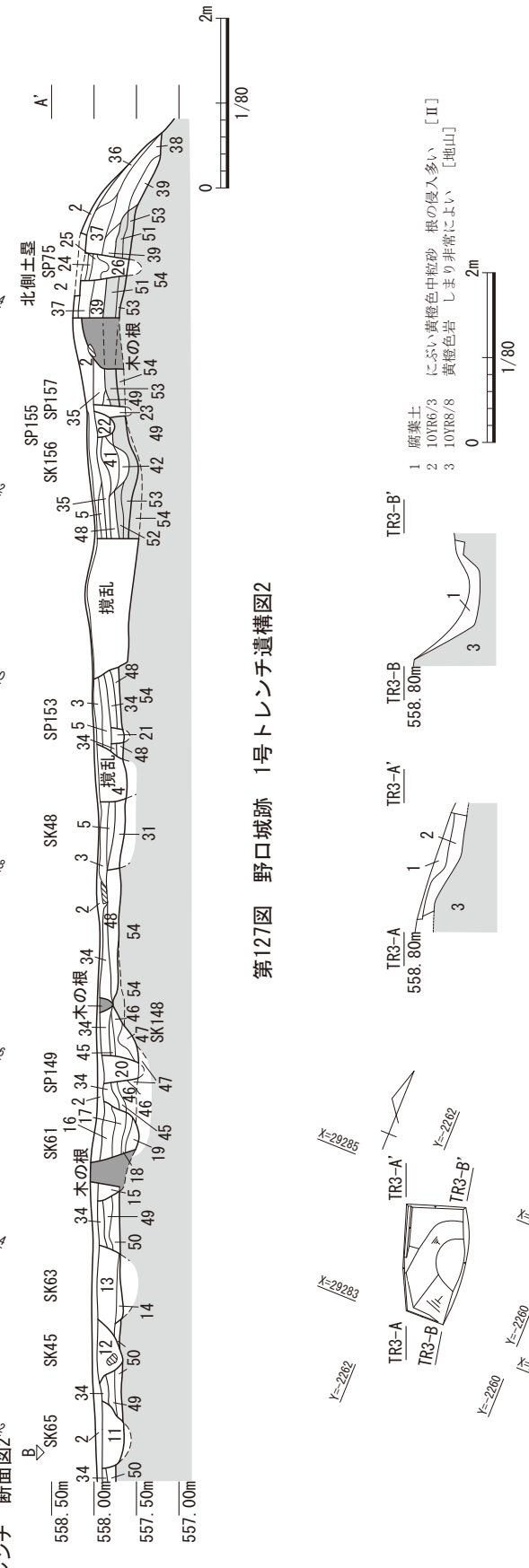


第126図 野口城跡 1号トレンチ遺構図1

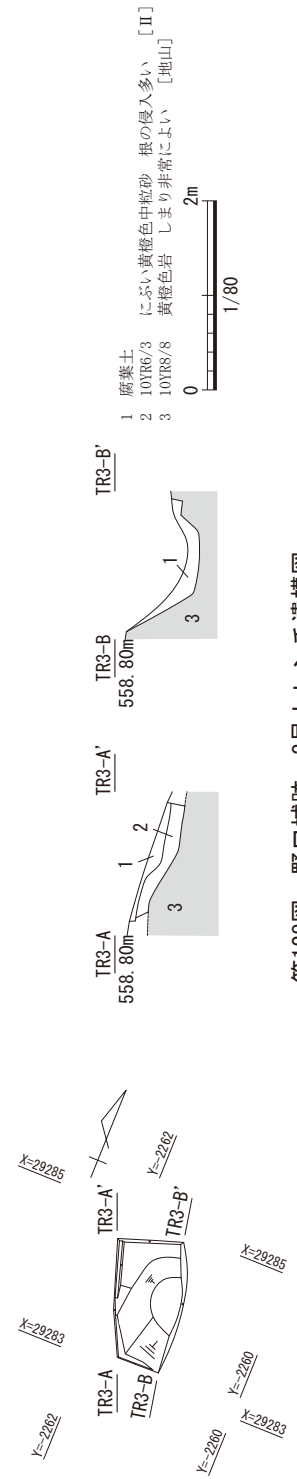
1号トレンチ 平面図2



1号トレンチ 断面図2

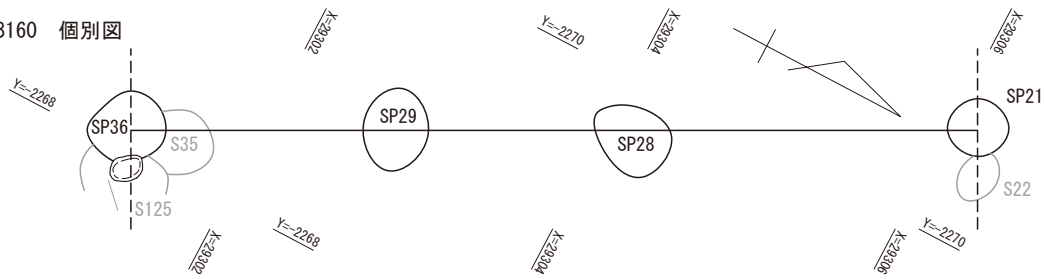


第127図 野口城跡 1号トレンチ遺構図2

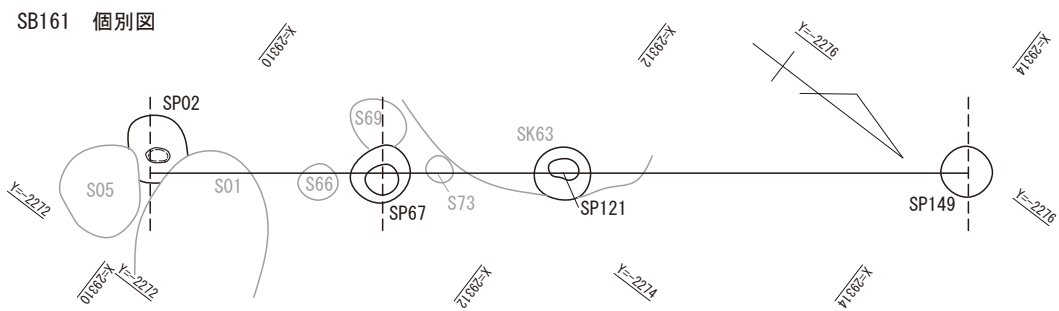


第128図 野口城跡 3号トレンチ遺構図

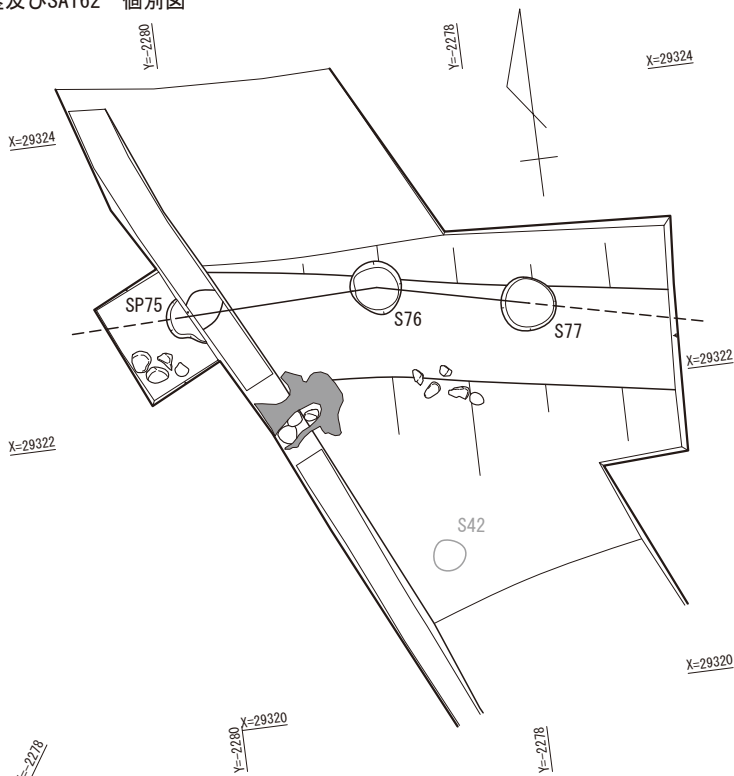
SB160 個別図



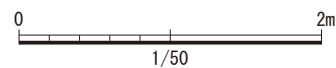
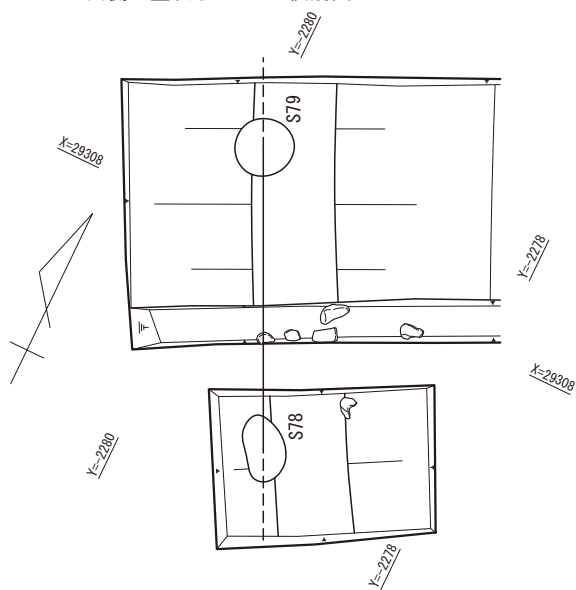
SB161 個別図



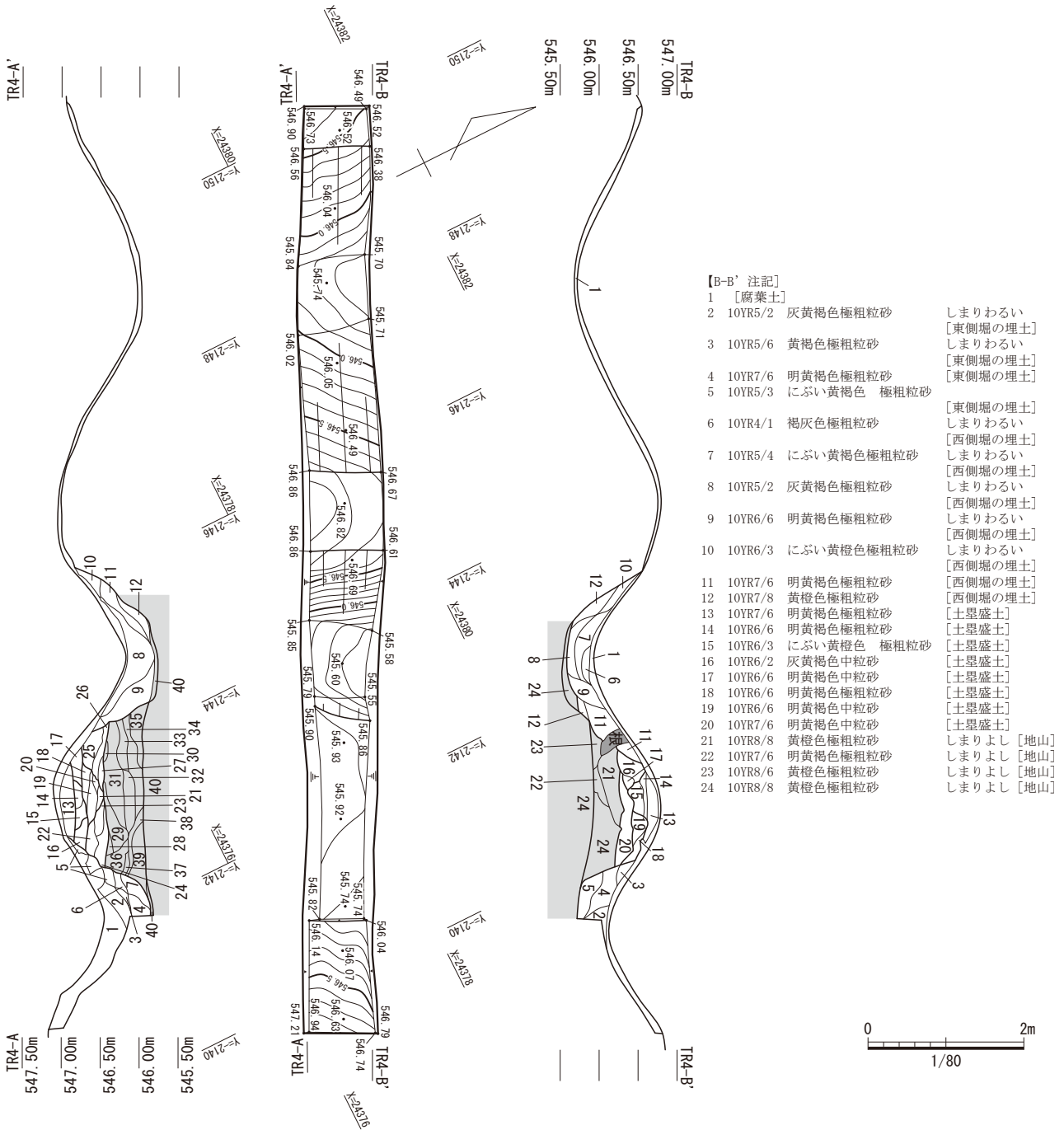
北側土塁及びSA162 個別図



西側土塁及びSA163 個別図



第130図 野口城跡 個別遺構図



【A-A' 断面】

- 1 〔腐葉土〕
- 2 10YR7/6 明黄褐色 中粒砂 しまりわるい 上辺に根の侵入多い [東側堀の埋土]
- 3 10YR6/4 にぶい黄褐色 中粒砂 [東側堀の埋土]
- 4 10YR6/2 灰黄褐色 中粒砂 [東側堀の埋土]
- 5 10YR6/4 にぶい黄褐色 中粒砂 しまりわるい [東側堀の埋土]
- 6 10YR6/3 にぶい黄褐色 中粒砂 しまりわるい [東側堀の埋土]
- 7 10YR7/2 にぶい黄褐色 中粒砂 [東側堀の埋土]
- 8 10YR6/2 灰黄褐色 中粒砂 しまりわるい 上辺に根の侵入多い [西側堀の埋土]
- 9 10YR6/4 にぶい黄褐色 [西側堀の埋土]
- 10 10YR6/4 にぶい黄褐色 [西側堀の埋土]
- 11 10YR7/3 明黄褐色 中粒砂 10YR6/4 20% [西側堀の埋土]
- 12 10YR6/4 にぶい黄褐色 粗粒砂 地山ブロック40%混 [西側堀の埋土]
- 13 10YR7/6 明黄褐色 粗粒砂 しまりわるい 上辺に根の侵入多い [土塁盛土]
- 14 10YR7/4 にぶい黄褐色 粗粒砂 [土塁盛土]
- 15 10YR6/3 にぶい黄褐色 中粒砂 [土塁盛土]
- 16 10YR6/2 灰黄褐色 中粒砂 [土塁盛土]
- 17 10YR6/3 にぶい黄褐色 中粒砂 [土塁盛土]
- 18 10YR5/4 にぶい黄褐色 中粒砂 地山ブロック少し混 [土塁盛土]
- 19 10YR6/4 にぶい黄褐色 中粒砂 [土塁盛土]
- 20 10YR5/4 にぶい黄褐色 中粒砂 [土塁盛土]

【B-B' 注記】

- 1 〔腐葉土〕
- 2 10YR5/2 灰黄褐色極粗粒砂 しまりわるい [東側堀の埋土]
- 3 10YR5/6 黄褐色極粗粒砂 しまりわるい [東側堀の埋土]
- 4 10YR7/6 明黄褐色極粗粒砂 しまりわるい [東側堀の埋土]
- 5 10YR5/3 にぶい黄褐色 極粗粒砂 [東側堀の埋土]
- 6 10YR4/1 褐灰色極粗粒砂 しまりわるい [西側堀の埋土]
- 7 10YR5/4 にぶい黄褐色極粗粒砂 しまりわるい [西側堀の埋土]
- 8 10YR5/2 灰黄褐色極粗粒砂 しまりわるい [西側堀の埋土]
- 9 10YR6/6 明黄褐色極粗粒砂 しまりわるい [西側堀の埋土]
- 10 10YR6/3 にぶい黄褐色極粗粒砂 しまりわるい [西側堀の埋土]
- 11 10YR7/6 明黄褐色極粗粒砂 [西側堀の埋土]
- 12 10YR7/8 黄褐色極粗粒砂 [西側堀の埋土]
- 13 10YR7/6 明黄褐色極粗粒砂 [土塁盛土]
- 14 10YR6/6 明黄褐色極粗粒砂 [土塁盛土]
- 15 10YR6/3 にぶい黄褐色 極粗粒砂 [土塁盛土]
- 16 10YR6/2 灰黄褐色中粒砂 [土塁盛土]
- 17 10YR6/6 明黄褐色中粒砂 [土塁盛土]
- 18 10YR6/6 明黄褐色極粗粒砂 [土塁盛土]
- 19 10YR6/6 明黄褐色中粒砂 [土塁盛土]
- 20 10YR7/6 明黄褐色中粒砂 [土塁盛土]
- 21 10YR8/8 黄褐色極粗粒砂 しまりよし [地山]
- 22 10YR7/6 明黄褐色極粗粒砂 しまりよし [地山]
- 23 10YR8/6 黄褐色極粗粒砂 しまりよし [地山]
- 24 10YR8/8 黄褐色極粗粒砂 しまりよし [地山]

- 21 10YR5/4 灰黄褐色 中粒砂 [土塁盛土]
- 22 10YR7/6 明黄褐色 中粒砂 [土塁盛土]
- 23 10YR7/8 黄褐色 中粒砂 地山ブロック少し混 [土塁盛土]
- 24 10YR8/6 黄褐色 中粒砂 しまりよし 地山ブロック混 [土塁盛土]
- 25 10YR7/8 黄褐色 中粒砂 [土塁盛土]
- 26 10YR8/8 黄褐色 粗粒砂 [土塁盛土]
- 27 10YR8/6 黄褐色 中粒砂 [土塁盛土]
- 28 10YR8/6 黄褐色 粗粒砂 [地山]
- 29 10YR8/6 黄褐色 極粗粒砂 上辺に同色の中粗粒砂が堆積 [地山]
- 30 10YR6/8 明黄褐色 粗粒砂 [地山]
- 31 10YR8/4 浅黄褐色 極粗粒砂 [地山]
- 32 10YR6/8 明黄褐色 極粗粒砂 [地山]
- 33 10YR6/6 明黄褐色 粗粒砂 [地山]
- 34 10YR8/6 黄褐色 極粗粒砂 上辺に同色の中粗粒砂が堆積 [地山]
- 35 10YR8/4 浅黄褐色 極粗粒砂 [地山]
- 36 10YR7/8 黄褐色 極粗粒砂 [地山]
- 37 10YR8/4 浅黄褐色 極粗粒砂 [地山]
- 38 10YR8/8 黄褐色 中粒砂 [地山]
- 39 10YR8/6 黄褐色 極粗粒砂 [地山]
- 40 10YR8/8 黄褐色 岩盤 [地山]

第131図 野口城跡 4号トレンチ遺構図

第58表 野口城跡土坑・柱穴等一覧表(1)

遺跡記号	遺構種別	遺構番号	位置		検出面	堆積状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量 (m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)	
			トレンチ	番号						上端		深さ			
										長径	短径				
ANG19	SK	01	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.91	0.85	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SK01<SP02
ANG19	SP	02	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.45	0.41	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SB161を構成、SP02>SK01・SP05
ANG19	SP	03	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.21	0.16	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	SP03>SK143
ANG19	SP	04	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.33	0.33	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SP04<SK143
ANG19	SP	05	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	0.61	0.54	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	SP05<SP02
ANG19	SK	06	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	2.16	0.46	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SK06>SP11
ANG19	SP	07	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.25	0.24	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	-
ANG19	SK	08	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	2.36	0.30	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR5/4	SK16>SK08>SP14
ANG19	SK	09	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	0.63	0.15	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SK09>SK143
ANG19	SP	10	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.42	0.25	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	-
ANG19	SP	11	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.33	0.26	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SK06>SP11<SP12
ANG19	SP	12	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.31	0.27	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	SP11<SP12
ANG19	SP	13	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.25	0.23	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	-
ANG19	SP	14	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	0.64	0.23	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SK08>SP14
ANG19	SP	15	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.45	0.31	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	-
ANG19	SP	16	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.33	0.17	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SP16>SK08
ANG19	SP	17	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.22	0.20	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SP17>SP18
ANG19	SP	18	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.43	0.40	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	SP17>SP18
ANG19	SP	19	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.44	0.38	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	SP19>SP20
ANG19	SP	20	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.37	0.34	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SP19>SP20
ANG19	SP	21	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.40	0.38	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SB160を構成、SP21>SP22
ANG19	SP	22	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.30	0.27	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SP21>SP22
ANG19	SP	23	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.25	0.20	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	-
ANG19	SP	24	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.35	0.34	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	-
ANG19	SP	25	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.32	0.20	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	SP25・SP139>SP140
ANG19	SK	26	TR	1	造成土Ⅲ	単	半円	円	-	0.83	0.39	0.30	にぶい黄褐色中粒砂 にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4 10YR5/3	SK26<SP27
ANG19	SP	27	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.50	0.43	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SK26<SP27
ANG19	SP	28	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.51	0.47	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SB160を構成
ANG19	SP	29	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.54	0.43	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB160を構成、地山ブロック混
ANG19	SP	30	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.28	0.18	0.23	灰黄褐色粗粒砂	10YR6/2	SP30<SP31
ANG19	SP	31	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.29	0.28	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SP30<SP31
ANG19	SP	32	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.35	0.11	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SP32>SP136
ANG19	SP	33	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.22	0.22	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	SP33>SP34
ANG19	SP	34	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.43	0.43	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SP33>SP34
ANG19	SP	35	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.43	0.42	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	SP36>SP125>SP35
ANG19	SP	36	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.51	0.45	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SB160を構成、SP36>SP125>SP35
ANG19	SP	37	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.45	0.41	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	SP37>SP132
ANG19	欠番	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ANG19	SP	39	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.29	0.27	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	-
ANG19	SP	40	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.43	0.39	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	-
ANG19	SP	41	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	0.35	0.22	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SP41>SX130
ANG19	SP	42	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.21	0.20	-	にぶい褐色中粒砂	7.5YR5/4	-
ANG19	SP	43	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.54	0.51	-	にぶい褐色中粒砂	7.5YR5/4	-
ANG19	攪乱	44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ANG19	SK	45	TR	1	造成土Ⅲ	単	逆三角	-	-	0.47	-	0.30	にぶい黄褐色中粒砂	10YR5/4	SK45>SK63
ANG19	SX	46	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	2.96	0.92	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	-
ANG19	攪乱	47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ANG19	SK	48	TR	1	造成土Ⅲ	単	半円	円	-	0.76	0.44	0.12	褐灰色中粒砂	7.5YR6/2	-
ANG19	SK	49	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	0.57	0.41	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	-
ANG19	欠番	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ANG19	SP	51	TR	1	造成土Ⅲ	単	掃鉢	不定	-	0.35	0.33	0.18	褐灰色中粒砂	10YR5/1	-
ANG19	SX	52	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	0.94	0.80	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	-
ANG19	SP	53	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.33	0.32	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	-
ANG19	欠番	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ANG19	SP	55	TR	1	造成土Ⅲ	柱痕跡	平坦	円	-	0.39	0.30	0.44	褐灰色粗粒砂 灰黄褐色粗粒砂 灰黄褐色粗粒砂 灰黄褐色中粒砂 にぶい黄褐色中粒砂	10YR4/1 10YR5/2 10YR6/2 10YR6/2 10YR7/4	-
ANG19	SX	56	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	1.14	0.98	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SX56>SP57
ANG19	SP	57	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.37	0.33	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SX56>SP57>SK58
ANG19	SK	58	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.57	0.38	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SX56>SP57

第59表 野口城跡土坑・柱穴等一覧表(2)

遺跡記号	遺構種別	遺構番号	位置		検出面	堆積状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量 (m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)	
			トレンチ	番号						上端		深さ			
										長径	短径				
ANG19	SP	59	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.42	0.37	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	-
ANG19	欠番	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ANG19	SK	61	TR	1	造成土Ⅲ	中央凹	半円	不定	-	0.88	0.13	0.40	にぶい橙色粗粒砂 にぶい褐色中粒砂 褐灰色粗粒砂 橙色粗粒砂 褐灰色粗粒砂	7.5YR6/4 7.5YR5/4 7.5YR5/1 7.5YR7/6 7.5YR5/1	SX62>SK61>SP147
ANG19	SX	62	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	1.31	0.62	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SX62>SK61>SP147・SP149
ANG19	SK	63	TR	1・2	造成土Ⅲ	水平	半円	円	-	0.74	0.22	0.40	明黄褐色中粒砂 にぶい褐色粗粒砂	10YR6/6 7.5YR6/3	-
ANG19	欠番	64	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ANG19	SK	65	TR	1・2	造成土Ⅲ	単	半円	円	-	0.56	0.54	0.25	にぶい黄褐色中粒砂	10YR5/3	SK65>SK145
ANG19	SP	66	TR	1・2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.26	0.24	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	-
ANG19	SP	67	TR	1・2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.21	0.20	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SB160を構成
ANG19	欠番	68	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ANG19	SP	69	TR	1・2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.38	0.33	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	SP69>SK145
ANG19	SP	70	TR	1・2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.37	0.36	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	SP70>SK71
ANG19	SK	71	TR	1・2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.54	0.44	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	SP70>SK71>SP72
ANG19	SP	72	TR	1・2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.43	0.41	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SK71>SP72
ANG19	SP	73	TR	1・2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.18	0.17	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	-
ANG19	SP	74	TR	1・2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.27	0.24	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	-
ANG19	SP	75	TR	1	土壘造成土	柱痕跡	-	不定	a	0.39	0.35	0.70	黄褐色中粒砂 にぶい褐色中粒砂 にぶい褐色中粒砂	7.5YR7/8 7.5YR5/4 7.5YR5/3	SA162を構成 SP75>土壘
ANG19	SP	76	TR	1	土壘造成土	-	-	円	-	0.35	0.32	-	黄褐色中粒砂	7.5YR7/8	SA162を構成 SP76>土壘 しまりわるい
ANG19	SP	77	TR	1	土壘造成土	-	-	円	-	0.36	0.35	-	黄褐色中粒砂	7.5YR7/8	SA162を構成 SP77>土壘 しまりわるい
ANG19	SP	78	TR	2	土壘造成土	-	-	不定	-	0.44	0.28	-	明黄褐色中粒砂	10YR6/6	SA163を構成、SP78>土壘 粘性あり しまりなし
ANG19	SP	79	TR	2	土壘造成土	-	-	円	-	0.39	0.38	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	SB160を構成、SP79>土壘
ANG19	SP	80	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.43	0.41	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	-
ANG19	SP	81	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.38	0.29	0.32	灰黄褐色中粒砂 褐灰色中粒砂	10YR5/2 10YR4/1	SP81<SP82
ANG19	SP	82	TR	2	造成土Ⅲ	柱痕跡	挿鉢	円	-	0.58	0.20	0.29	褐灰色中粒砂 灰黄褐色中粒砂 明黄褐色中粒砂	10YR6/1 10YR5/2 10YR7/6	SP81<SP82
ANG19	SK	83	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	0.54	0.24	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	-
ANG19	SP	84	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.25	0.23	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	-
ANG19	SK	85	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	1.14	0.54	0.32	にぶい黄褐色中粒砂 褐灰色中粒砂	10YR6/3 10YR5/1	SK85<SK86
ANG19	SK	86	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.45	0.36	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SK85<SK86
ANG19	SP	87	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.30	0.30	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	-
ANG19	SP	88	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.24	0.21	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	-
ANG19	SP	89	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.24	0.22	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	SP89<SP90
ANG19	SP	90	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.24	0.18	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SP89<SP90>SP91
ANG19	SP	91	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.30	0.29	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	SP90>SP91
ANG19	SP	92	TR	2	造成土Ⅲ	単	挿鉢	円	a	0.24	0.16	0.24	灰黄褐色中粒砂	10YR6/2	-
ANG19	SK	93	TR	2	造成土Ⅲ	単	方	円	-	0.46	0.34	0.20	褐灰色中粒砂 灰黄褐色中粒砂	10YR5/1 10YR5/2	-
ANG19	SP	94	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.20	0.13	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	SP94<SK96>SP95
ANG19	SP	95	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.25	0.22	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	SP94<SK96>SP95
ANG19	SK	96	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.40	0.30	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SP94<SK96>SP95
ANG19	SP	97	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.36	0.28	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	-
ANG19	SK	98	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.51	0.34	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	SK98>SX100
ANG19	SP	99	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.24	0.24	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	SP99>SX100
ANG19	SX	100	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	1.49	0.44	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SK98>SX100<SP99・SP101・ SP102
ANG19	SP	101	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	0.29	0.11	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	SK98>SX100<SP99・SP101・ SP102
ANG19	SP	102	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	0.24	0.16	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	-
ANG19	SP	103	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.26	0.26	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	-
ANG19	SP	104	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.34	0.28	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	SP104<SP105<SP106
ANG19	SP	105	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.35	0.23	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SP104<SP105<SP106
ANG19	SP	106	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.36	0.35	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	SP104<SP105<SP106
ANG19	SP	107	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.37	0.33	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	-
ANG19	SP	108	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.20	0.18	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	-
ANG19	SP	109	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.36	0.28	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SP109>SP110
ANG19	SP	110	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.41	0.30	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	SP109>SP110
ANG19	SP	111	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.24	0.24	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	SP111>SP112

5 遺物 (第132・133図、第61～64表)

造成土Ⅳ 土師器皿が8点出土し、6点図示した。78～83は土師器皿である。78～80は内外面全面にナデを施し、4類に属する。79は内面に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。81～83は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。81の外面底部に指頭圧痕がうすく残る。

土坑 SK143 土師器皿が2点出土し、2点図示した。84は内外面全面にナデを施し、4類に属する。85は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整で指頭圧痕が残り、5類に属する。

土壘盛土 北側土壘から土師器が1点と不明土器が1点、東側土壘から土師器が1点、西側土壘から土師器が7点出土し、西側土壘から出土した土師器皿3点を図示した。86・87は内外面にナデを施す。4類に属する。86の口縁部、87の内面に煤が付着し、ともに灯明皿として使用されたと考えられる。88は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。

造成土Ⅲ 土師器皿が3点出土し、1点図示した。89は内外面にナデを施し、4類に属する。

柱穴 土師器皿が37点、瀬戸美濃焼が1点、貿易陶磁器が1点、金属製品が1点出土し、土師器皿20点、瀬戸美濃焼1点、中国製天目茶碗1点、金属製品1点を図示した。

SP15から土師器皿90が出土した。内面にナデを施し、外面は未調整であり、6類に属する。SP31から土師器皿91が出土した。内外面が摩滅する。SP39から土師器皿92が出土した。内外面が摩滅する。SP39から土師器皿93が出土した。内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。SP40から土師器皿94が出土した。内外面が摩滅する。内外面の口縁部に煤・タールが付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。SP41から土師器皿95が出土した。内外面にナデを施し、外面底部は摩滅する。4類に属する。SP80から土師器皿96が出土した。内面全面に一定方向ナデを施し、外面にもナデを施す。4類に属する。SP82から土師器皿97～99が出土した。97・98は内外面にナデを施し、4類に属する。99は内外面摩滅する。SP95から土師器皿100が出土した。内外面にナデを施し、4類に属する。SP107から土師器皿101・102が出土した。101は内外面にナデを施し、4類に属する。102は内面と外面口縁部にヨコナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。SP118から土師器皿103が出土した。内外面にナデを施し、4類に属する。口縁部内外面に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。SP120から天目茶碗104が出土した。口縁部が屈曲し、短く立ち上がる。黒色の鉄釉を内外面に施す。胎土が灰色を呈し、中国製のものと考えられる。SP122から土師器皿105・106が出土した。ともに内外面にナデを施し、4類に属する。SP124から金属製品107が出土した。円形を呈するものの破片と考えられたが、全体形状は知りえなかった。SP127から土師器皿108が出土した。内面にナデを施し、外面未調整である。5類か6類に属する。SP131から土師器皿109が出土した。内外面にナデを施す。4類に属する。SP141から土師器皿110、瀬戸美濃焼の端反皿111が出土した。110は内面にナデを施し、外面未調整である。6類に属する。111は灰白色の灰釉を内外面に施す。貫入が目立つ。体部が丸みを持ち、口縁部がゆるやかに外反する。大窯第1段階のものと考えられる。SP159から土師器皿112が出土した。内面にナデを施し、外面は摩滅する。

土坑 土師器皿が37点、金属製品が2点出土し、土師器皿22点、古銭1点、鉄釘1点を図示した。SK08から土師器皿113・114・115、古銭116が出土した。113は内外面にナデを施し、4類に属する。114は内面にナデを施し、外面未調整であり、6類に属する。115は内外面摩滅する。116は1/2を欠損する古銭であり、「寶」の字のみ判読できる。SK26から土師器皿117・118・119・120が出土した。

117 は内外面にナデを施し、4類に属する。118 は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。119 は内面にナデを施し、外面摩滅する。内外面に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。120 は内外面摩滅する。SK61 からは土師器皿 121 ～ 125 が出土した。121 は内外面にナデを施し、4類に属する。122・123 は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。122 は内外面に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。124・125 は底部破片である。124 は内面にナデを施し、外面摩滅する。125 は内外面摩滅する。ともに内面に煤が付着する。SK63 から土師器皿 126 ～ 131 が出土した。126 は内外面にナデを施し、4類に属する。127・128 は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。129・130・131 は内面にナデを施し、外面未調整であり、6類に属する。SK85 からは土師器皿 132・133 が出土した。ともに内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。SK138 からは土師器皿 134・135 が出土した。134 は内面にナデと指頭圧痕が残り、外面は未調整である。6類に属する。口縁部にタールが付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。135 は内外面摩滅する。SK156 からは鉄釘 136 が出土した。頭部が欠損する。

不明遺構 SX62 から土師器皿 137 が出土し、図示した。137 は内面が摩滅し、外面にナデを施す。4類に属する。口縁部に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。

1号トレンチ腐葉土直下 1号トレンチでの検出作業中に土師器皿が 30 点、古銭が 1 点出土し、土師器皿 11 点、古銭 1 点を図示した。

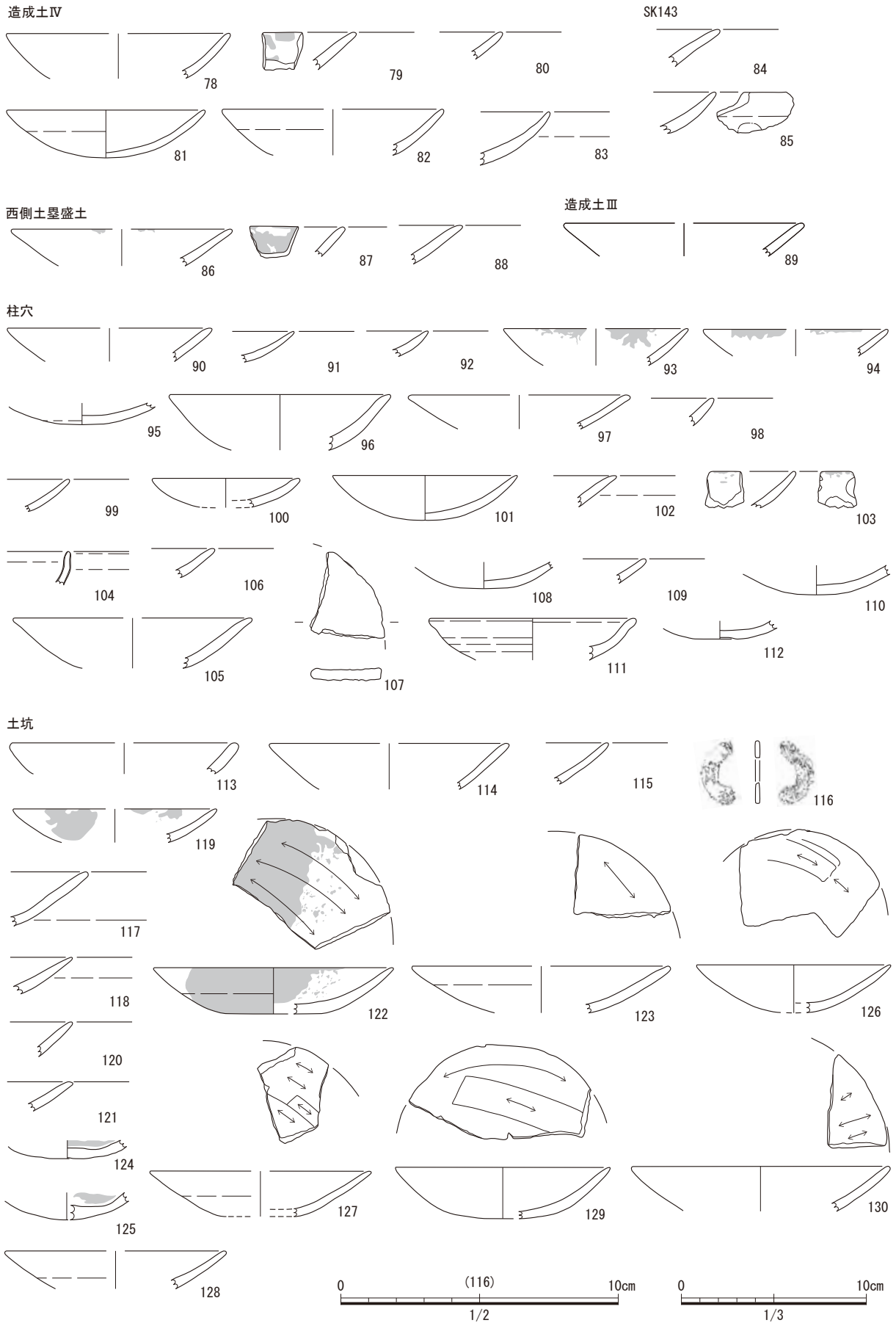
138 ～ 148 は土師器皿である。138 ～ 140 は口縁部破片であり、内外面にナデを施す。4類に属する。141 は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整であり、5類に属する。142・143 は内面にナデを施し、外面未調整である。6類に属する。煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。144 ～ 146 は内面にナデを施し、外面は摩滅する。4 ～ 6類に属する。147・148 は内外面が摩滅する。138 は内外面の口縁部、142 は外面に、147 は外面口縁部に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。149 は古銭であり、咸平元宝である。北宋銭であり、初鑄年 998 年である。

2号トレンチ腐葉土直下 2号トレンチでの検出作業中に土師器皿が 9 点出土し、2 点を図示した。150・151 は土師器皿である。150 は内面にナデを施し、外面未調整である。6類に属する。151 は内外面摩滅する。

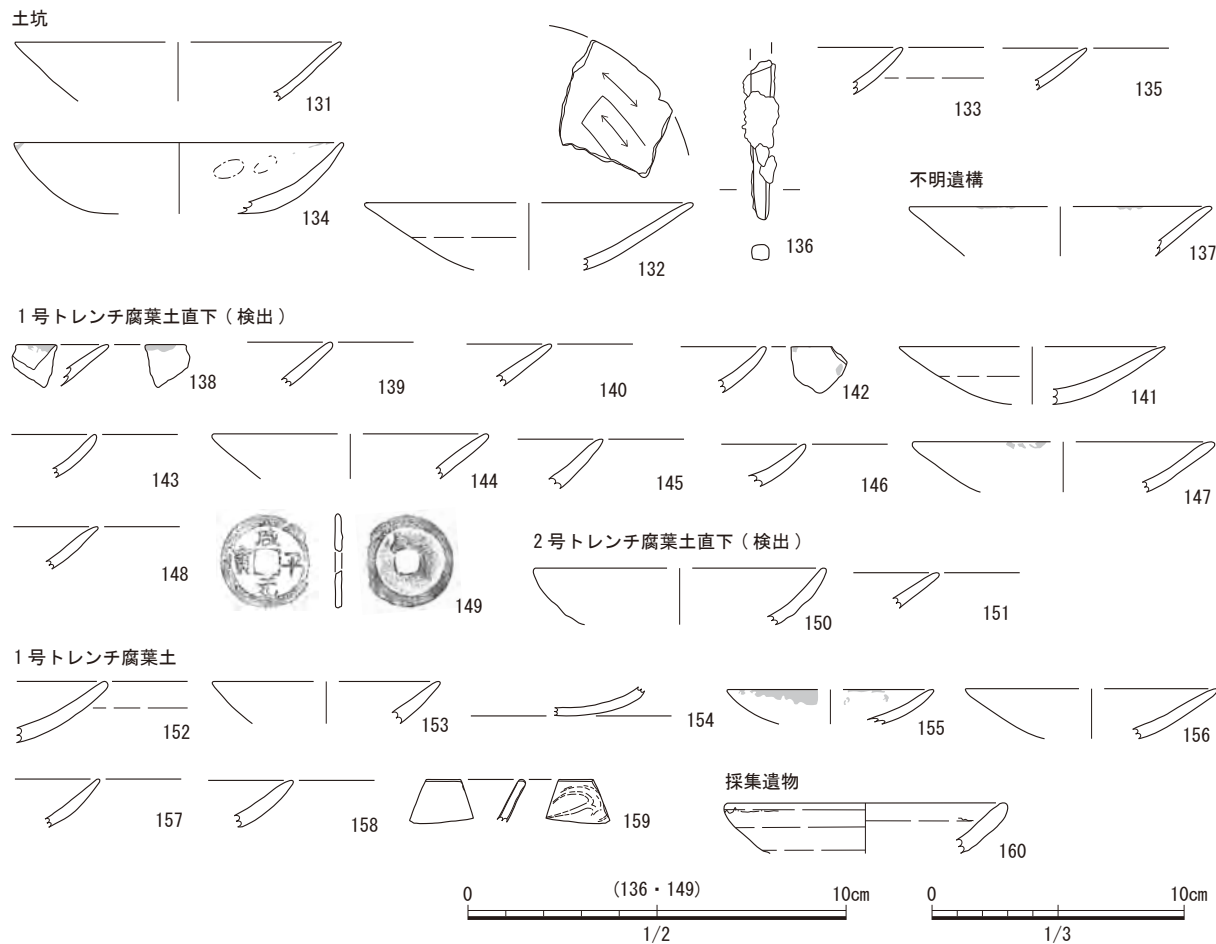
1号トレンチ腐葉土 土師器 35 点、青磁 2 点、鉄片 1 点が出土し、土師器皿 7 点、青磁碗 1 点を図示した。152 ～ 158 は土師器皿である。152・153 は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。154 は体部から底部にかけての破片である。内面にナデを施し、外面未調整であり、5類か 6類に属する。155 ～ 158 は内面にナデを施し、外面は摩滅する。155 は内外面の口縁部に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。

159 は青磁碗である。外面に花文を施す。釉の発色が明るい。

採集遺物 土師器皿 7 点、瀬戸美濃焼 1 点、珠洲焼 1 点を採集し、瀬戸美濃焼 1 点を図示した。160 は瀬戸美濃焼の縁釉小皿である。灰白色の灰釉を口縁部外面直下まで施す。このため、古瀬戸後Ⅳ期(新)のものと考えられる。



第132図 野口城跡 平坦地1の1・2号トレンチ出土遺物図(1)



第133図 野口城跡 平坦地1の1・2号トレンチ出土遺物図(2)

第61表 野口城跡出土遺物一覧表

遺構面	土層	土師器						瀬戸美濃					珠洲	青磁	白磁		染付	金属	その他	合計	
		3類	4類	5類	6類	7類	不明	丸皿	端反皿	天目茶碗	すり鉢	その他			壺	碗					碗
第2	造成土IV	-	3	3	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
遺構	土坑 SK143	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
第1	土壘盛土	-	2	1	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10
	造成土III	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
遺構	柱穴	-	10	2	2	-	23	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	40
	土坑	-	4	6	5	-	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	39
	不明遺構	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
近世以降	1号トレンチ腐葉土直下	-	3	1	2	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	31
	2号トレンチ腐葉土直下	-	-	-	1	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
	1号トレンチ腐葉土	-	-	1	-	-	34	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	38
	採集遺物	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	9
合計		0	25	15	10	0	128	0	1	0	0	1	1	2	0	0	0	0	5	2	190
		178						2					1	2	0	0	0	5	2	190	

第62表 野口城跡出土遺物観察表(1)

遺物番号	層位	トレンチ	種別	器種	法量 (cm、括弧内は推定)			色調			成形・文様等	挿図番号	図版番号
					口径	底径	器高	内面	外面	断面			
78	造成土IV	1	土師器	皿	12.0	—	2.4	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	内外面ナデ 4類	132	—
79	造成土IV	1	土師器	皿	—	—	2.0	10YR6/1 褐灰色	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	内外面ナデ 内面煤付着4類	132	—
80	造成土IV	1	土師器	皿	—	—	1.5	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	内外面ナデ 4類	132	—
81	造成土IV	1	土師器	皿	(10.8)	—	2.6	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	内外面ナデ 外面口縁下ナデ体部下未調整 底部指オサエ 5類	132	—
82	造成土IV	1	土師器	皿	(12.0)	—	2.6	10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	外面口縁下ナデ 体部下未調整 内面ナデ 5類	132	37
83	造成土IV	1	土師器	皿	—	—	2.8	10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	外面ナデ 未調整 内面ナデ 5類	132	—
84	SK143	1	土師器	皿	—	—	2.0	10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	内外面ナデ 4類	132	—
85	SK143	1	土師器	皿	—	—	2.2	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	外面口縁下ナデ 体部下未調整 指オサエ 内面ナデ 5類	132	—
86	T2 土壘盛土	2	土師器	皿	(12.0)	—	2.0	10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	内外面ナデ 煤付着 4類 灯明皿	132	—
87	T2 土壘盛土	2	土師器	皿	—	—	(1.4)	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	内外面ナデ 4類 灯明皿	132	—
88	T2 土壘盛土	2	土師器	皿	—	—	2.1	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	外面ナデ 未調整 内面ナデ 5類	132	—
89	造成土III	1	土師器	皿	(13.0)	—	1.8	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	内外面ナデ 4類	132	—
90	SP15	1	土師器	皿	(11.0)	—	1.8	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	外面未調整 内面ナデ 6類	132	—
91	SP31	1	土師器	皿	(7.0)	—	(1.2)	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	内外面摩滅	132	—
92	SP39	1	土師器	皿	—	—	(1.4)	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	内外面摩滅	132	—
93	SP39	1	土師器	皿	(10.0)	—	2.0	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	外面口縁部下ナデ 体部下未調整 内面ナデ 5類	132	—
94	SP40	1	土師器	皿	(10.0)	—	1.4	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y7/3 淡黄色	2.5Y7/3 淡黄色	内外面摩滅のため調整不明 煤付着 灯明皿	132	—
95	SP41	1	土師器	皿	—	—	1.2	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	外面体部ナデ 底部摩滅 内面ナデ 4類	132	—
96	SP80	2	土師器	皿	(12.0)	—	(3.5)	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	外面ナデ 内面縦方向にナデ 4類	132	—
97	SP82	2	土師器	皿	(12.0)	—	1.8	10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	内外面ナデ 4類	132	—
98	SP82	2	土師器	皿	—	—	1.3	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	内外面ナデ 4類	132	—
99	SP82	2	土師器	皿	—	—	1.8	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	内外面摩滅	132	—
100	SP95	2	土師器	皿	(8.0)	2.6	(1.6)	10YR8/3 淡黄色	10YR8/3 淡黄色	10YR8/3 淡黄色	内外面ナデ 4類	132	—
101	SP107	2	土師器	皿	(10.0)	—	2.4	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	内外面ナデ 4類	132	37
102	SP107	2	土師器	皿	—	—	1.9	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	外面ナデ 下部未調整 内面摩滅 5類	132	—
103	SP118	2	土師器	皿	—	—	1.95	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	内外面ナデ 口唇部に煤付着 4類 灯明皿	132	—
104	SP120	1	中国製陶器	天目茶碗	—	—	1.8	10YR2/1 黒色	10YR2/1 黒色	5Y6/1 灰色	内外面鉄釉 ロクロナデ	132	—
105	SP122	1	土師器	皿	(13.0)	—	2.7	10YR8/2 灰白色	10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/2 灰白色	内外面ナデ 4類	132	37
106	SP122	1	土師器	皿	—	—	1.6	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	内外面ナデ 4類	132	—
107	SP124	1	金属製品	不明	4.7	4.1	5.5	—	—	—	—	132	—
108	SP127	1	土師器	皿	—	—	1.4	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	外面未調整 内面ナデ 5か6類	132	—
109	SP131	1	土師器	皿	—	—	1.4	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	内外面ナデ 4類	132	—
110	SP141	1	土師器	皿	—	—	1.6	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	外面未調整 内面ナデ オサエ 6類	132	—
111	SP141	1	瀬戸美濃	端反皿	(11.2)	—	2.2	7.5Y7/2 灰白色	7.5Y7/2 灰白色	5Y8/2 灰白色	内外面施釉 貫入 大窯1	132	37
112	SP159	2	土師器	皿	—	—	(1.0)	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	外面摩滅 内面ナデ	132	—
113	SK08	1	土師器	皿	(12.0)	—	1.7	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	内外面ナデ 4類	132	—
114	SK08	1	土師器	皿	(13.0)	—	2.5	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	外面未調整 内面ナデ 6類	132	—
115	SK08	1	土師器	皿	—	—	2.2	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	内外面摩滅のため調整不明	132	—
116	SK08	1	金属製品	古銭	2.35	1.3	1.5	—	—	—	—	132	37
117	SK26	1	土師器	皿	—	—	2.9	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	外面ナデ 内面ナデ 4類	132	—

第63表 野口城跡出土遺物観察表(2)

遺物番号	層位	トレンチ	種別	器種	法量 (cm、括弧内は推定)			色調			成形・文様等	挿図番号	図版番号
					口径	底径	器高	内面	外面	断面			
118	SK26	1	土師器	皿	-	-	2.0	10YR7/2にぶい黄 橙色	10YR7/2にぶい黄 橙色	10YR7/2にぶい黄 橙色	内外面ナデ 外面下部未 調整 5類	132	-
119	SK26	1	土師器	皿	(11.0)	-	1.8	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	内外面煤付着 外面摩減 のため調整不明 内面ナ デ 4~6類	132	-
120	SK26	1	土師器	皿	-	-	1.6	10YR7/3にぶい黄 橙色	10YR7/4にぶい黄 橙色	10YR8/4 浅黄橙色	内外面摩減	132	37
121	SK61	1	土師器	皿	-	-	(2.1)	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	内外面ナデ 4類	132	-
122	SK61	1	土師器	皿	(13.0)	-	2.5	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	内外面煤付着 外面口縁 下ナデ 体部未調整 内 面ナデ 5類	132	37
123	SK61	1	土師器	皿	(14.0)	-	2.5	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/4 浅黄色	外面口縁下ナデ 体部未 調整 内面ナデ 5類	132	37
124	SK61	1	土師器	皿	-	-	1.0	10YR3/1 黒褐色	10YR7/3にぶい黄 橙色	10YR7/3にぶい黄 橙色	内外面ナデ 外面摩減の ため調整不明 内面全体 に煤付着	132	-
125	SK61	1	土師器	皿	-	-	1.9	10YR7/4にぶい黄 橙色	10YR7/4にぶい黄 橙色	10YR7/4にぶい黄 橙色	外面摩減のため調整不明 内面摩減のため調整不明 煤付着	132	-
126	SK63	1	土師器	皿	(10.4)	2.3	2.0	10YR8/2 灰白色	10YR7/3にぶい黄 橙色	10YR8/3 浅黄橙色	外面ナデ 内面ナデ 4 類	132	37
127	SK63	1	土師器	皿	12.0	-	2.4	10YR7/1 灰白色	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/2にぶい黄 橙色	外面口縁部ナデ 体部未 調整 内面横方向ナデ 5類	132	-
128	SK63	1	土師器	皿	(12.0)	-	2.1	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	外面口縁部下ナデ 体部 未調整 内面ナデ 5類	132	-
129	SK63	1	土師器	皿	(11.6)	-	2.8	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	外面未調整 内面ナデ 6類	132	37
130	SK63	1	土師器	皿	(14.0)	-	2.4	2.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	外面未調整 内面縦方向 ナデ 6類	132	37
131	SK63	1	土師器	皿	13.0	-	2.3	10YR7/2にぶい黄 橙色	10YR7/2にぶい黄 橙色	10YR7/2にぶい黄 橙色	外面未調整 内面横ナデ 6類	133	-
132	SK85	2	土師器	皿	(13.0)	-	2.7	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	外面口縁下ナデ 体部未 調整 内面ナデ 5類	133	-
133	SK85	2	土師器	皿	-	-	2.9	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	外面口縁下ナデ 体部未 調整 内面ナデ 5類	133	-
134	SK138	1	土師器	皿	(12.8)	7.0	2.4	10YR7/3にぶい黄 橙色	10YR7/3にぶい黄 橙色	10YR7/3にぶい黄 橙色	内外面口唇部にタール付 着 外面摩減 内面指オ サエ ナデ 6類	133	-
135	SK138	1	土師器	皿	-	-	1.7	10YR7/3にぶい黄 橙色	10YR7/3にぶい黄 橙色	10YR7/3にぶい黄 橙色	内外面摩減 内面に朱カ	133	-
136	SK156	1	金属製品	釘	4.2	0.5	0.4	-	-	-	-	133	-
137	SX62	1	土師器	皿	(12.0)	-	2.0	10YR7/3にぶい黄 橙色	10YR7/3にぶい黄 橙色	10YR7/3にぶい黄 橙色	外面口唇部に煤付着 ナ デ 内面煤付着 摩減の ため調整不明 4類	133	-
138	腐葉土 直下	1	土師器	皿	-	-	1.7	10YR7/3にぶい黄 橙色	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	内外面ナデ 煤付着 4 類	133	-
139	腐葉土 直下	1	土師器	皿	-	-	1.7	10YR7/4にぶい黄 橙色	10YR7/4にぶい黄 橙色	10YR7/4にぶい黄 橙色	内外面ナデ 4類	133	-
140	腐葉土 直下	1	土師器	皿	-	-	1.7	10YR8/4 浅黄橙色	10YR7/4にぶい黄 橙色	10YR7/4にぶい黄 橙色	外面口縁下ナデ 体部摩 減のため調整不明 内面 ナデ 4類	133	-
141	腐葉土 直下	1	土師器	皿	(10.5)	-	2.3	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	外面口縁下ナデ 体部未 調整 内面ナデ 5類	133	-
142	腐葉土 直下	1	土師器	皿	-	-	1.8	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y7/2 灰黄色	外面未調整 煤付着 内 面ナデ 6類	133	-
143	腐葉土 直下	1	土師器	皿	-	-	1.7	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	外面未調整 内面ナデ 6類	133	-
144	腐葉土 直下	1	土師器	皿	(11.0)	-	1.8	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	外面摩減のため調整不明 内面ナデ 4~6類	133	-
145	腐葉土 直下	1	土師器	皿	-	-	2.0	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	外面摩減のため調整不明 内面ナデ 4~6類	133	-
146	腐葉土 直下	1	土師器	皿	-	-	1.7	10YR7/3にぶい黄 橙色	10YR7/3にぶい黄 橙色	10YR7/3にぶい黄 橙色	外面摩減 内面ナデ 4 ~6類	133	-
147	腐葉土 直下	1	土師器	皿	(12.0)	-	(2.0)	10YR7/3にぶい黄 橙色	10YR7/4にぶい黄 橙色	10YR7/3にぶい黄 橙色	内外面摩減 外面口縁部 に煤付着	133	-
148	腐葉土 直下	1	土師器	皿	-	-	(1.7)	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	内外面摩減	133	-
149	腐葉土 直下	1	金属製品	古銭	2.4	2.4	1~1.5	-	-	-	咸平元宝	133	37
150	腐葉土 直下	2	土師器	皿	(11.5)	-	2.2	10YR7/4にぶい黄 橙色	10YR7/4にぶい黄 橙色	10YR7/4にぶい黄 橙色	外面未調整 内面ナデ 6類	133	-
151	腐葉土 直下	2	土師器	皿	-	-	(1.4)	10YR7/4にぶい黄 橙色	10YR7/3にぶい黄 橙色	10YR7/4にぶい黄 橙色	内外面摩減	133	-
152	表土	1	土師器	皿	-	-	2.4	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	外面口縁下ナデ 体部未 調整 内面ナデ 5類	133	-
153	表土	1	土師器	皿	9.0	-	1.7	10YR7/2にぶい黄 橙色	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	外面未調整 内面ナデ 5類	133	-
154	表土	1	土師器	皿	-	-	1.15	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	外面未調整 内面ナデ 5か6類	133	-

第64表 野口城跡出土遺物観察表(3)

遺物番号	層位	トレンチ	種別	器種	法量 (cm、括弧内は推定)			色調			成形・文様等	挿図番号	図版番号
					口径	底径	器高	内面	外面	断面			
155	T1 表土	1	土師器	皿	(8.2)	—	1.4	2.5Y7/3 浅黄色	2.5Y7/4 浅黄色	2.5Y7/4 浅黄色	外面摩滅のため調整不明 内面ナデ 煤付着 4～6類	133	—
156	T1 表土	1	土師器	皿	—	—	2.0	10YR7/2 にぶい黄 橙色	10YR7/3 にぶい黄 橙色	10YR7/3 にぶい黄 橙色	外面摩滅のため調整不明 内面ナデ 4～6類	133	—
157	T1 表土	1	土師器	皿	—	—	1.9	10YR6/3 にぶい黄 橙色	10YR6/3 にぶい黄 橙色	10YR5/2 灰黄褐色	外面摩滅 内面ナデ 4 ～6類	133	—
158	T1 表土	1	土師器	皿	—	—	1.9	10YR7/3 にぶい黄 橙色	10YR6/4 にぶい黄 橙色	10YR6/3 にぶい黄 橙色	外面摩滅 内面ナデ 4 ～6類	133	—
159	T1 表土	1	青磁	碗	—	—	(1.7)	10Y7/2 灰白色(釉)	10Y7/2 灰白色(釉)	10YR8/1 灰白色	外面に花文	133	—
160	採集 遺物	—	瀬戸美濃	緑釉小皿	11.0	—	2.0	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	内外面回転ナデ 口縁部 に 5Y7/3 浅黄色の灰釉 古瀬戸後IV (新)	133	—

6 特記事項

今回の調査では、遺構面を2面確認した。分布する遺構とその帰属時期、変遷について考えたい。

野口城1期 平坦地1において確認した造成土IV上面の第2遺構面の時期である。平坦地1に設定した1・2号トレンチにおいて、土坑SK143・SK148・SK156の3基を確認した。また、造成土IV・斜面の造成土・地山への漸移層を基礎とするため、土塁はこの時期に構築されたと考えられる。

造成土IV層中からは、土師器皿4類4点・5類4点が出土した。土塁盛土からは4類2点・5類1点が出土した。古川城跡では土師器皿4類・5類が出土する3期が大窯第2～3段階と考えられた。出土状況が近似するが、土師器皿4～6類が出土する野口城2期とは時期差があると考えられるため、それ以前の大窯第1～2段階と考えられる。

なお、柱穴SP141より大窯第1段階の端反皿111、採集遺物で古瀬戸後IV期(新)の緑釉小皿160が見られる。野口城1期以前の明確な遺構は確認できなかったが、築城が遡る可能性も想定された。ここでは、古川城跡・小島城跡で出土し、古瀬戸後IV期(新)～大窯第1段階に位置付けられる土師器皿3類(三好清超2021)の出土がないため、設定しない。

野口城2期 第1遺構面は、土塁盛土及び平坦地1全面で確認した造成土III上面である。土塁は平坦地1の周囲を取り囲み、その上端平坦面に柵列SA162・163を設ける。その内側では、造成土III上面で掘立柱建物SB160・161を確認した。

遺物は造成土IIIから土師器皿4類3点・5類1点が出土した。そこから掘り込む遺構からは、土師器皿4～6類が出土する。時期は、出土遺物より大窯第2～3段階の時期と考えられる。これは、古川城跡虎口通路の調査における曲輪造成土の出土状況と近似するためである。古川城跡では、この曲輪造成土を大窯第2～3段階の3期と考えた。

4号トレンチでは、土塁と堀で構成される畝状堅堀群を1面の遺構面で確認した。表土直下に位置する最終段階の遺構面が一致すると考え、2期に位置付ける。

第5節 小鷹利城跡

1 調査の目的

測量調査により、最高所に位置し、最も広い平坦地が主郭と考えられた。この平坦地において、遺構の有無と遺物による山城の使用年代の把握を目的として試掘確認調査を行った。

2 調査の概要

2019年度、最高所に位置し、最も広い平坦地を平坦地1とし、その南・東・北方向の三方を取り囲む平坦地を平坦地2として調査を実施した。調査では、平坦地1の北東側の地表面に露出する河原石を礎石と想定し、1号トレンチを設定した。また、平坦地1から平坦地2にかけての斜面に2号トレンチを設定した。調査では、1号トレンチにおいて表土である腐葉土を除去後に、曲輪造成土を掘り込んで据えられた礎石を確認した。その主軸方位と柱間を認識した上で、礎石位置と想定される場所に0.8m四方の3号トレンチ（TR3）～48号トレンチ（TR48）を設定した（第134図）。

層序は、上層より、表土（腐葉土）、崩落土、曲輪造成土、地山の順で堆積することを確認した。曲輪造成土は、平坦地1と平坦地2でそれぞれ確認できる。直接的には繋がらない。また、礎石は曲輪造成土を掘り込んで据えられていること、礎石は地表面に頭を出すものと、礎板石のように埋められているものがあることを確認した。遺構は、曲輪造成土上面で礎石と抜き取り穴、溝等を確認した。遺物は土師器皿、瀬戸美濃焼等が出土した。

3 基本層序（第135図）

表土（腐葉土） 平坦地1、平坦地2、その間の斜面を覆う現代までの自然堆積土層である。

崩落土 平坦地1と平坦地2の間の斜面に堆積する。

曲輪造成土 平坦地1及び平坦地2をそれぞれ覆う造成土層である。平坦地1では、当層から礎石据え付け穴が掘り込まれるため、当層の上面を第1遺構面として調査を行った。残りが良い礎石建物を確認した。また、それらとは並びが一致しない柱穴や土坑も検出した。

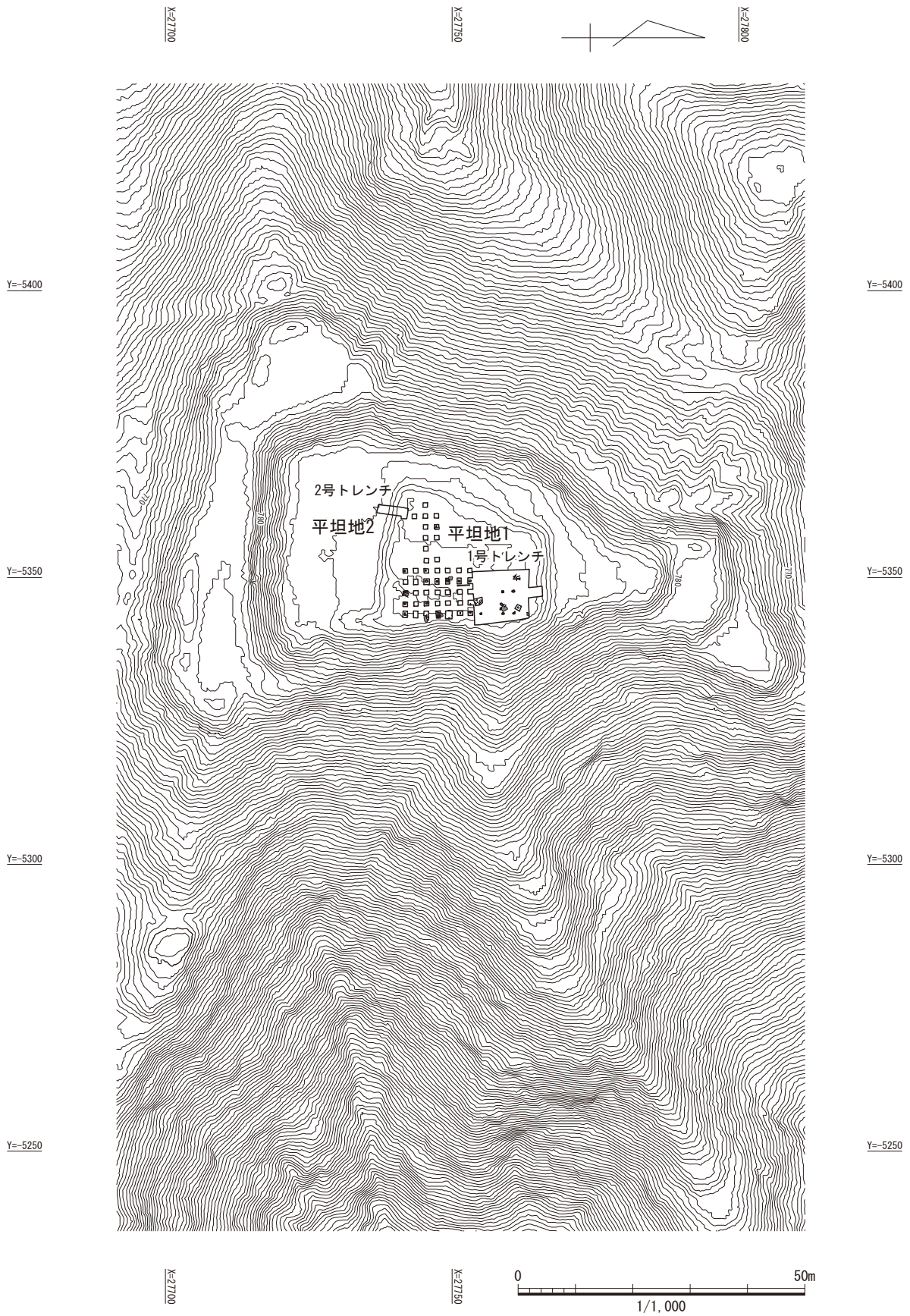
2号トレンチでは、平坦地2の曲輪北端に沿って、溝が掘られていることを確認した。

地山 この山一帯の基盤層である。黄橙色の砂礫層であり、しまりが非常によい。2号トレンチにおいて、溝SD68の下層で、地山上面から掘り込む柱穴SP67を確認した。このため、当層の上面を第2遺構面として調査を行った。

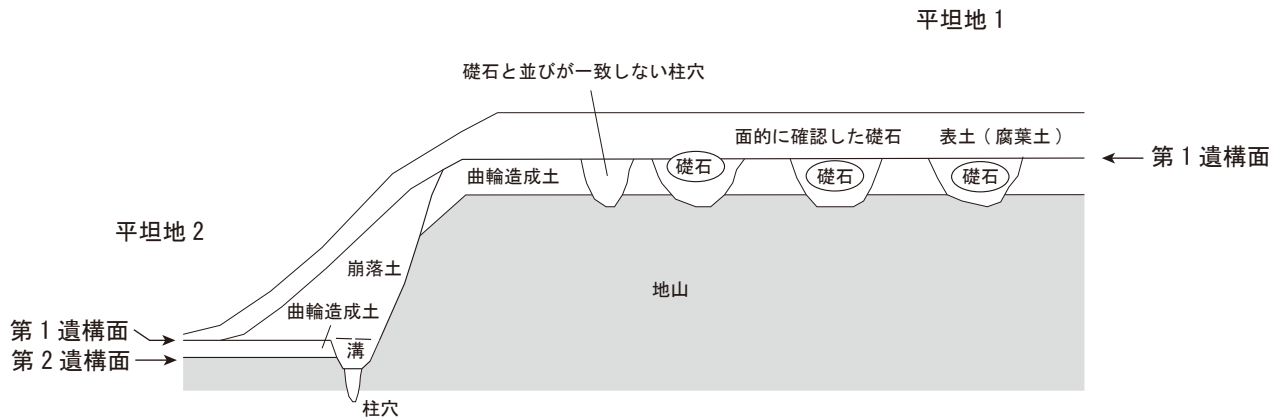
4 遺構（第67・68表）

第1遺構面は曲輪造成土上面である。遺構は平坦地1において、礎石S4・S6～S9・S14・S18・S21・S25・S29・S30・S33・S35・S37・S44～S46・S48・S56・S62、礎石抜き取り穴S1～S3・S5・S10～S13・S15～S17・S19・S20・S22～S24・S26～S28・S31・S32・S34・S36・S38・S39～S43・S47・S49～S53・S63・S64・S66、柱穴SP55・SP59～SP61・SP65・SP69～SP71、土坑SK54・SK57・SK58を確認した。また、平坦地2において、柱穴SP67・溝SD68を確認した。

平坦地1では、礎石及び礎石抜き取り穴S1～S9で礎石建物SB72を構成すると考えられた。また、礎石及び礎石抜き取り穴S10～S53・S63～S64・S66で礎石建物SB73を構成すると考えられた。



第134図 小鷹利城跡 トレンチ位置図



第135図 小鷹利城跡 断面模式図

SB72 と SB73 の柱間はそれぞれ 1.95 m・1.90 m とほぼ同一である。建物間は短いところで 1.95 m であり、SB72 の柱間と同一であるため、同じ建造物の可能性も残る。

第2遺構面は地山上面である。平坦地2の2号トレンチにおいて、SD68 下層より柱穴 SP67 を検出した。

①第2遺構面の遺構

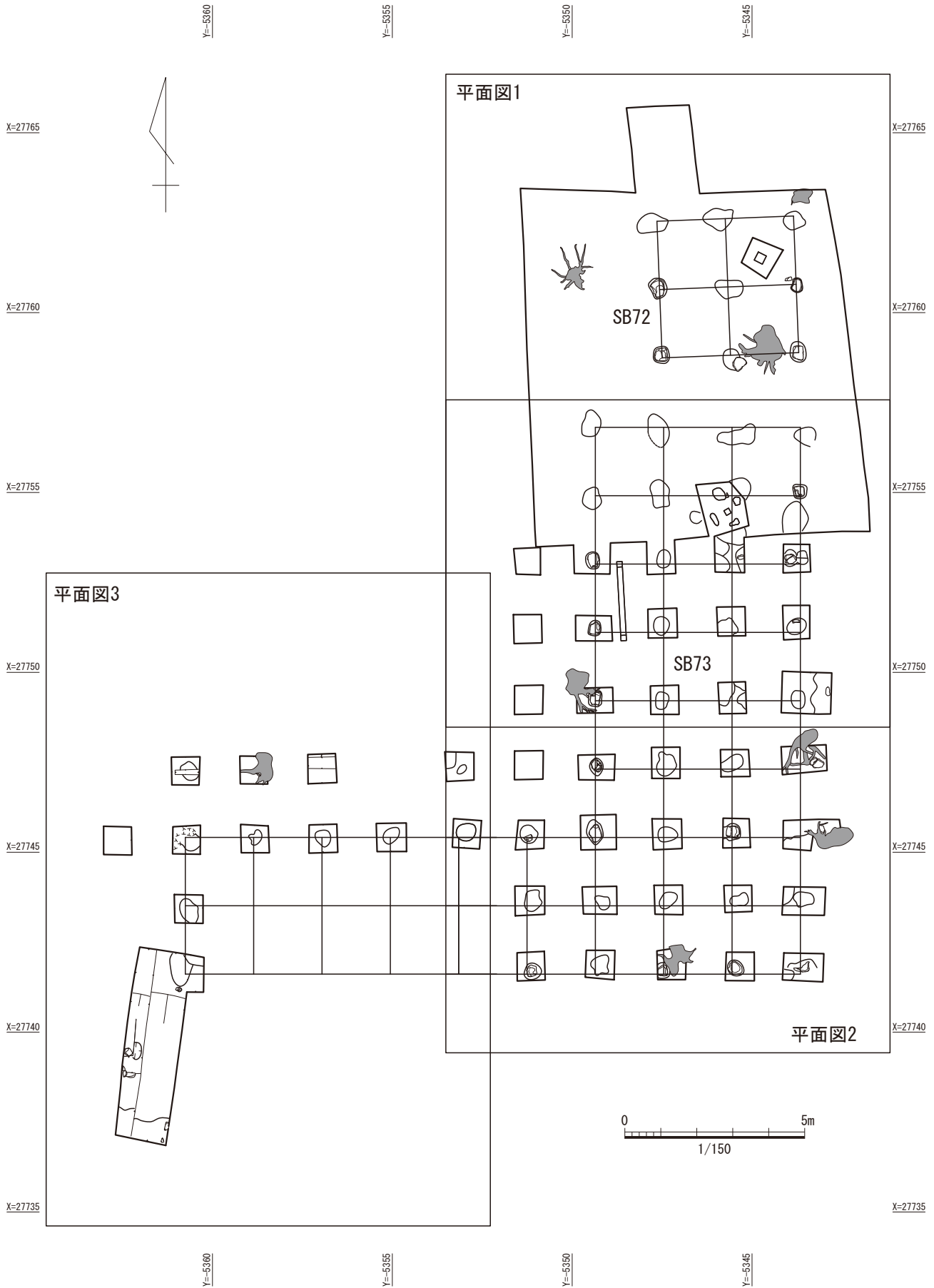
柱穴 SP67 (第136・139・144図) 平坦地2において、SD67の下層に位置し、地山上面から掘り込む。長径0.43m、短径0.16m以上、深さ0.8m以上を測る。SD67埋土をすべて掘削していないため短径を知りえず、また、深さも手が届く範囲までの掘削となったため知りえなかった。

②第1遺構面の遺構 (第65表)

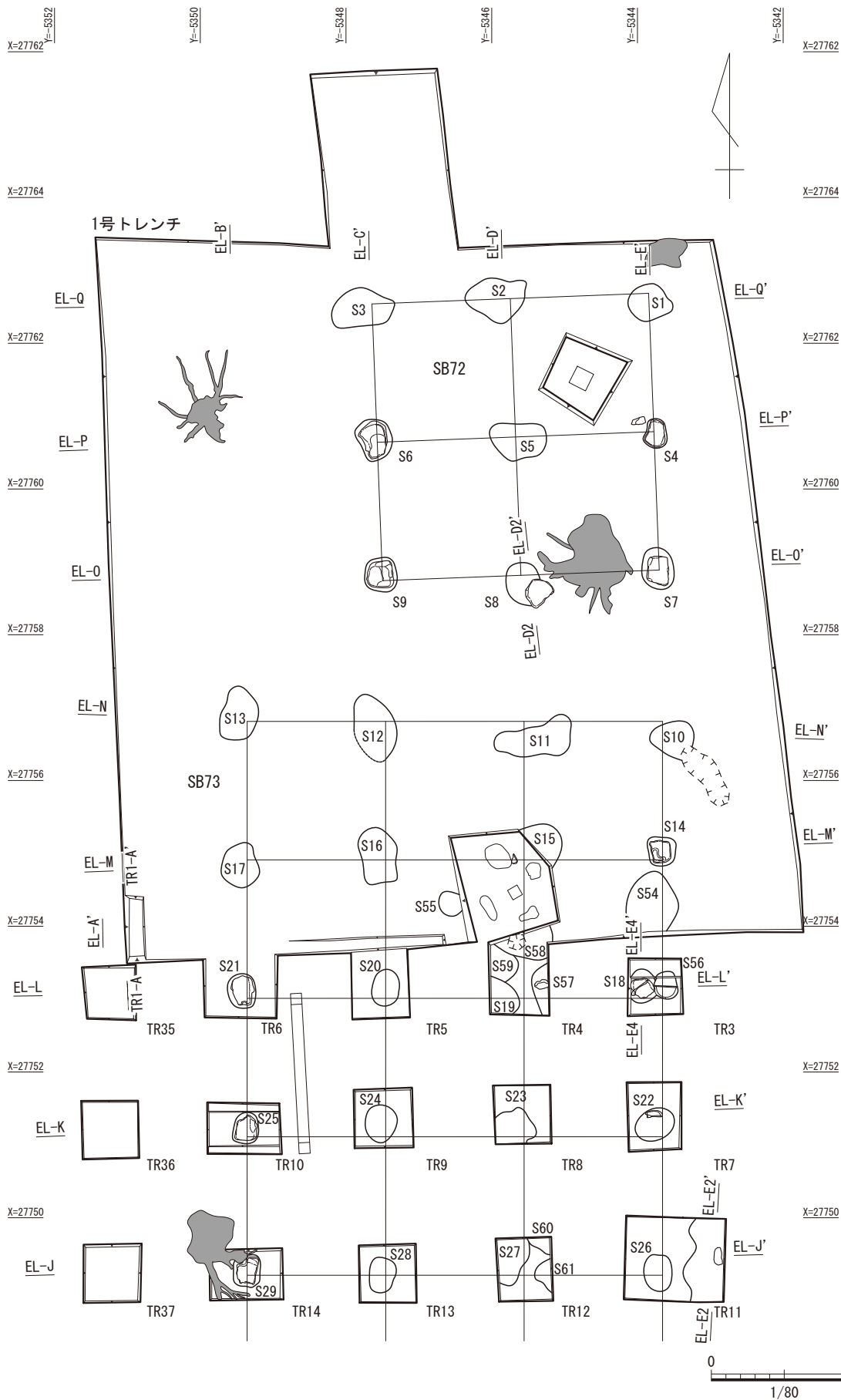
礎石建物 SB72 (第136・137・140・143図) 平坦地1の北側に位置する。礎石及び礎石抜き取り穴 S1～S9 で構成される2間四方の礎石建物である。柱間は1.95m等間である。主軸方位はN-2°-Wを測る。礎石は曲輪造成土に据え付け穴を掘り込んで据えられる。礎石に根石は伴わない。礎石 S4・S6・S9 の3基は礎石が原位置を保つと考えられる。礎石 S8 は地表面に露出していたものであり、原位置から動いていると考えられた。

礎石建物 SB73 (第136～143図) 平坦地1の中央より南・西側に位置する。礎石及び礎石抜き取り穴 S10～S53・S63～S64・S66 にて構成される。3間×8間に2間×5間の張り出し部が取り付く曲屋形状をなす。張り出し部の北西端には、さらに1間分は礎石抜き取り穴 S62・S63 が連続する。柱間は1.90m等間である。主軸方位はN-0°-Eを測る。礎石は曲輪造成土に据え付け穴を掘り込んで据えられる。礎石に根石は伴わない。礎石 S18 は礎石 S56 に切られる。この箇所では先後関係が想定されるが、他の礎石でこのような切り合い関係を確認できない。

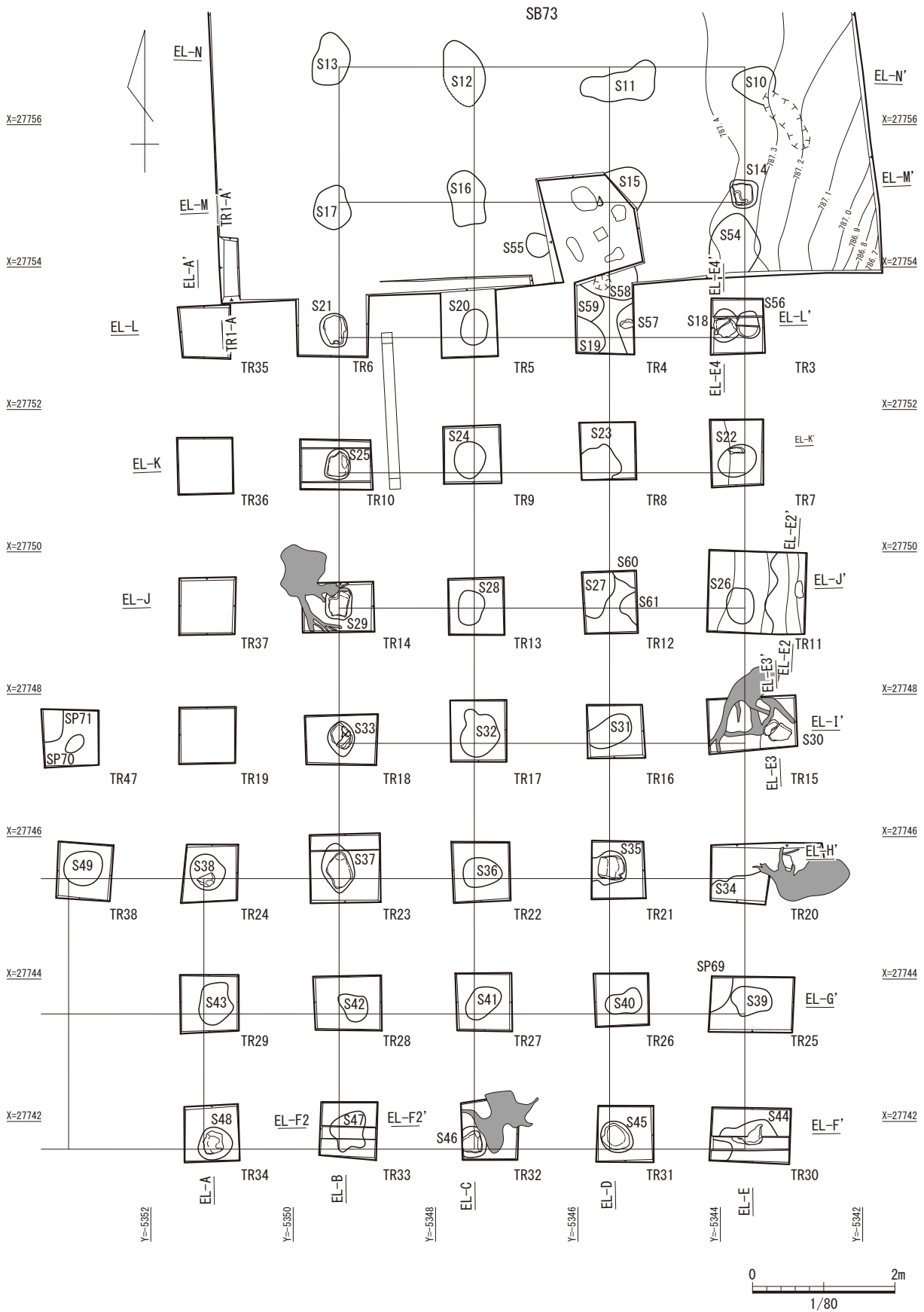
溝 SD68 (第144図) 平坦地2において、平坦地1との間の斜面下に位置する。平坦地2の曲輪造成土上面から掘り込む。幅0.80m、深さ0.12mを測る。東西方向に延びるが、調査区外に及ぶため全長は知りえない。南側上端周辺には20cm大の礫が3石ある。崩落土中に含まれ、原位置を保たないものの、上端には護岸石が施されていた可能性がある。



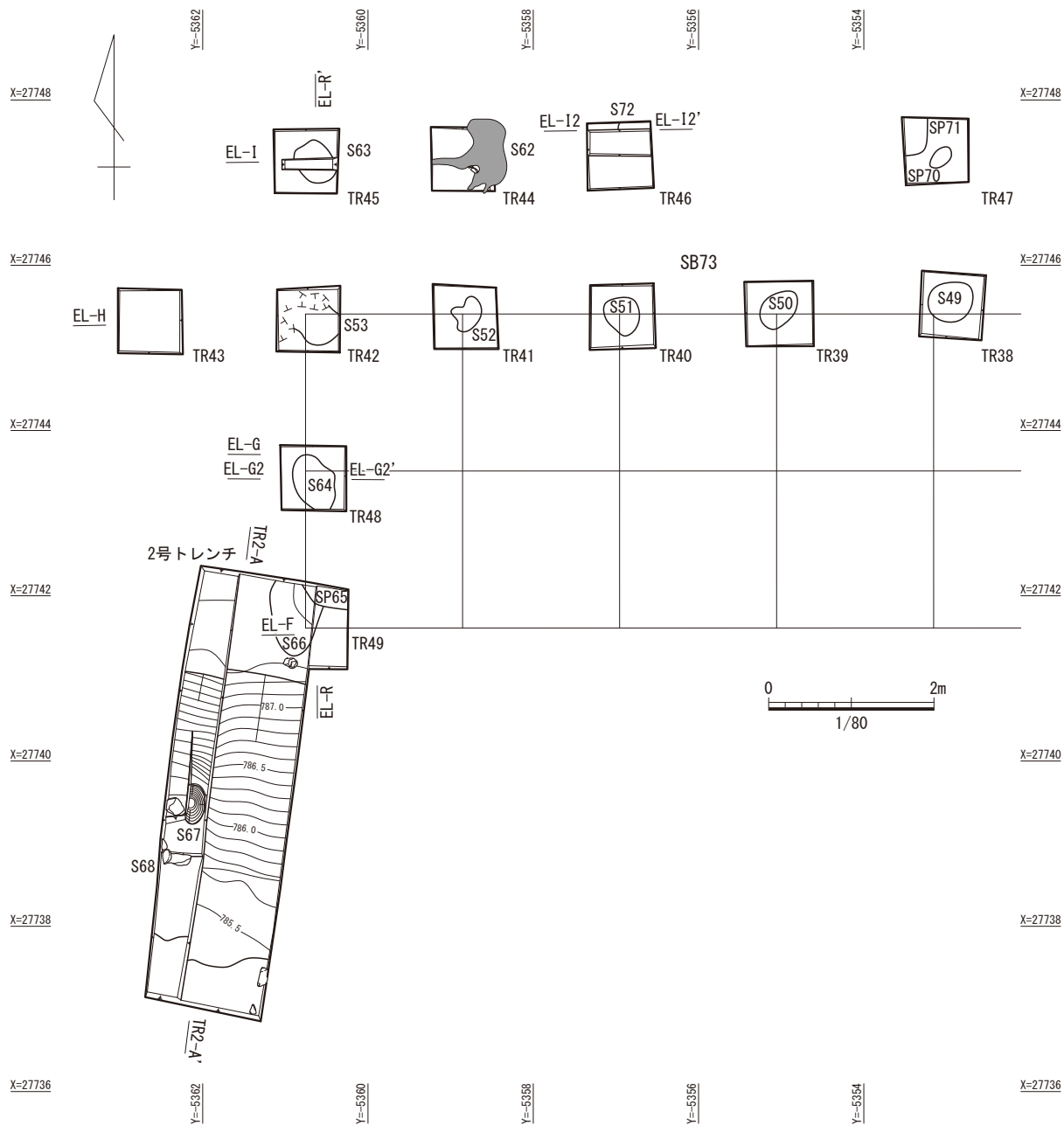
第136図 小鷹利城跡 平面割付図



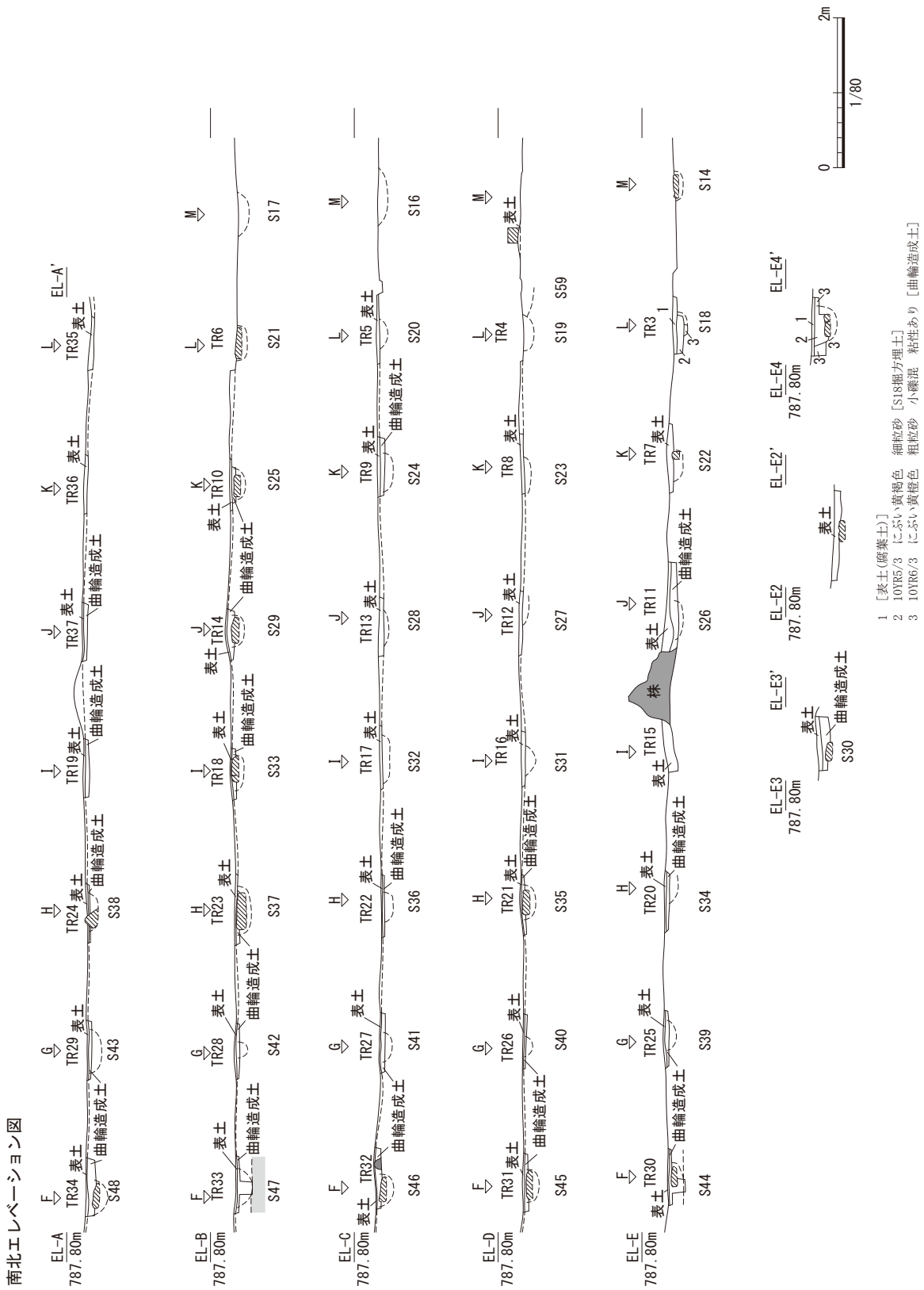
第137図 小鷹利城跡 平面図1



第138図 小鷹利城跡 平面図2

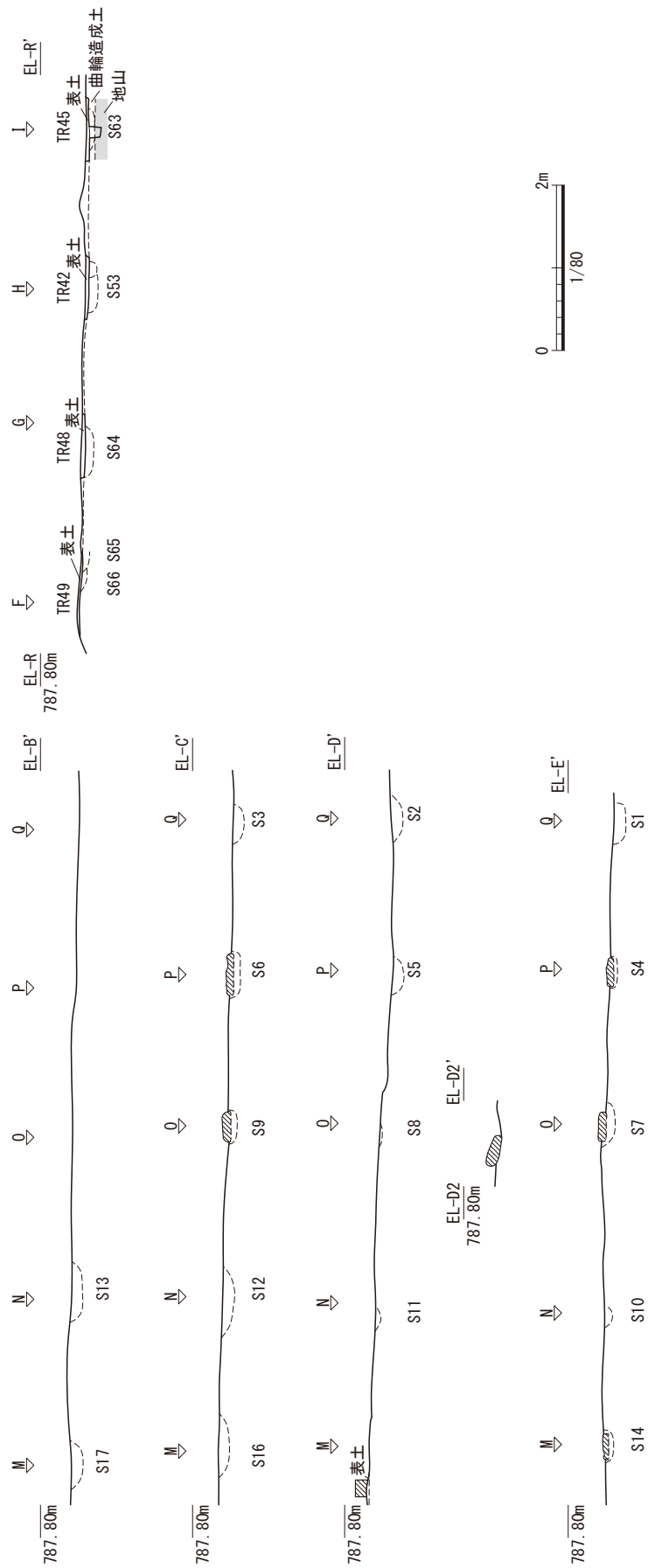


第139図 小鷹利城跡 平面図3



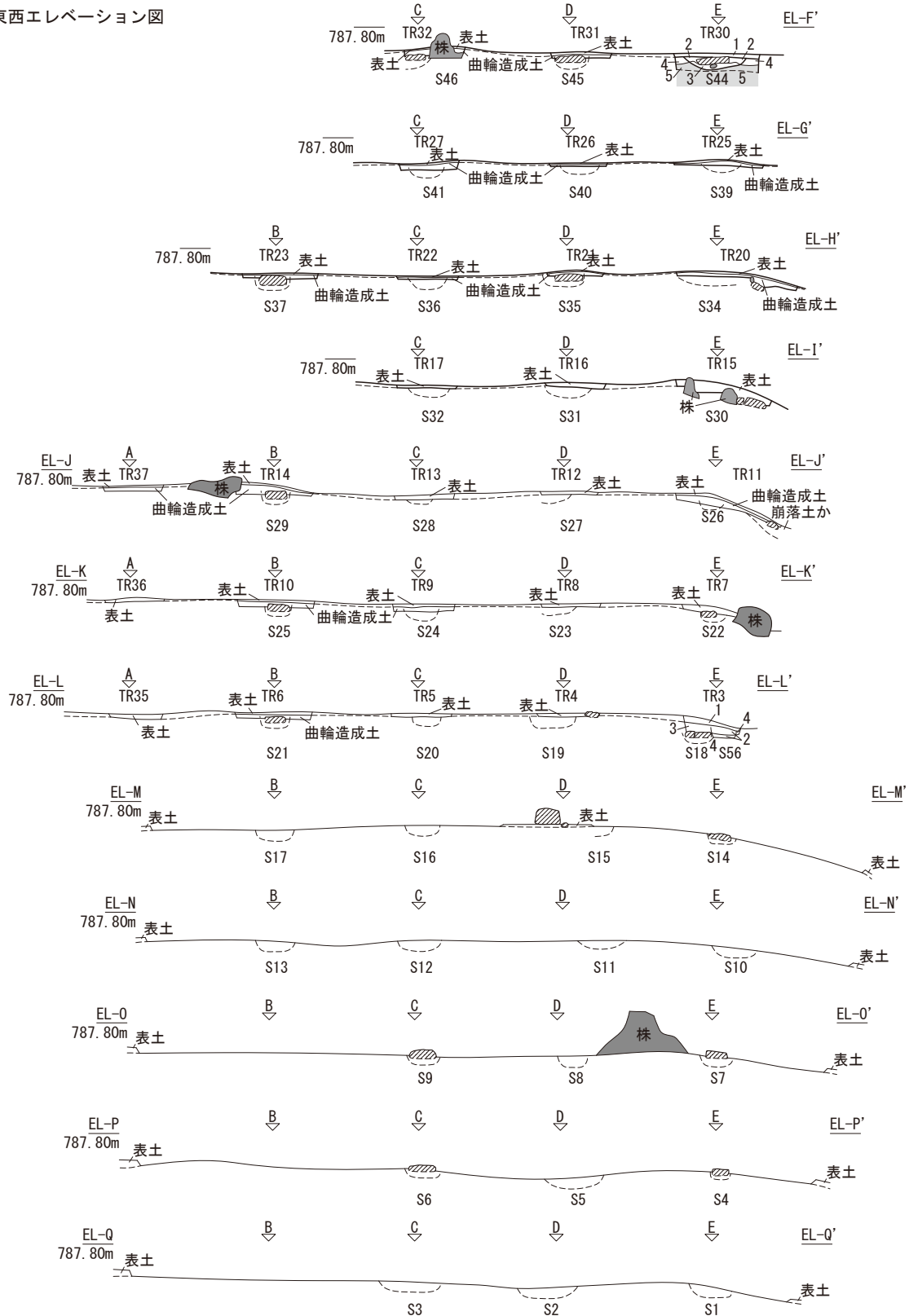
第140図 小鷹利城跡 エレベーション図・断面図1

南北エlevationシオン図



第141図 小鷹利城跡 エlevationシオン図・断面図2

東西エレベーション図

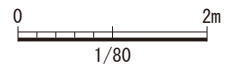


【TR30注記】

- 1 [表土(腐葉土)]
- 2 10YR5/2 灰黄褐色 中粒砂 [S44埋土]
- 3 10YR6/3 にぶい黄橙色 中粒砂 [S44埋土]
- 4 10YR6/3 にぶい黄橙色 粗粒砂 小礫混 粘性あり [曲輪造成土]
- 5 10YR8/6 黄橙色 [地山]

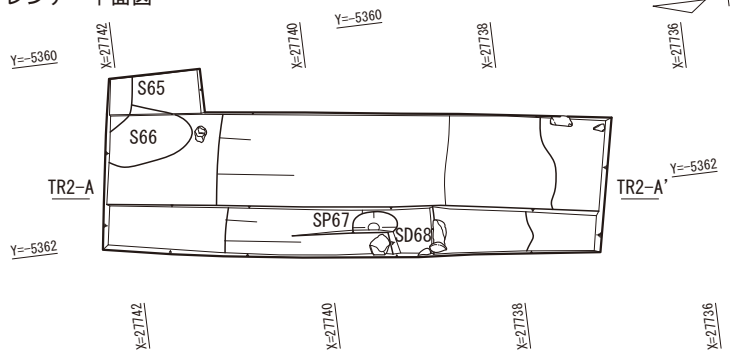
【TR3注記】

- 1 [表土(腐葉土)]
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土 [S56埋土]
- 3 10YR5/3 にぶい黄褐色 細粒砂 [S18埋土]
- 4 10YR6/3 にぶい黄褐色 粗粒砂 小礫混 粘性あり [曲輪造成土]

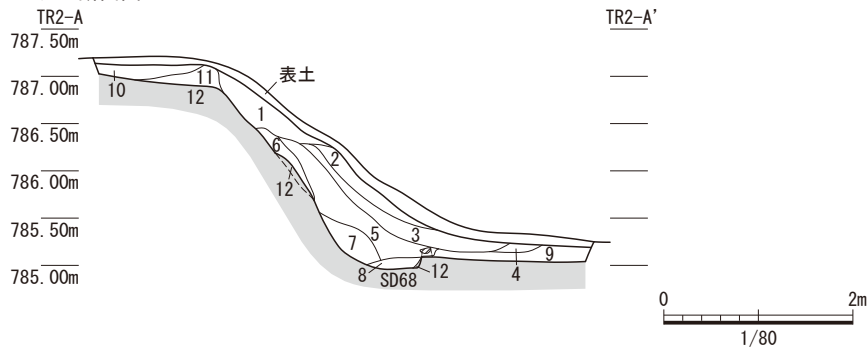


第143図 小鷹利城跡 エレベーション図・断面図4

2号トレンチ 平面図

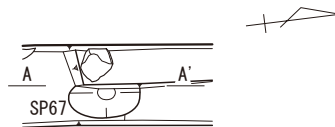


2号トレンチ 断面図

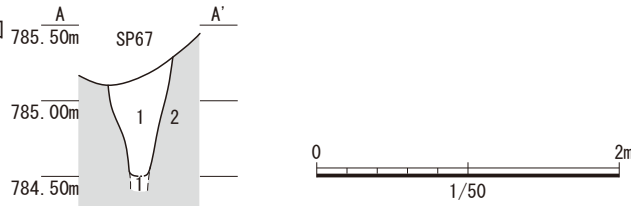


- | | | | | | |
|----|---------|--------|------|-------|-------------|
| 1 | 10YR6/2 | 灰黄褐色 | 粗粒砂 | 小礫混 | [崩落土] |
| 2 | 10YR6/4 | にぶい黄褐色 | 中粒砂 | | [崩落土] |
| 3 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | 極粗粒砂 | | [崩落土] |
| 4 | 10YR6/4 | にぶい黄褐色 | 中粒砂 | 小礫多く混 | [崩落土] |
| 5 | 10YR6/1 | 灰褐色 | 中粒砂 | | [崩落土] |
| 6 | 10YR6/6 | 明黄褐色 | 極粗粒砂 | | [崩落土] |
| 7 | 10YR4/1 | 褐灰色 | 細粒砂 | | [崩落土] |
| 8 | 10YR5/6 | 黄褐色 | 粘質土 | 粘性強い | [SD68埋土] |
| 9 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | 粗粒砂 | | [平坦地2曲輪造成土] |
| 10 | 10YR6/2 | 灰黄褐色 | 中粒砂 | | [平坦地1曲輪造成土] |
| 11 | 10YR7/4 | にぶい黄褐色 | 中粒砂 | 粘性強い | [平坦地1曲輪造成土] |
| 12 | 10YR8/6 | 黄褐色 | 砂礫土 | | [地山] |

SP67平面図



SP67断面図



- | | | | | | |
|---|---------|------|-----|--------|----------|
| 1 | 10YR6/6 | 明黄褐色 | 中粒砂 | しまりわるい | [SP67埋土] |
| 2 | 10YR8/6 | 黄褐色 | 砂礫土 | | [地山] |

第144図 小鷹利城跡 2号トレンチ遺構図

第65表 小鷹利城跡建物計測表

遺構名	遺構面	桁行柱間	桁行 (m)	梁行柱間	梁行 (m)	主軸	備考
礎石建物 SB72	第1	2	3.90	2	3.90	N-2° -W	-
礎石建物 SB73	第1	8	15.20	3	5.70	N-0° -W	2間×5間の張り出し

5 遺物（第145図、第66・69表）

礎石建物 SB72 の礎石抜き取り穴 S47 埋土 鉄釘 161 が出土した。頭部は巻頭形状となる。先端部は欠損している。断面は四角形を呈する。

礎石建物 SB72 検出面 SB72 検出作業中に、瀬戸美濃焼が1点、珠洲焼が1点、青磁が1点出土し、青磁を1点図示した。162は青磁碗である。体部外面に線描き蓮弁文を施す。龍泉窯系 B3 類に属する。

礎石建物 SB73 検出面 SB73 検出作業中に、土師器皿が4点、瀬戸美濃焼が9点、珠洲焼が32点、青磁が5点、白磁が1点、中国製染付磁器が4点出土した。土師器皿2点、瀬戸美濃焼3点、珠洲焼4点、青磁4点、白磁1点、中国製染付磁器2点を図示した。

163・164は土師器皿である。163は体部破片であり、内面が摩滅し、外面にナデ調整が施される。4類に属する。164は内外面摩滅する。

165～167は瀬戸美濃焼である。165は徳利か花瓶の頸部である。胎土は蜜であり、灰黄色を呈する。内外面に鉄釉を施す。二次被熱を受ける。古瀬戸後期のものと考えられる。166・167は祖母懷壺の底部であり、同一個体と考えられる。166は体部外面下方から底部にかけて、167は体部外面下方から底部及び内面に鉄釉を施し、外面底部には錆釉を施す。このため、大窯段階のものと考えられる。

168～170は珠洲焼甕である。168は口縁部である。口縁部が短く屈曲し、端部が丸くおさまる。169・170は体部破片である。

171～174は青磁である。171・172は碗である。体部外面に線描蓮弁文を施し、龍泉窯系 B4 類のものと考えられる。172には内面にも施文が認められる。173は盤である。口縁が外反する。174は稜花皿である。口縁は波状を呈する。

175は白磁の端反碗である。口縁部が外反し、白磁 E 類に属する。

176・177は中国製染付碗の底部高台破片である。

柱穴 珠洲焼2点、鉄釘1点が出土し、鉄釘を図示した。178は鉄釘である。頭部は平らにつぶれ、先端が尖る。断面は円形を呈する。

採集遺物 珠洲焼4点、白磁1点を採集し、白磁1点を図示した。179は白磁皿の体部から底部にかけての破片である。内外面は灰白色を呈し、高台外面の下端は釉を掻き取る。白磁 E 類に属する。

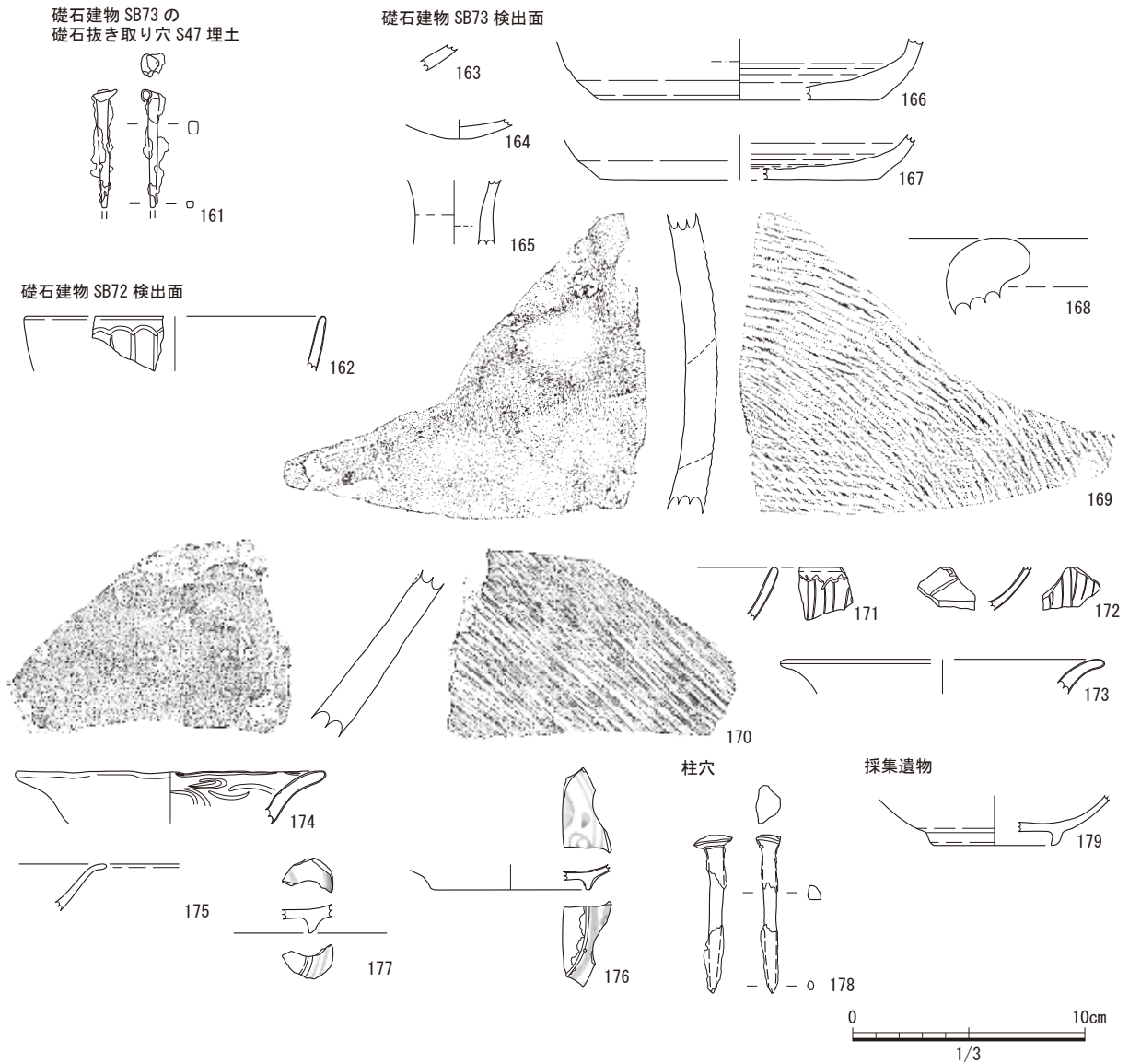
6 特記事項

今回の調査では、遺構面を2面確認した。遺構の分布と変遷について述べる。

小鷹利城 1 期 平坦地 2 において、溝 SD68 の下層に第 2 遺構面の柱穴 SP67 を確認した。年代が分かる遺物等の出土はなかった。

小鷹利城 2 期 平坦地 1 の第 1 遺構面では、2 間四方の礎石建物 SB72、曲屋形状の礎石建物 SB73 が、平坦地 1 の東・南辺を取り囲むように配置される。その検出作業時に、土師器皿 4 類 163、古瀬戸から大窯段階の遺物 165～167、青磁 B3～B4 類、白磁 E 類が出土した。これらの遺物から、礎石建物 SB72・SB73 は古瀬戸後 IV 期（新）～大窯第 1 段階に造られたものと考えられる。平坦地 2 では、平坦地 1 との間の斜面下で溝 SD68 を確認した。

なお、並びが不明な礎石 S56 や柱穴の存在からは、その後の使用も想定することができるが、後の時期の遺物は出土しなかった。



第 145 図 小鷹利城跡 出土遺物図

第 66 表 小鷹利城跡出土遺物一覧表

遺構面	土層	土師器皿						瀬戸美濃					珠洲	青磁	白磁	染付		金属	その他	合計	
		3類	4類	5類	6類	7類	不明	丸皿	端反皿	天目茶碗	すり鉢	その他	壺	碗	稜花皿	碗	碗	碗か皿			
第 1	礎石建物 SB73 抜き取り穴 S47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	礎石建物 SB72 検出	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	3
	礎石建物 SB73 検出	-	1	-	-	-	3	-	-	-	1	8	32	4	1	1	2	2	-	-	55
	柱穴	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	3
近世以降	採集遺物	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	1	-	-	-	-	5	
合計		0	1	0	0	0	3	0	0	0	1	9	39	5	1	2	2	2	2	0	67
		4						10					39	6		2	4		2	0	67

第67表 小鷹利城跡土坑・柱穴等一覧表(1)

遺跡記号	遺構種別	遺構番号	位置		検出面	堆積状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量 (m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)	
			トレンチ	番号						上端		深さ			
										長径	短径				
AKT19	SS	01	TR	1	地山	-	-	不定	-	0.61	0.51	-	にぶい黄橙色中粒砂	10YR6/3	SB72を構成
AKT19	SS	02	TR	1	地山	-	-	不定	-	0.84	0.62	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB72を構成
AKT19	SS	03	TR	1	地山	-	-	不定	-	0.86	0.55	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB72を構成
AKT19	SS	04	TR	1	地山	-	-	不定	-	0.40	0.32	-	にぶい黄橙色中粒砂	10YR6/4	SB72を構成
AKT19	SS	05	TR	1	地山	-	-	不定	-	0.78	0.51	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB72を構成
AKT19	SS	06	TR	1	地山	-	-	不定	-	0.57	0.51	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SB72を構成
AKT19	SS	07	TR	1	地山	-	-	円	-	0.57	0.44	-	にぶい黄橙色中粒砂	10YR6/4	SB72を構成
AKT19	SS	08	TR	1	地山	-	-	円	-	0.59	0.46	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	SB72を構成
AKT19	SS	09	TR	1	地山	-	-	円	-	0.47	0.44	-	灰黄褐色中粒砂	10YR4/2	SB72を構成
AKT19	SS	10	TR	1	地山	-	-	不定	-	0.60	0.54	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SB73を構成
AKT19	SS	11	TR	1	地山	-	-	不定	-	1.05	0.58	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SB73を構成
AKT19	SS	12	TR	1	地山	-	-	不定	-	0.92	0.58	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	SB73を構成
AKT19	SS	13	TR	1	地山	-	-	不定	-	0.73	0.53	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	SB73を構成
AKT19	SS	14	TR	1	地山	-	-	方	-	0.40	0.39	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	SB73を構成
AKT19	SS	15	TR	1	地山	-	-	円	-	0.60	0.59	-	褐灰色粗粒砂	10YR4/1	SB73を構成
AKT19	SS	16	TR	1	地山	-	-	不定	-	0.78	0.53	-	褐灰色粗粒砂	10YR4/1	SB73を構成
AKT19	SS	17	TR	1	地山	-	-	不定	-	0.62	0.52	-	褐灰色粗粒砂	10YR4/1	SB73を構成
AKT19	SS	18	TR	3	地山	-	播鉢	円	円	0.46	0.35	0.20	にぶい黄褐色細粒砂	10YR5/3	SB73を構成
AKT19	SS	19	TR	4	地山	-	-	円	-	0.51	0.39	-	灰黄褐色中粒砂	10YR4/2	SB73を構成
AKT19	SS	20	TR	5	地山	-	-	円	-	0.50	0.38	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR4/3	SB73を構成
AKT19	SS	21	TR	6	地山	-	-	円	-	0.47	0.38	-	灰黄褐色中粒砂	10YR4/2	SB73を構成
AKT19	SS	22	TR	7	地山	-	-	円	-	0.53	0.45	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB73を構成
AKT19	SS	23	TR	8	地山	-	-	不定	-	0.56	0.48	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB73を構成
AKT19	SS	24	TR	9	地山	-	-	円	-	0.51	0.44	-	灰黄褐色粗粒砂	10YR4/2	SB73を構成
AKT19	SS	25	TR	10	地山	-	-	円	-	0.42	0.35	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR5/3	SB73を構成
AKT19	SS	26	TR	11	地山	-	-	円	-	0.50	0.38	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB73を構成
AKT19	SS	27	TR	12	地山	-	-	不定	-	0.60	0.40	-	灰黄褐色中粒砂	10YR6/2	SB73を構成
AKT19	SS	28	TR	13	地山	-	-	円	-	0.48	0.36	-	黒褐色粗粒砂	10YR3/1	SB73を構成
AKT19	SS	29	TR	14	地山	-	-	円	-	0.44	0.37	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR5/3	SB73を構成
AKT19	SS	30	TR	15	地山	-	-	円	-	0.39	0.29	-	褐灰色中粒砂	10YR6/1	SB73を構成
AKT19	SS	31	TR	16	地山	-	-	円	-	0.59	0.48	-	黒褐色粗粒砂	10YR3/1	SB73を構成
AKT19	SS	32	TR	17	地山	-	-	不定	-	0.66	0.55	-	黒褐色粗粒砂	10YR3/1	SB73を構成
AKT19	SS	33	TR	18	地山	-	-	円	-	0.49	0.37	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR5/3	SB73を構成
AKT19	SS	34	TR	20	地山	-	-	不定	-	0.68	0.34	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB73を構成
AKT19	SS	35	TR	21	地山	-	-	不定	-	0.47	0.47	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB73を構成
AKT19	SS	36	TR	22	地山	-	-	円	-	0.54	0.41	-	黒褐色粗粒砂	10YR3/1	SB73を構成
AKT19	SS	37	TR	23	地山	-	-	不定	-	0.69	0.46	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR5/3	SB73を構成
AKT19	SS	38	TR	24	地山	-	-	円	-	0.50	0.49	-	黒褐色粗粒砂	10YR3/1	SB73を構成
AKT19	SS	39	TR	25	地山	-	-	不定	-	0.57	0.42	-	黒褐色粗粒砂	10YR3/1	SB73を構成、炭化物含む。
AKT19	SS	40	TR	26	地山	-	-	不定	-	0.51	0.36	-	黒褐色粗粒砂	10YR3/1	SB73を構成
AKT19	SS	41	TR	27	地山	-	-	円	-	0.49	0.46	-	黒褐色粗粒砂	10YR3/1	SB73を構成、炭化物含む。
AKT19	SS	42	TR	28	地山	-	-	不定	-	0.41	0.38	-	黒褐色粗粒砂	10YR3/1	SB73を構成、炭化物含む。
AKT19	SS	43	TR	29	地山	-	-	不定	-	0.59	0.48	-	黒褐色粗粒砂	10YR3/1	SB73を構成、炭化物含む。
AKT19	SS	44	TR	30	地山	-	播鉢	不定	-	0.81	0.40	0.12	灰黄褐色中粒砂 にぶい黄褐色中粒砂	10YR5/2 10YR6/3	SB73を構成
AKT19	SS	45	TR	31	地山	-	-	円	-	0.45	0.43	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	SB73を構成、土師器皿
AKT19	SS	46	TR	32	地山	-	-	円	-	0.43	0.33	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SB73を構成
AKT19	SS	47	TR	33	地山	-	播鉢	不定	-	0.57	0.49	0.21	黒褐色細粒砂 にぶい黄褐色極細粒砂	10YR3/2 10YR7/4	SB73を構成、炭化物含む。
AKT19	SS	48	TR	34	地山	-	-	円	-	0.48	0.46	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SB73を構成、炭化物含む。
AKT19	SS	49	TR	38	地山	-	-	円	-	0.54	0.48	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB73を構成
AKT19	SS	50	TR	39	地山	-	-	円	-	0.46	0.45	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB73を構成
AKT19	SS	51	TR	40	地山	-	-	円	-	0.46	0.43	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB73を構成
AKT19	SS	52	TR	41	地山	-	-	不定	-	0.42	0.36	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB73を構成
AKT19	SS	53	TR	42	地山	-	-	不定	-	0.53	0.48	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB73を構成
AKT19	SX	54	TR	1	地山	-	-	不定	-	0.86	0.72	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SB73を構成
AKT19	SP	55	TR	1	地山	-	-	円	-	0.34	0.32	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB73を構成
AKT19	SP	56	TR	3	-	-	半円	-	円	0.37	0.32	0.10	にぶい黄褐色粘土	10YR5/4	SB73を構成

第68表 小鷹利城跡土坑・柱穴等一覧表(2)

遺跡記号	遺構種別	遺構番号	位置		検出面	堆積状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量 (m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)	
			トレンチ	番号						上端		深さ			
										長径	短径				
AKT19	SP	57	TR	4	地山	-	-	不定	-	0.70	0.21	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR5/3	SB73を構成
AKT19	SP	58	TR	4	地山	-	-	円	-	0.80	0.47	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR7/4	SB73を構成
AKT19	SP	59	TR	4	地山	-	-	円	-	0.42	0.38	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB73を構成
AKT19	SP	60	TR	12	地山	-	-	不定	-	0.31	0.22	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB73を構成
AKT19	SP	61	TR	12	地山	-	-	不定	-	0.46	0.23	-	灰黄褐色中粒砂	10YR6/2	SB73を構成
AKT19	SS	62	TR	44	地山	-	-	-	-	0.09	0.06	-	-	-	SB73を構成、礎石カ
AKT19	SP	63	TR	45	地山	-	播鉢	円	-	0.52	0.51	0.10	灰黄褐色中粒砂 にぶい黄褐色粗粒砂	10YR4/2 10YR6/3	SB73を構成
AKT19	SS	64	TR	48	地山	-	-	不定	-	0.65	0.51	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB73を構成
AKT19	SP	65	TR	2	地山	-	-	不定	-	0.54	0.30	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SB73を構成
AKT19	SS	66	TR	2	地山	-	-	方	-	0.64	0.62	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB73を構成
AKT19	SP	67	TR	2	崩落土	単	播鉢	円	-	0.47	0.23	0.80	明黄褐色中粒砂	10YR6/6	SB73を構成
AKT19	SD	68	TR	2	地山	中央凹	半円	不定	-	0.80	0.20	0.10	黄褐色粘質土	10YR5/6	-
AKT19	SP	69	TR	25	地山	-	-	円	-	0.48	0.31	-	黒褐色粗粒砂	10YR3/1	-
AKT19	SP	70	TR	47	地山	-	-	円	-	0.26	0.25	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	-
AKT19	SP	71	TR	47	地山	-	-	方	-	0.44	0.11	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	-
AKT19	SS	72	TR	46	曲輪造成土	単	半円	-	-	0.40	0.10	0.12	灰黄褐色中粒砂	10YR4/2	-

第69表 小鷹利城跡出土遺物観察表

遺物番号	層位	トレンチ	種別	器種	法量 (cm、括弧内は推定)			色調			成形・文様等	挿図番号	図版番号
					口径	底径	器高	内面	外面	断面			
161	S47埋土	33	金属製品	釘	5.1	1.0	0.4	2.5YR8/3 淡黄色	2.5YR8/3 淡黄色	2.5YR8/3 淡黄色	-	145	-
162	SB1検出面	1	青磁	碗	13.0	-	2.4	10Y5/1 灰色	5Y4/1 灰色	7.5YR4/2 灰褐色	外面連弁文 内外面施釉 龍泉窯系 B3 類	145	37
163	SB2検出面	45	土師器	皿	-	-	1.1	10YR7/3 にぶい黄 橙	10YR7/4 にぶい黄 橙	10YR4/1 褐灰色	外面ナデ 内面摩滅のため調整不明 4類	145	37
164	SB2検出面	1	土師器	皿	-	-	0.9	5Y7/3 浅黄色	5Y7/3 浅黄色	2.5Y8/3 淡黄	内外面摩滅のため調整不明	145	-
165	SB2検出面	26	瀬戸美濃	徳利か花瓶	-	-	2.8	10Y8/1 灰白色	10Y8/1 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	内外面鉄釉 古瀬戸後期	145	-
166	SB2検出面	25	瀬戸美濃	壺	-	(12.0)	2.7	7.5YR7/4 にぶい橙 色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/3 にぶい橙 色	内外面回転ナデ 鉄 釉 祖母懷壺 大窯段階 167と同一個体	145	-
167	SB2検出面	16	瀬戸美濃	壺	-	12.0	1.9	2.5YR6/2 灰黄	2.5YR7/2 灰黄	7.5YR7/4 にぶい橙 色	内外面回転ナデ 鉄 釉 祖母懷壺 大窯段階 166と同一個体	145	37
168	SB2検出面	14	珠洲焼	甕	-	-	3.3	7.5YR8/4 浅黄色	7.5YR8/4 浅黄色	7.5YR8/4 浅黄色	内外面ナデ	145	-
169	SB2検出面	32	珠洲焼	甕	-	-	12.8	10YR5/1 褐灰色	N6/1 灰色	10YR5/1 褐灰色	外面平行タタキ 内面ナ デ 当て具痕	145	37
170	SB2検出面	13	珠洲焼	甕	-	-	6.6	10Y6/1 灰色	2.5GT6/0 灰色	10Y6/1 灰色	外面平行タタキ 内面ナ デ	145	-
171	SB2検出面	5	青磁	碗	-	-	2.25	5Y6/3 オリーブ黄 色	7.5Y6/3 オリーブ 黄色	5Y8/1 灰白色	内外面貫入 青磁釉 外 面線描連弁文 龍泉窯系 B4 類	145	-
172	SB2検出面	1	青磁	碗	-	-	1.8	7.5Y6/3 オリーブ 黄色	7.5Y6/3 オリーブ 黄色	7.5Y8/1 灰白色	内外面貫入 青磁釉 外 面線描連弁文 龍泉窯系 B4 類	145	-
173	SB2検出面	43	青磁	盤	(14.0)	-	1.5	5Y6/2 灰オリーブ 色	5Y6/2 灰オリーブ 色	5Y8/1 灰白色	-	145	-
174	SB2検出面	43	青磁	皿	(13.4)	-	2.3	7.5GY7/1 明オリー ブ灰色	7.5GY7/1 明オリー ブ灰色	2.5Y7/2 灰黄色	内面文様 稜花皿	145	-
175	SB2検出面	24	白磁	碗	-	-	2.0	10Y8/1 灰白色	10Y8/1 灰白色	10Y8/1 灰白色	内外面施釉 白磁 E 類	145	37
176	SB2検出面	42	染付	碗か皿	-	6.5	1.1	2.5GY8/1 灰白色	7.5Y8/1 灰白色	5Y8/1 灰白色	内外面透明釉 染付文様 あり 削り出し高台 高 台周辺に降灰 二次被熱	145	37
177	SB2検出面	26	染付	碗か皿	-	-	1.25	N8/0 灰白色	N8/0 灰白色	N8/0 灰白色	内外面太線描文 透明釉 削り出し高台	145	-
178	柱穴	55	金属製品	釘	6.8	1.65	0.6	-	-	-	-	145	37
179	採集遺物	2	白磁	碗	-	5.8	2.2	7.5Y8/1 灰白色	7.5Y8/1 灰白色	7.5Y8/1 灰白色	白磁 E 類	145	37

第6節 向小島城跡

1 調査の目的

測量調査により、主郭と考えられた最も広い平坦地において、遺構の有無と遺物による山城の使用年代の把握を目的として試掘確認調査を行った。

2 調査の概要（第146図）

2019年度、最も広い平坦地を平坦地1とし、その南北方向の斜面にかけて1号トレンチを設定した。また、平坦地1に西接する平坦地を平坦地2とし、平坦地1から平坦地2にかけて2号トレンチを設定した。調査では、上層より、腐葉土、造成土、斜面の造成土、地山の順で堆積することを確認した。造成土は、地山上面の凹凸を埋めるように分布する。

遺構は、造成土上面で柱穴・土坑等を確認した。遺物は土師器皿、瀬戸美濃焼等が出土した。

3 基本層序（第147・148図）

腐葉土 平坦地1、平坦地2、斜面を覆う現代までの自然堆積土層である。

崩落土 平坦地1と平坦地2の間の斜面に堆積する。

造成土 平坦地1及び平坦地2を覆う造成土層である。1・2号トレンチ全面で確認できる。当層から柱穴や土坑が掘り込まれるため、当層の上面を遺構面として調査を行った。

斜面の造成土 山の斜面に対して、平坦地を造るために盛土を施した土層である。平坦地1の南側斜面において、当層で据えられる石垣SV69を確認した。当層で自然傾斜地に盛土した後、造成土で平坦地を造っているため、造成土と同時期と考えられる。平坦地1の南側斜面では急峻な斜面を造成するのに対し、北側斜面は緩斜面を造成する。

旧表土 自然傾斜地に元々堆積していた表土である。

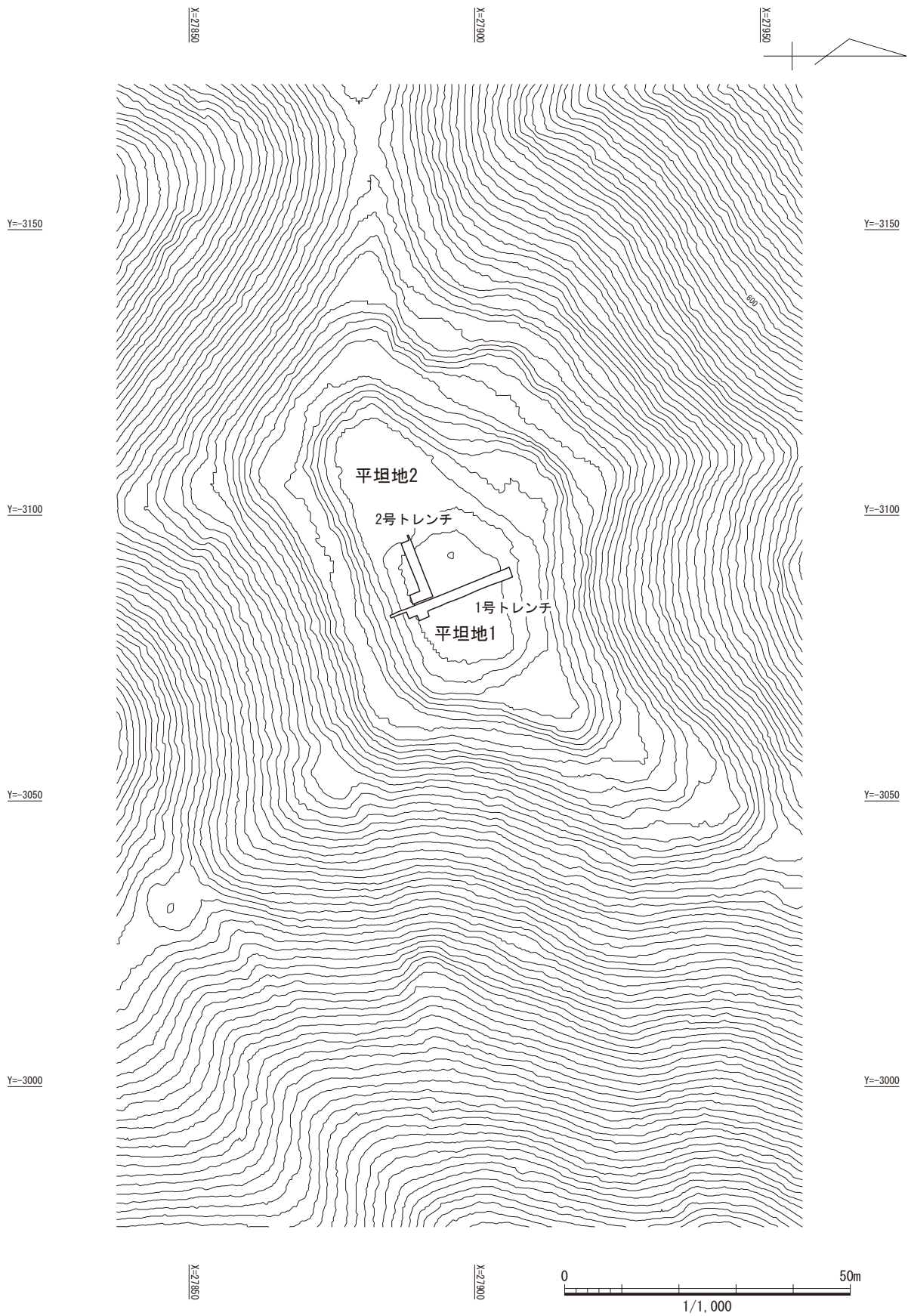
地山 この山一帯の基盤層である。黄橙色の砂礫層であり、非常にしまりがよい。当層の上面から掘り込む遺構は確認しなかった。

4 遺構（第向149～152図、第73・74表）

遺構面は造成土上面である。遺構は掘立柱建物を構成する柱穴や土坑、溝、石垣等を確認した。平坦地1では、柱穴が並んで建造物が想定される掘立柱建物SB68と柵列SA66を確認した。ともに主軸方位が平坦地1の南辺上端と一致する。また、平坦地2において、平坦地1との間の斜面下に溝SD67を確認した。1号トレンチの柱穴SP12・13、2号トレンチの柱穴SP20・21、SP28・29、SP33・34、土坑SK43・SP56、SP57・58は切り合い関係があり、建物に建て替えがあった可能性が想定される。

掘立柱建物SB68（第153図、第70表） 2号トレンチにおいて、平坦地1の西側で確認した。SP42・45・48・51・53の5基で構成される。東西方向の並びは確認できたが南北方向は調査区範囲外に及ぶ。柱間は東から、1.50 m、1.25 m、0.6 m、1.00 mである。主軸方位はN-25° -Eを測る。

柵列SA66（第153図、第71表） 1号トレンチにおいて、平坦地1の南辺上端に沿って位置する。柱穴SP15・65の2基で構成される。調査区範囲外に及ぶものと想定された。柱間は1.20 mである。主軸方位はN-24° -Eを測る。なお、平坦地1の南辺に位置する柵列SA66は、西辺では掘立柱建物

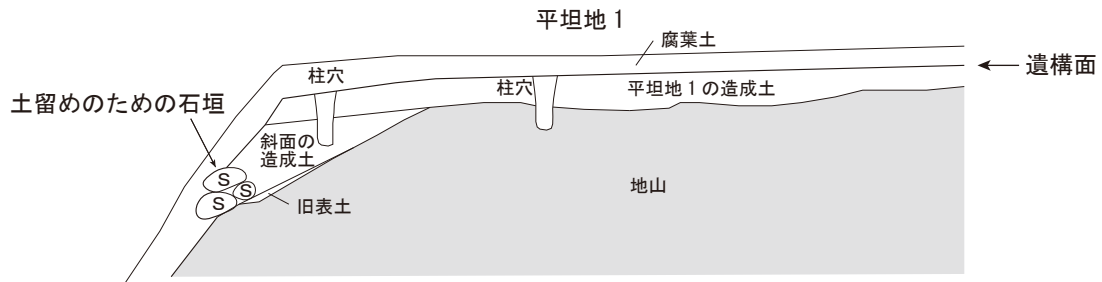


第146図 向小島城跡 トレンチ位置図

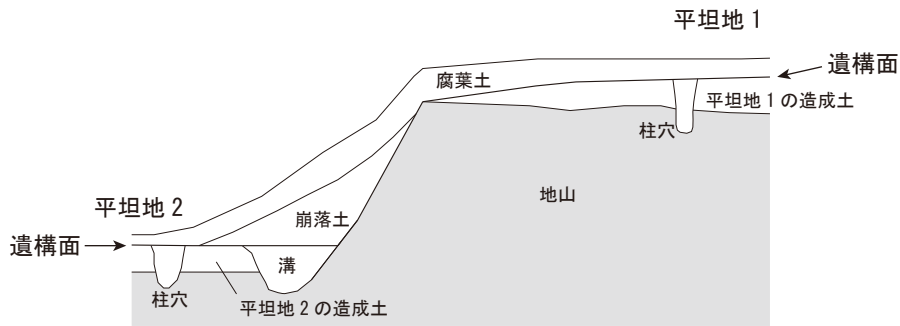
SB68 の SP53 に接続する可能性が想定される。さらに北辺では SP61 が対応する可能性を想定したが、連続する柱穴を確認することができなかった。

石垣 SV69 (第 153 図、第 72 表) 1号トレンチの南端において、切岸造成土中に確認した。自然傾斜地の旧表土上に位置する。傾斜角 50° を測る。調査では、幅 0.5 m のサブトレンチで、高さ 0.6 m を確認した。東西側への延長は明らかでない。最大の石材の大きさは、幅 40 cm、奥行き 40 cm、高さ 23 cm を測る。石材は砂岩である。斜面の造成土を土留めする役割を持つと考えられる。

溝 SD67 平坦地 2 において、平坦地 1 との間の斜面下に位置する。平坦地 2 の曲輪造成土上面から掘り込む。幅 0.64 m、深さ 0.15 m を測る。南北方向に延びるが、調査区外に及ぶため全長は知りえない。



第 147 図 向小島城跡 1号トレンチ断面模式図



第 148 図 向小島城跡 2号トレンチ断面模式図

第 70 表 向小島城跡建物計測表

遺構名	遺構面	桁柱間	桁行 (m)	梁柱間	梁行 (m)	主軸	備考
掘立柱建物 SB68	第 1	4	4.35	-	-	N-25° -W	調査区外に及ぶ

第 71 表 向小島城跡柵列計測表

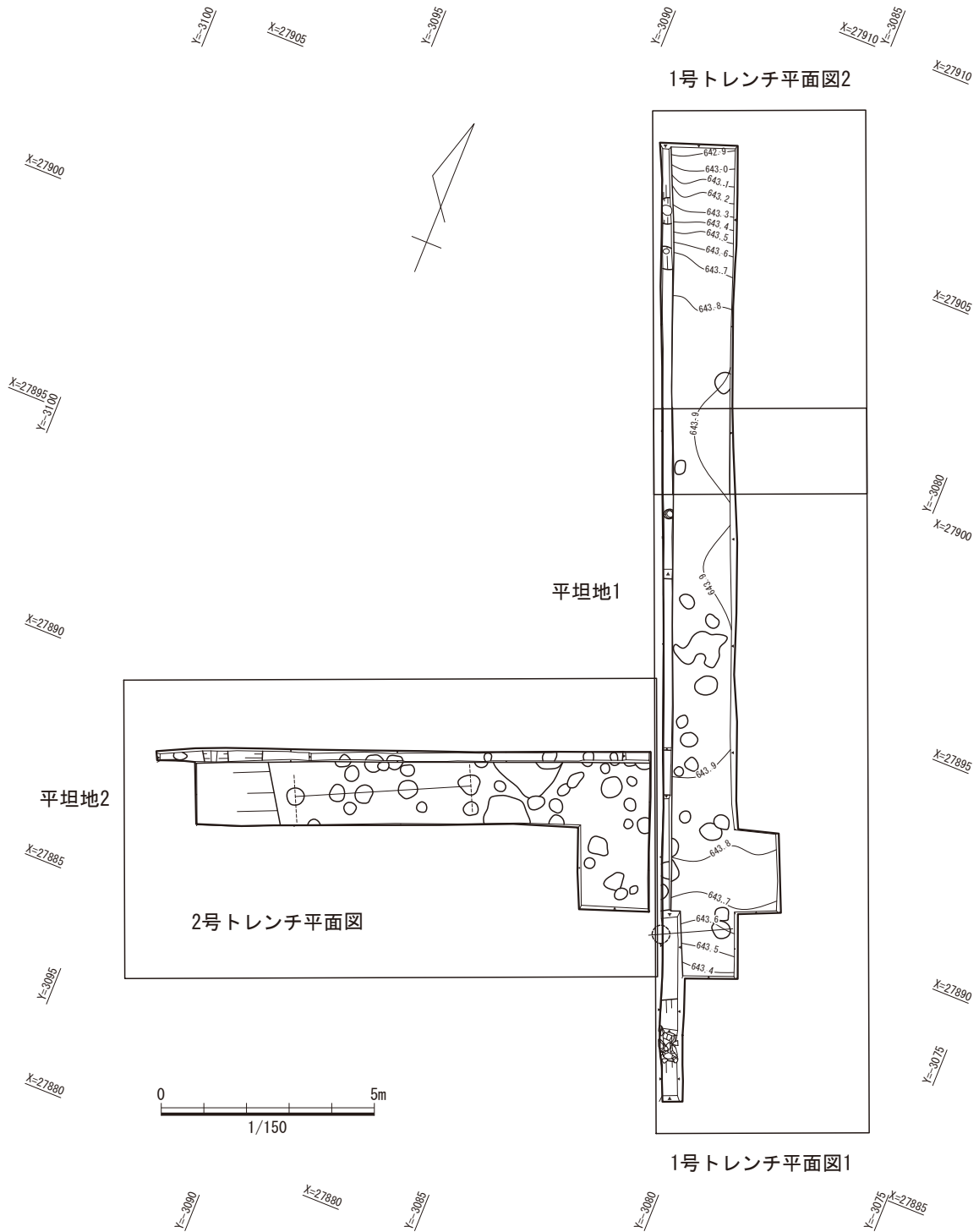
遺構名	遺構面	総長柱間	総長 (m)	主軸	備考
柵列 SA66	第 1	(1)	1.2	N-24° -W	-

※ () 数値は検出長を示す

第 72 表 向小島城跡石垣計測表

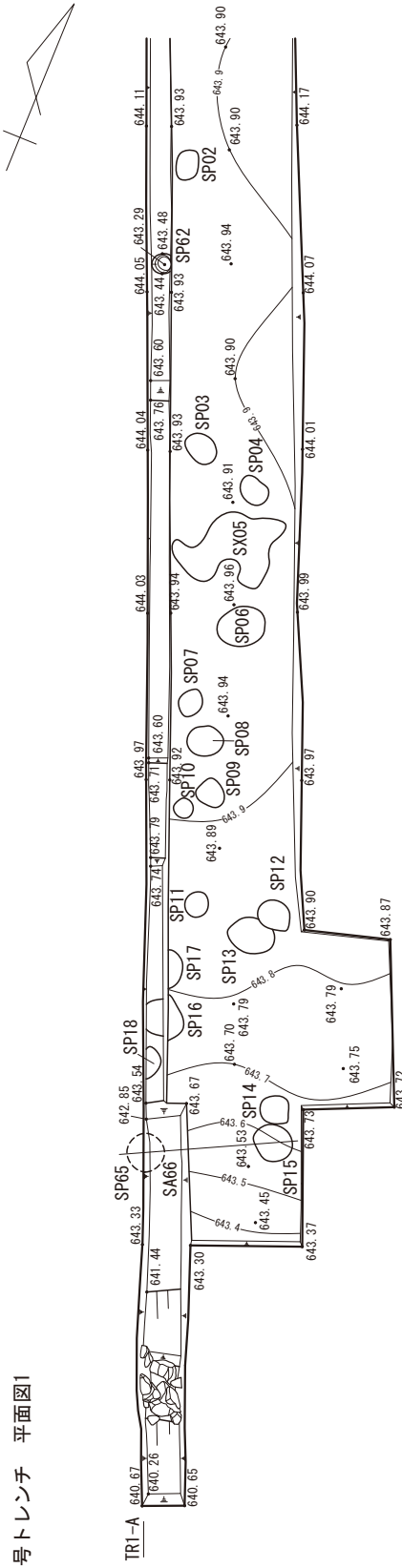
遺構名	位置	遺構面	全長	高さ	傾斜角	裏込め	間詰石	備考
石垣 SV69	切岸	第 1	(0.5)	0.6	50°	無	無	-

※ () 数値は検出長を示す

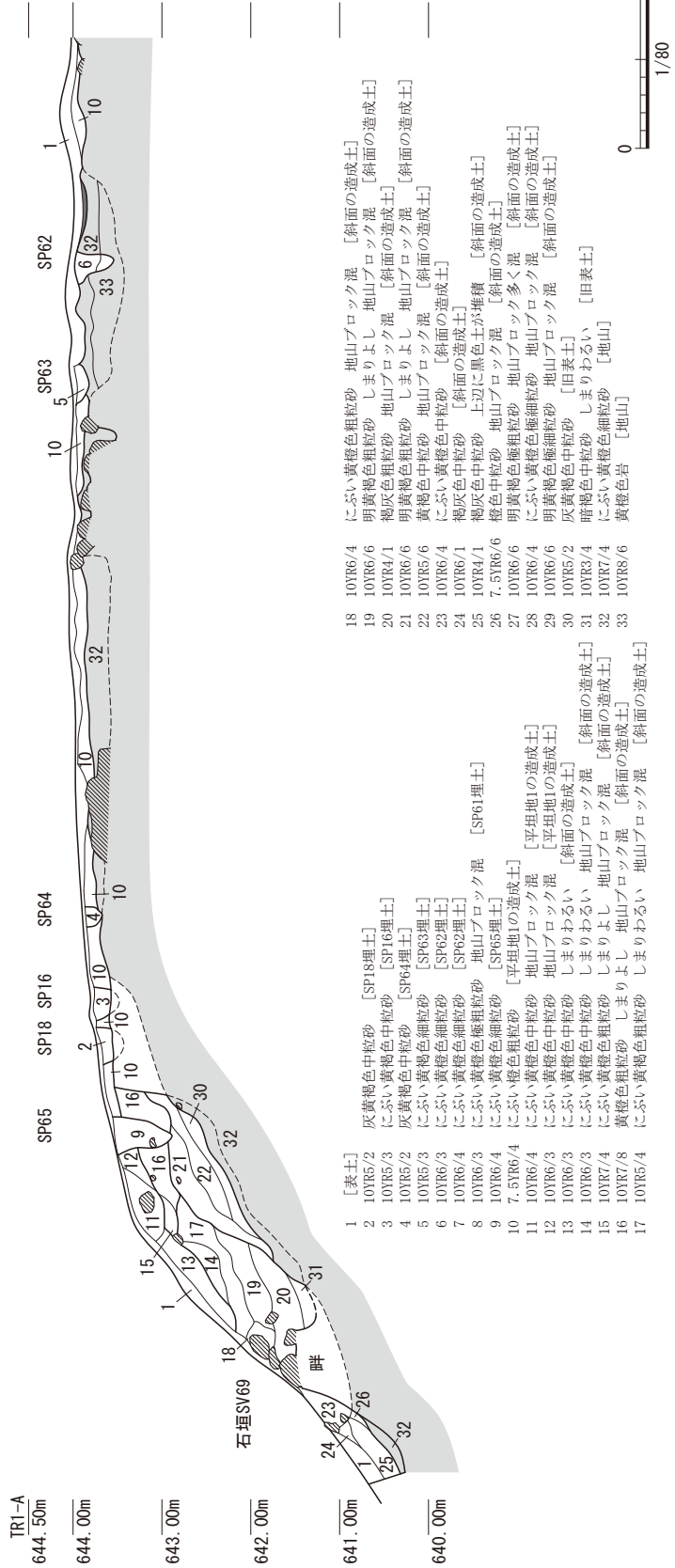


第149図 向小島城跡 平面割付図

1号トレンチ 平面図1

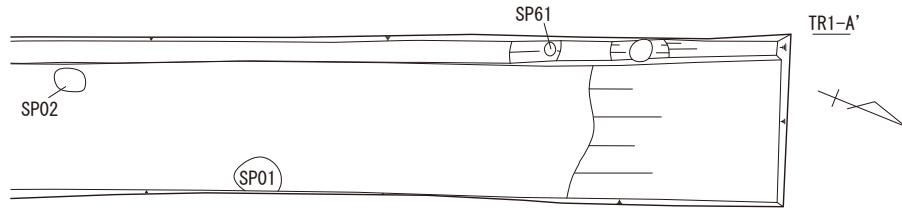


1号トレンチ 断面図1

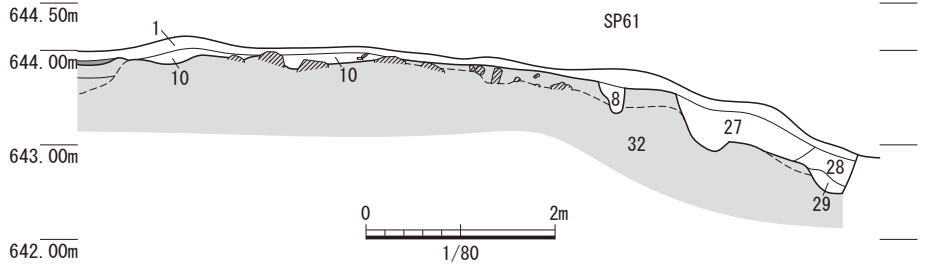


第150図 向小島城跡 1号トレンチ遺構図1

1号トレンチ 平面図2

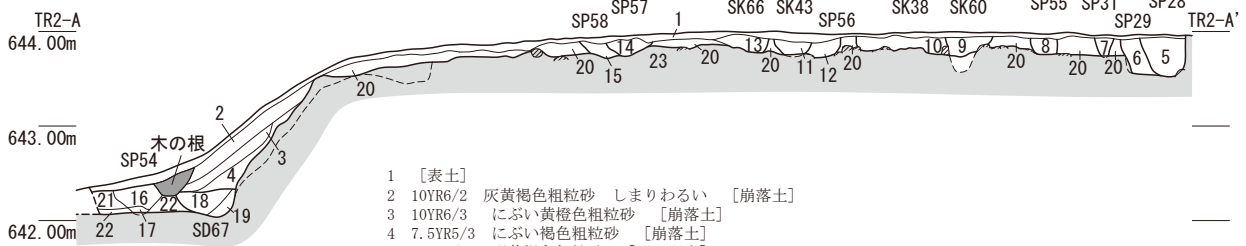
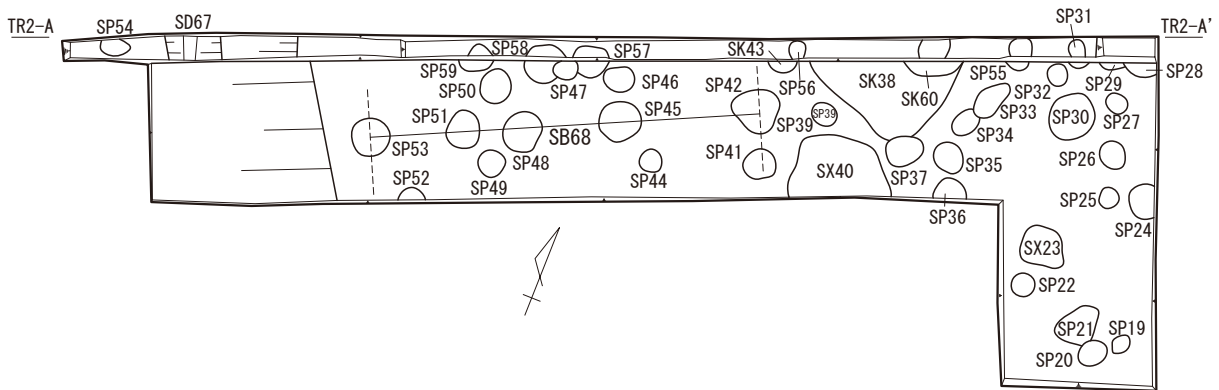


1号トレンチ 断面図2



第151図 向小島城跡 1号トレンチ遺構図2

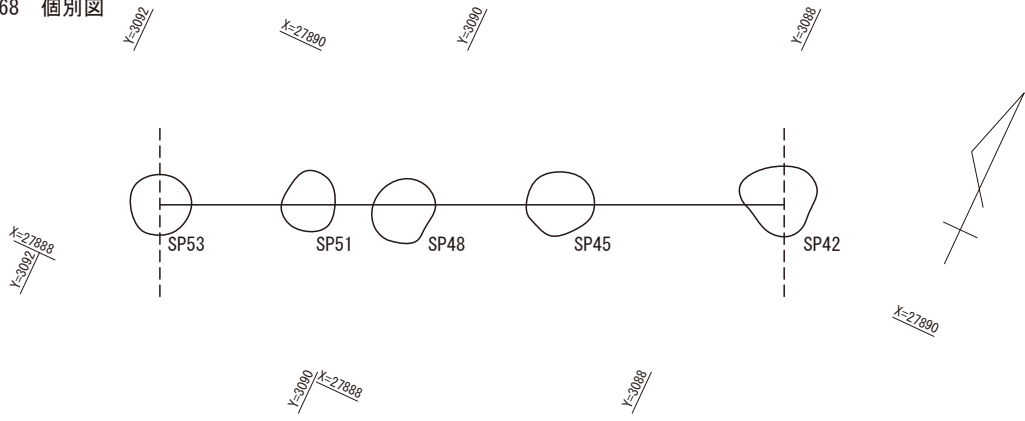
2号トレンチ 平面図



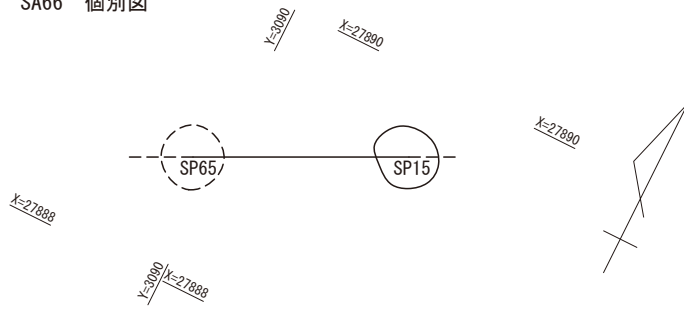
- 1 [表土]
- 2 10YR6/2 灰黄褐色粗粒砂 しまりわるい [崩落土]
- 3 10YR6/3 にぶい黄褐色粗粒砂 [崩落土]
- 4 7.5YR5/3 にぶい褐色粗粒砂 [崩落土]
- 5 10YR6/6 明黄褐色細粒砂 [SP28埋土]
- 6 10YR5/6 黄褐色細粒砂 [SP29埋土]
- 7 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂 [SP31埋土]
- 8 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂 [SP55埋土]
- 9 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 [SK60埋土]
- 10 10YR5/3 にぶい黄褐色中粒砂 [SK38埋土]
- 11 10YR5/3 にぶい黄褐色中粒砂 地山混 [SK43埋土]
- 12 10YR6/6 明黄褐色中粒砂 地山混 [SP56埋土]
- 13 10YR6/3 にぶい黄褐色中粒砂 [SK66埋土]
- 14 10YR6/4 にぶい黄褐色中粒砂 [SP57埋土]
- 15 10YR7/4 にぶい黄褐色中粒砂 [SP58埋土]
- 16 10YR6/3 にぶい黄褐色粗粒砂 [SP54埋土]
- 17 7.5YR6/6 橙色中粒砂 [SP54埋土]
- 18 7.5YR5/3 にぶい褐色粗粒砂 しまりわるい [SD67埋土]
- 19 7.5YR7/6 橙色極粗粒砂 しまりわるい [SD67埋土]
- 20 10YR7/2 にぶい黄褐色中粒砂 地山ブロック多く混 [平坦地1の造成土]
- 21 7.5YR6/4 にぶい橙色中粒砂 [平坦地2の造成土]
- 22 7.5YR5/4 にぶい褐色粗粒砂 地山ブロック混 炭化物混 [平坦地2の造成土]
- 23 10YR7/4 にぶい黄褐色細粒砂 [地山]

第152図 向小島城跡 2号トレンチ遺構図

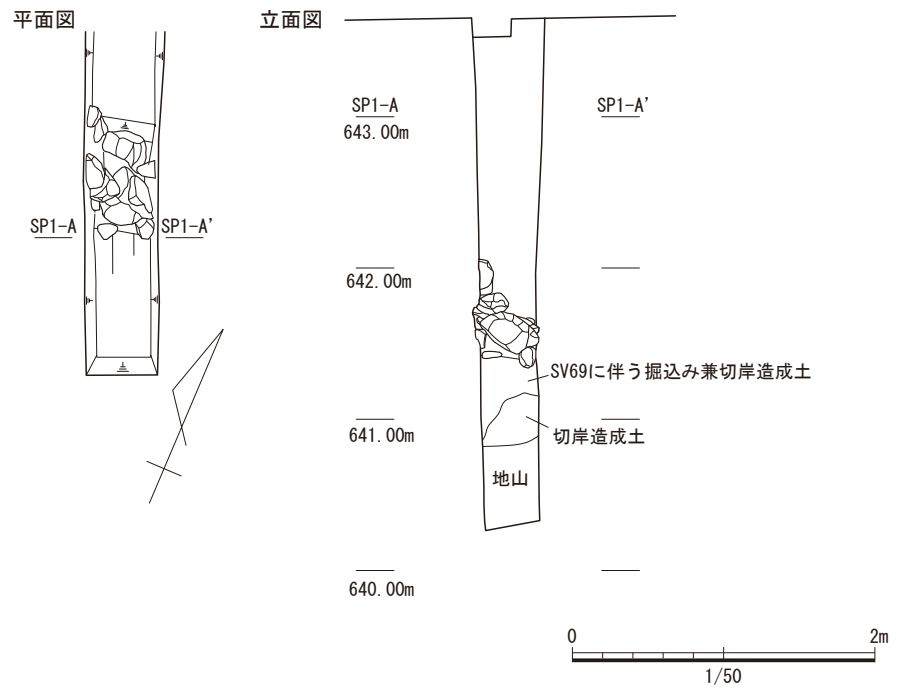
SB68 個別図



SA66 個別図



石垣SV69 個別図



第153図 向小島城跡 個別遺構図

第73表 向小島城跡土坑・柱穴等一覧表(1)

遺跡記号	遺構種別	遺構番号	位置		検出面	堆積状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量 (m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)	
			トレンチ	番号						上端		深さ			
										長径	短径				
AMK19	SP	01	TR	1	造成土	-	-	円	-	0.50	0.36	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	-
AMK19	SP	02	TR	1	造成土	-	-	円	-	0.33	0.25	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	-
AMK19	SP	03	TR	1	造成土	-	-	円	-	0.35	0.34	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	-
AMK19	SP	04	TR	1	造成土	-	-	円	-	0.33	0.31	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	-
AMK19	SX	05	TR	1	造成土	-	-	不定	-	1.26	0.84	-	-	-	-
AMK19	SP	06	TR	1	造成土	-	-	円	-	0.53	0.44	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	-
AMK19	SP	07	TR	1	造成土	-	-	円	-	0.30	0.26	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	-
AMK19	SP	08	TR	1	造成土	-	-	円	-	0.40	0.33	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	-
AMK19	SP	09	TR	1	造成土	-	-	円	-	0.32	0.31	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	-
AMK19	SP	10	TR	1	造成土	-	-	円	-	0.22	0.21	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	-
AMK19	SP	11	TR	1	造成土	-	-	円	-	0.28	0.26	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	-
AMK19	SP	12	TR	1	造成土	-	-	円	-	0.35	0.34	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SP12>SP13
AMK19	SP	13	TR	1	造成土	-	-	円	-	0.52	0.40	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SP12>SP13
AMK19	SP	14	TR	1	造成土	-	-	円	-	0.31	0.31	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	-
AMK19	SP	15	TR	1	造成土	-	-	円	-	0.43	0.40	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SA66を構成
AMK19	SP	16	TR	1	造成土	-	-	円	-	0.50	0.17	(0.28)	にぶい黄褐色中粒砂	10YR5/3	-
AMK19	SP	17	TR	1	造成土	-	-	円	-	0.42	0.16	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	-
AMK19	SP	18	TR	1	造成土	-	-	円	-	0.35	0.16	(0.30)	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	-
AMK19	SP	19	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.19	0.18	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	-
AMK19	SP	20	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.30	0.27	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	-
AMK19	SP	21	TR	2	造成土	-	-	不定	-	0.46	0.40	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	-
AMK19	SP	22	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.25	0.25	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	-
AMK19	SX	23	TR	2	造成土	-	-	不定	-	0.46	0.45	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	-
AMK19	SP	24	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.37	0.26	-	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/3	-
AMK19	SP	25	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.22	0.21	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	-
AMK19	SP	26	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.29	0.26	-	褐灰色中粒砂	10YR6/1	-
AMK19	SP	27	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.22	0.22	-	褐灰色中粒砂	10YR6/1	-
AMK19	SP	28	TR	2	造成土	単	播鉢	円	円	0.34	0.15	0.40	明黄褐色細粒砂	10YR6/6	SP28>SP29 小刀の柄No.181
AMK19	SP	29	TR	2	造成土	単	平坦	円	円	0.27	0.07	0.36	明黄褐色細粒砂	10YR6/6	SP28>SP29
AMK19	SP	30	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.23	0.21	-	褐灰色中粒砂	10YR6/1	地山ブロック混
AMK19	SP	31	TR	2	造成土	単	播鉢	円	円	0.49	0.48	0.20	灰黄褐色中粒砂	10YR6/2	-
AMK19	SP	32	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.30	0.22	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	-
AMK19	SP	33	TR	2	造成土	-	-	不定	-	0.38	0.36	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	SP33>SP34
AMK19	SP	34	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.29	0.28	-	褐灰色中粒砂	10YR6/1	SP33>SP35
AMK19	SP	35	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.33	0.31	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	-
AMK19	SP	36	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.35	0.22	-	褐灰色中粒砂	10YR5/1	-
AMK19	SP	37	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.39	0.32	-	灰黄褐色中粒砂	10YR6/2	SP37>SK38 地山ブロック混
AMK19	SK	38	TR	2	造成土	単	方	不定	円	1.60	0.80	0.17	にぶい黄褐色中粒砂	10YR5/3	SP37>SK38<SK60
AMK19	SP	39	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.26	0.24	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	-
AMK19	SX	40	TR	2	造成土	-	-	不定	-	1.09	0.65	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	根が侵入
AMK19	SP	41	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.34	0.32	-	褐灰色中粒砂	10YR6/1	地山ブロック混
AMK19	SP	42	TR	2	造成土	-	-	不定	-	0.51	0.46	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB68を構成、地山ブロック混
AMK19	SK	43	TR	2	造成土	単	半円	円	円	0.30	0.12	0.17	にぶい黄褐色中粒砂	10YR5/3	SK43>SP56 地山ブロック混
AMK19	SP	44	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.26	0.23	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	-
AMK19	SP	45	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.44	0.42	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB68を構成、地山ブロック混
AMK19	SP	46	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.33	0.26	-	灰黄褐色中粒砂	10YR6/2	地山ブロック混
AMK19	SP	47	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.26	0.19	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1	SP47>SP57・SP58
AMK19	SP	48	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.42	0.41	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB68を構成、地山ブロック混
AMK19	SP	49	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.29	0.28	-	灰黄褐色中粒砂	10YR6/2	-
AMK19	SP	50	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.36	0.32	-	褐灰色中粒砂	10YR6/1	-
AMK19	SP	51	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.40	0.35	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB68を構成
AMK19	SP	52	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.29	0.13	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	-
AMK19	SP	53	TR	2	造成土	-	-	円	-	0.40	0.40	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	SB68を構成
AMK19	SP	54	TR	2	造成土	単	播鉢	円	円	0.31	0.17	0.30	にぶい黄褐色粗粒砂	10YR6/3	瀬戸美濃丸皿

第74表 向小島城跡土坑・柱穴等一覧表(2)

遺跡記号	遺構種別	遺構番号	位置		検出面	堆積状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量 (m)			埋土		備考 (切り合い、出土遺物等)
			トレンチ	番号						上端		深さ			
										長径	短径				
AMK19	SP	55	TR	2	造成土	単	平坦	円	円	0.33	0.28	0.17	にぶい黄褐色細粒砂	10YR5/3	-
AMK19	SP	56	TR	2	造成土	単	播鉢	円	円	0.19	0.17	0.19	明黄褐色中粒砂	10YR6/6	SK43>SP56
AMK19	SP	57	TR	2	造成土	単	播鉢	不定	円	0.38	0.33	0.18	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	SP47>SP57・SP58
AMK19	SP	58	TR	2	造成土	単	播鉢	円	円	0.43	0.40	0.18	にぶい黄褐色中粒砂	10YR7/4	SP47>SP57・SP59
AMK19	SP	59	TR	2	造成土	単	平坦	不定	円	0.37	0.28	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	-
AMK19	SK	60	TR	2	造成土	単	逆三角	円	円	0.63	0.38	0.34	灰黄褐色細粒砂	10YR5/2	SK38<SK60
AMK19	SP	61	TR	1	造成土	単	播鉢	円	円	0.53	0.31	0.28	にぶい黄褐色細粒砂	10YR5/3	-
AMK19	SP	62	TR	1	造成土	単	播鉢	円	円	0.22	0.20	0.40	にぶい黄褐色細粒砂	10YR6/3	-
AMK19	SP	63	TR	1	造成土	単	播鉢	-	-	0.44	-	0.12	にぶい黄褐色細粒砂	10YR5/3	-
AMK19	SP	64	TR	1	造成土	単	播鉢	-	-	0.22	-	0.18	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2	-
AMK19	SP	65	TR	1	斜面の造成土	単	播鉢	-	-	0.40	-	0.60	にぶい黄褐色細粒砂	10YR6/4	SA66を構成
AMK19	SK	66	TR	2	造成土	単	半円	-	-	0.59	-	0.17	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/3	-
AMK19	SD	67	TR	2	造成土	単	半円	-	-	(0.25)	0.57	0.28	にぶい黄褐色粗粒砂	10YR5/3	-

5 遺物 (第154図、第75・76表)

柱穴 SP17から中国製磁器染付碗180が出土した。内外面の口縁部に界線が巡る。口縁部が直線的に開く。染付碗B群に属する。SP28から小刀の柄181が出土した。全体的に緑青が覆い、材質が素銅か赤銅と考えられる。SP54から土師器皿が1点、瀬戸美濃焼が1点出土した。182は口縁部内面をヨコナデにより面取りする。外面は口縁部に一段のヨコナデを施し、下半部は未調整である。7類に属する。183は瀬戸美濃焼の丸皿である。底部内面に印花文を施し、内外面全体に浅黄～淡黄色の灰釉を施す。体部がほぼ直線的に開き、高台が低く小さい。器形から大窯第2段階後半のものと考えられる。

土坑 SK66から白磁1点が出土した。184は白磁碗の口縁部破片である。口縁部が外反し、端部を丸く仕上げる。器形から白磁E類のものと考えられる。

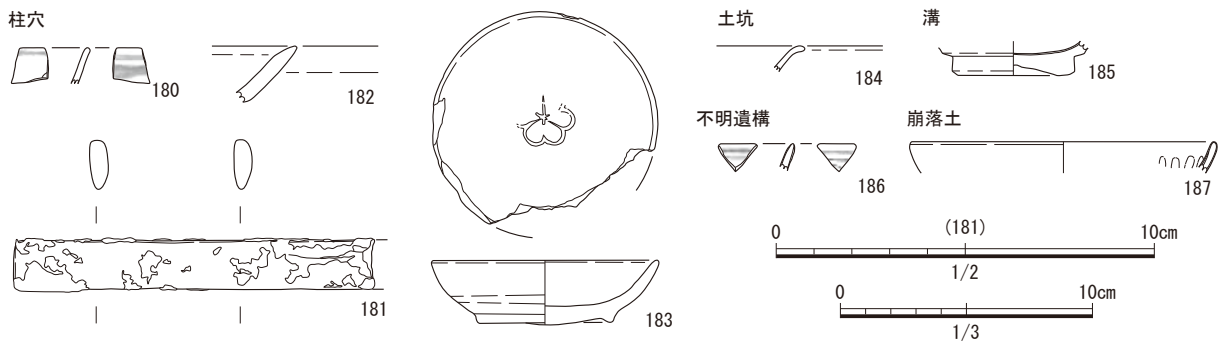
溝 SD67から瀬戸美濃焼の天目茶碗185が出土した。内面に黒褐色の鉄釉を施す。内反り高台であり、大窯第2段階のものと考えられる。

不明遺構 SX40から中国製磁器染付碗の口縁部破片186が出土した。縁部が直線的に開き、口縁部内外面に界線を施す。

崩落土 青磁1点が出土した。187は青磁碗の口縁部破片である。内面に凹凸による菊花文を施す。

6 特記事項

向小島城1期 今回の調査では、遺構面を1面確認した。平坦地1が造成され、土留めのために石垣SV69が組まれる。南側上端には、柵列SA66が設けられ、その内側には掘立柱建物SB68が建てられる。遺物は、土師器皿7類182、大窯第2段階の天目茶碗185、第2段階後半の丸皿183が出土する。これらから、それ以降の時期の大窯第2～3段階に造られたものと考えられる。



第154図 向小島城跡 出土遺物図

第75表 向小島城跡出土遺物一覧表

遺構面	土層	土師器皿						瀬戸美濃					珠洲 甕	青磁 碗	白磁 碗	染付 碗	金属	その他	合計
		3類	4類	5類	6類	7類	不明	丸皿	端反皿	天目茶碗	すり鉢	その他							
第1	斜面の造成土	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	柱穴	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	2		
	土坑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-		
	溝	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-		
	不明遺構	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-		
	崩落土	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-		
	検出	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-		
合計		0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	2	1	1	1	0	2		
		2						4					1	1	1	2	1	2	14

第76表 向小島城跡出土遺物観察表

遺物番号	層位	トレンチ	種別	器種	法量 (cm、括弧内は推定)			色調			成形・文様等	挿図番号	図版番号
					口径	底径	器高	内面	外面	断面			
180	SP17	1	染付	碗	-	-	1.3	7.5GY8/1 明緑灰色	7.5GY8/1 明緑灰色	5Y8/1 灰白色	内外面回転ナデ 施釉 染付碗B類	154	37
181	SP28	2	金属製品	小刀の柄	9.5	1.3	0.55	-	-	-	-	154	-
182	SP54	2	土師器	皿	-	-	2.4	7.5YR7/4 にぶい橙 色	7.5YR7/4 にぶい橙 色	7.5YR7/3 にぶい橙 色	外面口縁部横ナデ 下部 未調整 内面ナデ 7類	154	37
183	SK66	2	瀬戸美濃	丸皿	9.0	5.4	2.6	5Y8/3 淡黄色	5YR7/3 浅黄色	10YR8/4 浅黄橙色	内外面全体に施釉 内面 底部内面に印花文 大窯 2後	154	37
184	SK66	2	白磁	碗	-	-	1.0	7.5YR8/1 灰白色	7.5YR8/1 灰白色	7.5YR8/1 灰白色	内外面回転ナデ 施釉 白磁E類	154	37
185	SD67	2	瀬戸美濃	天目茶碗	-	4.5	1.35	10YR3/1 黒褐色	5Y6/6 橙色	10YR8/2 灰白色	内外面回転ナデ 外面鉄 釉 大窯2	154	37
186	SX40	2	染付	碗	-	-	1.1	5GY8/1 灰白色	2.5GY8/1 灰白色	7.5Y8/1 灰白色	内外面回転ナデ	154	37
187	崩落土	2	青磁	碗	12.0	-	1.25	5GY6/1 オリーブ灰	5GY6/1 オリーブ灰	2.5Y7/1 灰白色	内外面回転ナデ 施釉 内面菊花文	154	37

第7節 自然科学分析

1 調査の目的

今回の調査では、限られた調査面積による遺構・遺物の検討で年代や変遷を検討してきた。これらに加えて炭化物の加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行い、年代観に齟齬がないかの検討を行う。また、同一試料で樹種同定も行った。分析は、須山貴史（㈱イビソク飛騨営業所）が実施した。

2 試料と方法

試料は、古川城跡、小島城跡、小鷹利城跡、向小島城跡の4城から出土した炭化物6点である（第77表）。古川城跡では、最高所の平坦地の調査において、B-B'の8層・造成土Aから出土した試料No.1（現場取り上げNo.6、測定番号PLD-45562）、B-B'の12層・造成土Cから出土した試料No.2（現場取り上げNo.14、測定番号PLD-45563）、8号トレンチA-A'の13層・造成土Cから出土した試料No.3（現場取り上げNo.70、測定番号PLD-45567）を対象とした。小島城跡では、5号トレンチ9層・土坑7埋土から出土した試料No.4（現場取り上げNo.28、測定番号PLD-45564）を対象とした。小鷹利城では、礎石建物SB73を構成する礎石の抜き取り穴SS47から出土した試料No.5（現場取り上げNo.58、測定番号PLD-45566）を対象とした。向小島城跡では、斜面の造成土23層から出土した試料No.6（現場取り上げNo.15、測定番号PLD-45565）を対象とした。

試料は、前処理による調整を行った後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

樹種同定では、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柁目）について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製 VE-9800）にて検鏡および写真撮影を行なった。

3 分析の結果

同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した¹⁴C年代を測定した（第78表）。また、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために、下1桁を丸めていない暦年較正結果も示す（第155図）。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代（yrBP）の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.27%であることを示す。

なお、暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、および半減期の違い（¹⁴Cの半減期5730 \pm 40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal14.4 (較正曲線データ: IntCal20、暦年較正結果が1950年以降にのびる試料については Post-bomb atmospheric NH₂) を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.27%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2 σ 暦年代範囲は95.45%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

樹種同定は、試料No.1・2・4・6がコナラ属コナラ節、試料No.5がトチノキ、試料No.3は分析不能であった(第156図)。

4 小結

古川城跡のB-B' 8層・造成土Aの試料No.1 (PLD-45562) は、1457-1523 cal AD (55.38%) および1573-1630 cal AD (40.07%) で、15世紀中頃～17世紀前半の暦年代を示した。同じく、B-B' の12層・造成土Cの試料No.2 (PLD-45563) は、1026-1051 cal AD (26.68%) および1080-1154 cal AD (68.77%) で、11世紀前半～12世紀中頃の暦年代を示した。一方、A-A' の13層・造成土Cから出土した試料No.3 (PLD-45567) は、1454-1520 cal AD (68.37%) および1588-1621 cal AD (27.08%) で、15世紀中頃～17世紀前半の暦年代を示した。試料No.2 (PLD-45563) は最終形成年輪が残っており、測定結果は枯死もしくは伐採年代を示す。それ以外の2点は、最終形成年輪が残っていなかったため、測定結果は、実際に枯死もしくは伐採された年代以前のものであると考えられる。

試料1と3は、ほぼ同じ年代観を示す。造成土Cによる山城造成の時期は、少なくとも15世紀中頃以降と考えられる。また、今回の調査では須恵器・灰釉陶器が出土している。試料2の暦年代は、古川城跡では、古代から中近世にかけて断続的に人の営みがあった可能性を推測させる。

小島城跡の5号トレンチ9層の土坑7から出土した試料No.4 (PLD-45564) は、1470-1526 cal AD (43.46%) および1555-1633 cal AD (51.99%) で、15世紀後半～17世紀前半の暦年代を示した。土坑7は第2遺構面から掘り込む遺構であり、小島城1期に属する。小島城跡の始期に関わる可能性がある。しかし、試料No.4も最終形成年輪が残っていなかったため、測定結果は実際より古い年代を示した可能性を考慮しておく必要がある。

小鷹利城跡の礎石の抜き取り穴SS47から出土した試料No.5 (PLD-45566) は、1455-1521 cal AD (64.84%)、1579-1585 cal AD (1.11%)、1586-1622 cal AD (29.50%) で、15世紀中頃～17世紀前半の暦年代を示した。SS47は礎石建物SB73を構成し、小鷹利城2期に属する。それ以前に小鷹利城1期の柱穴SP68を確認したが年代についての知見を得ることが出来ていなかった。炭化物の示す15世紀中頃の年代は、小鷹利城跡の始期に関わる可能性がある。なお、試料No.5も最終形成年輪が残っていなかったため、測定結果は実際より古い年代を示している可能性がある。

向小島城跡の斜面の造成土23層から出土した試料No.6 (PLD-45565) は、1496-1601 cal AD (77.02%) および1614-1639 cal AD (18.43%) で、15世紀末～17世紀前半の暦年代を示した。なお、試料No.5も最終形成年輪が残っていなかったため、測定結果は実際より古い年代を示している可能性がある。

今回の測定結果から、古川城跡においては古代から中近世にかけて断続的に人の営みがあった可能性を、小島城跡では15世紀後半以降、小鷹利城跡では15世紀中頃以降、向小島城跡では15世紀末以降に使用が開始された可能性を想定することができた。また、植生はコナラ及びトチノキという広葉樹であり、原植生を示すものと考えられた。

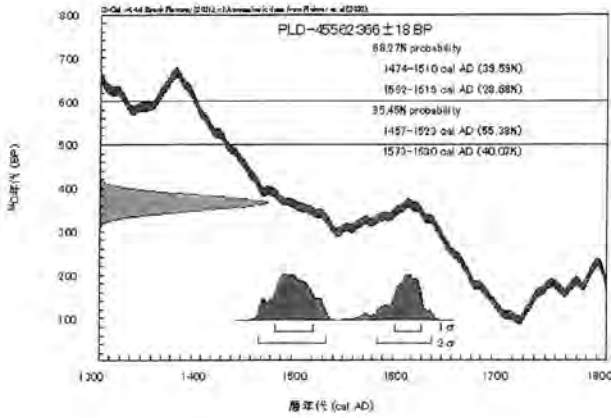
第77表 測定試料および処理一覧表

試料No.	遺跡データ	試料データ	前処理
1	現場取り上げNo.6 測定番号 PLD-45562 遺跡名：古川城跡 位置：平坦地1 層位：造成土A	種類：炭化材 樹種：コナラ属コナラ節 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
2	現場取り上げNo.14 測定番号 PLD-45563 遺跡名：古川城跡 位置：平坦地1・B-B' 層位：12層・造成土C	種類：炭化材 樹種：コナラ属コナラ節 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
3	現場取り上げNo.70 測定番号 PLD-45567 遺跡名：古川城跡 位置：平坦地1・A-A' 層位：13層・造成土C	種類：炭化材 樹種：分析不能 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
4	現場取り上げNo.28 測定番号 PLD-45564 遺跡名：小島城跡 位置：5号トレンチ・土坑7 層位：9層・土坑7埋土	種類：炭化材 樹種：コナラ属コナラ節 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
5	現場取り上げNo.5 測定番号 PLD-45566 遺跡名：小鷹利城跡 位置：礎石抜き取り穴SS47 層位：SS47埋土	種類：炭化材 樹種：トチノキ 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
6	現場取り上げNo.15 測定番号 PLD-45565 遺跡名：向小島城跡 位置：斜面の造成土 層位：23層	種類：炭化材 樹種：コナラ属コナラ節 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)

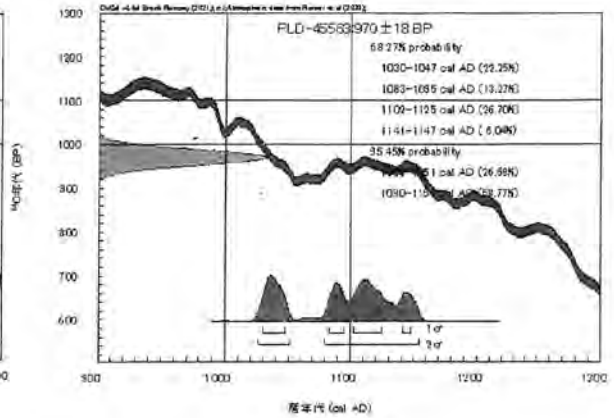
第78表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果一覧表

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
試料 No. 1 PLD-45562	-25.73 \pm 0.20	366 \pm 18	365 \pm 20	1474-1510 cal AD (39.59%)	1457-1523 cal AD (55.38%)
				1592-1619 cal AD (28.68%)	1573-1630 cal AD (40.07%)
試料 No. 2 PLD-45563	-24.81 \pm 0.19	970 \pm 18	970 \pm 20	1030-1047 cal AD (22.25%)	1026-1051 cal AD (26.68%)
				1083-1095 cal AD (13.27%)	
				1102-1125 cal AD (26.70%)	
				1141-1147 cal AD (6.04%)	
試料 No. 3 PLD-45567	-25.32 \pm 0.20	378 \pm 17	380 \pm 15	1459-1496 cal AD (53.05%)	1454-1520 cal AD (68.37%)
				1601-1614 cal AD (15.22%)	1588-1621 cal AD (27.08%)
試料 No. 4 PLD-45564	-24.65 \pm 0.19	354 \pm 17	355 \pm 15	1480-1520 cal AD (36.66%)	1470-1526 cal AD (43.46%)
				1589-1621 cal AD (31.61%)	1555-1633 cal AD (51.99%)
試料 No. 5 PLD-45566	-23.42 \pm 0.23	375 \pm 17	375 \pm 15	1460-1501 cal AD (50.23%)	1455-1521 cal AD (64.84%)
				1600-1616 cal AD (18.04%)	1579-1585 cal AD (1.11%) 1586-1622 cal AD (29.50%)
試料 No. 6 PLD-45565	-23.20 \pm 0.19	324 \pm 17	325 \pm 15	1513-1514 cal AD (0.84%)	1496-1601 cal AD (77.02%) 1614-1639 cal AD (18.43%)
				1517-1529 cal AD (10.14%)	
				1540-1547 cal AD (5.53%)	
				1549-1590 cal AD (38.05%)	
				1620-1635 cal AD (13.71%)	

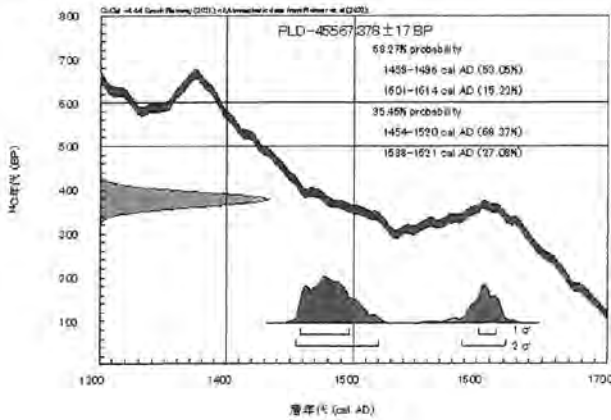
試料1：古川城跡（造成土A）



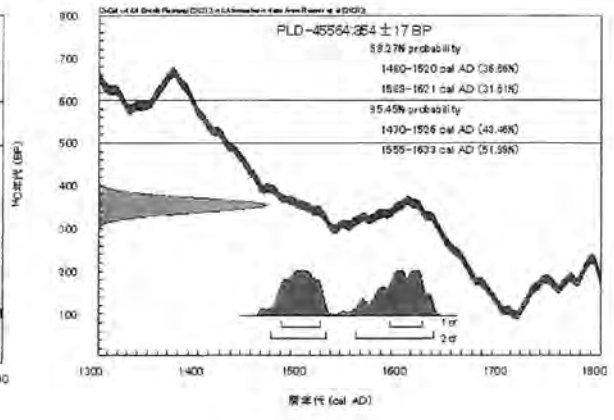
試料2：古川城跡（造成土C）



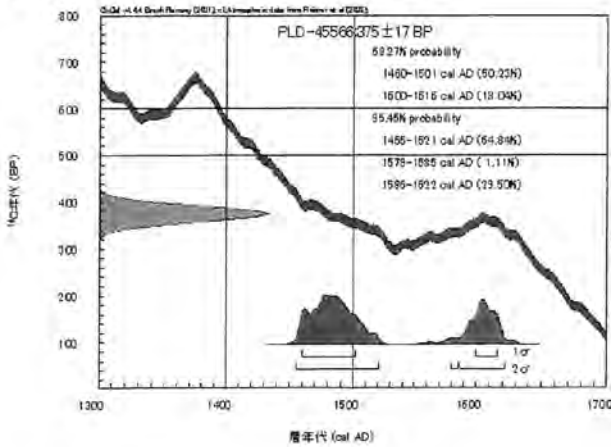
試料3：古川城跡（造成土C）



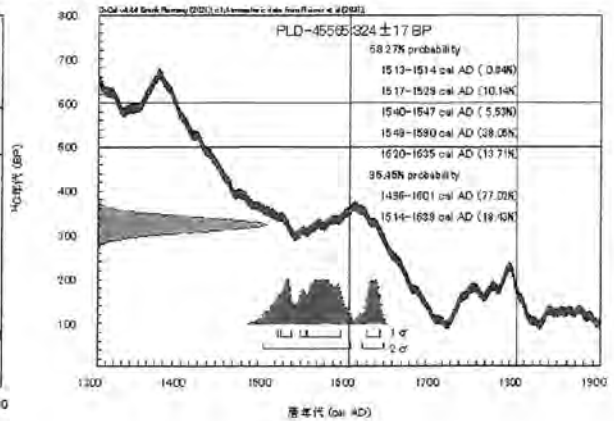
試料4：小島城跡（土坑7）



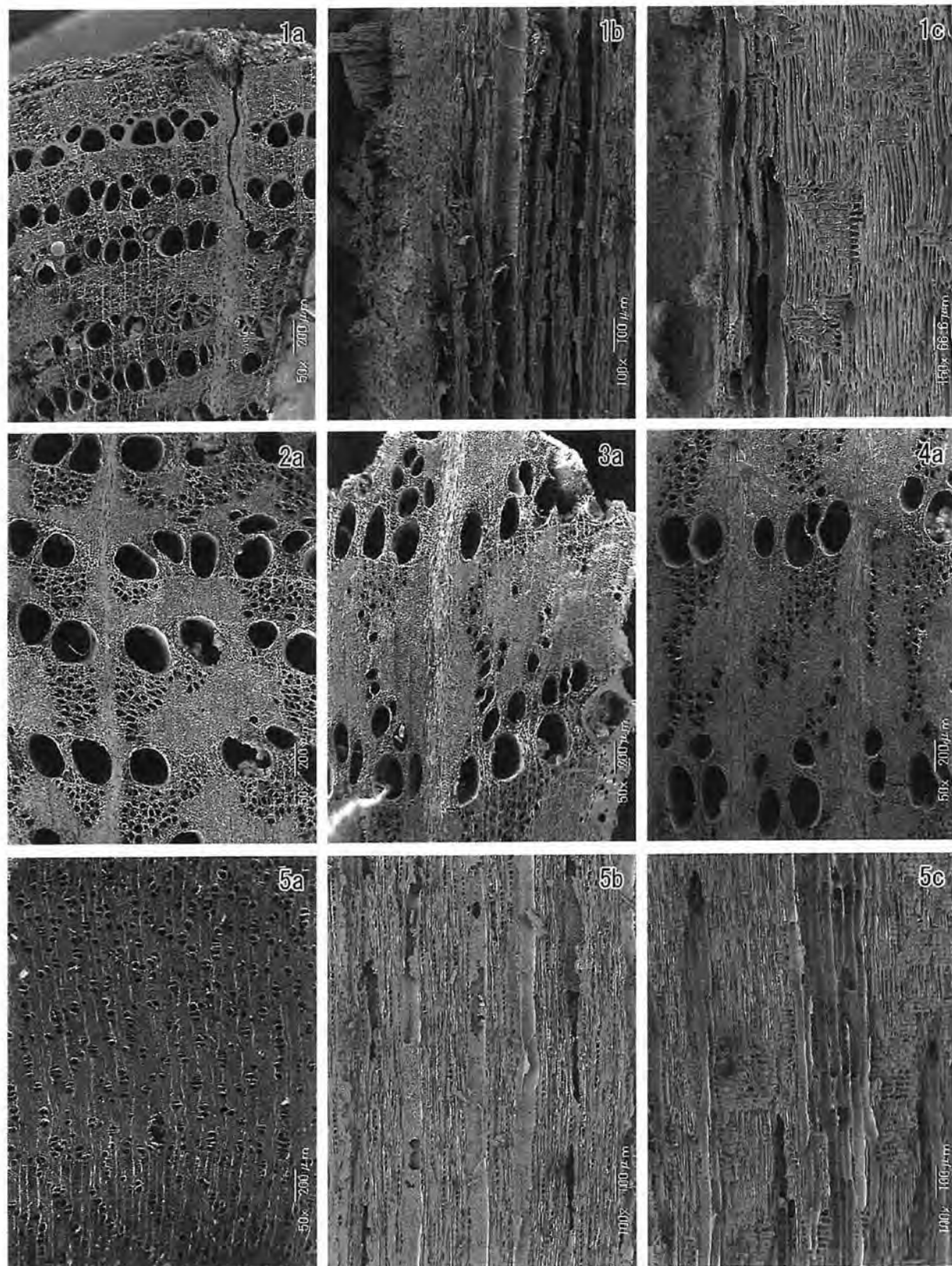
試料5：小鷹利城跡（礎石抜き取り穴SS47）



試料6：向小島城跡（斜面の造成土）



第155図 年代測定暦年校正図



第156図 姉小路氏城館跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. コナラ属コナラ節 (No.2)、2a. コナラ属コナラ節 (No.1)、3a. コナラ属コナラ節 (No.4)、4a. コナラ属コナラ節 (No.6)、5a-5c. トチノキ (No.5)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

第8節 小結

1 出土遺物の組成と傾向

山城や調査地区の性格の違いを示す可能性を想定し、各調査区から出土した土器・陶磁器の出土点数を集計した（第79表）。

各山城の最高所か最も広い平坦地での土師器皿の点数を見ると、古川城跡51点、小島城跡9点、野口城跡178点と、3つの山城では土師器皿の出土点数が最も多い。土師器皿は饗応に使用されるものであるため、古川城跡・小島城跡・野口城跡では、山城の最高所か最も広い平坦地にそのような場

第79表 出土遺物一覧表

	古川城跡			小島城跡				野口城跡	小鷹利城跡	向小島城跡	総計
	虎口通路 (点数)	最高所の 平坦地 (点数)	合計 (点数)	虎口通路 (点数)	最も広い 平坦地 (点数)	最高所の 平坦地 (点数)	合計 (点数)	最も広い 平坦地 (点数)	最も広い 平坦地 (点数)	最も広い 平坦地 (点数)	
須恵器	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4
灰釉陶器	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
土師器	12	51	63	0	9	10	19	178	4	2	266
3類	4	3	7	0	1	0	1	0	0	0	8
4類	2	21	23	0	4	2	6	25	1	0	55
5類	2	3	5	0	0	0	0	15	0	0	20
6類	1	1	2	0	0	0	0	10	0	0	12
7類	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	2
不明	3	23	26	0	3	8	11	128	3	1	169
瀬戸美濃焼	3	9	12	4	3	2	9	2	10	4	37
丸皿	3	1	4	1	0	0	1	0	0	1	6
端反皿	0	2	2	1	1	0	2	1	0	0	5
天目茶碗	0	1	1	0	1	2	3	0	0	1	5
すり鉢	0	1	1	1	1	0	2	0	1	0	4
その他	0	4	4	1	0	0	1	1	9	2	17
珠洲焼壺	0	0	0	0	0	3	3	1	39	1	44
青磁	0	0	0	0	0	0	0	2	6	1	9
碗	0	0	0	0	0	0	0	2	5	1	8
稜花皿	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
白磁	1	4	5	1	0	0	1	0	2	1	9
碗	1	4	5	0	0	0	0	0	2	1	8
皿	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1
中国製染付磁器	0	1	1	0	0	0	0	0	4	2	7
碗	0	1	1	0	0	0	0	0	2	2	5
碗か皿	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
金属製品	0	6	6	1	2	1	4	5	2	1	18
その他	2	1	3	1	0	0	1	2	0	2	8
合計	18	77	95	7	14	16	37	190	67	14	403
調査面積	55.7	56.2	111.9	48.1	22.1	-	70.2	90.1	128.7	59.3	460.2
m ² あたり	0.32	1.37	0.85	0.15	0.63	-	0.53	2.11	0.52	0.24	0.88

が設定されていた可能性を想定することができる。古川城跡 56.2 m²、小島城跡 22.1 m²、野口城跡 90.1 m²であるため、出土点数に各山城の調査面積を加味すると、m²当たりの密度では古川城跡 0.90 点 / m²、小島城跡 0.40 点 / m²、野口城跡 1.98 点 / m²となる。野口城跡が他の城跡より突出している状況である。

各山城からは、土師器皿の3類～7類が出土している（第80表）。3類が出土するのは古川城跡と小島城跡であり、両城跡とも4類とともに出土する。その4類が最も多く出土するのは野口城跡である。しかし、野口城跡では3類の出土は無く、4類が最も点数が多い。また、5類、6類の順で割合が徐々に低くなっていく。これに対し、古川城跡では5類の割合が低く、小島城跡では5・6類の出土はない。このように、土師器皿の出土点数が最も多い古川城跡・小島城跡・野口城跡では、土師器皿の分類ごとに出土傾向の違いが認められる。

この3城に対して、小鷹利城跡では瀬戸美濃焼 10 点、中国製陶磁器 12 点と、土師器皿 4 点より多く出土する。また、向小島城跡でも瀬戸美濃焼 5 点、中国製陶磁器 4 点と、土師器皿 2 点より多く出土する。このように、古川城跡・小島城跡・野口城跡と、小鷹利城跡・向小島城跡では、出土遺物の種別による組成が異なる。

山城の場所ごとで出土傾向の比較ができるのは、2ヶ所以上を調査した古川城跡と小島城跡である。古川城跡では、最高所の平坦地と通路で、小島城跡では最も広い平坦地と通路で調査を行っている。m²当たりの点数を見ると、古川城跡では、最高所の平坦地で 1.37 点 / m²、虎口通路で 0.32 点 / m²である。小島城跡では最高所の平坦地で 0.63 点 / m²、虎口通路で 0.15 点 / m²である。これは調査場所の性格の違いを示しているものと考えられる。

第80表 時期・分類ごとの土師器皿一覧表

			土師器皿										合計			
			3類	4類	5類	6類	7類	不明	小計							
姉小路Ⅰ	～古瀬戸後Ⅳ（古）	古川 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		小鷹利 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
姉小路Ⅱ	古瀬戸後Ⅳ（新） ～大窯 1	古川 2	2	13	0	0	0	0	4	19	23					
		小島 1	0	2	0	14	0	0	0	0		7				
		小鷹利 2	0	1	0	0	0	0	3	4						
姉小路Ⅲ	大窯 1～2	野口 1	0	0	4	4	4	0	0	0	2	2	10	10		
姉小路Ⅳ	大窯 2～3	古川 3	1	3	2	0	0	7	13	102						
		野口 2	0	1	18	21	9	11	7		7	0	1	53	61	87
		向小島 1	0	0	0	0	0	1	1		2					
姉小路Ⅴ	大窯 3～4	古川 4	0	1	2	1	0	4	8	15						
		小島 2	1	1	4	5	0	2	0		1	0	0	2	7	
近世以降		古川	4	6	1	1	0	11	23	116						
		小島	0	2	0	0	1	9	12							
		野口	0	4	3	11	2	3	3		4	0	1	73	93	81
		小鷹利	0	0	0	0	0	0	0		0					
		向小島	0	0	0	0	0	0	0		0					
合計			8	55	20	12	2	169	266							

2 遺構の分布と変遷

各山城の発掘調査で明らかとなった遺構の分布と変遷をまとめる。また、前項において、最も出土点数が多く分類ごとの出土傾向に違いが認められた土師器皿についても、層位と分類ごとの出土傾向を記述する（第81表）。

なお、自然科学分析では下限となる暦年代を示すことができたが、最終形成年輪の残る試料が1点のみであった。このため、暦年代については第7章で検討することとし、ここでは参考として記述するに留める。

姉小路氏城館Ⅰ期 トレンチで部分的に確認した。古川城1期と小鷹利城1期が該当する。古川城跡では平坦地1で第4遺構面の地山上面から掘り込む土坑4、小鷹利城では第2遺構面である地山上面で、柱穴SP67を確認した。土師器皿のみならず、伴う遺物は認められず、時期は不明である。

自然科学分析では、Ⅰ期に関する試料を得ることができなかった。

姉小路氏城館Ⅱ期 古川城2期、小島城1期、小鷹利城2期が該当する。古瀬戸後Ⅳ期（新）～大窯第1段階の時期である。

古川城跡では、地山の傾斜地に斜面の造成土で盛土し、その上層に造成土Cを施し、第3遺構面が構築される時期である。その上面から柱穴7を掘り込む。小島城跡では、斜面の造成土下層の地山上面で、土坑7を確認した。小鷹利城跡では曲輪造成土上面で遺構を検出した。2間四方の礎石建物SB72、曲屋形状の礎石建物SB73が、平坦地1の東・西側を取り囲むように配置される。また、平坦地2において、平坦地1との間の斜面下に溝SD68が位置する。

土師器皿では、古川城跡において、土師器皿4類が主体をなし、土師器皿3類が混入する時期である。小鷹利城跡では土師器皿4類が出土する。

自然科学分析の成果では、古川城跡の試料1・3より15世紀中頃以降、小島城跡の試料4より15世紀後半以降、小鷹利城跡の試料5より15世紀中頃以降の数値を得ることができた。ここから、Ⅱ期の始期は15世紀後半以降の暦年代と想定することができる。

姉小路氏城館Ⅲ期 野口城1期が該当する。大窯第1～2段階の時期である。野口城跡では、造成土Ⅳで平坦地1全面を覆う。平坦地1を囲む土塁も、この時期に整備された可能性がある。1号トレンチにて、土坑SK143・SK148・SK156の3基を確認した。また、古川城跡・小島城跡においては後続する時期にも遺物が見られるものの、小鷹利城跡では遺物が確認できなくなる。このため、古川城2期、小島城1期は継続しており、小鷹利城2期はⅡ期で終期を迎えていたものと想定される。

土師器皿では、土師器皿4類と5類が出土する。3類は認められない。

自然科学分析では、Ⅲ期に関わる試料を得ることができなかった。

姉小路氏城館Ⅳ期 古川城3期、野口城2期、向小島城1期が該当する。大窯第2～3段階の時期である。

古川城跡では、平坦地1の全面を覆う造成土Bを基礎とする礎石建物1が建てられた。礎石建物1は5間×3間の建物であり、建物周囲の礎石は半間ごとに配されている。また、平坦地3から4へ通じる通路5が造成され、平坦地3と通路の間の斜面には石垣2、通路5の南側斜面には土留め石垣が構築された。なお、この2つの石垣は、地山と接する箇所には礫を集中させて切岸上部まで積まないこと、礫の大きさが10～40cm程度と不揃いなことが一致するため、同時期と考えられた。石垣2には裏込め土が伴い、土留め石垣には裏込め土が伴わない点で、異なる特徴もある。

野口城跡では、平坦地1を囲む土塁が構築される。北側土塁の上端平坦面には柵列SA162が、西側

土塁の上端平坦面には柵列 SA163 が設けられる。その内側には、造成土Ⅲ上面で掘立柱建物 SB160・161 を検出した。また、畝状堅堀群からの遺物の出土はなかったものの、地表面に近い山城の最終段階ということから、当期のものと考えられる。

向小島城跡では、平坦地 1 の南側斜面に土留めのために石垣 SV69 が組まれて、造成が行われる。平坦地 1 の南側上端には、柵列 SA66 が設けられ、その内側には掘立柱建物 SB68 を確認した。平坦地 2 には、平坦地 1 との間の斜面下に、溝 SD67 が設けられた。

土師器は、4～7類が出土する。3類も出土するが前段階のⅢ期を構築する土層から出土が認められないため、混入したものと考えられる。また、6・7類の出土はⅢ期までは認められず、当該時期のⅣ期の土層から初めて出土する。このため、小島城 2 期は当該期まで継続していたものと想定される。

自然科学分析では、向小島城の試料 6 より 15 世紀末以降の暦年代と想定することができた。

姉小路氏城館Ⅴ期 古川城 4 期、小島城 2 期が該当する。大窯第 3～4 段階の時期である。

古川城跡では、平坦地 1 に礎石 40 等が残存するため、礎石建物が建てられていたものと考えられる。平坦地 2 でも曲輪造成土を基礎とする礎石建物 2 を確認した。そこに南接する石列 3 は、北東側の隅が直角を呈し、外側に向けて面を持ち、一段目の高さが揃う。石材を据える土層は平坦地 2 から平坦地 1 へ向かって徐々に厚く堆積する。このため、平坦地 2 から平坦地 1 へ登る施設の基底部の可能性が想定される。

平坦地 3 と平坦地 4 の間の斜面には、1 m 程度の石材を用いて桁形形状となる石垣 1 が構築される。

また、平坦地 4 から平坦地 3 へ至る通路 5 に路面造成が施される。石垣 1 の北側石垣西半部では裏込め土がなく、スロープ造成土が施される。その幅は 3.8 m であり、通路 5 の幅と一致する。このため、通路 5 からはスロープ造成土の箇所を通り、平坦地 3 へ上がっていた可能性を想定することができる。

小島城跡では、平坦地 1 に礎石 8 が残存し、礎石建物があつたものと想定された。平坦地 1 の南側斜面では、石垣 2・石垣 3 を確認した。その上方にも平坦地 1 まで達する裏込め礫を確認したため、3 段の石垣があつたものと想定された。また、平坦地 2 と通路 3 の間の斜面には、1 m 程度の石材も用いた石垣 1 が構築される。

土師器は 3～5類が出土する。Ⅳ期で出土した 6・7類の出土が認められないため、混入したものと考えられる。同時期の増島城跡からは土師器は細片しか出土していない（飛騨市教育委員会 2010）。このため、当該時期には土師器を使用しなくなったものと考えられる。

第 81 表 姉小路氏城館跡の時期対応表

時期		古川城跡	小島城跡	野口城跡	小鷹利城跡	向小島城跡
I 期	時期不明	古川 1			小鷹利 1	
II 期	古瀬戸後Ⅳ期（新）～大窯 1	古川 2	小島 1		小鷹利 2	
III 期	大窯 1～2	↓	↓	野口 1		
IV 期	大窯 2～3	古川 3	↓	野口 2		向小島 1
V 期	大窯 3～4	古川 4	小島 2			

【第5章 主要引用参考文献】

国立歴史民俗博物館 1993 『日本出土の貿易陶磁 西日本編 1』 国立歴史民俗博物館博物館資料調査報告書 4

中井均編 2019 『戦国時代における石垣技術の考古学的研究 平成 28 ～ 31 年度学術研究助成基金助成金基盤研究 (C) (一般) 研究成果報告書 (織豊期城郭研究会 2019 年度彦研究集会資料集)』 「戦国時代における石垣技術の考古学的研究」 成果報告会実行委員会

萩原三雄・中井均編 2014 『中世城館の考古学』 高志書院

松井一明 2016 「戦国期～織豊系城郭の門跡－門遺構研究の方向性を探る－」 『織豊城郭』 第 16 号 織豊期城郭研究会

藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』 高志書院

三好清超 2021 「姉小路氏関連遺跡で出土する中世土師器の編年試案」 『城郭研究と考古学 中井均先生退職記念論集』 中井均先生退職記念論集刊行会

吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館